総合演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	80110	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	土居　裕士、藤掛　絢子、赤木　雅宣、小田　久美子、片平　朋世、日下　紀子、杉能　道明、椙原　彰子、中内　みさ、西　隆太朗、西山　節子、東　俊一、福原　史子、三宅　一恵、村中　李衣、湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小グループに分かれて演習を行う本授業では，大学論及び学問論を通して，大学とは何か，大学で学ぶとはどういうことかを考えるとともに，視野を広げ，探求への意識を高める。各グループは4～5名の班で構成され，班ごとにテーマ（課題）に基づいて疑問や問題点を見出し，資料を探したり，考えをまとめて発表したり，話し合ったりすることでお互いに切磋琢磨していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	演習形式の授業に慣れる。	思考・判断・表現力／主体性
2	研究課題を通して，視野を広げ，問題点を見つけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	他者の意見を聞き，自分の考えを表明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らが調べた内容について，論理的で分かり易く，説得力のある発表やレポート作成をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート　　70%	1／2／3／4
2	授業への取り組み度　　30%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

01. オリエンテーションⅠ（目的・概要・manaba folioの使い方）
02. オリエンテーションⅡ（大学での学び）
03. オリエンテーションⅢ（児童学とは）
04.特別講演（大学論）
05. 大学論Ⅰ※大学での学びについて講話を聞いて話し合う
06. 大学論Ⅱ
07. 大学論Ⅲ
08. 大学論Ⅳ
09. オリエンテーションⅣ（大学論の振り返り・レポートの構想）
10. オリエンテーションⅤ（児童学科の6領域の学びとその隣接性）
11. 学問論Ⅰ※児童学に関するテーマを設定して演習を行う
12. 学問論Ⅱ
13. 学問論Ⅲ
14. 学問論Ⅳ
15. オリエンテーションⅥ（学問論の振り返り・レポートの構想・教育論について）
16. オリエンテーションⅦ（総合演習Ⅱ及び夏季休暇課題の説明）

定期試験

大学論の演習後に大学論のレポート課題，学問論の演習後に学問論のレポート課題を提出する。

試験のフィードバックの方法

大学論のレポートは，全体の場で講評を行うとともに，各担当者が添削して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業の準備・発表は班単位で行うので，資料の収集ではメンバーが分担し，吟味した上で発表内容を構成し，討論テーマを決定していく。その際にはメンバー間で充分に話し合うことが必要となる（2～3時間）。

必携書（教科書販売）

『思考の整理学』，1986年，ISBN 9784480020475，筑摩書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
テキスト・資料を配布する。
＜参考書等＞
特になし（自分で資料を探すことが重要）

オフィスアワー

各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで指示する。
担当班については事前相談のための日時を設定する（詳しくはオリエンテーションで指示する）。

連絡先

土居　doi164@m.ndsu.ac.jp
各グループの担当者の連絡先については授業中に指示する

留意事項

(1)この授業を通して，充分な論理的思考と表現力を身につけることができるよう，自ら積極的に授業に取り組むこと。自分で資料を探し，吟味することが重要である。
(2)テキストとして『アカデミックラーニング』と「大学の世界」を配付するので，よく読んで授業に臨んでほしい。
(3)班のメンバーで協力して演習を充実させてほしい。

総合演習ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	80200	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	藤掛　絢子、土居　裕士、赤木　雅宣、小田　久美子、片平　朋世、日下　紀子、杉能　道明、椙原　彰子、中内　みさ、西　隆太朗、西山　節子、東　俊一、福原　史子、三宅　一恵、村中　李衣、湯澤　美紀					
時間割備考	9/4,9/5,9/6 観察実習全員参加					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小グループに分かれて演習を行う本授業では，教育論，人間論を通して社会問題や生き方を扱い，社会及び世界への視野を広げ，意識を高める。各グループは4～5名の班で構成され，班ごとに選択したテーマに基づいて資料を探し，考えをまとめて発表し，問題点を見出し，話し合いをすることを通して，自らを錬磨する。教育論では，予め設定したテーマに沿って附属幼稚園及び附属小学校で観察実習を体験し，資料収集を通して発表及びディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	演習形式の授業に慣れる。	思考・判断・表現力／主体性
2	研究課題を通して，視野を広げ，問題点を見つけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	他者の意見を聞き、自分の考えを表明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らが調べた内容について，論理的で分かり易く、説得力のある発表やレポート作成等をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート　　70%	1／2／3／4
2	授業への取り組み度　　30%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員の中に幼稚園，小学校で勤務した経験をもつ者がいる。この実務経験をもとに，教育論の中で附属幼稚園と附属小学校で観察実習を行う際，実習を受け入れる学校園の視点・先輩教師としての視点から，学生に指導助言を行う。事前事後指導や観察実習中に，観察の視点・態度・身なり・留意点等について，どうあるべきかを自覚できるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

01. 観察実習（附属幼稚園・附属小学校）　※夏季休暇中の３日間を予定
02. 観察実習（附属幼稚園・附属小学校）
03. 観察実習まとめ（保育・教職に関する説明、ボランティアについて）
04. 教育論オリエンテーション
05. 教育論Ⅰ ※観察実習と収集資料から各班でテーマを設定して演習を行う。
06. 教育論Ⅱ
07. 教育論Ⅲ
08. 教育論Ⅳ
09. 教育論レポートの振り返り
10. 人間論オリエンテーション、中間講評、総合演習の意義
11. 特別講演（人間論）
12. 人間論Ⅰ：子どもについて
13. 人間論Ⅱ：若者について
14. 人間論Ⅲ：女性について
15. 人間論Ⅳ：高齢者について
16. まとめ

定期試験
教育論の演習後に教育論のレポート課題，人間論の演習後に人間論のレポート課題を提出する。
試験のフィードバックの方法
教育論のレポートについては，お互いに読み合う時間をもつ。その後に修正したレポートを担当者がさらに添削し返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の準備・発表は班単位で行うので，資料の収集ではメンバーが分担し，吟味した上で発表内容を構成し，討論テーマを決定していく。その際にはメンバー間で充分に話し合うことが必要となる（2～3時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ 自分で資料を探すことが重要
オフィスアワー
各教員のオフィスアワー及び事前指導日時は，総合演習Ⅱのオリエンテーションにて指示する。
連絡先
藤掛　a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 各グループの担当者の連絡先については授業中に指示する
留意事項
(1) ９月中の観察実習（9/4月，9/5火，9/6水)は全員参加とする。従って，この期間に行われる集中講義よりも優先されるので，履修の際に注意すること。 (2) 総合演習Ⅰと同様に，本授業を通して充分な論理的思考と表現力を身に付けることができるよう，自ら積極的に授業に取り組むこと。 (3) 班のメンバーで協力して演習を充実させてほしい。

心理学概論				単位数	2単位
授業コード	80300	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	相原　彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

心理学の基礎的領域についての学習を通して、心理学とはどのような学問かを理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学とはどのような学問かを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	人間の心への興味と理解を深め、日々の生活をよりよいものにするための実践ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	心理学の学習を通して、教育者・保育者・養育者になるための意欲を持つことができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	試験（60%）	1／2／3
2	授業後のmanaba復習課題（40%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり。

実務経験の授業への活用方法

担当者自身が公認心理師・臨床心理士として、スクールカウンセラー、病院臨床や大学内「清心こころの相談室」で実践した事例や論文化した事例などの心理臨床経験を活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　心理学とは
2　生理と神経
3　知覚と認知
4　発達と学習
5　言語と思考
6　記憶と感情
7　パーソナリティ
8　神経発達症
9　教育と学校：園で起こる様々な問題（特別講義講師　槙野裕香先生）
10　社会と人間の行動
11　人の心（意識と無意識）
12　医療と健康（ストレス）
13　産業と組織
14　家族と福祉
15　心理療法

定期試験
16　定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：予定されている学習内容について、学習者自身の体験を振り返り、自分なりの疑問点を考えておくこと（約30分） 復習：レジメを見てmanaba復習課題に回答し、講義内容を自分なりにまとめておくこと（約30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー
水曜３限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育原理				単位数	2単位
授業コード	80500	科目ナンバリング	330A1-1000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育の制度や思想に関する歴史的流れをふまえて、教育の意義・目的を考える。また、国内および国際社会両方に目を向けて、地域、家庭、学校に係る教育について学ぶとともに、これからの持続可能な社会に求められる教育のあり方について考察する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教育の理念や概念について、一般的に体系化された教育理論を理解するとともに、歴史や思想について把握し、これまでの教育や学校の営みを理解する。また、具体的な社会や人々の姿を反映させて教育課題を考えていき、これらの社会を切り拓く教育像を考える力を養うことを目標とする。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　(50%)	1
2	受講態度・小テスト（50%）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第１回：オリエンテーション
第２回：教育とは何か（教育の本質、目標）
第３回：教育学についての基本的概念の理解
第４回：現代社会における教育の要素と相互関係
第５回：今日の国際社会における教育政策：ESD
第６回：教育の歴史にみる教育原理（家庭、社会を中心に）
第７回：近代における教育の制度・政策
第８回：現代社会における教育課題（歴史的視点をふまえて）
第９回：教育法規にみる教育原理（１）教育基本法
第10回：教育法規にみる教育原理（２）学校教育法　等
第11回：生涯学習社会に求められる教育
第12回：地域・家庭と子どもの教育思想
第13回：学校に関わる教育思想と教育家
第14回：学習に関わる教育思想と教育家
第15回：教育改革の動向からこれからの持続可能な社会に向けた教育を探る

定期試験
小テスト、課題レポート
試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教育学を探求するためには、国内外の教育動向などに幅広く調べ内容をまとめること。（予習約1時間）　教育研究から学ぶ必要があるため、学術研究を読み、分かったことを記録すること。（復習約1時間）また、授業外学習についての課題も出すので、関心を持って参加し理解したことをポートフォリオにすること。（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『教育学キーワード（第3版）』，小澤周三編，有斐閣　2010年 『ＥＳＤがグローバル社会の未来を拓く　-SDGｓの実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著、ミネルヴァ書房、2020年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
授業終了時（長時間の相談が必要な場合は、日時を相談）
連絡先
マナバ確定後、連絡用スレッドを立てる　マナバ確定前まではmnishii@m.ndsu.ac.jp（連絡用スレッドが立った後は使用しないこと、様々な授業や他の連絡が混在し混乱が大変多いため）
留意事項
マナバフォリオを活用する。本授業は、教職課程の科目としても、シラバスを文部科学省に提出しているため、提出している内容で作成している。

児童文化論Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	80600	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	村中　李衣、片平　朋世、三宅　一恵					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

子どもは本来、まわりの人たちとかかわり、五感を働かせるような体験をたっぷり行うことによって、知性、感性など、人間としての基本能力を身につけていくものである。わらべ歌、絵本、昔話などは、その補助として非常に有効な児童文化財だったが、いま、子どもたちの発達は、メディアの急速な進化によって大きな危険にさらされている。学生はこの講義を通し、子ども本来の発達には何が必要かを主体的に学び、現在のメディア環境のなかでできることは何かを考えていく。
また、児童文学作品の読書会、わらべ歌の実践演習、子どもの本に関わる特別講義なども行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1,現代のメディア文化のなかで育ってきたことの意味とそこにひそむ問題について認識し、世間の風潮に流されることのない判断力を持つ	思考・判断・表現力
2	2,子どもの本の現状を理解し、絵本や児童書についての深い洞察力を持つ	知識・技能／主体性
3	3,わらべうたや、様々な児童文化財についての基本的な理解ができ、実際に子どもたちの前で実践できる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	各授業回ごとに、課題に沿ってテキストを完成させていく。最終的にそのテキストを授業担当者がチェックし、到達目標１，２，３を達成できているかどうかについて、採点する（80%）。	1／2／3
2	特別講義終了時の感想シートによる理解度の確認（20%）	2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

村中は児童文学の実作者として到達目標２を達成するために、子どもの本の現状をわかりやすく具体的に解説していく
三宅は幼稚園、片平は保育園での実務経験を元に、到達目標3を達成するために、現場での子どもの文化環境について受講生に解説していく
特別講師吉村玲子・赤松百合子は家庭文庫等で行っている親子を対象としたわらべうた指導の経験を元に、到達目標３を達成するために、わらべうたの実践を通しその本質を伝える
特別講師脇明子は児童文学の翻訳家、岡山こどもの本の会代表として、到達目標１及び２を達成するために、メディア社会の現状と子どもが本を読むことの意味等について解説していく

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

①　児童文化とは何か(村中)
②　子どもと世界（村中）
③　本との出会い（三宅）
④　子どもと時間（村中）
⑤　自分ものがたり・子ども時代のエピソード確認（村中）
⑥　自分ものがたり・エピソードの文章化を試みる（村中）
⑦　声の文化・わらべ歌の世界（片平・特別講師　吉村玲子・赤松百合子）
⑧　声の文化・子どもの詩の世界を広げて（片平）
⑨　子どもと遊び・自然の中の遊び（村中）
⑩　子どもと遊び・ごっこ遊び（村中）
⑪　子どもと消費社会・駄菓子をめぐる文化（村中）
⑫　子どもと消費社会・食玩具の世界（村中）
⑬　子どもとヒーロー（村中）
⑭　子どもと読書・読書会を体験する（片平）
⑮　子どもと読書・特別講演（三宅・特別講師　脇明子）

定期試験
テキストの進行に合わせて各回ごとに受講生がまとめていく。テキスト内の課題および小レポートを最終授業日に提出する。
試験のフィードバックの方法
最終授業日に、これまでの授業で出してきた課題の重要点を解説し、各受講生が自身の視点や取り組みを振り返った後に レポート提出ができるようにする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストの進行に沿って、遊び・時間・ものがたり・経済・サブカルチャー・遊び・自然・読書といったキーワードのもとに、毎回課題を指示し、事前課題としては 自分の考えや調査結果をテキストにまとめていく。授業終了後は、事後課題としてそれぞれの加筆修正を試みる。（それぞれ1時間程度）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 感じあう　伝えあう　ワークで学ぶ児童文化，村中李衣編著，金子書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業の中で適宜紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー：授業中にそれぞれの担当が指示する。
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中） katahira@m.ndsu.ac.jp（片平） k.miyake@m.ndsu.ac.jp（三宅）
留意事項
現代児童文化の諸問題に関する報道、論説などに気を配り、メモや切り抜きを集めることを習慣づけてほしい。自分の育ってきた道のりで出会ったことなども整理し ていくので、関係資料等の収集に心がけること。 また、15回の講義の間に数冊の課題図書を読んでもらい、その理解をもって授業の臨んでもらうようにするので、自身で積極的に児童書に親しむ心構えを持つこと

音楽基礎					単位数	2単位
授業コード	80710	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子、本名　洋子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

子どもの音楽を感じる力を引き出すためには，保育者や教師自身の音楽の基礎力や表現力が必要である。本授業では，楽譜から音楽を読み取る力や，音楽の仕組みを理解する力を身に付け，子どもの興味・関心や場面によって曲を変化させる応用力も養いたい。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的な楽譜の読み書きができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽の諸要素を理解した上で，移調や旋律の和音付けを実施することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	小テスト　50%	1／2
2	定期試験　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　授業内容の説明
楽譜を読む
　　音の長さ（音符と休符）
２　音の高さ（譜表，音名）
３　拍子
４　演奏記号と用語　［小テスト１］
音楽の仕組みを理解する―基礎編―
５　音程　［小テスト２］
６　音階，調号　［小テスト３］
７　調の判定（臨時記号のないもの）　［小テスト４］
８　調の判定（臨時記号のあるもの）
９　和音　［小テスト５］
10　コード・ネーム
音楽の仕組みを理解する―応用編―
11　移調（音程より）［小テスト６］
12　移調（指定された音より）
13　旋律の和音付け（単純拍子）［小テスト７］
14　旋律の和音付け（複合拍子）
15　まとめ　［小テスト８］

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
小テスト返却時に模範解答を配付し，説明を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストの練習問題について，授業中に終わらない場合は授業外に実施すること。（問題数をこなすことによって理解が深まります） 毎回，1時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『音楽基礎』熊澤住子著（授業中に販売） ＜参考書等＞ 必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 本名：s5123@m.ndsu.ac.jp
留意事項
学修の積み重ねが大事な授業なので，理解ができない時には授業の中で質問すること。

美術基礎［a］				単位数	2単位
授業コード	80800	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わう事が出来る。	思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な技術の向上をはかることが出来る。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1. 2）による総合評定とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業の進め方と評価について
2　絵画『はらぺこあおむし』絵本からイメージして
　（by Eric Carle）
3　色彩表現①（感覚の色彩化）
4　色彩表現②（配置）
5　色彩表現③（着色）
6　形態表現①（雄型制作）
7　形態表現②（加工）
8　技法の習得：絵の具を使った課題①
　（吹き流し，糸引き絵，デカルコマニー，ドリッピング）
9　技法の修得：絵の具を使った課題②
　（ステンシル，指絵，はじき絵，紙染め，スタンピング）
10　技法の習得：パスを使った課題
　（スクラッチ，パスステンシル，フロッタージュ）
11　技法の習得：折り紙を使った課題
12　技法の習得：はさみを使った課題
13　指導案の作成について
14　美術館見学（大原・県立･林原･その他）
15　全ての課題作品の完成

定期試験

16　作品提出　レポート提出　総合批評会

試験のフィードバックの方法

課題の制作中にアドバイスを行う。必要な場合には助言を記して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備(毎回30分）をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
必要に応じて講義の中で紹介する。スケッチブックとそれぞれの課題に必要な画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。

オフィスアワー

オフィスアワーは、授業時に指示する。

連絡先

oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

美術基礎［b］				単位数	2単位
授業コード	80810	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わう事が出来る。	思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な技術の向上をはかることが出来る。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1. 2）による総合評定とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　授業の進め方と評価について
2　絵画『はらぺこあおむし』絵本からイメージして
　（by Eric Carle）
3　色彩表現①（感覚の色彩化）
4　色彩表現②（配置）
5　色彩表現③（着色）
6　形態表現①（雄型制作）
7　形態表現②（加工）
8　技法の習得：絵の具を使った課題①
　（吹き流し，糸引き絵，デカルコマニー，ドリッピング）
9　技法の修得：絵の具を使った課題②
　（ステンシル，指絵，はじき絵，紙染め，スタンピング）
10　技法の習得：パスを使った課題
　（スクラッチ，パスステンシル，フロッタージュ）
11　技法の習得：折り紙を使った課題
12　技法の習得：はさみを使った課題
13　指導案の作成について
14　美術館見学（大原・県立･林原･その他）
15　全ての課題作品の完成

定期試験

16　作品提出　レポート提出　総合批評会

試験のフィードバックの方法

課題の制作中にアドバイスを行う。必要な場合には助言を記して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備（毎回30分）をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
必要に応じて講義の中で紹介する。スケッチブックとそれぞれの課題に必要な画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。

オフィスアワー

オフィスアワーは、授業時に指示する。

連絡先

oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

美術基礎［c］				単位数	2単位
授業コード	80820	科目ナンバリング	330A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わう事が出来る。	思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な技術の向上をはかることが出来る。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1. 2）による総合評定とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業の進め方と評価について
2　絵画『はらぺこあおむし』絵本からイメージして
　（by Eric Carle）
3　色彩表現①（感覚の色彩化）
4　色彩表現②（配置）
5　色彩表現③（着色）
6　形態表現①（雄型制作）
7　形態表現②（加工）
8　技法の習得：絵の具を使った課題①
　（吹き流し，糸引き絵，デカルコマニー，ドリッピング）
9　技法の修得：絵の具を使った課題②
　（ステンシル，指絵，はじき絵，紙染め，スタンピング）
10　技法の習得：パスを使った課題
　（スクラッチ，パスステンシル，フロッタージュ）
11　技法の習得：折り紙を使った課題
12　技法の習得：はさみを使った課題
13　指導案の作成について
14　美術館見学（大原・県立･林原･その他）
15　全ての課題作品の完成

定期試験

16　作品提出　レポート提出　総合批評会

試験のフィードバックの方法

課題の制作中にアドバイスを行う。必要な場合には助言を記して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備（毎回30分）をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
必要に応じて講義の中で紹介する。スケッチブックとそれぞれの課題に必要な画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。

オフィスアワー

オフィスアワーは、授業時に指示する。

連絡先

oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

児童学演習Ⅰ［a］					単位数	2単位
授業コード	81000	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	日下　紀子、湯澤　美紀、西山　節子、椙原　彰子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

この演習は、児童学演習Ⅱ[a]とともに、心理学的研究で卒業論文を作成しようとする学生（心理学研究室所属の学生）のための授業である。４名の担当者が順次交代して授業を行う。主にグループ単位で雑誌論文の発表を行うことを通して、心理学領域の専門雑誌の講読に慣れ、心理学的研究法に基づいたデータを読み取き、理解することを目的とする。また、心理学的な研究課題について、先行研究ならびに関連文献の講読・発表を通して、学生自身が卒業論文の研究テーマについて問いを立て、その問いについてさらに先行研究等の参考文献を検索し、独自の仮説を考えられるように指導する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学関連の卒業論文作成に必要とされる研究能力の基礎として、文献検索、文献読解、文献批判等ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	雑誌論文を講読し、心理学領域の幅広い研究テーマに触れることができる。	知識・技能／主体性
3	授業を通して、各自の研究テーマの絞り込みができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	科学的・論理的な考え方を身につけ、調査データについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取組態度：20%	1／2／3
2	文献発表：40%	1／2／3／4
3	レポート等の提出物：40%	1／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わり、事例研究や観察研究、質的研究を行っている経験に基づき、心理学的研究をすすめていくための先行研究の取り扱い、研究課題の設定、分析理解等の研究プロセス基盤の構築を促す。（日下・椙原）

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

担当者の順序及び回数は以下の通りである。雑誌論文の発表では、いずれの担当者においても，グループ単位（3～5名）で雑誌論文（原著）を選択し，それを発表し，質疑応答を行う。必要に応じて教員が適宜解説する。また，授業時間外において，雑誌論文の検索の仕方を図書館で実施する。

1.　オリエンテーション（湯澤、日下、椙原、西山）
2.　各種研究法の概説と論文の読み方（湯澤、日下、椙原、西山）
※日下の担当期間中に雑誌論文検索の講習会を図書館で実施（時間外）
3.　雑誌論文のデータの読み方　（日下・椙原）
4.　雑誌論文の批判的検討と問いを立てる（日下・椙原）
5.　雑誌論文の発表　（日下）　※論文は、「児童青年精神医学とその近接領域」「小児の精神と神経」「母性衛生」「小児保健研究」「教育心理学研究」「パーソナリティ研究」から選択
6.　雑誌論文の発表　（日下）
7.　雑誌誌論文の発表　（日下）
8.　雑誌論文の発表　（日下）
9.　雑誌論文の発表の振り返　（日下）
10.　雑誌論文の発表　（椙原）
11.　雑誌論文の発表　（椙原）
12.　雑誌論文の発表　（椙原）
13.　雑誌論文の発表　（椙原）
14.　雑誌論文の発表の振り返り　（椙原）
15.　全体の振り返り・まとめ　（日下、椙原）

定期試験

課題レポート提出

試験のフィードバックの方法

授業のなかでフィードバックを行う

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）グループ単位で発表する雑誌論文を選択してもらうので、メンバーが分担し充分な準備（学術用語、統計など）をすることは不可欠である。文献読解・理解を進めるための心理学の基礎的知識を各自、主体的に広め、深めるように努めてほしい。（各1時間、総計15時間）
（復習）論文購読の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（各1時間、総計15時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

発表する論文は担当教員に事前に1部渡すこと。

オフィスアワー

オフィスアワーは日下・椙原ともに水曜３限目。

連絡先

日下：noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
椙原：sugihara@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義とは異なり、各自がより積極的に授業に参加しなければ、到達目標の達成ならびに学修効果は期待できない。また、雑誌論文の発表はグループ単位で実施するため、学生が各自授業への充分な準備とグループ内での連携や協力が不可欠であることを十分に意識して取り組んでください。
授業に関する内容、形態についての変更がある場合、図書館での文献検索講習についての連絡は、manabaを通して行うので、必ず確認してください。

児童学演習Ⅰ［b］				単位数	2単位
授業コード	81010	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、東　俊一、青山　新吾、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

インクルーシブな保育・教育、児童福祉、障害者福祉に関する内外諸文献の講読やそれを基にした発表・プレゼンテーションを通して、文献の読み方やそれぞれの問題を総合的に把握する能力を養う。また、性の多様性やジェンダー問題、インクルーシブな保育・教育等の本質的な意味についてグループワークやプレゼンテーションを通して考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．インクルーシブな保育・教育、児童福祉、障害者福祉の基本的事項について問題意識をもち、それを説明できる。	知識・技能／主体性
2	２．各自が持った問題意識に関するテーマについて調べ、正確な根拠に基づいた発表やプレゼンテーションができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	３．演習により得たインクルーシブな保育・教育、児童福祉、障害者福祉、障害理解教育に関する知識を、日常の生活や教育・保育場面において実際の支援や支援計画などに応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	４．各テーマについて、演習で深まった内容を分析してレポートにまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表のための作成資料あるいはプレゼンテーションおよび討論　50%	1／2／3
2	各テーマに基づくレポート　　50%	3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

4名の担当者のうち3名が特別支援教育の実務経験者であることから、「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」について実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

前期　　テ ー マ　　（担当）
1　オリエンテーション（全員）
2 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う(1) 乳幼児期　（担当：東）
3 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う(2) 学齢期
4 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う(3)青年期
5 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う(3) 成人期
6 「インクルーシブ発想を基盤にした教育・保育」をテーマにしたプレゼンテーション(1)　（担当：土居）
7 「インクルーシブ発想を基盤にした教育・保育」をテーマにしたプレゼンテーション(2)
8 「インクルーシブ発想を基盤にした教育・保育」をテーマにしたプレゼンテーション(3)
9　幼稚園・小学校におけるSOGIE教育(1) グループディスカッション　（担当：中内）
10　幼稚園・小学校におけるSOGIE教育(2) プレゼンテーション
11　幼稚園・小学校におけるSOGIE教育(3) 全体討論
12 「インクルーシブデザイン」をテーマにした調査・発表を行う(1) 世界のインクルーシブな学校園の調査・発表　（担当：青山）
13 「インクルーシブデザイン」をテーマに調査・発表を行う(2) 日本のインクルーシブな学校園の調査・発表
14　インクルーシブデザイン」をテーマに調査・発表を行う(3) インクルーシブな学校園についての討論
15　まとめ（全員）

定期試験
各担当者ごとにレポート課題を課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
オリエンテーションで、各教員が担当授業の進め方などを説明する。 発表やプレゼンテーションのために、事前に参考資料を読んでまとめたり、グループで話し合ったりしておくこと（1～2時間程度）。 発表、プレゼンテーションが終わった後は、学んだことや体験してことを振り返りまとめておくこと（30分程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 適時，資料を配布し，参考文献を紹介する
オフィスアワー
各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで提示する
連絡先
中内（代表）　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
状況により担当教員の順が入れ替わる場合もある。その場合は、事前に連絡する。 なお、諸連絡にmanabaを使用することがある。

児童学演習Ⅰ［c］				単位数	2単位
授業コード	81020	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤木　雅宣、伊藤　美保子、西　隆太朗、福原　史子、安江　美保、杉能　道明				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

〇子どもの問題を総合的に把握するため，教育にかかわる主要なトピックについての研究討議を行う。
〇論文執筆方法を身に付けるため，論文作成の作業手順についても解説する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	〇幼児・児童教育に関する問題を多面的・総合的に把握し、討論することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	〇研究・論文作成に必要な心構えと執筆方法を身に付け、レポートを作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	〇レポート　60%	1／2
2	〇発表・討議への参加意欲と態度　40%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教員・保育士・臨床心理士の経験を生かして、学生が教育・保育の実際についての考えを深められるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　オリエンテーション⑴（演習の進め方）
２．　オリエンテーション⑵（教育学研究の方法）
３．　発表とディスカッション⑴（教育観・子ども観に関するテーマ①）
４．　発表とディスカッション⑵（小学校教育に関するテーマ①）
５．　発表とディスカッション⑶（保育・幼児教育に関するテーマ①）
６．　発表とディスカッション⑷（家庭・家庭教育に関するテーマ①）
７．　発表とディスカッション⑸（教育に関する心理的・臨床的研究に関するテーマ①）
8.　発表とディスカッション⑹（教育観・子ども観に関するテーマ②）
9.　発表とディスカッション⑺（小学校教育に関するテーマ②）
10.　発表とディスカッション⑻（保育・幼児教育に関するテーマ②）
11.　発表とディスカッション⑼（家庭・家庭教育に関するテーマ②）
12.　発表とディスカッション⑽（教育に関する心理的・臨床的研究に関するテーマ②）
１３．ゼミに関するオリエンテーション
１４．ゼミでの研究テーマ設定について（概論）
１５．ゼミでの研究テーマ設定について（各論）
　発表とディスカッションは、教育学研究室の各グループ・班によって順番が変更になる場合があります。

定期試験
定期試験（レポートによる）
試験のフィードバックの方法
試験実施後、ゼミごとに話し合う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回、共通のテキストや文献が指定されるので、該当箇所をよく読み、A4用紙1枚程度に自分の考察をまとめてくること。演習後には、演習の成果や課題、感想などを記述し提出すること。 （詳細については、授業の中で知らせる。読むことも含めて、所要時間６０分程度を想定）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 授業の中で指示する ＜参考書等＞ 　授業の中で配布・紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー：初回の授業で指示する。 担当班については事前相談のための日時を毎回設定する（詳しくはオリエンテーション時に指示する）。
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木） nishi@post.ndsu.ac.jp　（西） mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp　（伊藤） sugino@post.ndsu.ac.jp　（杉能） fumikofk@post.ndsu.ac.jp　（福原） my31704612@post.ndsu.ac.jp　（安江）
留意事項

児童学演習Ⅰ［d］				単位数	2単位
授業コード	81030	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	村中　李衣、片平　朋世、三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

専門的に研究するために必要な基礎的文献を概観するとともに，さまざまなジャンルの作品を読んで報告しあい，視野を広げていく。子どもの発達や児童文学，児童文化に関する文献の講読も行なう。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１、自分の研究に必要な文献を探す力，研究書や文学作品を読んで，内容をわかりやすく紹介し，批評することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２、研究に値する問題を見出し，分析・考察を進める力や，その成果を正確でわかりやすい文章で述べることができる	思考・判断・表現力
3	３、耳でものがたりを聴き，その世界を豊かに味わうことができる	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	演習における発表40%	1／3
2	文献紹介レポート，自分の研究に関する中間レポート，期末レポート計60%	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

村中は児童文学の実作者として，三宅は幼稚園，片平は保育園での実務経験を元に，それぞれ児童文化財や現場での子どもの文化環境についてよりわかりやすく受講生に解説し，指導していく

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

① 児童文化へのまなざし
② 研究の動機をもつ
③ 先行論文をどうみつけ、どう読み進めるか
④ 各自の希望する研究テーマに即した先行研究の紹介１（作家論）
⑤ 各自の希望する研究テーマに即した先行研究の紹介２（読者論）
⑥ 希望する研究テーマに即した先行研究の紹介３（メディア論）
⑦ 希望する研究テーマに即した先行研究の紹介４（比較文化の視点から）
⑧ 昔話の朗読と鑑賞１（日本編）
⑨ 昔話の朗読と鑑賞２（海外編）
⑩ 児童文学作品の朗読と鑑賞１（日本編）
⑪ 児童文学作品の朗読と鑑賞２（海外編）
⑫ 長編児童文学へのアプローチ１（日本編）
⑬ 長編児童文学へのアプローチ２（海外編）
⑭ ４年ゼミ生の中間発表から学ぶ
⑮ 研究テーマ決定のための質疑応答と振り返り

定期試験
小レポートは各回の終了時に，最終レポートは15回目の講義終了時に提出する
試験のフィードバックの方法
小レポートは、各授業の中で，最終レポートは講義終了後，各自面接の中で指導する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で紹介した参考図書，他の受講生が研究している作品等に事前に目を通し，各回の討論に積極的に参加できるよう シートに自分の考えをまとめておく(1時間）。事後課題として、討論を経ての考えの変化をシートにまとめる（1時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 絵本ものがたりＦＩＮＤ，今井由香・大島丈志，朝倉書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 脇　明子『読む力は生きる力』（岩波書店）
オフィスアワー
オフィスアワーの曜日，時間帯についてはそれぞれの担当教員が授業中に指示する
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp(村中) katahira@m.ndsu.ac.jp(片平) k.miyake@m.ndsu.ac.jp(三宅)
留意事項
互いに疑問に思うことや異なる意見を持った場合は、そのことを大切にし、授業中にきちんと伝え合うこと。

児童学演習Ｉ［e］					単位数	2単位
授業コード	81040	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	片山　裕之、小田　久美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	複数／オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

美術表現と美術鑑賞を通して美術を探求する者の基本的な姿勢を考えるとともに技術を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術を探求する基本的な姿勢を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	美術に関する専門的な知識を深めるとともに、技術の向上をはかることができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度３０点	1
2	作品・レポート　７０点 〇石膏デッサン・美術概論 〇美術鑑賞は，発表準備・発表内容を評価します。 　西洋美術　発表用レポート・美術館研修レポート	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞活動を通して、観察力、想像力、描写力、鑑賞力を身につけるとともに美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 授業の進め方と心得・石膏デッサン①（片山）　フォルム、コントラスト、ヴァルール、マッス等の把握
2 石膏デッサン②（片山）　制作
3 石膏デッサン③（片山）　制作
4 石膏デッサン④（片山）　仕上げ・批評
5 美術概論①立案・構図決定（小田）
6 美術概論②制作・描画（小田）
7 美術概論③制作・彩色（小田）
8 美術概論④完成・発表（小田）
9 西洋美術の鑑賞①（片山）　古代から現代までの概観
10 西洋美術の鑑賞②（片山）　初期・盛期・北方ルネッサンス
11 西洋美術の鑑賞③（片山）　マニエリスム・バロック・ロココ
12 西洋美術の鑑賞④（片山）　新古典主義・ロマン主義・写実主義
13 西洋美術の鑑賞⑤（片山）　印象派・後期印象派
14 西洋美術の鑑賞⑥（片山）　野獣派・立体派・超現実主義等
15 大塚国際美術館見学（9月上旬）（片山・小田）

定期試験

作品提出　レポート提出　総合批評会（片山・小田）

試験のフィードバックの方法

課題レポート・作品はその都度提出後評価説明をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『西洋美術史』，高階秀璽，美術出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
『西洋美術史』　高階秀璽
（美術出版社）

オフィスアワー

片山　オフィスアワー　授業中に指示する
小田　オフィスアワー　授業中に指示する

連絡先

katayama@post.ndsu.ac.jp
oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

授業態度、出席は大切に扱います。
指定された美術全集・画集等は図書館又は、美術研究室のものを利用する。担当者の研究室へは積極的に訪ねるようにすること。

児童学演習Ⅰ［f］				単位数	2単位
授業コード	81050	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

前半は，保育・教育について，課題を設定し，文献や事例を検討することを通して，問題解決を図るプロセスを学ぶ。また，グループワークを通して他者と協働し，学び合うことによって，保育・教育の諸問題を多角的にとらえる力を習得する。
後半は，クリスマス・コンサートに向けての取組（企画，台本・劇中の音楽の創作，道具・衣装の制作）を通して，子どもに音楽の楽しさを伝える方法を理解する。取組にあたっては，それぞれ係を決め，子どもの年齢や発達にふさわしい台本や音楽等の内容を考える力を習得する(グループワーク)。そして,受講者全体でディスカッションを行い，意見を出し合いながら仕上げていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育・教育についての問題意識をもち，文献や事例の検討により，明らかになったことを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	他者と協働して、課題解決を図る中で，自分の考えを述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	子どもの視点で内容（台本）を検証し，自分の考えを述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	場面に応じた音・音楽（効果音等）や，場面に適した道具・衣装を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	演技や合唱・合奏等を通して，他人と協調しながら自分を表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	資料作成と発表30%	1／2
2	レポート20%	1
3	発表・討論への参加　20%	3／4／5
4	コンサート練習への取組　30%	3／4／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，学生が，子どもたちとのかかわりの中で，教育的課題に向き合いながら，日々実践を作り上げていく過程について体験的に学ぶことを促す。具体的には，教育・保育現場において，子どもたちの音楽的な育ちを援助するために必要となる音楽に関する知識や技術を実践的に指導するとともに，調べ学習やディスカッション等を通して，関心を持ったテーマを自ら探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　オリエンテーション
２．保育・教育の在り方と研究動向について
３．探究テーマを設定する・話し合う
４．探究テーマについて調べる・まとめる
５．音・音楽遊びの内容と方法
６．実践とディスカッション①（学びを振り返り、発表する）
７．実践とディスカッション②（学びを振り返り、共有する）
８．クリスマス・コンサートの意義について及び役割分担
９．台本の検討(世界観・登場人物・流れ・台詞等)
10. 劇中の音楽の創作（効果音の創作・楽器の選択）
11. クリスマス・コンサートの練習（台詞の読み合わせ）
12. クリスマス・コンサートの練習（立ち稽古・合唱・合奏）
13. 大道具の制作（特別講義講師）および小道具の制作
14. （卒業研究に向けて）心構え
15. （卒業研究に向けて）様々な表現方法について学ぶ

担当：1回～7回　14回・15回　藤掛
　　1回・8回～15回　池田

定期試験
各担当者ごとにレポート課題を課す。
試験のフィードバックの方法
個別に内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
【前半について】授業外で準備や話し合いを行い，授業に臨むことが必要である。探究テーマに関して，資料を活用して調べたり，自分の意見をまとめたりしておくこと。また，授業時に出された課題を完成させて翌週の授業に臨むこと。 【後半について】クリスマスコンサートは音楽劇です。劇中の音楽だけでなく，台本，大道具，小道具，衣装などのすべてがオリジナルの手作りです。各自が多様なアイディアを提案できるように，多方面からの情報収集に努めてください。その内容は,次回の授業時に発表してもらいます。また本授業では，持ち寄ったアイディアを再構成し，より完成度の高い作品に仕上げていきます。毎回の授業で出された課題について，自分なりの考えをまとめてください。 毎回，4時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

児童学演習ＩＩ［a］				単位数	2単位
授業コード	81100	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀、西山　節子				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

この演習は，児童学演習Ｉ[a]とともに，心理学的研究で卒業論文を作成しようとする学生のための授業である。２名の担当者が順次交代して授業を行う。この授業を通して，心理学的な研究課題について，関連文献の講読・発表を行うとともに，学生独自が卒業論文の研究テーマについて文献を検索し，問題・課題を見出し，独自のテーマや仮説を考えられるように指導する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学関連の卒業論文作成に必要とされる研究能力の基礎として、文献検索、文献読解、文献批判等ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	雑誌論文を講読し、心理学領域の幅広い研究テーマに触れることができる。	知識・技能／主体性
3	授業を通して、各自の研究テーマの絞り込みができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	科学的・論理的な考え方を身につけ、調査データについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取組態度：20%	1／2／3
2	文献発表：40%	1／2／3／4
3	レポート等の提出物：40%	1／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

臨床発達心理士・臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わり、事例研究や観察研究、質的研究を行っている経験に基づき、心理学的研究をすすめていくための先行研究の取り扱い、研究課題の設定、分析理解等の研究プロセス基盤の構築を促す。（湯澤・椙原）

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

担当者の順序及び回数は以下の通りである。雑誌論文の発表では、いずれの担当者においても，グループ単位（3～5名）で雑誌論文（原著）を選択し，それを発表し，質疑応答を行う。必要に応じて教員が適宜解説する。

1. オリエンテーション（湯澤）
2. 各種研究法の概説と論文の読み方（湯澤）
3. 雑誌論文のデータの読み方　（湯澤）
4. 雑誌論文の発表　（湯澤）
5. 雑誌論文の発表　（湯澤）
6. 雑誌論文の発表　（湯澤）
7. 雑誌誌論文の発表　（湯澤）
8. 全体の振り返り　（湯澤）
9. オリエンテーション　（椙原）
10. 各種研究法の概説と論文の読み方（椙原）
11. 雑誌論文の発表　（椙原）
12. 雑誌論文の発表　（椙原）
13. 雑誌論文の発表　（椙原）
14. 雑誌論文の発表　（椙原）
15. 全体の振り返り　（椙原）

定期試験

演習の内容、レポートから総合的に評価する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）グループ単位で発表する雑誌論文を選択してもらうので、メンバーが分担し充分な準備（学術用語、統計など）をすることは不可欠である。文献読解・理解を進めるための心理学の基礎的知識を各自、主体的に広め、深めるように努めてほしい。（各1時間、総計15時間）
（復習）論文購読の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（各1時間、総計15時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
担当者が準備するプリントおよび心理学関連の学会誌から選出する。なお、発表する論文は担当教員に事前に1部渡すこと。

オフィスアワー

オフィスアワー：湯澤・椙原　水曜日３限

連絡先

メールアドレス：
湯澤　yuzawa@m.ndsu.ac.jp
椙原　sugihara@m.ndsu.ac.jp

留意事項

　講義とは異なり、各自がより積極的に授業に参加しなければ、到達目標の達成ならびに学修効果は期待できない。また、雑誌論文の発表はグループ単位で実施するため、学生が各自授業への充分な準備とグループ内での連携や協力が不可欠であることを十分に意識して取り組んでください。
　授業に関する内容、形態についての変更がある場合、図書館での文献検索講習についての連絡は、manabaを通して行うので、必ず確認してください。

児童学演習ＩＩ［b］				単位数	2単位
授業コード	81110	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	中内　みさ、東　俊一、青山　新吾、土居　裕士				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

児童学演習Ｉ【b】での学びを基に、小児保健、障害児心理、特別支援教育、インクルーシブな保育・教育、児童福祉、障害者福祉に関する内外諸文献の講読や発表・プレゼンテーションを通して、各テーマの基礎的事項や問題を把握する。加えて、文献探索の方法等、卒業論文の作成にかかわる基礎的知識や研究方法論について理解し、研究遂行の基礎的な資質・能力の向上を図る。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	関心をもった小児保健やインクルーシブな保育・教育、児童家庭福祉、障害者福祉などのテーマに関して、見つけた課題を明確化し述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	課題に関連するテーマの学術論文を探索し、研究方法や分析方法などについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	演習で深めた内容を各自の卒業論文作成に繋げてレポートにまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	発表のための資料作成と発表　　50%	1／2／3
2	レポート　　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

4名の担当者のうち３名が特別支援教育の実務経験者である。インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育について実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

各ゼミに分かれ、論文の書き方や研究倫理、文献探索法などについて学ぶ。自分の関心のあるテーマや卒業論文作成に関連した文献などを講読し、理解したことをまとめ発表する。ゼミ内での質疑応答を通して、研究内容や研究方法についての理解をより深め、論文作成の準備に取りかかる。

第1回　論文とは何かを学ぶ
第2回　論文の書き方を学ぶ
第3回　研究方法について学ぶ１　フィールドワークなど
第4回　研究方法について学ぶ２　アンケート調査
第5回　研究倫理について学ぶ１
第6回　研究倫理について学ぶ２
第7回　文献探索方法を学ぶ
第8回　文献の読み方を学ぶ
第9回　発表を通じて文献のまとめ方を学ぶ
第10回　関心をもった分野に関する学術論文等を読み資料を作成する
第11回　資料を発表を通して文献の読み方とまとめ方について体験的に学ぶ
第12回　資料の発表を通して文献の読み方を深める討論の仕方を学ぶ
第13回　関心をもった分野に関する学術論文等を読んでまとめた資料を発表する
第14回　研究テーマに関連する課題から自分の研究テーマを考える
第15回　関心をもったテーマに関してレポートを発表する

定期試験
各担当者ごとにレポート課題を課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
多くの学術図書と論文に触れ、多様な研究方法とその処理について、他者にわかりやすく説明をすることができるような周到な準備をしてほしい。発表のための資料作成（約1～2時間）。 発表が終わった後は討論を振り返り、意見や教員のコメントなどをまとめておくこと（約40分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 適時，資料を配布し，参考文献を紹介する。
オフィスアワー
各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで提示する。
連絡先
東　　s-higashi@post.ndsu.ac.jp 青山　　saoyama@m.ndsu.ac.jp 土居　　doi164@m.ndsu.ac.jp 中内　　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
「児童学演習Ⅱ【b】」は、各ゼミに分かれての演習になるので内容がより専門的になる。到達目標は同一であるが、進め方においてはそれぞれのゼミで異なる。 また、2月に行われる卒論発表会に主体的に参加し、多様な研究内容とプレゼンテーション方法について学んでほしい。

児童学演習ＩＩ［c］				単位数	2単位
授業コード	81120	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	赤木　雅宣、伊藤　美保子、西　隆太朗、福原　史子、安江　美保、杉能　道明				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

子どもの問題を総合的に把握するため，教育にかかわる主要なトピックについての研究討議を行う。また，論文執筆方法を身に付けるため，論文作成の作業手順についても解説する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼児・児童教育に関する問題を多面的・総合的に把握し、討論することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	○研究・論文作成に必要な心構えと執筆方法を身に付け、レポートを作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○研究に関するレポート　60%	1／2
2	○発表・討議への参加意欲と態度　40%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教員・保育士・臨床心理士の経験を生かして、学生が教育・保育の実際についての考えを深められるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　オリエンテーション⑴（児童学演習IIの授業について）
２．　文献講読⑴（教育学研究を深める）
３．　文献講読⑵（教育学研究の方法論）
４．　研究への取り組みについて⑴（研究の進め方）
５．　研究への取り組みについて⑵（テーマの設定）
６．　研究への取り組みについて⑶（資料の収集）
７．　研究の実際について⑴（テーマの具体化）
８．　研究の実際について⑵（文献の整理）
９．　研究テーマに関する発表
１０．　研究テーマに関するディスカッション
１１．　研究テーマの発展について
１２．　論文執筆について（構成について）
１３．　論文執筆について
１４．　４年生の卒業研究に学ぶ
１５．　まとめ

各回の内容・順番は、学生一人ひとりの研究テーマに対応するため、前後する場合があります。

定期試験

定期試験（レポートによる）

試験のフィードバックの方法

試験実施後、ゼミごとに話し合う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

自分が卒業研究で取り上げようとするテーマについて、文献・資料等を自ら検索し、レポート等にまとめてくること。（所要時間６０分程度を想定）
ゼミのメンバーの関連分野についても、関心をもち、いろいろな角度から積極的に演習に参加すること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業の中で紹介する。

＜参考書等＞
授業の中で紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー：初回の授業で指示する。

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）
nishi@post.ndsu.ac.jp　（西）
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp　（伊藤）
sugino@post.ndsu.ac.jp　（杉能）
fumikofk@post.ndsu.ac.jp　（福原）
my31704612@post.ndsu.ac.jp　（安江）

留意事項

児童学演習ＩＩ［d］				単位数	2単位
授業コード	81130	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	村中　李衣、片平　朋世、三宅　一恵				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

児童文化に関する諸問題などについて,先行文献を読み解きながら、各自の問題意識を高めていくとともに、さまざまな研究へのアプローチを学ぶ。
　毎回2～3名が問題提起とそれに関する調査研究成果を発表し、卒業研究の基礎を固めていくとともに、絵本，児童文学についての幅広い知識を養い，よいものを選ぶ目を磨いていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１、事例のなかに潜む問題を発見し，理論に照らし合わせながら論じる力や，絵本，児童文学などの児童文化財について，客観的に評価する力をもつ	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２、 研究成果を正確でわかりやすい文章で述べることができる	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習における発表40%	1／2
2	文献紹介レポート，自分の研究に関する中間レポート，期末レポート計60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

村中は児童文学の実作者として,三宅は幼稚園、片平は保育園での実務経験を元に、それぞれ児童文化財や現場での子どもの文化環境についてよりわかりやすく受講生に解説し、指導していく

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

①　さまざまな研究テーマの決め方（村中，三宅，片平）
②　児童文化研究の技法（村中，三宅，片平）
③　研究テーマの発表:関心のある文化トピック（村中，三宅，片平）
④　研究テーマの発表：関心のある児童文学トピック（村中，三宅，片平）
⑤　研究テーマの発表：関心のあるメディアトピック（村中，三宅，片平）
⑥　研究テーマの発表４：自身のテーマに関心をどうつなげていくか（村中，三宅，片平）
⑦　問題提起と討論（村中，三宅，片平）
⑧　子どもと切り結ぶ方法論の模索（村中，三宅，片平）
⑨　実習観察の中から得た問題意識の確認（村中，三宅，片平）
⑩　文献資料の用い方：基本編（村中，三宅，片平）
⑪　文献検索の実際：応用編（村中，三宅，片平）
②　研究テーマの再考と発表：文化関係（村中，三宅，片平）
⑬　研究テーマの再考と発表：児童文学関係（村中，三宅，片平）
⑭　研究テーマの再考と発表：さまざまなメディア関係他（村中，三宅，片平）
⑮　4年生の研究成果から学ぶ（村中，三宅，片平）

定期試験
授業を通して自身の研究課題を設定し、それに関する研究成果をまとめて、最終授業終了時に提出する。
試験のフィードバックの方法
提出されたレポートをもとに、個人面談し、より深い研究へのまなざしを持てるよう指導する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で紹介した参考図書、他の受講生が研究している作品等にも目を通し、自らの研究テーマ設定に活かす文献カードを各自作成していく。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する
オフィスアワー
オフィスアワーの曜日・時間帯は、各担当教員が授業中に指示する
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp(村中) katahira@m.ndsu.ac.jp(片平) k.miyake@m.ndsu.ac.jp(三宅)
留意事項
ゼミ構成員が互いに疑問点を積極的に伝え合い、学びの成果を目に見える形で分かち合えるようにしていくこと。

児童学演習ＩＩ［e］				単位数	2単位
授業コード	81140	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	片山　裕之、小田　久美子				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

美術表現と美術鑑賞を通して美術を探求する者の基本的な姿勢を考えるとともに、技術を身につける

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術を探求する基本的な姿勢を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	美術に関する専門的な知識を深めるとともに技術の向上をはかることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業態度　３０点	1
2	作品・レポート　７０点 〇木炭デッサン・美術概論 〇美術鑑賞は、発表準備・発表内容を評価します。 日本美術　発表用レポート等の課題	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞活動を通して、観察力、想像力、描写力、鑑賞力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 授業の進め方と心得（片山・小田）
2 木炭デッサン　美術概論　①構図（片山・小田）
3 木炭デッサン　美術概論　②形をとらえる（片山・小田）
4 木炭デッサン　美術概論　③陰影をつける（片山・小田）
5 木炭デッサン　美術概論　④描き込み（片山・小田）
6 木炭デッサン　美術概論　⑤仕上げ（片山・小田）
7 木炭デッサン　美術概論　⑥完成（片山・小田）
8 木炭デッサン　美術概論　⑦講評（片山・小田）
9 日本美術の鑑賞①仏教の歴史,日本古美術史,仏像の種類と素材（小田）
10 日本美術の鑑賞②岩船寺・浄瑠璃寺・新薬師寺・秋篠寺（小田）
11 日本美術の鑑賞③十輪院・元興寺・三月堂・戒壇院・室生寺（小田）
12 日本美術の鑑賞④中宮寺・石位寺・聖林寺・薬師寺（小田）
13 日本美術の鑑賞⑤夢殿・法隆寺（小田）
14 日本美術の鑑賞⑥唐招提寺（小田）
15 日本美術の鑑賞⑦興福寺（小田）

※日本美術の鑑賞は4年次4月 京都・奈良研修旅行につながるものである。

定期試験

作品提出・レポート

試験のフィードバックの方法

課題レポート・作品はその都度提出後評価説明をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
画材（木炭デッサン用）

オフィスアワー

片山　オフィスアワー　授業中に指示する
小田　オフィスアワー　授業中に指示する

連絡先

katayama@post.ndsu.ac.jp
oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

指定された美術全集・画集等は図書館又は、美術研究室のものを利用する。担当者の研究室へは積極的に訪ねるようにすること

児童学演習ＩＩ［f］					単位数	2単位
授業コード	81150	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考	後日掲示					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

クリスマス・コンサートに向けての取組（企画，台本・劇中の音楽の創作，道具・衣装の制作）を通して，子どもに音楽の楽しさを伝える方法を身につける。取組にあたっては,それぞれ係を決め,リーダーシップを発揮しながら子どもの年齢や発達にふさわしい台本・音楽等の内容を考え,表現する(グループワーク)。そして,受講者全体でディスカッションを行い,意見を出し合いながら仕上げていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもの視点で内容（台本）を検証し，自分の考えを述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	場面に応じた音・音楽（効果音等）を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	場面に適した道具・衣装等を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	演技や合唱・合奏を通して，他人と協調しながら自分を表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	音楽的表現について，本番での子どもの反応により臨機応変に対応することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表・討論への参加　20%	1／2／3
2	レポート課題　10%	1／2／3
3	コンサートの練習と本番への取組　70%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　台本・音楽・大道具・小道具・衣装の確認
2　大道具・小道具・衣装の直しとクリスマス・コンサートの練習（1幕）
3　クリスマス・コンサートの練習（2幕）
4　クリスマス・コンサートの練習（劇中音楽の合唱）
5　クリスマス・コンサートの練習（劇中音楽の合奏）
6　クリスマス・コンサートの練習（打楽器の演奏方法）特別講義講師
7　台本・音楽・大道具・小道具・衣装の確認（舞台上において）
8　中間発表・検討会
9　クリスマス・コンサートの練習（フィナーレの動き）
10　クリスマス・コンサートの練習（フィナーレの合唱）
11　クリスマス・コンサートの練習（メドレー合唱）
12　発表
13　クリスマス・コンサートの反省会
14　翌年のコンサートに向けて（全体の構成）
15　翌年のコンサートに向けて（世界観の検討）

定期試験
発表及びレポート提出
試験のフィードバックの方法
個別に内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
クリスマスコンサートは音楽劇です。劇中の音楽だけでなく，台本，大道具，小道具，衣装などのすべてがオリジナルの手作りです。各自が多様なアイディアを提案できるように，多方面からの情報収集に努めてください。その内容は,次回の授業時に発表してもらいます。また，本授業では,持ち寄ったアイディアを再構成し，より完成度の高い作品に仕上げていきます。毎回の授業で出された課題について,自分なりの考えをまとめてください。 毎回,4時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項

心理学実験演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	81210	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀、椙原　彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

一般的に心理学実験とは、実験や測定といった実証的手法によって、能動的に人間を理解する一つの方法である。心理学の入門的授業であり、受講者はグループに分かれ、基礎的な３種類の課題実験を体験し、レポートを書いてもらう。将来、心理学または教育学関係の卒業研究を目指す学生は、履習することが望ましい。提出されたレポートはすべて添削して個別に返却する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	データの分析やレポートを通して、論理的思考力を身につけるとともに，論理的に表現することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	実験レポート（論文）の書き方の基礎やデータの処理方法を理解し，応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取組態度：10%	1／2／3
2	レポート（３本）：90%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーションⅠ（概要，目的の説明）
2　オリエンテーションⅡ（実験に関する基礎）
3　オリエンテーションⅢ（実験・研究レポートとは：レポートの書き方）
4　実験とレポートの体験Ⅰ（実験を体験）
5　実験とレポートの体験Ⅱ（データ整理を体験）
6　実験とレポートの体験Ⅲ（レポート執筆を体験）
7　実験Ⅰ　　※レポート提出
8　実験Ⅰ
9　実験Ⅰ
10　レポートの返却と講評
11　実験Ⅱ　　※実験Ⅰレポート提出
12　実験Ⅱ
13　実験Ⅱ
14　実験Ⅰレポートの返却と講評
15　データの処理と分析について　　※実験Ⅱレポート提出

定期試験

16　実験Ⅱレポートの返却と講評・まとめ・反省会

試験のフィードバックの方法

レポートは全て添削の上，個別に指導する

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

最低限の予習として，それぞれの実験課題について目的と方法を理解しておくこと（事前学習1時間，事後学習1時間程度）。また，心理学実験に際しては，１課題あたり4時間程度を要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
テキスト、資料類はmanaba folioを介して配布する。
＜参考書等＞
なし

オフィスアワー

オフィスアワー：湯澤・椙原　水曜日3限

連絡先

メールアドレス：湯澤　yuzawa@m.ndsu.ac.jp
椙原　sugihara@m.ndsu.ac.jp

留意事項

1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。
2. 提出されたレポートは、すべて添削して返却される（書き直し有り）。
3. この授業を履修するものは、心理教育統計を必ず受講すること。
4. 目的や実験に関わる用語を理解していないと，レポートを書くことができない。事前・事後学習をしっかり行うこと。

心理学実験演習ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	81260	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	椙原　彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

一般的に心理学実験とは、実験や測定といった実証的手法によって、能動的に人間を理解する一つの方法のことである。心理学の入門的授業であり、受講者はグループに分かれ、基礎的な課題実験を体験することによって、ものごとを論理的に考え、それをまとめ、発表する習慣を学生に身につけさせることを目標としている。将来、心理学または教育学関係の卒業研究を目指す学生は、履習することが望ましい。
提出されたレポートは添削し、個別に返却する。
心理学実験演習Ｉを発展させた内容となる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	データの分析やレポートを通して、論理的思考力を身につけるとともに，論理的に表現することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	実験レポート（論文）の書き方の基礎やデータの処理方法を理解し，応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取組態度：20%	1／2／3
2	レポート（４本）：80%	1／2／3
3		1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　オリエンテーション・実験Ｉ（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
２　実験Ｉ　実験実施
３　実験Ｉ　データ処理・結果まとめ
４　実験Ⅱ　（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
※実験Ｉ　レポート提出
５　実験Ⅱ　実験実施
６　実験Ⅱ　データ処理・結果まとめ
※実験Ｉ　レポート返却・解説
７　実験Ⅲ（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
８　実験Ⅲ　実験実施
９　実験Ⅲ　実験実施
10　実験Ⅲ　データ処理・結果まとめ
※実験Ⅱ　レポート提出
11　実験Ⅳ（パーソナル・スペース）事前指導
12　実験Ⅳ（パーソナル・スペース）実験実施
※実験Ⅱ　レポート返却・解説
13　実験Ⅳ（パーソナル・スペース）実験実施
※実験Ⅲ　レポート提出
14　実験Ⅳ（パーソナル・スペース）データ処理・結果まとめ
※実験Ⅲ　レポート返却・講評
15　まとめ・反省会・実験室清掃

定期試験
試験のフィードバックの方法
レポートは全て添削の上，個別に指導する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：事前に配布された実験資料を読み込んで、それぞれの実験課題について目的と方法を理解し、疑問点をまとめておくこと（約60分） 復習：実験内容を振り返って、データ処理や結果の表や図を作成すること（約60分） 講義の日程以外にも実験を行うことがある。心理学実験に際しては，１実験あたり講義時間外に4時間程度を要する
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
テキスト・資料類は適宜配布する。
オフィスアワー
水曜日3限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます 2. 提出されたレポートは、すべて添削して返却される（書き直し有り） 3. この授業を履修するものは、心理教育統計を必ず受講すること 4. 目的や実験に関わる用語を理解していないと，レポートを書くことができない。事前・事後学習をしっかり行うこと

心理教育統計					単位数	2単位
授業コード	81300	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	椙原　彰子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

心理学、教育学、社会学において、収集されたデータを分析し結論を得る際に、統計は科学的で、有効かつ説得力のある手段（道具）である。
本授業では、統計的・科学的な考え方を理解し、初歩的な統計の解説をするとともに、基礎的な検定方法の使い方を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	統計的なものの見方・考え方を身につけることができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	心理学研究法に関する基礎知識を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	どのような場合にどのような検定を使用すべきかを判断できるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	manaba復習課題　15%、授業開始時の小テスト（14回）：25%	1／2／3
2	定期試験：60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業において解説する主な内容と順序はおよそ以下のとおりです。第2回以降の授業では、復習を兼ねて、授業開始時に小テストを実施します。

1　オリエンテーション（統計とは、数のもつ意味）
2　代表値と散布度（平均，中央値）
3　代表値と散布度（標準偏差，四分偏差）
4　正規分布
5　２変数の関係（相関の基礎）
6　２変数の関係（積率相関，順位相関）
7　独立変数と従属変数，被験者の配置
8　統計的検定とは
9　ｔ検定（使用法とｔ分布）
10　ｔ検定
11　χ2検定（使用法とχ2分布）
12　χ2検定（残差分析）
13　分散分析
14　分散分析（多重比較）
15　心理学論文における統計・その他の検定

定期試験

定期試験 60%
manaba復習課題（授業後実施）　15%
14回の小テスト（授業開始時に実施）　25%

試験のフィードバックの方法

小テストは自己採点し、その後解説を加えるので、自分の理解度を確認することができる。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

復習：講義内容を振り返るmanaba復習課題に回答すること（約20分）、小テスト範囲の講義内容を見直すこと（約30分）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
(1)初歩の統計法，ナカニシヤ
(2)心理・教育のための統計法，サイエンス社
(3)よくわかる心理統計，ミネルヴァ書房
(4)1歩前からはじめる統計の読み方・考え方，ミネルヴァ書房
(5)わかって楽しい心理統計法入門，北大路書房

オフィスアワー

水曜３限

連絡先

sugihara@m.ndsu.ac.jp

留意事項

計算機（ルートの計算ができるもの、ソーラー電池でないもの）を必ず持参してください。統計ソフトを利用することもあるのでpcを持参していただく場合があります。

(1)心理学や教育学において調査・実験を志向する学生は、必須である。
(2)心理学実験演習Ⅰ・Ⅱを履修する者は、必ず受講すること。
(3)ほぼ毎回、小テストを実施するので、復習は必須です。

言語心理学				単位数	2単位
授業コード	81350	科目ナンバリング	330B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	則武　良英				
時間割備考	8月25日、28日、29日				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

日常における言語の果たす役割，学習や思考との関係，言語と人間関係について，心理学の視点から理解することを目指す。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学の視点から，日常生活における言語の果たす役割を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	人間の心と言語への興味と理解を深め，日々の生活をより良いものにするための実践ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート（70%）	1
2	小テスト等（30%）	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1言語心理学とは
2言語の生物学的基礎
3言語発達
4音声の理解と産出
5前言語的コミュニケーション
6話し言葉の発達
7言語発達のアセスメント（1）
8言語発達のアセスメント（2）
9言語発達の支援法
10読み書きの発達
11読み書きの支援
12言語と感情
13言語と感情のコントロール
14言語と心理療法
15言語心理学の展望

定期試験
授業最終回に，レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
レポート返却時にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予定されている学習内容について，学習者自身の体験を振り返り，自分なりにまとめておくこと（約20分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時推薦図書を紹介する。
オフィスアワー
質問は随時，電子メールで受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
noritake@mw.kawasaki-m.ac.jp
留意事項

福祉心理学				単位数	2単位
授業コード	81440	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	日下　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児期から学童期にかけての心理・精神発達と親子関係・家族関係について事例をもとに考え、心理学的な基礎知識を習得する。さらに現代の子育て家庭や子どもの精神保健をめぐる社会的状況と課題をとりあげ、子どものみならず親世代にも必要な支援について考えていく。なかでも精神保健上の緊急課題である児童虐待の問題を取り上げて考え、虐待に走る養育者の心理、傍観する人々の心理、長期にわたって被虐待状況の中に置かれた子どもたちが獲得してしまう精神保健上の問題等、心理臨床的な課題について理解するとともに、どのような心理的支援ができるのかについて考え、どのように実行していくのかを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家族・家庭の意義や機能を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	親子関係や家族関係等について発達的・心理臨床学的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉えた視点を習得し提示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、その心理的な支援について考え、提示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	講義への参加の積極性とリアクションシート　30%	1／2／3
2	中間レポート　10%	1／2／3
3	期末試験　60%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、事例や現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題について取り上げる。それらの背後にある心理力動や関係性について説明するとともに、学生自身が自らの経験と照合しながら多面的・多角的に考えられるようにグループディスカッションを取り入れながら、学びをすすめる。また、臨床現場における連携の実際例についても取り上げ、臨床的・実践的に考えることによって、現場にて具体的な支援を行う基盤となる力の構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　乳幼児精神保健の現状と展望
２．　こころの芽生えと親子関係
３．　虐待問題を傍観する社会の人々の心理
４．　虐待事件の報道に見る社会の認識と虐待者の劣等感
５．　支援対象はだれか- 虐待事例について考える　（※特別講演の予定）
６．　虐待者の心理-何から逃れたくて虐待に走るか-
７．　虐待発生とその後の進行の心的メカニズム
８．　虐待の予防・虐待支援になぜネットワークが重要か
９．　被虐待児の心理
10．関係性の障害、情動制御の障害-その理解と心理的支援
11．心的外傷とPTSD
12．乳幼児期の心の発達と頻出する心の問題
13．学童期の心の発達と頻出する心の問題
14．思春期の心の発達と頻出する心の問題
15．子と養育者と保育者、地域との協力・連携

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
レポート全ての評価が終わった段階で，manabaを通じて適宜レポートの内容に触れながら，全体的な総評を伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）虐待事件がマスコミ報道に取り上げられることは、残念ながらとどまることがない。過去の事件あるいは受講期間に報道される関連事件を考察してまとめるワークシートを課する予定である。日頃より新聞記事やニュースに関心を持ち、情報を収集し知見を広めるよう努め、疑問などをまとめておくこと。（各回1時間　総計15時間） （復習）授業で取り上げたテーマについて、自分の経験や感覚を通して問題意識をもち、その問いを追究するようさらに参考図書や参考URLなどをもとに理解を深めること。（各回1時間　総計15時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献・資料などは必要に応じて紹介し、配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー　水曜日3限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
事例を紹介し、これを軸にしながら講義を進めていく予定である。事例情報を大切に扱うとともに、講義の内容に自分の経験と重ね合わせながら実感をもって考え、疑問点などを言語化し、さらにその問いを明らかにする姿勢で真摯に授業に取り組んでほしい。 　また、日常的に子どもや家族、親子関係に関する文献や報道ニュースなどに主体的に触れ、知見を広げるように努めること。

心理学特講Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	81500	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	堀内　孝					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

認知心理学は，心理学（教育心理学や発達心理学，社会心理学，臨床心理学など）の基礎として重要な研究領域です。本授業では，具体的な実験例を示しながら，分かり易く解説し，認知心理学について理解します.

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 認知心理学の代表的な研究知見を知ることができる	知識・技能／主体性
2	2. 認知心理学の理論や方法論を学ぶことができる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3. 認知心理学の基礎用語について説明できるようになる	知識・技能／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	講義における参加度　40%	3
2	小課題　20%	1／2
3	定期試験（レポート）40%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1 . ガイダンス
2 . 情報処理パラダイムと記憶
3 . 感覚記憶
4 . 短期記憶
5 . 長期記憶1（意味記憶）
6 . 長期記憶2（エピソード記憶）
7 . 日常記憶（自伝的記憶）
8 . 記憶研究の動向
9 . 思考と問題解決
10. 演繹的推理
11. 帰納推理と創造的思考
12. 確率判断
13. 意思決定
14. 社会的推論
15. 思考研究の動向

定期試験
レポート試験
試験のフィードバックの方法
授業中に説明します。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業のパワーポイント資料を配布するので、復習をしっかりしてください。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考図書に関しては随時紹介します。
オフィスアワー
授業時間の前後に相談してください。
連絡先
horiuchi@okayama-u.ac.jp
留意事項
特になし

心理学特講ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	81510	科目ナンバリング	330B1-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	椙原　彰子、石原　金由					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　心理学研究法のうち、質的研究法・実験研究法・質問紙調査法の理論と研究の実際を学ぶ。実験研究については、心理学実験演習でも扱うので、主に質的研究法・質問紙調査法を中心に解説する。質問紙調査法では、受講生が研究テーマを設定し、実際に調査用紙を作成し、データを収集・分析してもらう。また、心理学的なデータの処理に関して、コンピュータの使用法や統計ソフトを用いた分析の方法についても学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	心理学における研究方法の基礎を学ぶことで、心理学についての理解を深め、それぞれの研究方法について説明できる。	知識・技能／主体性
2	科学的な考え方を身につけ、研究テーマに基づいて研究方法を適切に選択することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表　20%	1／2
2	課題（レポート２本）　80%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　（椙原）・心理学研究に関わる基礎知識　（石原）
2　心理学研究に関わる基礎知識　（石原）
3　各種研究法概説と倫理問題　（石原）
4　質的研究法概説（半構造化インタビュー・ナラティブインタビュー）　（椙原）
5　質的研究法（研究計画・予備調査）　（椙原）
6　質的研究法（インタビュー調査実施・データの記録）　（椙原）
7　質的研究法（データのコード化とカテゴリー化）　（椙原）
8　質問紙調査法概説①（概説とテーマ設定）　（石原）
9　質問紙調査法②（質問紙作成の手順・概念・定義の決定）　（石原）
10　質問紙調査法③（質問紙調査決定と修正）グループごとに発表　（石原）
11　質問紙調査法④（質問紙作成・調査実施）　（石原）
12　質問紙調査法⑤（データ処理演習）　（石原）
13　質問紙調査法⑥（データ処理演習）　（石原）
14　質問紙調査法⑦（データ処理演習）　（石原）
15　質問紙調査法⑧（因子分析を用いた統計処理）　（石原）
16　質問紙調査法⑨（因子分析を用いた統計処理）　（石原）

定期試験
課題レポート（２本）、場合によっては小テスト等を行う
試験のフィードバックの方法
レポート返却・講評
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：次回授業に関しては，資料を配布する。熟読の上，参加すること（各1時間） 復習：授業に際し、講義の内容をまとめておくこと、講義内容を元に実践課題に取り組むこと（各1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考資料は随時配布する。
オフィスアワー
水曜３限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
復習ならびに、授業時間外での自主的な学習が必須です。

児童教育学特講ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	81750	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵、青山　新吾、土居　裕士、杉能　道明、西山　節子、後藤　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

〇これまで学んできた教育理論が，実際に学校教育現場でどのように実践されているかの概略を理解するとともに，演習・実習等の体験を通して，実践できるようにする。
〇模擬授業（保育）・模擬学級経営体験等を通して，教育現場で通用する実践力を高める。
〇教員採用試験に向けて実践的な対策を講じる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	〇教育理論と実践とをつないで，「何をすべきか」「どのようにすべきか」を具体的に考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	〇模擬授業（保育），模擬学級経営などの実践を通して，学校現場で担任になったときの方策を身に付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業中の活動の様子（取り組み方・意欲等）50点	1／2
2	・課題・レポート等　50点	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

どの担当者も公立学校園に勤務して、学校園の運営・経営や学級経営、生徒指導や個別支援、特別支援教育等の経験をもつ。学校園の現場での指導体験をもとに、学生の演習、活動等に実践に即した具体的なアドバイスを加えて、学生の実践的指導力を向上させる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

① オリエンテーション(教職を目指すための意識と方策)
②　教職とはＩ　−自らの教育観をもつ−
③　教職とはⅡ　−学校現場が求める教師像−
④ 教員採用試験問題の傾向と対策Ⅰ「教職教養」
⑤ 教員採用試験問題の傾向と対策Ⅱ「専門教養(幼・小)」
⑥　学級経営について
⑦　模擬授業・模擬保育
⑧　集団討論の実践
⑨　集団面接の実践
⑩　個人面接・口頭試問の実践
⑪　実技試験の傾向と対策Ⅰ　−音楽実技を中心に−
⑫　実技試験の傾向と対策Ⅱ　−体育実技を中心に−
⑬　小論文について
⑭　受験の心構えⅠ　−教職を目指す自分を見つめる−
⑮　受験の心構えⅡ　−求められる教師像との擦り合わせ−
⑯　まとめ

定期試験
数回の小レポート提出。「まとめ」の中で最終レポートを作成する。
試験のフィードバックの方法
「16. まとめ」でこれまでの学習内容を振り返る。 そのうえで、最終レポート作成のために必要な内容について説明を加える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・実践力の育成に主眼を置いた授業である。グループで討論したり、ロールプレイをして評価し合ったりすることが多い。その授業で実施したこと、思考したことなどを想起して、ノート等にまとめていくこと。 ・課題が出された場合には、自分の考えをノート等に記述し、まとめていくこと。 （このノートが、学校園現場での指導実践マニュアル集になり、また、採用試験対策の面接ノートにもなっていく。所要時間３０～４０分程度と想定）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 「小学校学習指導要領」 「幼稚園教育要領（解説）」「保育所保育指針（解説）」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（解説）」
オフィスアワー
オフィスアワー　　授業の中で伝える
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（小特・赤木）　　k.miyake@post.ndsu.ac.jp　（幼保・三宅）
留意事項
○学校現場での教育実践を演習・実習等の形態で体験することを主とする。積極的に体験活動に取り組もうとする姿勢が必要である。 ○幼稚園と小学校に分かれて実施する授業と、共通に実施する授業があるので、注意すること。 ○教員採用試験に関する内容を含んでいる。採用試験対策の一環に組み込み、特に実践力の形成に役立ててほしい。 ○各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで指示する。

児童文化論ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	81850	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	村中　李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　この講義では，子どもの発達にとって大きな意味を持つ絵本，昔話，幼年童話を，具体的に取り上げる。絵本については，子どもの発達、読みあい事例をふまえながら、多種多様な絵本を紹介する。
　また、「読み聞かせ」と「読みあい」の違いを理解し、絵本の力・場の力を活かした児童文化の継承ができるよう、実際に読みあい体験をする。
　また、簡単な手作り絵本を作成し、絵本の仕組みを解説する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもとのやわらかなコミュニケーションと子ども理解の手がかりとして「絵本の読みあい」の大切さを理解し、受講者一人一人に見合ったかたちでできるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
2	それぞれが手作り絵本を作成し実際に読み聞かせることによって、絵本の仕組みを把握でき、現場で子どもたちに指導できるようになる。	知識・技能
3	紙芝居やパネルシアターなどの実演技法を習得する	知識・技能
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート60%,	1
2	作成するミニ絵本の目標に照らした完成度20%,	2
3	授業の参加態度および発表態度20%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

絵本の実作者として、手作り絵本やおはなしづくりの具体的指導にあたり、どこに問題点があるかを創作現場での基本ルールに則って解説する

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

①　はじめに「子ども」という窓
②　赤ちゃん絵本について
③　科学する絵本について
④　２～３歳の絵本
⑤　４～５歳の絵本
⑥　大きい人の絵本
⑦　手作り絵本の構想
⑧　手作り絵本の作成
⑨　手作り絵本の発表
⑩　さまざまな児童文化財・その１手づくりおもちゃ
⑪　さまざまな児童文化財・その２紙芝居・パネルシアター
⑫　おはなしづくりの文法・その１プロットの立て方
⑬　おはなしづくりの文法・その２子ども読者の意識
⑭　読みあいとさまざまな文化環境
⑮　まとめ（レポートの振り返りを含む）

定期試験

14回目の授業終了時にレポートを提出。

試験のフィードバックの方法

レポートの総括は、15回目終了時に行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

テキスト内に提示された絵本及び参考図書を毎回具体的に指示し、その指示に従って次回までに読んでくる（1時間）。
授業終了後、考えがどう深まったかを事前学習からの変化を意識し、シートにまとめる（1時間）。
シートは最終授業日、レポートと共に提出する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
保育をゆたかに～絵本でコミュニケーション～，村中李衣，かもがわ出版　978-4780309553

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

オフィスアワー 授業中に指示する

連絡先

muranaka@m.ndsu.ac.jp

留意事項

児童文化論Ⅰの学びをさらに深め、主体的に実習その他の実践場面に役立つ文化財の扱いを習得できるよう、恥ずかしがらず積極的な参加態度を求めます。
絵本については解説をしながら、実際に受講生に読んでもらいます。
また、手作り絵本は授業時間以外にも補助的に作成の時間が求められる場合があります。

児童文化論III					単位数	2単位
授業コード	81860	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	片平　朋世					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

幼児期後半から学童期以上の子どもを対象に、読書の可能性について考える。大人にとっては、趣味の一つであるが、子どもにとって絵本や児童文学は、その育ちを支える重要な文化財である。保育園や幼稚園、小学校、家庭文庫等での子どもたちの事例を知ったり、読書会を行い仲間と語り合ったりする中で、読むことの喜びに気付き、子どもにとっての物語の意味、そして現場で子どもにかかわる大人のあり方などを探っていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもにとっての読書の必要性について記述できる	知識・技能
2	読書会を通して、各児童文学作品を多面的に論じることができる	思考・判断・表現力／主体性
3	保育・教育者の立場として、子どもに適切な絵本や児童文学作品を選ぶことができる	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・受講態度（発表・事前シート・授業中の課題・感想等）50%	2／3
2	・期末レポート　50%	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に、その後の読書につながる読み聞かせのあり方を検討したり、実際の子どもと照らし合わせながら、児童文学作品の中の子ども像を多角的に読み解くよう促したりする。
特別講師山本は、小学校教諭として担任による読み聞かせや読書支援の意義と方法を実践例を通して解説する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　読むことはなぜ必要なのか
2　話し言葉と書き言葉について
3　同じテーマの絵本を読み比べてみよう
4　物語への橋渡しとなる絵本
5　昔話について
6　昔話絵本を読み比べてみよう
7　科学絵本について
8　共通体験としての物語ー体験①ー
9　共通体験としての物語ー発表①ー
10　小学校での実践事例（特別講義）（特別講師　山本茉莉）
11　児童文学作品から「話すこと」「書くこと」を学ぶ
12 家庭文庫での実践事例ー小学生読書会の様子からー
13　共通体験としての物語ー体験②ー
14　共通体験としての物語ー発表②-
15　子どもに手渡すには

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
期末レポートのフィードバックは、manabaにて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・テキストの指示した箇所や配布資料，絵本・児童文学等を読み，概要や感想をシートにまとめておくこと（１～２時間程度）。 ・読書会で扱う児童文学（受講数決定後に指示）を期日までに繰り返し読み，事前シートに記入しておくこと（１～２時間程度）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『読む力が未来をひらく―小学生への読書支援』，脇明子，岩波書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『読む力は生きる力』、脇明子、岩波書店
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日2限、3限
連絡先
katahira@m.ndsu.ac.jp
留意事項

児童文学					単位数	2単位
授業コード	81900	科目ナンバリング	330B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	村中　李衣					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

授業前半は、テキストに取り上げた作品をもとに、グループディスカッションを行いながら、読みあいの力について実感しその理論を学ぶ。
授業後半は、1作ごとの読書会を設定し、国内外の児童文学作品を鑑賞することを通して、「物語」のもつ力とそれを受容する読者の間に生じる読みのダイナミクスを学ぶ。
さらに、絵本から読みものへと子どもの読書が発展していく過程についても学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１、絵本の力を年齢や状況、読み手の特性に応じて理解し、様々な場面で絵本を介した実践ができるようになる。	知識・技能
2	２、児童文学作品に関心を持ち、積極的に読書する中で、それぞれの作品世界について自分なりの意見や世界観を持てるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	３、テーマ別に児童文学作品の読書会を開く技法を習得する。	知識・技能
4	４、小学校での絵本から児童文学への橋渡しの方法を理解する	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への参加態度（読みt解きのプレゼンテーションも含む）　50%	1／2／3／4
2	事前事後レポートの完成度　50%	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

養護施設や矯正施設での子どもたちへの読書指導の経験と児童文学の実作者としての経験を活かし、子どもと本を結ぶために必要なものを受講生自ら発見していく手助けをする。このことにより、到達目標１，２，３がより深く達成されるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

①　絵本の力を引き出すために
②　『がたんごとんがたんごとん』を中心に年代を超えた読みあいを学ぶ
③　あなたがいて、私がいて、本があるということ
④　子どもと物語を生きてみる
⑤　赤ちゃんとの読みあい
⑥　バリアフリーと絵本
⑦　児童文学作品を読むその１「白いぼうし」
⑧　児童文学作品を読むその２「風と木の歌」
⑨　児童文学作品を読むその３「チャーシューの月」
⑩　児童文学作品を読むその４「ねずみ女房」
⑩　児童文学作品を読むその５「クローディアの秘密」
⑫　児童文学作品を読むその６「トムは真夜中の庭で」
⑬　幼い人とものがたりを介してどう向き合うか（場面別）
⑭　小学校での読みあい活動術（文学編）
⑮　小学校での読みあい活動術（科学よみもの編）

定期試験

前半に読み解いていったテキスト作品の中から1冊を選び、レポートする。
後半に授業で取り扱う指定児童文学作品について、それぞれの作品について事前にレポートする。

試験のフィードバックの方法

講義終了後に、各自に向けて添削したレポートを返却する

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

各授業に関連する参考図書を前の週の授業内で紹介し、各自読んでくる。（1時間~2時間）。事後課題としては、授業内のディスカッションを踏まえ、自分の考えをまとめておく。（30分程度）このために、授業開始時点で各自予習復習用ノートを1冊準備する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『絵本の読みあいからみえてくるもの』2005,7月,村中李衣,ぶどう社　978-4892401794

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

オフィスアワー は、授業中に指示する

連絡先

muranaka@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業中の説明等に疑問がある場合は、臆せずに授業中に質問し、あやふやな解釈を持ち越さぬようにすること。

子どもと健康				単位数	1単位
授業コード	81920	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	安江　美保				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

健康な心と体を育て，自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識・技能を身に付ける。具体的には，幼児の心身の発達，基本的な生活習慣，安全な生活，運動発達等において，幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ，その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼児の心身の発達，基本的な生活習慣，安全な生活，運動発達などにおける幼児期の特徴や意義を理解し，それらを説明することができる。	知識・技能
2	○幼児の心身の発達，基本的な生活習慣，安全な生活，運動発達など，幼児期の特徴や意義について理解したことを，実際の保育の場面でどのように関連させていくことができるのかを話し合ったり，発表したりすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	○幼児の心身の発達，基本的な生活習慣，安全な生活，運動発達など，幼児期の特徴や意義について学んだことと，ボランティアや保育所実習などで経験したことを結びつけて，今後の自身の保育をどのように行っていきたいかについてまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○授業への取り組み・討論への貢献度（30%）	1／2
2	○毎時間の「講義で学んだこと」についての小レポート（40%）	1／2
3	○講義で学んだことに関するまとめのレポート（30%）	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり。

実務経験の授業への活用方法

○安江美保
　小学校教諭として教育現場に勤めていた際に，保健領域で取り組んで実践や，学級指導で取り組んできた健康指導，安全指導に関する実務経験を本授業に活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：　乳幼児期の健康課題　−乳幼児を取り巻く生活環境と健康−
第２回：　乳幼児の身体の発達的特徴　−乳幼児期の身体的発達の特徴−
第３回：　乳幼児期の生活習慣の形成　−乳幼児期の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成とその意義−
第４回：　幼児の安全教育と危険（リスクとハザード）
　　−子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理−
第５回：　幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防
　　−幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急措置の基礎及び病気の予防−
第６回：　乳幼児期の運動発達の特徴　−ゴールデンエイジの特徴と多様な動きの獲得−
第７回：　日常生活における運動　−社会の変化と生活の中の動きの経験−
第８回：　遊びとしての運動　−子どもにとって遊びとして行う運動の在り方−

定期試験

〇最終レポートを，授業の中での指示により提出する。

試験のフィードバックの方法

〇レポート全ての評価が終わった段階で，manabaを通じて評価の高かったレポートの内容に触れながら，全体的な総評 を伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の講義内容と「幼稚園教育要領解説」，「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などの関連箇所と合わせて，講義の予習を10分以上・復習を20分以上行うことを求める。復習には，毎回の授業後に提出する「「講義で学んだこと」についての小レポートを含む。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
〇「幼稚園教育要領解説」（平成29年告示），2018年，ISBN978-4-577-81447-5，文部科学省，フレーベル館
〇「保育所保育指針解説」（平成29年告示），2018年，ISBN978-4-577-81448-2，厚生労働省，フレーベル館
〇「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成26年告示），内閣府・文部科学省・厚生労働省

必携書・参考書（教科書販売以外）

参考書・参考資料等
・勝木洋子・編「保育者をめざすあなたへ　子どもと健康」（みらい）
・岩崎洋子・編「保育と幼児期の運動あそび」（萌文書林）
・河邉貴子・著「遊びを中心とした保育−保育記録から読み解く『援助』と『展開』」（萌文書林）

オフィスアワー

〇オフィスアワーは，火曜日の2限，木曜日の２限。

連絡先

my31704612@post.ndsu.ac.jp

留意事項

・毎時間課題が出るため，期日厳守で提出すること。

子どもと人間関係				単位数	1単位
授業コード	81930	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	三宅　一恵				
時間割備考	教育実習終了後、8回開講。開講日については、manabaで連絡する。				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

幼児期の人と関わる力の育ちに大きな影響を与えている社会的要因について理解する。また、領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特質を理解し、人と関わる力を育むために必要な体験について具体的な事例をもとに学びを深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	・乳幼児期の人と関わる力の育ちと、集団生活における人間関係の育ちを総合的に理解する。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での意欲・態度　20点	1／2
2	課題シート・発表　40点	1／2
3	定期試験　40点	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から、子どもが人と関わる力を身につけていくために、どのような環境構成や保育者のかかわりが必要なのか、具体的な事例から考えられるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：　現代社会と幼児の人間関係
第２回：　3歳未満児における人間関係の発達
第３回：　遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち
第４回：　乳幼児期の自立心の育ち
第５回：　幼児期の協同性の育ち
第６回：　幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
第７回：　乳幼児期の人間関係の広がり
第８回：　幼児期に育みたい資質・能力と人間関係

定期試験
筆記試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業を大切にするとともに、授業後に振り返りを行い、授業内容を整理しておくことが望ましい。また、次回授業の課題にも取り組むこと。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） 保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
オフィスアワー
月曜４限、木曜４限
連絡先
k.miyake@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○積極的に人と関わることを楽しみ、自らの人間関係力を高めること。

子どもと環境				単位数	1単位
授業コード	81940	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西山　節子				
時間割備考	教育実習終了後、8回開講。開講日については、manabaで連絡する。				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児を取り巻く環境に関心を向け、現代社会の環境が及ぼす影響について理解する。領域「環境」のねらいや内容について、具体的な事例をもとに考察し学びを深めるとともに、指導に必要となる感性や、教育内容に対する知識・技能を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼児を取り巻く環境と幼児の発達との関係性やその意義を理解する。	知識・技能／主体性
2	・幼児期の施行・科学的概念の発達を理解する。	知識・技能／主体性
3	・標識や文字等、日常生活の中にある情報や施設等と乳幼児との関わりについて、幼児の発達と関連付けて理解する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への意欲・態度　20%	1／2／3
2	課題シート・発表　40%	1／2／3
3	筆記試験　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，幼児一人一人の思いや興味・関心を捉えた環境構成や教師の援助について具体例を通して伝えながら，環境が幼児の学びや育ちにいかに重要であるか，理解を深められるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：現代社会における幼児を取り巻く環境と子どもの育ち
第２回：乳幼児期の発達における環境との関わり
第３回：乳幼児期の思考・科学的概念の発達
第４回：乳幼児の自然との関わりⅠ（自然物を使った遊びや飼育・栽培）
第５回：乳幼児の自然との関わりⅡ（自然と関わる具体的な活動）
第６回：数量や図形などの環境と乳幼児との関わり
第７回：簡単な標識や図形などの環境と乳幼児との関わり
第８回：日常生活にある情報や施設等と乳幼児との関わり

定期試験
筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業の最後に，次回の授業内容を伝えるので，全体の流れや疑問点などを把握した上で出席してほしい。また，授業の中で，授業外で体験してほしいことや調べ学習の内容などの課題を提示し，レポートや口頭で発表したりグループで協議したりするので，毎回の授業に真剣に取り組むと共に，意欲を持って授業外学習にも取り組んでほしい。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省） 保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
オフィスアワー
月曜日　4限
連絡先
メールアドレス：西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から身近な人，もの，植物，生き物，自然の事象，社会の事象などに興味や関心をもったり，幼稚園や保育園の環境に触れるような機会をもったりするよう心がける。

子どもと言葉				単位数	1単位
授業コード	81950	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	村中　李衣、片平　朋世				
時間割備考	教育実習終了後、8回開講。開講日については、manabaで連絡する。				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1)人間にとっての言葉の意義や機能を理解する 2)人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	乳幼児の言葉の発達過程について、理解し説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿を合わせて説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	1)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する 2)児童文化財について、基礎的な知識を身に付ける	知識・技能／思考・判断・表現力

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー、授業内の課題　50%	1／3／5
2	定期試験　50%	1／2／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

村中は児童文学の実作者として到達目標5を達成するために、児童文化財の種類や歴史等をわかりやすく具体的に解説していく
片平は保育園での実務経験を元に、到達目標1,2,3,4を達成するために、現場での児童文化財の実践や取り入れ方等について、具体例を示しながら解説していく

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：　人間にとって「言葉」とは何か？（片平）
−言葉の意義と機能−
第２回：　子どもは言葉をどのように獲得するか　（片平）
−子どもの言葉の発達過程−
第３回：　「言葉に対する感覚」とは何か　　（片平）
　　−言葉の美しさ、楽しさを感じよう−　わらべうた・詩・絵本等を通して
第４回：　言葉に対する感覚を豊かにする実践について　（片平）
　　−言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方−
第５回：　言葉に対する感覚を豊にする実践の実際　　（片平）
　　−子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えよう−
第６回：　言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か　（村中）
−種類や歴史等−
第７回：　言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の実際　（片平）
　　−保育への取り入れ方−
第８回：　言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践　（片平）
　　−模擬保育−

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験内容の解説等は、manaba等でフィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業内で紹介した絵本や詩、幼年童話等は実際に手に取り読むことで、授業の理解を深める（週1～2時間程度） 保育実践に使用する教材の作成や、模擬保育の準備等を、場合によっては仲間と協力しながら行う（週１～２時間程度）
必携書（教科書販売）
子どもの育ちを支える絵本（脇明子編著、岩波書店）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 子どもの育ちを支える絵本（脇明子編著、岩波書店） 保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府、文部科学省、厚生労働省、フレーベル館） 〈参考書〉 授業中に適宜資料を配布、参考書の紹介を行う
オフィスアワー
最初の授業にて、それぞれのオフィスアワーを知らせる
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中） katahira@m.ndsu.ac.jp（片平）
留意事項
授業は隔週実施予定。日程の詳細は改めてmanaba等で連絡する。 ボランティアや実習等で経験したことで、特に言葉の領域にかかわるところは自分なりに整理しておきましょう。

子どもと表現				単位数	2単位
授業コード	81960	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子、藤掛　絢子、安江　美保				
時間割備考	集中講義・日程は後日掲示				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では、領域「表現」における理念や様々な理論を理解するとともに、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等での生活や遊び場面における事例を検討することを通して、子どもの表現する姿を読み取り、その意味を考える。また、子どもの表現を受け止め、表現の育ちを支えるために必要となる、保育者としての資質・能力、表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○領域「表現」における理念を踏まえ、幼児期の子どもの表現やその発達について説明することができる。	知識・技能
2	○領域「表現」のねらいや内容、理論を理解するとともに、子どもの表現の育ちを支える保育者の援助や環境構成を考え、記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	○自らが表現することを楽しみ、それを実現するための環境について分析することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業に取り組む姿勢　10%	1／2／3
2	各授業担当者から授業時に出された課題　90%（30%×3）の総合評価	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

○安江美保
　小学校教諭として教育現場に勤めていた際に体育科の表現運動領域の実践研究に専門的に取組んできた実務経験を、本授業における、幼児と身体表現の関係の捉え方、型のある身体表現・型のない身体表現、身体表現の事例から考える-豊かな身体表現とは-等の講義内容に活かし、「幼児にとっての身体表現の魅力」について学びを深めていけるようにする。
○小田久美子
　子どもの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。
○藤掛絢子
　幼稚園における担任としての勤務経験を活かし、乳幼児期における子どもの表現にかかわる事例を示しながら、その理解を深めるとともに、学生自身が音楽表現力を高めていくことができるよう支援する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：　オリエンテーション、領域「表現」の位置付け　（担当：小田、安江、藤掛）
第２回：　幼児期の子どもの「表現」とは何か　（担当：藤掛）
第３回：　生活、遊び場面で見られる子どもの音楽表現　（担当：藤掛）
第４回：　子どもの歌唱表現の事例と歌遊び　（担当：藤掛）
第５回：　子どもの音とかかわる事例と音・音楽遊び　（担当：藤掛）
第６回：　子どもの音・音楽とのかかわりの理解から保育実践へ　（担当：藤掛）
第７回：　身体表現（舞踊）の歴史、文化としての身体表現（舞踊）　（担当：安江）
第８回：　子どもと身体表現-発達の段階による表出行動の違い-　（担当：安江）
第９回：　型のある身体表現、型のない身体表現　（担当：安江）
第10回：　子どもの身体表現の育ちを支える保育者の援助や環境構成　（担当：安江）
第11回：　身体表現の事例から考える-豊かな身体表現とは-　（担当：安江）
第12回：　絵本からイメージする　『はらぺこあおむし』（by Eric Carle）（担当：小田）
第13回：　子どもの空間再現に関する課題　（担当：小田）
第14回：　表現と鑑賞の関係　《アルルの寝室》（by Vincent van Gogh）　（担当：小田）
第15回：　表現にむけられるまなざし（子ども編）　（担当：小田）
第16回：　表現にむけられるまなざし（保育者編）　（担当：小田）

定期試験

定期試験は実施しない。「音楽表現」「身体表現」「造形表現」の各担当者が授業の中で課題を出す。

試験のフィードバックの方法

「音楽表現」「身体表現」「造形表現」の各担当者から、評価が高かった課題の紹介や総評を授業時もしくはmanabaにて伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
なし

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
なし
＜参考書等＞
・古市久子・編著『保育表現技術−豊かに育つ・育てる身体表現』（ミネルヴァ書房）
・西洋子、本山益子・著『子どもの身体表現』（市村出版）
・池田裕恵、猪崎弥生・編著『保育内容「表現」−からだで感じる・表す・伝える−』（杏林書院）
・『幼稚園教育要領解説』（平成30年　文部科学省）
・『保育所保育指針解説』（平成30年　厚生労働省）
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他、授業中に適宜資料を配付する。

オフィスアワー

オフィスアワーは、各担当者が授業中に指示する。

連絡先

小田 (oda9@post.ndsu.ac.jp)
安江 (my31704612@post.ndsu.ac.jp)
藤掛 (a-fujikake@m.ndsu.ac.jp)

留意事項

必要に応じ、適宜指示する。

国語Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	82050	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	赤木　雅宣					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

〇小学校国語科の目標と内容について，系統を踏まえて概説するとともに，具体的な教材を通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習指導のあり方について研究する。
〇小学校国語科の学習指導要領の概略を知り、目標に対応した教材研究の方策をつかむ。
〇就学前のことばの育ちと就学後の授業づくりをつなぎ、子どもが身に付けるべき学力について考えをもつ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	〇国語科の目標と内容の構成について，系統的に学んでいくことで，何を目指す教科なのかを理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	〇教材研究の進め方を知り、実践することができる。	主体性
3	〇国語科の指導に必要な知識・技術と素養を身に付けることができる。	知識・技能
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業中の活動の様子（取り組み方・意欲等）40点	3
2	・課　題　30点	2
3	・（授業後）小レポート，最終レポート　30点	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立小学校の教員として国語科の授業を実践してきた経験をもとに、授業づくりの課題や留意点を実践に即して取り上げる。指導要領に記されていることを学校現場の授業ベースで伝えると共に、学生が児童が取り組む言語活動について考える際に、児童の実態を伝えていくことで、実践的な指導力を高めていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　小学校教育における国語科の役割
2　国語科の目標と内容の概観（学習指導要領を読み解く）
3　「話すこと・聞くこと」の学習指導①（スピーチ系列）
4　「話すこと・聞くこと」の学習指導②（話し合い系列）
5　「書くこと」の学習指導①（生活系作文）
6　「書くこと」の学習指導②（伝達系作文）
7　「読むこと」の学習指導①（文学的な文章の教材研究）
8　「読むこと」の学習指導②（文学的な文章の授業構想）
9　「読むこと」の学習指導③（読書指導）
10　「読むこと」の学習指導④（説明的な文章の教材研究）
11　「読むこと」の学習指導⑤（説明的な文章の授業構想）
12　「言語事項」の学習指導①（言語に関する事項の授業構想）
13　「言語事項」の学習指導②（書写に関する事項の授業構想）
14　言語活動を核にした授業づくり①
15　言語活動を核にした授業づくり②
16　まとめ

定期試験

16 まとめ（最終レポート作成）

試験のフィードバックの方法

「16 まとめ」では、それぞれのポートフォリオをもとに、ポイントを振り返る。
そのうえで、最終レポートの内容として必要なことについて伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業の最後には、その時間に学んだことについて振り返り、自分の言葉でまとめて表現する時間をもつ。そこでまとめたことを核に復習をして、それぞれの領域の学習指導のあり方についての考えを明らかにしていくこと。（所要時間３０分程度を想定）
各領域の学びが終わる度に課題を出すが、毎回のまとめが蓄積していることで答えられる内容である。
最終レポートも同様で、授業の中で体験し、明らかにしたことをもとに、自分の考えを構築して表現することを求める。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
〇小学校国語教科書「1年上」「3年上」「5年」光村図書版
〇文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』（平成29年告示）
〇「基本を大切にした国語科授業づくり」2018年　ISBN978-4-86429-966-1　赤木雅宣　大学教育出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
授業の中で紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー　授業中に指示する。

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）

留意事項

・教壇に立つことを意識して，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの言語活動に積極的に取り組むこと。
・授業で学んだ内容と，日常の生活の中での言語活動のつながりを意識し，その充実を図ること。

国語ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	82100	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	赤木　雅宣、片平　朋世					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

〇国語Ｉ（教材研究の方策と実践）、国語科指導法（授業づくりの実践的探求）で培ってきたことを確かめ、更に深めていく。
〇本時レベルを超え、単元全体の授業構想をしたり、漢字指導、ノート指導等、日々の指導の中で課題になるであろうことを想定して、指導のあり方を考えたりする。
〇具体的な実践を想定した内容を学んでいく中で、言語行為としう視点から、国語科の指導のあり方を考察する。
〇就学前の言葉の育ちを入学後の授業づくりに活かすための理論と方法を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	〇国語科を学ぶこと（学力観）について、自分なりの考えをもつことができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	〇「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学教材・説明文教材）」の単元を構想して、授業のつくりかたを身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	〇漢字指導、ノート指導、音読指導など、日常の授業の中で出会うであろう諸問題について、具体的な指導の方策を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	〇授業中の態度（積極性、グループ活動への貢献度）	… 50%	2／3
2	〇課題・小レポート	… 25%	2／3
3	〇最終レポート	… 25%	1
4	※出席を重視する。		
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

赤木は公立小学校の教員として国語科の授業実践をした経験をもとに、授業づくりのに関する課題を実践に即して取り上げる。学生がロールプレイをしたり話し合ったりする内容について、教室の児童の実態を踏まえたアドバイスをして、実践的指導力の向上に役立てる。
片平は保育士の経験をもとに、就学前の子どものことばの発達の道筋や、豊かなことばを育てるための保育環境や保育者の役割等を、実例を示しながら解説する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

①国語科教育が求めるもの（赤木）
②「話すこと・聞くこと」の授業づくり（赤木）
③話し合い学習のあり方（赤木）
④「書くこと」の授業づくり（赤木）
⑤作文の評価のあり方（赤木）
⑥「読むこと（文学教材）」の授業づくり（赤木）
⑦「読むこと（説明文教材）」の授業づくり（赤木）
⑧就学前の子どものことばの育ち（片平）
⑨就学前の子どものことばの指導（片平）
⑩国語科入門期（新１年生）の授業作り（赤木）
⑪ノート指導の進め方（赤木）
⑫漢字指導のあり方（赤木）
⑬音読（朗読）指導の進め方（赤木）
⑭グループを活用した指導の進め方（赤木）
⑮国語科指導の諸問題（赤木）

定期試験

⑯まとめ、レポート作成

試験のフィードバックの方法

⑯「まとめ」の中で、それぞれのポートフォリオをもとにして、これまで扱った内容のポイントについて振り返る。
　そのうえで、最終レポートに求めることを伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

「国語科指導法」で作成したノートを継続して利用し、充実させていく。レジュメ、資料などをもとにして、毎回の内容について、きちんとまとめや振り返りを記述していく。（所要時間３０～４０分程度を想定）
このノートを、国語の授業作りについて考えたいときにすぐに取り出せる「オリジナルの参考書」に仕上げていってほしい。最終のレポートでは、毎回の蓄積を発揮して、授業を構想することになる。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
○文科省『小学校学習指導要領解説』国語編
○「基本を大切にした国語科授業づくり」2018年　ISBN978-4-86429-996-1　赤木雅宣　大学教育出版
○小学校国語科教科書
※これらは「国語Ⅰ」「国語科指導法」の授業で既に手元にあるはず。

オフィスアワー

オフィスアワーは、講義の中で伝える。

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）

留意事項

○小学校、特別支援学校の学校現場への就業を考えている人は、できるだけ履修することが望ましい。
○「国語Ⅰ」「初等教育実習」を学んだ後の履修が望ましい。
○学校現場で使える具体的な指導のあり方を求めていくので、自分のこれまでの体験を踏まえ、積極的にグループ活動や模擬授業、ロールプレイなどに取り組むこと。

書道					単位数	2単位
授業コード	82150	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	岡村　富広					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校書写教育の演習・実技を通して、書写教育の基礎・基本を理解するとともに、文字指導の技能を修得し、文字指導場面で活用できるようにすることを目的とする。
指導場面での鑑賞とほめ方（認め方）の重要性について理解し，実践できるように自己評価・相互評価の実践をする。
文字・書写教育について考察することで、文字に関する視野を広げるとともに伝統芸能としての「書」について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	文字教育の意義が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	正しい姿勢・執筆法が実行できる。	知識・技能／主体性
3	字形の整え方を理解し，演習・実技を通して用筆法を実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	実技の結果について，自己評価・相互評価を実行できる。	知識・技能／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・演習・実技での実践や技能　６０％	1／2／3／4
2	・提出物（レポート）　４０％	3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教諭・管理職として授業・学校管理に携わった経験から、教育観や書写授業さらに文字学習についての基礎・基本を踏まえながら、受講学生に教育者としての文字教育についての実践的な技能の習得を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　学習について　文字・書写教育について
2．　姿勢・執筆法・用具について
3．　１・２年書写の演習（姿勢や筆記用具の持ち方、ひらがな）
4．　１・２年書写の演習（文字の形に注意しながら丁寧に書く）
5．　１・２年書写の演習（点画の長短や方向）
6．　１・２年書写の演習（接筆や交わり方、筆順）
7．　３・４年書写の演習（文字の組み立て方）
8．　３・４年書写の演習（形を整えて書く　漢字や仮名の大きさと配列）
9．　３・４年書写の演習（漢字や仮名の大きさと配列）
10.　３・４年書写の演習（点画の種類と毛筆の筆圧）
11.　５・６年書写の演習（用紙と文字の配列）
12.　５・６年書写の演習（書く速さ）
13.　５・６年書写の演習（目的に合わせた筆記用具）
14.　５・６年書写の演習（穂先の動きと点画のつながり）
15.　指導法、演習のまとめ（レポート発表、相互評価）

定期試験
講義に関するレポートと作品
試験のフィードバックの方法
授業時間ごとに自己評価を実施し，自己評価内容に解説をする。 16回目に、試験結果の概要を解説します。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・事前に学習計画を示すので、教科書とともに通読しておくこと（約３０分） ・実技の時間が十分に採れないことも予想されるので、日常的に実践しておくこと（約３０分）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 書写（１年～６年），光村図書 小学校学習指導要領解説　国語編，文部科学省 小学校学習指導要領解説　総則編，文部科学省
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 硬筆用具：漢字ノート（詳細は初回に伝えます）、鉛筆（２Ｂ以上）、下敷き 毛筆用具：筆、墨液、文鎮、毛筆下敷き、半紙、ふき取り用紙、筆ペン（ぺんてる筆中字・品番：XFL2L）
オフィスアワー
質問がある場合は、授業中、授業終了時もしくは，電子メール（メールアドレスは初回授業時に提示）で受け付ける。 履修内容を充実させるために、実技の練習を重ねることが大切である。更に受講内容を充実させるために、児童生徒の書道展や一般の書道展また古典の作品などを鑑賞し、確実な技能と高い見識を身につける努力が望まれる。
連絡先
s5118@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会				単位数	2単位
授業コード	82200	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校社会科の目標・内容について理解するとともに，社会科の授業づくりに関する基礎的な知識や技能を習得することを目的とする。授業では，毎回グループワークを行い，学習指導案作成に向けて協議する機会をもつ。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・小学校社会科の目標・内容について理解し，概要を説明することができる。	知識・技能
2	・社会科の授業づくりに関する基礎的な知識や技能を習得し，それらを反映した学習指導案を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業後のレポート　３０％	1／2
2	・授業での態度　３０％	1／2
3	・定期試験　４０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立の小学校教諭，教頭として２８年間の現場経験をもち，その間，岡山市の小学校社会科の授業研究に深く携わってきた。この経験を活かし，社会科の学習内容や子どもの姿を具体的に示すことで，授業づくりに必要な基礎的な知識や技能の習得を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　小学校社会科の目標と内容
2　第３学年の目標と内容「身近な地域」「地図」
3　第４学年の目標と内容（１）「地域」
4　第４学年の目標と内容（２）問題解決的な学習
5　第５学年の目標と内容（１）「産業」「国土」
6　第５学年の目標と内容（２）ICTの活用
7　第５学年の目標と内容（３）学習指導案づくりの基礎
8　第６学年の目標と内容（１）「歴史」「政治」の学習
9　第６学年の目標と内容（２）授業の構成要素（発問・資料・板書・学習シート）
10　社会科の評価
11　教材研究（１）学習指導案の作成
12　教材研究（２）学習シート等の作成
13　教材研究（３）模擬授業①
14　教材研究（４）模擬授業②
15　教材研究（５）模擬授業検討会

定期試験
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
①小学校学習指導要領解説社会編の該当部分を読み，目標や内容の要点をレポートにまとめておくこと。教科書も該当部分を事前に読んで受講すること。（約30分） ②授業後は，講義の内容や指導案作成等を振り返ったレポートを作成し提出すること。（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 文部科学省検定「小学校教科書３年，４年，５年，６年」，東京書籍 文部科学省検定「教科用図書　地図」，帝国書院 文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」，日本文教出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は随時，電子メール等で受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
doi164@m.ndsu.ac.jp
留意事項

算数				単位数	2単位
授業コード	82250	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉能　道明				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校算数科の目標と内容について，系統を踏まえて概説するとともに，「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」各領域の具体的な教材を通して，学習指導のあり方について研究する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・算数科の目標と内容の構成について系統的に学んでいくことで，何を目指す教科なのかを説明することができる。	知識・技能
2	・算数科の指導に必要な教材研究の方法を知り，実践することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・定期試験およびレポート　７０％	1／2
2	・授業中の態度　　３０％	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年の現場経験、小１～中３までの算数・数学の指導経験を持つ。この実務経験を活かして、義務教育９年間の算数・数学の指導内容の系統をもとに教材を具体的に解説したり、学習する子どもの具体的な姿を伝えたりすることで理解を助ける。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．算数教育の目標　教育の目標・教科の目標・学年の目標
2．算数科の内容　内容構成，各領域の内容
3．「数と計算」領域　1，2，3学年の内容
4．「数と計算」領域　4，5，6学年の内容
5．「図形」領域　1，2，3学年の内容
6．「図形」領域　4，5，6学年の内容
7．「測定」領域　1，2，3学年の内容
8．「変化と関係」領域　4，5，6学年の内容
9．「データの活用」領域　1，2，3学年の内容
10．「データの活用」領域　4，5，6学年の内容
11．数学的活動　意義と内容
12．指導計画の作成と内容の取り扱い
13．文章題と問題解決
14．評価　指導と評価の一体化
15．算数教育の現状と課題

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義の内容を元に自分の考えをまとめてＡ４・１枚程度のレポートを作成し，翌週の授業の際に提出していただきます（30分）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 〇小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編，文部科学省 〇小学校算数科教科書「１年」「２年上下」「３年上下」，啓林館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示） ＜参考書等＞ プリント等を配布
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日　１・２時限
連絡先
sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

理科［a］				単位数	2単位
授業コード	82300	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	鳥居　恭治				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

身近な現象や小学校理科の教材から題材を選び，8つの班で観察，実験を行う。さらに，その過程で生じた疑問や問題を解決する観察，実験の方法を班内で話し合い，工夫することにより，科学的に調べる能力や態度を育み，児童とともに授業を創造する基礎を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１　学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き，学年ごとの観察，実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	２　めあてに対する予想やその根拠を考えた後，班内で協力して観察，実験を行い，考察を書くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３　観察，実験の基礎となる測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。	知識・技能／主体性
4	４　観察や実験をした後，教える立場の教師目線で考えたことを小レポートにまとめることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	観察，実験への関心・意欲・態度	30%	1／2／3
2	講義後に提出する感想や小レポート・宿題	30%	2／4
3	定期試験	40%	1／2／3／4
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で担任や理科専科（幡多小学校で2年間と岡大附属小学校で6年間）を通して理科を教えていた経験から，教材教具の工夫や実験器具の使い方を取り上げ，観察，実験の準備や実践，後かたづけを通して，教材教具の作り方や観察・実験器具の安全かつ正確な操作の仕方を実感させる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　学習指導要領の理科の目標や内容の特色を読み解き，目指す方向について考える。
2　各学年の目標や内容の特色を読み解き，児童の実態や安全指導についても考える。
3　光の性質や光電池の働きの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
4　でんぷんのでき方や水の通り道等の観察，実験を通して，操作の技能を身に付ける。
5　実験用ガスこんろ，アルコールランプ，ガスバーナー等の操作の技能を身に付ける。
6　顕微鏡の使い方とプレパラート（微生物等）の作り方及び観察を通して，操作の技能を身に付ける。
7　風やゴムの働き，空気と水の性質の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
8　物の重さや物の溶け方の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
9　地層のでき方の実験と岩石等の観察を通して，操作の技能を身に付ける。
10　月や太陽の形，星や星座の動き方の観察を通して，操作の技能を身に付ける。
11　もののあたたまり方や燃焼の仕組みの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
12　電気や電流の働きと電気の利用の実験及び電磁石等の製作を通して，操作の技能を身に付ける。
13　ふりこのきまりとてこの働きの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
14　水溶液の性質の調べ方の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
15　各学年の観察，実験を安全に実施するポイントについて，学習指導要領や教科書の内容と照合し，安全のあり方について考える。

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を公開
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・　前の週に予告した学年の観察，実験の内容を，小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）や教科書を読み解くなど予習をしてきましょう。 ・　観察，実験を通して身に付いた操作技能を，日常生活の中で活かすようにしましょう。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ・小学校教科書　理科３年４年５年６年　文部科学省検定（東京書籍），東京書籍 ・小学校学習指導要領解説　理科編（平成29年6月　文部科学省），東洋館出版社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書・参考資料＞ ・授業に必要な資料等は，その都度配布又は紹介する。
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。
連絡先
s5113@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・　小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）を繰り返し読むこと。 ・　班編制による学習を実施するので，進んで観察，実験に取り組み，質問や意見等の発表が積極的にできるようにすること。 ・　観察。実験中は，安全で作業がしやすい服装に留意し，準備や後かたづけも細心の留意をすること。

理科［b］				単位数	2単位
授業コード	82305	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	鳥居　恭治				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

身近な現象や小学校理科の教材から題材を選び，8つの班で観察，実験を行う。さらに，その過程で生じた疑問や問題を解決する観察，実験の方法を班内で話し合い，工夫することにより，科学的に調べる能力や態度を育み，児童とともに授業を創造する基礎を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１　学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き，学年ごとの観察，実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	２　めあてに対する予想やその根拠を考えた後，班内で協力して観察，実験を行い，考察を書くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３　観察，実験の基礎となる測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。	知識・技能／主体性
4	４　観察や実験をした後，教える立場の教師目線で考えたことを小レポートにまとめることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	観察，実験への関心・意欲・態度	30%	1／2／3
2	講義後に提出する感想や小レポート・宿題	30%	2／4
3	定期試験	40%	1／2／3／4
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で担任や理科専科（幡多小学校で2年間と岡大附属小学校で6年間）を通して理科を教えていた経験から，教材教具の工夫や実験器具の使い方を取り上げ，観察，実験の準備や実践，後かたづけを通して，教材教具の作り方や観察・実験器具の安全かつ正確な操作の仕方を実感させる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　学習指導要領の理科の目標や内容の特色を読み解き，目指す方向について考える。
2　各学年の目標や内容の特色を読み解き，児童の実態や安全指導についても考える。
3　光の性質や光電池の働きの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
4　でんぷんのでき方や水の通り道等の観察，実験を通して，操作の技能を身に付ける。
5　実験用ガスこんろ，アルコールランプ，ガスバーナー等の操作の技能を身に付ける。
6　顕微鏡の使い方とプレパラート（微生物等）の作り方及び観察を通して，操作の技能を身に付ける。
7　風やゴムの働き，空気と水の性質の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
8　物の重さや物の溶け方の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
9　地層のでき方の実験と岩石等の観察を通して，操作の技能を身に付ける。
10　月や太陽の形，星や星座の動き方の観察を通して，操作の技能を身に付ける。
11　もののあたたまり方や燃焼の仕組みの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
12　電気や電流の働きと電気の利用の実験及び電磁石等の製作を通して，操作の技能を身に付ける。
13　ふりこのきまりとてこの働きの実験を通して，操作の技能を身に付ける。
14　水溶液の性質の調べ方の実験を通して，操作の技能を身に付ける。
15　各学年の観察，実験を安全に実施するポイントについて，学習指導要領や教科書の内容と照合し，安全のあり方について考える。

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を公開
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・　前の週に予告した学年の観察，実験の内容を，小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）や教科書を読み解くなど予習をしてきましょう。 ・　観察，実験を通して身に付いた操作技能を，日常生活の中で活かすようにしましょう。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ・小学校教科書　理科３年４年５年６年　文部科学省検定（東京書籍），東京書籍 ・小学校学習指導要領解説　理科編（平成29年6月　文部科学省），東洋館出版社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書・参考資料＞ ・授業に必要な資料等は，その都度配布又は紹介する。
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。
連絡先
s5113@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・　小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）を繰り返し読むこと。 ・　班編制による学習を実施するので，進んで観察，実験に取り組み，質問や意見等の発表が積極的にできるようにすること。 ・　観察。実験中は，安全で作業がしやすい服装に留意し，準備や後かたづけも細心の留意をすること。

生活				単位数	2単位
授業コード	82340	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	杉能　道明				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

生活科創設の趣旨，目標，内容の理解を通し，学習の成立を図る授業のあり方を実際の活動を通して探る。また，生活科のもつ可能性と教師の支援のあり方を考える。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・生活科創設の趣旨，目標，内容の構成について学んでいくことで，何を目指す教科なのかを説明することができる。	知識・技能
2	・生活科の内容に関わる具体的な活動や体験を行う演習を通して，生活科の指導に必要な教材研究の方法を身に付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・定期試験およびレポート　７０％	1／2
2	・授業中の態度　３０％	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

国立大学附属小学校、公立小学校の勤務経験と小１・小２の担任経験を持つ。この実務経験を活かし、生活科の学習内容や学習する子どもの具体的な姿を分かりやすく伝え、具体的な活動や体験を行う演習の中で気付きの質を高める助言を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．生活科創設の趣旨と目標
2．内容構成の考え方
3．内容（１）学校と生活
4．内容（２）家庭と生活
5．内容（３）地域と生活
6．内容（４）公共物や公共施設の利用
7．内容（５）季節の変化と生活
8. 内容（６）自然や物を使った遊び
9．内容（７）動植物の飼育・栽培
10. 内容（８）生活や出来事の伝え合い
11. 内容（９）自分の成長
12. 指導計画の作成と内容の取扱い
13. 指導計画の作成と学習指導
14. 他教科，総合的な学習の時間との関連
15. 生活科の現状と課題

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の初回までに，野菜または花の栽培・観察・記録を行い，提出することを課題とします。詳細は掲示板でお知らせします。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 〇小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編，文部科学省 〇小学校生活科教科書「上」「下」東京書籍
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示） ＜参考書等＞ 自作プリント
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日　１・２時限
連絡先
sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽Ⅰ［a］				単位数	2単位
授業コード	82450	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、上森　佳枝、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、加藤　順子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。弾き歌いや合奏の活動をとおして，正しい発声やピアノの基礎技能を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて，基本的な演奏方法を理解し，合奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	レポート　10%	2／3
3	定期試験　50%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業内容の説明
　歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
2　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　歌唱「夕やけこやけ」「春の小川」「サッちゃん」「かわいいかくれんぼ」
3　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　合奏「山の音楽家」パート練習
4　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏「山の音楽家」全体練習
5　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏 特別講義
6　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
7　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
8　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」
9　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「まきばの朝」「ひらいたひらいた」「犬のおまわりさん」「ぼくのミックスジュース」
10　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「手のひらを太陽に」「ドロップスの歌」
11　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「夏の思い出」
12　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「まっかな秋」「小さい秋みつけた」
13　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「アニーローリー」
14　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　復習
15　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　個人指導

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いの練習をすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社（授業中に販売） ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 上森：s5119@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として「音楽基礎」の単位を修得済であること。

音楽Ⅰ［b］				単位数	2単位
授業コード	82460	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、上森　佳枝、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、加藤　順子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。弾き歌いや合奏の活動をとおして，正しい発声やピアノの基礎技能を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて，基本的な演奏方法を理解し，合奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	レポート　10%	2／3
3	定期試験　50%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業内容の説明
　歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
2　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　歌唱「夕やけこやけ」「春の小川」「サッちゃん」「かわいいかくれんぼ」
3　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　合奏「山の音楽家」パート練習
4　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏「山の音楽家」全体練習
5　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏 特別講義
6　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
7　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
8　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」
9　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「まきばの朝」「ひらいたひらいた」「犬のおまわりさん」「ぼくのミックスジュース」
10　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「手のひらを太陽に」「ドロップスの歌」
11　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「夏の思い出」
12　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「まっかな秋」「小さい秋みつけた」
13　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「アニーローリー」
14　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　復習
15　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　個人指導

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いの練習をすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社（授業中に販売） ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 上森：s5119@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として「音楽基礎」の単位を修得済であること。

音楽Ⅰ［c］					単位数	2単位
授業コード	82470	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、上森　佳枝、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、加藤　順子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。弾き歌いや合奏の活動をとおして，正しい発声やピアノの基礎技能を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて，基本的な演奏方法を理解し，合奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	レポート　10%	2／3
3	定期試験　50%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業内容の説明
　歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
2　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　歌唱「夕やけこやけ」「春の小川」「サッちゃん」「かわいいかくれんぼ」
3　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　合奏「山の音楽家」パート練習
4　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏「山の音楽家」全体練習
5　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏 特別講義
6　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
7　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
8　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」
9　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「まきばの朝」「ひらいたひらいた」「犬のおまわりさん」「ぼくのミックスジュース」
10　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「手のひらを太陽に」「ドロップスの歌」
11　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「夏の思い出」
12　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「まっかな秋」「小さい秋みつけた」
13　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「アニーローリー」
14　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　復習
15　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　個人指導

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いの練習をすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社（授業中に販売） ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 上森：s5119@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として「音楽基礎」の単位を修得済であること。

音楽Ⅰ［d］					単位数	2単位
授業コード	82480	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、上森　佳枝、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、加藤　順子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。弾き歌いや合奏の活動をとおして，正しい発声やピアノの基礎技能を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて，基本的な演奏方法を理解し，合奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	レポート　10%	2／3
3	定期試験　50%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　授業内容の説明
　歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
2　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　歌唱「夕やけこやけ」「春の小川」「サッちゃん」「かわいいかくれんぼ」
3　弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」
　合奏「山の音楽家」パート練習
4　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏「山の音楽家」全体練習
5　弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」
　合奏 特別講義
6　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
7　弾き歌い「春の小川」「サッちゃん」
　歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
8　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」
9　弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」
　歌唱「まきばの朝」「ひらいたひらいた」「犬のおまわりさん」「ぼくのミックスジュース」
10　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「手のひらを太陽に」「ドロップスの歌」
11　弾き歌い「ふじ山」「七つの子」
　歌唱「夏の思い出」
12　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「まっかな秋」「小さい秋みつけた」
13　弾き歌い「とんび」「たなばたさま」
　歌唱「アニーローリー」
14　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　復習
15　弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」
　歌唱　個人指導

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いの練習をすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社（授業中に販売） ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 上森：s5119@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として「音楽基礎」の単位を修得済であること。

音楽ＩＩ［a］					単位数	2単位
授業コード	82500	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、荻野　美穂、加藤　順子、笹岡　あおい、佐藤　恵美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「音楽Ｉ」に引き続き，保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに，合唱や合奏の活動も取り入れ，指導法についても理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　20%	1／2／3
2	歌唱の発表　30%	2／3
3	定期試験　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「もみじ」「ばすごっこ」
2　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「こいのぼり」「おつかいありさん」
3　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「冬げしき」「たきび」
4　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「日のまる」「どこかで春が」
5　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「うさぎ」「遥かな友に」
6　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「さくらさくら」「小鳥の歌」
7　弾き歌い「スキーの歌」
　　歌唱「スキーの歌」「おぼろ月夜」
8　弾き歌い「スキーの歌」「うれしいひなまつり」
　　歌唱「うれしいひなまつり」「あわてんぼうのサンタクロース」
9　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「われは海の子」「とんぼのめがね「どんぐりころころ」
10　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
11　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「お正月」「ふるさと」「まつぼっくり」
12　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「一年生になったら」「まめまき」
13　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱「シャベルでホイ」「ゆかいに歩けば」
14　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱　復習・個別指導
15　歌唱の発表

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いをすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp 佐藤：s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。

音楽ＩＩ [b]				単位数	2単位
授業コード	82510	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、荻野　美穂、加藤　順子、笹岡　あおい、佐藤　恵美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「音楽Ｉ」に引き続き，保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに，合唱や合奏の活動も取り入れ，指導法についても理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　20%	1／2／3
2	歌唱の発表　30%	2／3
3	定期試験　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「もみじ」「ばすごっこ」
2　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「こいのぼり」「おつかいありさん」
3　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「冬げしき」「たきび」
4　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「日のまる」「どこかで春が」
5　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「うさぎ」「遥かな友に」
6　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「さくらさくら」「小鳥の歌」
7　弾き歌い「スキーの歌」
　　歌唱「スキーの歌」「おぼろ月夜」
8　弾き歌い「スキーの歌」「うれしいひなまつり」
　　歌唱「うれしいひなまつり」「あわてんぼうのサンタクロース」
9　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「われは海の子」「とんぼのめがね「どんぐりころころ」
10　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
11　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「お正月」「ふるさと」「まつぼっくり」
12　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「一年生になったら」「まめまき」
13　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱「シャベルでホイ」「ゆかいに歩けば」
14　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱　復習・個別指導
15　歌唱の発表

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いをすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 加藤：s8217@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp 佐藤：s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。

音楽ＩＩ［c］				単位数	2単位
授業コード	82520	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、佐藤　恵美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「音楽Ｉ」に引き続き，保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに，合唱や合奏の活動も取り入れ，指導法についても理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　20%	1／2／3
2	歌唱の発表　30%	2／3
3	定期試験　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「もみじ」「ばすごっこ」
2　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「こいのぼり」「おつかいありさん」
3　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「冬げしき」「たきび」
4　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「日のまる」「どこかで春が」
5　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「うさぎ」「遥かな友に」
6　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「さくらさくら」「小鳥の歌」
7　弾き歌い「スキーの歌」
　　歌唱「スキーの歌」「おぼろ月夜」
8　弾き歌い「スキーの歌」「うれしいひなまつり」
　　歌唱「うれしいひなまつり」「あわてんぼうのサンタクロース」
9　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「われは海の子」「とんぼのめがね「どんぐりころころ」
10　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
11　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「お正月」「ふるさと」「まつぼっくり」
12　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「一年生になったら」「まめまき」
13　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱「シャベルでホイ」「ゆかいに歩けば」
14　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱　復習・個別指導
15　歌唱の発表

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いをすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp 佐藤：s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。

音楽ＩＩ［d］				単位数	2単位
授業コード	82530	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	池田　尚子、藤掛　絢子、小川　詠子、荻野　美穂、笹岡　あおい、佐藤　恵美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「音楽Ｉ」に引き続き，保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし，弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに，合唱や合奏の活動も取り入れ，指導法についても理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について，ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき，表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	各課題曲の音楽的要素について深く理解した上で表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　20%	1／2／3
2	歌唱の発表　30%	2／3
3	定期試験　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに，幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように，実例を示しつつ，学生が自ら課題を見つけ，探求することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「もみじ」「ばすごっこ」
2　弾き歌い「もみじ」「ばすごっこ」
　　歌唱「こいのぼり」「おつかいありさん」
3　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「冬げしき」「たきび」
4　弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」
　　歌唱「日のまる」「どこかで春が」
5　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「うさぎ」「遥かな友に」
6　弾き歌い「冬げしき」「たきび」
　　歌唱「さくらさくら」「小鳥の歌」
7　弾き歌い「スキーの歌」
　　歌唱「スキーの歌」「おぼろ月夜」
8　弾き歌い「スキーの歌」「うれしいひなまつり」
　　歌唱「うれしいひなまつり」「あわてんぼうのサンタクロース」
9　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「われは海の子」「とんぼのめがね「どんぐりころころ」
10　弾き歌い「おぼろ月夜」「小鳥の歌」
　　歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
11　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「お正月」「ふるさと」「まつぼっくり」
12　弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」
　　歌唱「一年生になったら」「まめまき」
13　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱「シャベルでホイ」「ゆかいに歩けば」
14　弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」
　　歌唱　復習・個別指導
15　歌唱の発表

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題曲について，必ず譜読みをして授業に臨み，授業後は繰り返し弾き歌いをすること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 ＜参考書等＞ 学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
池田：hisako.i@m.ndsu.ac.jp 藤掛：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp 小川：s5108@m.ndsu.ac.jp 荻野：s8021@m.ndsu.ac.jp 笹岡：s8201@m.ndsu.ac.jp 佐藤：s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。

音楽III [20a]					単位数	2単位
授業コード	82531	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	藤掛　絢子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20b]				単位数	2単位
授業コード	82532	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	青木　彩絵子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
２　課題１-譜読みについて
３　課題２-身体の使い方について
４　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
５　課題４-曲の構造について
６　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
７　課題６-歌詞の意味と理解
８　課題７-伴奏と歌のバランスについて
９　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5121@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20c]					単位数	2単位
授業コード	82533	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小川　詠子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5108@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20d]					単位数	2単位
授業コード	82534	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	加藤　順子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8217@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20e]					単位数	2単位
授業コード	82535	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	青木　彩絵子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5121@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20f]					単位数	2単位
授業コード	82536	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	小川　詠子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5108@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [20g]					単位数	2単位
授業コード	82537	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	佐藤　恵美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21a]					単位数	2単位
授業コード	82541	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	藤掛　絢子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21b]					単位数	2単位
授業コード	82542	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	青木　彩絵子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5121@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21c]					単位数	2単位
授業コード	82543	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小川　詠子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5108@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21d]					単位数	2単位
授業コード	82544	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	加藤　順子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8217@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21e]					単位数	2単位
授業コード	82545	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	青木　彩絵子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5121@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21f]					単位数	2単位
授業コード	82546	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	小川　詠子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5108@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽III [21g]					単位数	2単位
授業コード	82547	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	佐藤　恵美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，ピアノ演奏法と弾き歌いについて学ぶ。乳幼児期や児童期の子どもたちと音楽を通してかかわるために必要な音楽的な知識や技術を修得するとともに，どのような弾き方の工夫ができるかを考えることで，豊かな表現力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から音楽的な要素(強弱・リズム・音色・ニュアンス等)を読み取り，ふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，個人の練習計画の作成
2　課題１-譜読みについて
3　課題２-身体の使い方について
4　課題３-強弱，アーティキュレーションについて
5　課題４-曲の構造について
6　課題５-作品にふさわしい演奏方法について
7　課題６-歌詞の意味と理解
8　課題７-伴奏と歌のバランスについて
9　課題８-強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探究
10　課題９-音楽的な諸要素と奏法について
11　課題10-教育・保育現場で実践するための演奏方法の探究
12　最終演奏に向けて-課題の振り返り
13　最終演奏に向けて-心構え
14　最終演奏に向けて-実践演習
15　実践演習とよりよい演奏に向けての振り返り

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業中に取り組んだ課題の中から選択し，演奏する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についての助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に提示された演奏課題に取り組み，翌週の授業で成果を発表すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 『聴く・表現する　音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著，マザーアース株式会社 その他は授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問等はメールでも受け付ける。 また，授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8302@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽IV［a］					単位数	2単位
授業コード	82548	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	本名　洋子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「音楽基礎」で習得した知識や技術を基に，各自の技量に応じた課題に取り組み，乳幼児や児童の音楽活動を支援し発展させることのできる音楽的応用力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	子どもの動きに合わせて，既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	定期試験　60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１「音楽基礎」で習得した知識の確認（コード・ネームと和音付け）
【コード・ネームに基づいた伴奏付け】
２　課題1　和音とカデンツの確認
３　課題1　伴奏付けの演習
４　課題2　和音とカデンツの確認
５　課題2　伴奏付けの演習
６　課題3　和音とカデンツの確認
７　課題3　伴奏付けの演習
８　課題4　和音とカデンツの確認
９　課題4　伴奏付けの演習
【子どもの動きに合わせたアレンジ】
10　歩く，走る，飛ぶ，揺れる，回る等
11　うさぎ，ぞう，くま，小鳥等動物になる。
【簡易伴奏を作る】
12　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ハ長調・ト長調）
13　簡易伴奏を作る。（ハ長調・ト長調）
14　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ヘ長調・ニ長調）
15　簡易伴奏を作る。（ヘ長調・ニ長調）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
定期試験後コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
手の感覚と耳で和声感を養うために，課題を繰り返しピアノで弾くこと。 毎回，1時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ プリントを配付
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
初回の授業の時にお知らせします。
留意事項

音楽IV [b]					単位数	2単位
授業コード	82549	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	本名　洋子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「音楽基礎」で習得した知識や技術を基に，各自の技量に応じた課題に取り組み，乳幼児や児童の音楽活動を支援し発展させることのできる音楽的応用力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	子どもの動きに合わせて，既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	定期試験　60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１「音楽基礎」で習得した知識の確認（コード・ネームと和音付け）
【コード・ネームに基づいた伴奏付け】
２　課題1　和音とカデンツの確認
３　課題1　伴奏付けの演習
４　課題2　和音とカデンツの確認
５　課題2　伴奏付けの演習
６　課題3　和音とカデンツの確認
７　課題3　伴奏付けの演習
８　課題4　和音とカデンツの確認
９　課題4　伴奏付けの演習
【子どもの動きに合わせたアレンジ】
10　歩く，走る，飛ぶ，揺れる，回る等
11　うさぎ，ぞう，くま，小鳥等動物になる。
【簡易伴奏を作る】
12　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ハ長調・ト長調）
13　簡易伴奏を作る。（ハ長調・ト長調）
14　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ヘ長調・ニ長調）
15　簡易伴奏を作る。（ヘ長調・ニ長調）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
定期試験後コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
手の感覚と耳で和声感を養うために，課題を繰り返しピアノで弾くこと。 毎回，1時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ プリントを配付
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5123@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ピアノ演習Ⅰ［22a］				単位数	2単位
授業コード	82550	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	荻野　美穂				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

少人数のグループでのレッスンの中で，各自のレベルに適した教材を使用し，ピアノの基礎的な奏法と表現力を習得する。また，音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から様々な要素を読み取り，作品にふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション、個人計画の作成、課題曲１　譜読み、指使いの確認
2　課題曲１　身体の使い方について
3　課題曲１　強弱、アーティキュレーションについて
4　課題曲１　曲の構造について
5　課題曲１　作品にふさわしい演奏方法について
6　課題曲２　譜読み、指使いの確認
7　課題曲２　強弱、アーティキュレーションについて
8　課題曲２　曲の構造について
9　課題曲２　表現の可能性を探る
10　課題曲２　作品にふさわしい表現について
11　課題曲３　楽曲の選択、譜読み、指使いの確認
12　課題曲３　身体の使い方と様々な奏法について
13　課題曲３　強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探求
14　課題曲３　曲の構造について、音楽的な諸要素と奏法について
15　課題曲３　作曲者の意図を意識した演奏方法の探究

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業で扱った作品を演奏する。
試験のフィードバックの方法
16週目の実技試験終了後に、演奏について助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと（約１時間）。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 授業中に指示
オフィスアワー
授業終了後に，教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8021@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から，優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

ピアノ演習Ⅰ［22b］				単位数	2単位
授業コード	82560	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	笹岡　あおい				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

少人数のグループでのレッスンの中で，各自のレベルに適した教材を使用し，ピアノの基礎的な奏法と表現力を習得する。また，音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から様々な要素を読み取り，作品にふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション、個人計画の作成、課題曲１　譜読み、指使いの確認
2　課題曲１　身体の使い方について
3　課題曲１　強弱、アーティキュレーションについて
4　課題曲１　曲の構造について
5　課題曲１　作品にふさわしい演奏方法について
6　課題曲２　譜読み、指使いの確認
7　課題曲２　強弱、アーティキュレーションについて
8　課題曲２　曲の構造について
9　課題曲２　表現の可能性を探る
10　課題曲２　作品にふさわしい表現について
11　課題曲３　楽曲の選択、譜読み、指使いの確認
12　課題曲３　身体の使い方と様々な奏法について
13　課題曲３　強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探求
14　課題曲３　曲の構造について、音楽的な諸要素と奏法について
15　課題曲３　作曲者の意図を意識した演奏方法の探究

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業で扱った作品を演奏する。
試験のフィードバックの方法
16週目の実技試験終了後に、演奏について助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと（約１時間）。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 授業中に指示
オフィスアワー
授業終了後に，教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から，優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

ピアノ演習Ⅰ［21a］				単位数	2単位
授業コード	82563	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	荻野　美穂				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

少人数のグループでのレッスンの中で，各自のレベルに適した教材を使用し，ピアノの基礎的な奏法と表現力を習得する。また，音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から様々な要素を読み取り，作品にふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション、個人計画の作成、課題曲１　譜読み、指使いの確認
2　課題曲１　身体の使い方について
3　課題曲１　強弱、アーティキュレーションについて
4　課題曲１　曲の構造について
5　課題曲１　作品にふさわしい演奏方法について
6　課題曲２　譜読み、指使いの確認
7　課題曲２　強弱、アーティキュレーションについて
8　課題曲２　曲の構造について
9　課題曲２　表現の可能性を探る
10　課題曲２　作品にふさわしい表現について
11　課題曲３　楽曲の選択、譜読み、指使いの確認
12　課題曲３　身体の使い方と様々な奏法について
13　課題曲３　強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探求
14　課題曲３　曲の構造について、音楽的な諸要素と奏法について
15　課題曲３　作曲者の意図を意識した演奏方法の探究

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業で扱った作品を演奏する。
試験のフィードバックの方法
16週目の実技試験終了後に、演奏について助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと（約１時間）。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 授業中に指示
オフィスアワー
授業終了後に，教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8021@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から，優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

ピアノ演習Ⅰ［21b］				単位数	2単位
授業コード	82566	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	笹岡　あおい				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

少人数のグループでのレッスンの中で，各自のレベルに適した教材を使用し，ピアノの基礎的な奏法と表現力を習得する。また，音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	楽譜から様々な要素を読み取り，作品にふさわしい表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　　50%	1／2
2	定期試験（実技試験）　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション、個人計画の作成、課題曲１　譜読み、指使いの確認
2　課題曲１　身体の使い方について
3　課題曲１　強弱、アーティキュレーションについて
4　課題曲１　曲の構造について
5　課題曲１　作品にふさわしい演奏方法について
6　課題曲２　譜読み、指使いの確認
7　課題曲２　強弱、アーティキュレーションについて
8　課題曲２　曲の構造について
9　課題曲２　表現の可能性を探る
10　課題曲２　作品にふさわしい表現について
11　課題曲３　楽曲の選択、譜読み、指使いの確認
12　課題曲３　身体の使い方と様々な奏法について
13　課題曲３　強弱，アーティキュレーションを活かした演奏方法の探求
14　課題曲３　曲の構造について、音楽的な諸要素と奏法について
15　課題曲３　作曲者の意図を意識した演奏方法の探究

定期試験
16週目に定期試験（実技試験）を行う。内容は，授業で扱った作品を演奏する。
試験のフィードバックの方法
16週目の実技試験終了後に、演奏について助言を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと（約１時間）。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。 ＜参考書等＞ 授業中に指示
オフィスアワー
授業終了後に，教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8201@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から，優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

ピアノ演習II［21a］				単位数	2単位
授業コード	82600	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ」の領域で，これまでに学んだ内容をもとに，より高度な音楽的知識や表現力を修得する。授業においては，継続的な実践や発表を通して，演奏を創意工夫し，自分らしい表現を追求していく。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，教育・保育実践現場において，子どもとのかかわりの中で，いかに音楽や演奏についての学びを活かすことができるか，考えを深められるように支援をおこなう。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，曲の選択
2　課題１　曲の雰囲気をつかむ
3　課題２　譜読み
4　課題３　身体の使い方，力の入れ方
5　課題４　ダイナミクス，フレーズ，和音の響きの理解
6　課題５　音楽的な要素の読み取り
7　課題６　音楽的な要素を活かした演奏
8　課題７　曲の構成
9　課題８　音楽的な表現の工夫
10　課題９　音色や和音の響きの感受
11　課題10　聴き手を意識した演奏の探究
12　最終演奏に向けての心構えと実践演習
13　ワンポイント・アドバイス
14　発表とディスカッション（共有する）
15　発表とディスカッション（振り返る）

定期試験
定期試験（実技試験）を実施する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として，毎回の授業で出された課題に取り組み，次回の授業で発表してもらう。事後学習として，新たな気付きのあった内容について，意見をまとめてくること。（毎日30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
藤掛絢子：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ピアノ演習II［21b］					単位数	2単位
授業コード	82605	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	藤掛　絢子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ」の領域で，これまでに学んだ内容をもとに，より高度な音楽的知識や表現力を修得する。授業においては，継続的な実践や発表を通して，演奏を創意工夫し，自分らしい表現を追求していく。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし，教育・保育実践現場において，子どもとのかかわりの中で，いかに音楽や演奏についての学びを活かすことができるか，考えを深められるように支援をおこなう。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，曲の選択
2　課題１　曲の雰囲気をつかむ
3　課題２　譜読み
4　課題３　身体の使い方，力の入れ方
5　課題４　ダイナミクス，フレーズ，和音の響きの理解
6　課題５　音楽的な要素の読み取り
7　課題６　音楽的な要素を活かした演奏
8　課題７　曲の構成
9　課題８　音楽的な表現の工夫
10　課題９　音色や和音の響きの感受
11　課題10　聴き手を意識した演奏の探究
12　最終演奏に向けての心構えと実践演習
13　ワンポイント・アドバイス
14　発表とディスカッション（共有する）
15　発表とディスカッション（振り返る）

定期試験
定期試験（実技試験）を実施する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として，毎回の授業で出された課題に取り組み，次回の授業で発表してもらう。事後学習として，新たな気付きのあった内容について，意見をまとめてくること。（毎日30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
藤掛絢子：a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

声楽演習Ⅰ［20］					単位数	2単位
授業コード	82750	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考	2020年度入学生対象					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

保育・教育に携わる者として必要な歌唱力の基礎となるソルフェージュ能力を身につける。教材としては，コールユーブンゲン，コンコーネ50番を使う。また，発声法の基礎を学び，日本の名歌や世界の名歌を歌唱表現する力をつける。本授業は基本的にクラス単位で行うが，ここでは初歩的な独唱の力もつけていく。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音程やリズムなど，楽譜を正確に読み，正しく歌唱できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	正確な日本語の発音方法を学び，詩をはっきりと伝えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	外国語の意味を理解し，発音に気をつけながら歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ，音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　30%	1／2／3／4
2	定期試験　70%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　授業内容の確認等　声楽の基礎：身体の使い方について
2　声楽の基礎：呼吸法について
3　声楽の基礎：発声法について
4　課題曲１　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
5　課題曲１　日本語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
6　課題曲１　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
7　課題曲２　譜読み,音程・リズムに注意して歌う
8　課題曲２　イタリア語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
9　課題曲２　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
10　課題曲３　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
11　課題曲３　強弱・アーティキュレーションの理解
12　課題曲３　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
13　最終演奏に向けての心構え，実践練習
14　最終演奏に向けて演奏の聴き合いとディスカッション
15　リハーサル（ピアノ伴奏者と共に，伴奏あわせ及びワンポイントレッスン）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に,演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をしたうえで次の授業に臨むこと。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞購入時期は授業中に指示する。 コールユーブンゲン，大阪開成館 コンコーネ50番（中声用），全音楽譜出版社 イタリア歌曲集（中声用），全音楽譜出版社 ＜参考書等＞ プリント配布
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

声楽演習Ⅰ［22］					単位数	2単位
授業コード	82751	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考	2021年度以降入学生対象					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

保育・教育に携わる者として必要な歌唱力の基礎となるソルフェージュ能力を身につける。教材としては，コールユーブンゲン，コンコーネ50番を使う。また，発声法の基礎を学び，日本の名歌や世界の名歌を歌唱表現する力をつける。本授業は基本的にクラス単位で行うが，ここでは初歩的な独唱の力もつけていく。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音程やリズムなど，楽譜を正確に読み，正しく歌唱できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	正確な日本語の発音方法を学び，詩をはっきりと伝えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	外国語の意味を理解し，発音に気をつけながら歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ，音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　30%	1／2／3／4
2	定期試験　70%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　授業内容の確認等　声楽の基礎：身体の使い方について
2　声楽の基礎：呼吸法について
3　声楽の基礎：発声法について
4　課題曲１　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
5　課題曲１　日本語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
6　課題曲１　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
7　課題曲２　譜読み,音程・リズムに注意して歌う
8　課題曲２　イタリア語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
9　課題曲２　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
10　課題曲３　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
11　課題曲３　強弱・アーティキュレーションの理解
12　課題曲３　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
13　最終演奏に向けての心構え，実践練習
14　最終演奏に向けて演奏の聴き合いとディスカッション
15　リハーサル（ピアノ伴奏者と共に，伴奏あわせ及びワンポイントレッスン）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に,演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をしたうえで次の授業に臨むこと。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞購入時期は授業中に指示する。 コールユーブンゲン，大阪開成館 コンコーネ50番（中声用），全音楽譜出版社 イタリア歌曲集（中声用），全音楽譜出版社 ＜参考書等＞ プリント配布
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

声楽演習Ⅰ［21］					単位数	2単位
授業コード	82753	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

保育・教育に携わる者として必要な歌唱力の基礎となるソルフェージュ能力を身につける。教材としては，コールユーブンゲン，コンコーネ50番を使う。また，発声法の基礎を学び，日本の名歌や世界の名歌を歌唱表現する力をつける。本授業は基本的にクラス単位で行うが，ここでは初歩的な独唱の力もつけていく。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音程やリズムなど，楽譜を正確に読み，正しく歌唱できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	正確な日本語の発音方法を学び，詩をはっきりと伝えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	外国語の意味を理解し，発音に気をつけながら歌うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ，音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　30%	1／2／3／4
2	定期試験　70%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　授業内容の確認等　声楽の基礎：身体の使い方について
2　声楽の基礎：呼吸法について
3　声楽の基礎：発声法について
4　課題曲１　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
5　課題曲１　日本語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
6　課題曲１　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
7　課題曲２　譜読み,音程・リズムに注意して歌う
8　課題曲２　イタリア語の発音法・強弱・アーティキュレーションの理解
9　課題曲２　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
10　課題曲３　譜読み，音程・リズムに注意して歌う
11　課題曲３　強弱・アーティキュレーションの理解
12　課題曲３　歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現を探る
13　最終演奏に向けての心構え，実践練習
14　最終演奏に向けて演奏の聴き合いとディスカッション
15　リハーサル（ピアノ伴奏者と共に，伴奏あわせ及びワンポイントレッスン）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に,演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習をしたうえで次の授業に臨むこと。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞購入時期は授業中に指示する。 コールユーブンゲン，大阪開成館 コンコーネ50番（中声用），全音楽譜出版社 イタリア歌曲集（中声用），全音楽譜出版社 ＜参考書等＞ プリント配布
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

声楽演習II［21a］					単位数	2単位
授業コード	82810	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

卒業研究として「声楽」を選択した人のための授業である。「声楽演習Ｉ」に引き続き発声法をさらに深め，美しい発音で歌う技術を身につける。それを通して豊かな表現力を養う。日本歌曲，イタリア歌曲やドイツ歌曲などを取り上げ，様々な国の文化を知る。課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美しい声を出すための正しい呼吸法，発声法を深め，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音程やリズムなど，楽譜を正確に読み，正しく歌唱できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	詩の内容を理解し，発音に気をつけながら，歌唱することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ，その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　30%	1／2／3
2	定期試験　70%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　課題曲１　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
2　課題曲１　強弱・アーティキュレーションの理解
3　課題曲１　作品にふさわしい表現について
4　課題曲２　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
5　課題曲２　強弱・アーティキュレーションの理解
6　課題曲２　作品にふさわしい表現について
7　課題曲３　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
8　課題曲３　強弱・アーティキュレーションの理解
9　課題曲３　作曲者の意図・歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現の探求
10　課題曲４　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
11　課題曲４　強弱・アーティキュレーションの理解
12　課題曲４　作曲者の意図・歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現の探求
13　最終演奏における心構え
14　最終演奏における実践練習
15　リハーサル（ピアノ伴奏者と共に，伴奏合わせ及びワンポイントレッスン）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習を行った上で次の授業に臨むこと。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

声楽演習II［21b］					単位数	2単位
授業コード	82813	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	池田　尚子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

卒業研究として「声楽」を選択した人のための授業である。「声楽演習Ｉ」に引き続き発声法をさらに深め，美しい発音で歌う技術を身につける。それを通して豊かな表現力を養う。日本歌曲，イタリア歌曲やドイツ歌曲などを取り上げ，様々な国の文化を知る。課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美しい声を出すための正しい呼吸法，発声法を深め，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音程やリズムなど，楽譜を正確に読み，正しく歌唱できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	詩の内容を理解し，発音に気をつけながら，歌唱することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ，その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　30%	1／2／3
2	定期試験　70%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション　課題曲１　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
2　課題曲１　強弱・アーティキュレーションの理解
3　課題曲１　作品にふさわしい表現について
4　課題曲２　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
5　課題曲２　強弱・アーティキュレーションの理解
6　課題曲２　作品にふさわしい表現について
7　課題曲３　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
8　課題曲３　強弱・アーティキュレーションの理解
9　課題曲３　作曲者の意図・歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現の探求
10　課題曲４　発音について　譜読み，単語・歌詞の内容の理解
11　課題曲４　強弱・アーティキュレーションの理解
12　課題曲４　作曲者の意図・歌詞の内容を考え，作品にふさわしい表現の探求
13　最終演奏における心構え
14　最終演奏における実践練習
15　リハーサル（ピアノ伴奏者と共に，伴奏合わせ及びワンポイントレッスン）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で指摘された課題について，各々繰り返し練習を行った上で次の授業に臨むこと。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

作曲演習Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	82950	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	本名　洋子					
時間割備考	2020年度入学生対象					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「音楽基礎」で習得した知識や技術を基に，各自の技量に応じた課題に取り組み，乳幼児や児童の音楽活動を支援し発展させることのできる音楽的応用力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	子どもの動きに合わせて，既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	定期試験　60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１「音楽基礎」で習得した知識の確認（コード・ネームと和音付け）
【コード・ネームに基づいた伴奏付け】
２　課題1　和音とカデンツの確認
３　課題1　伴奏付けの演習
４　課題2　和音とカデンツの確認
５　課題2　伴奏付けの演習
６　課題3　和音とカデンツの確認
７　課題3　伴奏付けの演習
８　課題4　和音とカデンツの確認
９　課題4　伴奏付けの演習
【子どもの動きに合わせたアレンジ】
10　歩く，走る，飛ぶ，揺れる，回る等
11　うさぎ，ぞう，くま，小鳥等動物になる。
【簡易伴奏を作る】
12　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ハ長調・ト長調）
13　簡易伴奏を作る。（ハ長調・ト長調）
14　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ヘ長調・ニ長調）
15　簡易伴奏を作る。（ヘ長調・ニ長調）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
定期試験後コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
手の感覚と耳で和声感を養うために，課題を繰り返しピアノで弾くこと。 毎回，1時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ プリントを配付
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s5123@m.ndsu.ac.jp
留意事項

作曲演習ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	83000	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	本名　洋子					
時間割備考	2020年度入学生対象					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「作曲演習Ｉ」に引き続き，各自の技量に応じた課題に取り組み，乳幼児や児童の音楽活動を支援し発展させることのできる音楽的応用力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，コード・ネームに基づいた伴奏付けができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	子どもの動きに合わせて，既存の曲をアレンジしてピアノで弾くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	童謡・唱歌等子どもの周りにある歌唱教材について，歌詞や曲の性質に合った簡易伴奏を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題の達成度　40%	1／2／3
2	定期試験　60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１「音楽基礎」で習得した知識の確認（コード・ネームと和音付け）
【コード・ネームに基づいた伴奏付け】
２　課題1　和音とカデンツの確認
３　課題1　伴奏付けの演習
４　課題2　和音とカデンツの確認
５　課題2　伴奏付けの演習
６　課題3　和音とカデンツの確認
７　課題3　伴奏付けの演習
８　課題4　和音とカデンツの確認
９　課題4　伴奏付けの演習
【子どもの動きに合わせたアレンジ】
10　歩く，走る，飛ぶ，揺れる，回る等
11　うさぎ，ぞう，くま，小鳥等動物になる。
【簡易伴奏を作る】
12　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ハ長調・ト長調）
13　簡易伴奏を作る。（ハ長調・ト長調）
14　童謡・唱歌の和音分析，バスの確認，詩や旋律に合った伴奏音型の検討（ヘ長調・ニ長調）
15　簡易伴奏を作る。（ヘ長調・ニ長調）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
定期試験後コメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
手の感覚と耳で和声感を養うために，課題を繰り返しピアノで弾くこと。 毎回，1時間程度の事前・事後学習が必要です。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ プリントを配付
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
初回の授業の時にお知らせします。
留意事項

音楽特別演習ＩＩ［a］				単位数	2単位
授業コード	83130	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

音楽特別演習ＩＩ［b］				単位数	2単位
授業コード	83132	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

音楽特別演習ＩＩ［c］				単位数	2単位
授業コード	83134	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	池田　尚子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisako.i@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

音楽特別演習ＩＩ［d］				単位数	2単位
授業コード	83136	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

音楽特別演習ＩＩ［e］				単位数	2単位
授業コード	83137	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

音楽特別演習ＩＩ［f］				単位数	2単位
授業コード	83138	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ｉ」で学んだことを基に，より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については，各自の個性や力量に応じて選択する。「論文」については，各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ，掘り下げる。これらでは,自ら課題を設定し,発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく(課題解決型学習)。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	楽譜を正確に読み，演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	音・音楽に関する文献の中から，自らの研究テーマに沿ったものを選びとり，参照することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度および課題の達成度　50%	1／2／3
2	定期試験・レポート　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション，研究内容について
2　課題曲１（楽曲の選択），事例研究（課題①）
3　課題曲１（譜読み），事例研究（課題②）
4　課題曲１（身体の使い方），事例研究（課題③）
5　課題曲１（楽曲の構成），調査・研究の方法
6　課題曲１（音楽的な要素の検討），研究計画書・調査依頼書の書き方
7　課題曲１（音楽的な表現の工夫），発表とディスカッション（構想する）
8　課題曲２（楽曲の選択），発表とディスカッション（共有する）
9　課題曲２（譜読み），発表とディスカッション（振り返る）
10　課題曲２（身体の使い方），論文作成に向けて（構成について）
11　課題曲２（楽曲の構成），論文作成に向けて（内容について）
12　課題曲２（音楽的な要素の検討），論文作成に向けて（まとめ）
13　課題曲２（音楽的な表現の工夫），論文要旨の作成
14　ワンポイントレッスン，口頭発表の方法
15　リハーサル，口頭発表の実践

定期試験
定期試験（発表）・レポート
試験のフィードバックの方法
試験終了後に演奏について，またレポート提出後にその内容についてのフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として,毎回の授業で出された課題に取り組み,次回の授業で発表してもらう。事後学習として,指摘のあった事項についての課題に取り組み,意見をまとめてくること。（毎日約30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 各自の進度に応じて随時指定する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
a-fujikake@m.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

絵画I					単位数	1単位
授業コード	83150	科目ナンバリング	330B1-1000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	片山　裕之					
時間割備考	４～５時限まで 重ねて履修可					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

絵画（素描，油絵）の実技を通し，造形能力の基礎を身につける。また，美術と人間との関係を考え，美しさとは何かを探るとともに感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な技術の向上をはかることができる	知識・技能
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	作品　７０点 ①風景画（油絵）Ｆ１０号 ②静物画（油絵）Ｆ１０号 ③木炭デッサン	1／2
2	授業態度　３０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。絵画制作を通して、観察力、想像力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．授業の進め方と心得、油絵技法、構図等の説明
２．風景画（油絵F10号）制作①　構図の決定
３．風景画（油絵F10号）制作②　着彩
４．風景画（油絵F10号）制作③　着彩
５．風景画（油絵F10号）制作④　着彩
６．風景画（油絵F10号）⑤　仕上げ･批評
７．石膏デッサン（頭像）①　フォルム、コントラスト、ヴァルール、マッス等の把握
８．石膏デッサン（頭像）②　制作
９．石膏デッサン（頭像）③　制作
10．石膏デッサン（頭像）④仕上げ･批評
11．静物画（油絵F10号）制作①　構図の決定
12．静物画（油絵F10号）制作②　着彩
13．静物画（油絵F10号）制作③　着彩
14．静物画（油絵F10号）制作④　着彩
15．静物画（油絵F10号）⑤仕上げ･批評

定期試験
作品提出
試験のフィードバックの方法
作品提出前に作品批評をおこなう。また、作品返却時に評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 油絵セット・木炭紙・キャンバス‥‥個人で用意
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
各課題の作品提出によって総合的に評価する。授業態度は大切に扱います

絵画ＩＩ					単位数	1単位
授業コード	83200	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	片山　裕之					
時間割備考	14:45～17:00					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

絵画（素描・油絵）の実技を通し、造形能力の基礎を身につける。美術と人間との関係を考え、「美しさ」とは何かを探るとともに感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	基礎的な技術の向上をはかることができる。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	作品７０点 ①風景画（油絵）Ｆ２０号 ②石膏デッサン ③自画像（油絵）Ｆ１５号 ④クロッキー	1／2
2	授業態度30点	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。絵画制作を通して観察力、想像力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．風景画（油絵F20号）制作①　デッサン
２．風景画（油絵F20号）制作②　着彩
３．風景画（油絵F20号）制作③　着彩
４．風景画（油絵F20号）制作④　着彩
５．風景画（油絵F20号）制作⑤　着彩
６．風景画（油絵F20号）制作⑥　着彩
７．風景画（油絵F20号）制作⑦　着彩・批評
８．石膏デッサン①　フォルム、コントラスト、ヴァルール、マッス等の把握
９．石膏デッサン②　制作
10．石膏デッサン③　制作
11．石膏デッサン④仕上げ・批評
12．自画像（油絵F15号）制作①　デッサン
13．自画像（油絵F15号）制作②　着彩
14．自画像（油絵F15号）制作③　着彩
15．自画像（油絵F15号）制作④　着彩・批評

定期試験

作品提出

試験のフィードバックの方法

作品提出前に作品批評をおこなう。また、作品返却時に評価説明をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
　油絵セット、木炭紙・キャンバス・クロッキー帳（５０枚綴り）　…個人で用意

オフィスアワー

　授業中に指示する

連絡先

katayama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

各課題の作品提出によって総合的に評価する。
　授業態度は大切に扱います。

絵画III					単位数	1単位
授業コード	83250	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	片山　裕之					
時間割備考	４～５時限まで					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

絵画（素描，油絵）の実技を通し，造形能力の基礎を身につける。また，美術と人間との関係を考え，美しさとは何かを探るとともに感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	表現技術の向上を図ることができる。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	作品　７０点 ①静物画（油絵）Ｆ２０号 ②石膏デッサン ③静物デッサン	1／2
2	授業態度　３０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から絵画指導にあたる。絵画制作を通して、観察力、想像力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．授業の進め方と心得
２．石膏デッサン①　フォルム、コントラスト、ヴァルール、マッス等の把握
３．石膏デッサン②　制作
４．石膏デッサン③　制作
５．石膏デッサン④仕上げ・批評
６．静物デッサン①　フォルム、コントラスト、ヴァルール、マッス等の把握
７．静物デッサン②　制作
８．静物デッサン③　制作
９．静物デッサン④仕上げ・批評
10．静物画（油絵F20号）制作①　構図の決定
11．静物画（油絵F20号）制作②　着彩
12．静物画（油絵F20号）制作③　着彩
13．静物画（油絵F20号）制作④　着彩
14．静物画（油絵F20号）制作⑤　着彩
15．静物画（油絵F20号）制作⑥　仕上げ・批評

定期試験
作品提出
試験のフィードバックの方法
作品提出前に作品批評をおこなう。また、作品返却時に評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 油絵セット・木炭紙・キャンバス・クロッキー帳‥‥個人で用意
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
提出作品は，課題も含め３点。課題も含め平均点で評価，授業態度は大切に扱います。

絵画ＩＶ				単位数	1単位
授業コード	83300	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考	１～２時限まで				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

絵画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義をより展開し、大作を描く。油絵・素描の実技を通して、造形能力の基礎を身につける。また、美術と人間との関係を考え、「美しさ」とは何かを探るとともに感性を養う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	油絵、木炭デッサンを通して絵画表現について、知識、関心を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	作品制作を通して自分の眼で観て考え表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	作品７０点 ①木炭デッサン ②風景画（油絵）F50号	1
2	授業態度　３０点	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県県展審査会員の経験を通して、絵画指導にあたる。絵画制作を通して、観察力、想像力、描写力を身につけるとともに美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．風景画（木炭デッサン）①　構図の決定
２．風景画（木炭デッサン）②　制作
３．風景画（木炭デッサン）③　制作
４．風景画（木炭デッサン）　④仕上げ･批評
５．風景画（油絵F50号）制作①　構図の決定
６．風景画　制作②　着彩
７．風景画　制作③　着彩
８．風景画　制作④　着彩
９．風景画　制作⑤　着彩
10．風景画　制作⑥　着彩
11．風景画　制作⑦　着彩
12．風景画　制作⑧　着彩
13．風景画　制作⑨　着彩
14．風景画　制作⑩　着彩
15．風景画　制作⑪　仕上げ・批評

定期試験
作品提出
試験のフィードバックの方法
作品提出前に作品批評をおこなう。また、作品返却時に評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容・時間は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 油絵セット、木炭紙・キャンバス…個人で用意
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
作品提出は２点。平均点で評価する。 授業態度は大切に扱います。

絵画Ⅴ					単位数	1単位
授業コード	83350	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	片山　裕之、小田　久美子					
時間割備考	後日掲示					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義／３実験・実習・実技					
担当形態	複数／オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

絵画表現と美術概論を通して美術を探求する者の基本的な姿勢を考える。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	美術鑑賞を通して日本美術に関する専門的な知識を深めるとともに、鑑賞する姿勢（見方・感じ方）を学ぶことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	実技を通して表現することの楽しさを味わうと共に、技術の向上をはかることができる。	知識・技能
3	広い視野で芸術領域を俯瞰し、興味のある対象を見つけ学びを深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度　30点	1／2／3
2	作品提出・レポート　70点	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞活動を通して、観察力、想像力、鑑賞力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　日本美術研修オリエンテーション（片山・小田）
２　仏教史
３　仏像の種類と素材
４　京都国立博物館見学Ⅰ
５　京都国立博物館見学Ⅱ
６　奈良国立博物館見学Ⅰ
７　奈良国立博物館見学Ⅱ
８　京都・奈良の寺院見学Ⅰ
９　京都・奈良の寺院見学Ⅱ
10　京都・奈良の寺院見学Ⅲ
11　京都・奈良の寺院見学Ⅳ

実技　絵画コース（片山）
　12　人物画（木炭デッサン・油絵F20号）制作①構図の決定
　13　人物画（木炭デッサン・油絵F20号）制作②形をとる・明暗をつける
　14　人物画（木炭デッサン・油絵F20号）制作③描き込み
　15　人物画（木炭デッサン・油絵F20号）制作④完成・講評

講義　論文コース（小田）
　12　美術概論①資料収集とアイデアスケッチ
　13　美術概論②下図作成
　14　美術概論③制作
　15　美術概論④完成・発表

定期試験

課題レポート・作品提出

試験のフィードバックの方法

課題レポート・作品はその都度提出後評価説明をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
描画材、油絵セット、木炭紙、キャンバス…個人購入

オフィスアワー

片山　オフィスアワー　授業中に指示する
小田　オフィスアワー　授業中に指示する

連絡先

katayama@post.ndsu.ac.jp
oda9@post.ndsu.ac.jp

留意事項

演習Ⅱで配布された資料を熟読しておくこと。
出席、授業態度は大切に扱います。

彫塑Ⅰ					単位数	1単位
授業コード	83360	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	前嶋　英輝					
時間割備考	9/4,5,6,7(1-5時限)、9/8（1-3時限）					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

頭像制作を中心に彫塑の基礎基本を学ぶ。目的は、ものを見る力を高め、彫刻の美を構築できるようになることである。 具体的には、塑像用粘土を用いて頭像を作りながら形態(フォルム)、量（マッス）、動勢(ムーヴ〆要)などの要素を理解し、彫刻表現ができるようになることである。また彫刻史を学び、作品鑑賞を通して彫塑の意味を考える。同時に幼児教育における粘土造形の意味を考えながら彫塑造形の本質について考察する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.頭像制作による造形表現を行い、彫塑作品を完成させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.材料や道具の使い方や素材としての粘土や石膏について特質を理解し、状況に応じて正しく使用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3.基本的な彫刻の歴史と造形要素を理解し応用できる。	知識・技能
4	4.幼児期の造形活動を学び、彫塑の本質的な意味について自分なりの考えを持つことができる。	知識・技能／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート　40% 小レポートについては、知的理解度について評価する。同時に個々に結果を伝えながら指導を行い、ス	2／3／4
2	作品提出　60% 彫塑に関する知識と技術を身につけることを目的としていることから、到達目標達成度を見る作品提出に	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

彫刻家としての制作経験、全国公募展及び岡山県美術展の審査員経験、ブロンズ像の制作経験、幼稚園・保育園での造形指導及び岡山県幼稚園教諭新採用研修講師、美術教育学会発表などの実務経験を活かして、幼児造形教育の理解を深め、学生の作品が美術公募展へ出品できるレベルとなることを目指し彫塑表現の理解を深める。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１　彫刻史（ドナテロ、ミケランジェロ、運慶など）
２　心棒作りと粘土の荒付（実技）
３　現代彫刻の対話型鑑賞（蛭田二郎など）
４　近代彫刻史（ロダン、平櫛田中など）
５　頭像の量の構築（実技）
６　マッスとヴォリューム（実技）
７　レッジョ・エミリア市の保育
８　古代彫刻と幼児の粘土遊び
９　頭像の構成要素（実技）
１０　頭像の完成（実技）
１１　手の造形（実技）
１２　石膏どりの技法（実技）
１３　彫刻制作の環境マネージメント（実技）
１４　幼児教育の粘土遊びと彫刻教育（佐藤忠良など）
１５　彫刻と幼児教育のまなざし
　　作品提出

定期試験
作品提出
試験のフィードバックの方法
塑造実技の途中でアドバイスを行い、小レポートでスモールステップの授業成果をフィードバックしながら学習の積み重ねを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次回の授業内容を指示するので、予習を行うことが必要である。また授業外でもクロッキーやデッサンを行うことが必要である。最終課題は、到達目標の理解度を見るため積極的な取り組みが必要である。初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。 1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 『芸術の意味』，ハーバート・リード，みすず書房 ＩＳＢＮ：978-4622001089
オフィスアワー
授業前後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
maeshima@kiui.ac.jp 吉備国際大学前嶋研究室　0866-22-9468
留意事項
学生は、粘土や石膏を使用する実技を行うため、汚れても構わない服装もしくはエプロン、タオルを持参すること。

彫塑					単位数	1単位
授業コード	83365	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	前嶋　英輝					
時間割備考	9/4,5,6,7(1-5時限)、9/8（1-4時限）					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

頭像制作を中心に彫塑の基礎基本を学ぶ。目的は、ものを見る力を高め、彫刻の美を構築できるようになることである。 具体的には、塑像用粘土を用いて頭像を作りながら形態(フォルム)、量（マッス）、動勢(ムーヴ゛ン口)などの要素を理解し、彫刻表現ができるようになることである。また彫刻史を学び、作品鑑賞を通して彫塑の意味を考える。同時に幼児教育における粘土造形の意味を考えながら彫塑造形の本質について考察する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.頭像制作による造形表現を行い、彫塑作品を完成させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.材料や道具の使い方や素材としての粘土や石膏について特質を理解し、状況に応じて正しく使用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3.基本的な彫刻の歴史と造形要素を理解し応用できる。	知識・技能
4	4.幼児期の造形活動を学び、彫塑の本質的な意味について自分なりの考えを持つことができる。	知識・技能／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート　40% 小レポートについては、知的理解度について評価する。同時に個々に結果を伝えながら指導を行い、ス	2／3／4
2	作品提出　60% 彫塑に関する知識と技術を身につけることを目的としていることから、到達目標達成度を見る作品提出に	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

彫刻家としての制作経験、全国公募展及び岡山県美術展の審査員経験、ブロンズ像の制作経験、幼稚園・保育園での造形指導及び岡山県幼稚園教諭新採用研修講師、美術教育学会発表などの実務経験を活かして、幼児造形教育の理解を深め、学生の作品が美術公募展へ出品できるレベルとなることを目指し彫塑表現の理解を深める。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１　彫刻史（ドナテロ、ミケランジェロ、運慶など）
２　心棒作りと粘土の荒付（実技）
３　現代彫刻の対話型鑑賞（蛭田二郎など）
４　近代彫刻史（ロダン、平櫛田中など）
５　頭像の量の構築（実技）
６　マッスとヴォリューム（実技）
７　レッジョ・エミリア市の保育
８　古代彫刻と幼児の粘土遊び
９　頭像の構成要素（実技）
１０　頭像の完成（実技）
１１　手の造形（実技）
１２　石膏どりの技法（実技）
１３　彫刻制作の環境マネージメント（実技）
１４　幼児教育の粘土遊びと彫刻教育（佐藤忠良など）
１５　彫刻と幼児教育のまなざし
　　作品提出

定期試験

作品提出

試験のフィードバックの方法

塑造実技の途中でアドバイスを行い、小レポートでスモールステップの授業成果をフィードバックしながら学習の積み重ねを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

次回の授業内容を指示するので、予習を行うことが必要である。また授業外でもクロッキーやデッサンを行うことが必要である。最終課題は、到達目標の理解度を見るため積極的な取り組みが必要である。初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。 1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。

必携書（教科書販売）

使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『芸術の意味』，ハーバート・リード，みすず書房
ＩＳＢＮ：978-4622001089

オフィスアワー

授業前後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

maeshima@kiui.ac.jp
吉備国際大学前嶋研究室　0866-22-9468

留意事項

学生は、粘土や石膏を使用する実技を行うため、汚れても構わない服装もしくはエプロン、タオルを持参すること。

造形Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	83400	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小田　久美子					
時間割備考	集中講義・日程は後日掲示					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

造形表現活動の現場で、適切な指導・援助のできる基礎的知識と技術を学んでいく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	多様な造形表現があることを知り、体験的学習として作品を制作することが出来る。	主体性
2	技法遊びのための素材・用具の特徴と扱い方を知ることが出来る。	知識・技能
3	子どもが扱うときの留意点、発達に合わせた援助の方法を考えることが出来る。	思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢50%（到達目標2・3）、作品評価50%（到達目標1）による総合評定とする。	1／2／3
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　授業の進め方と評価について
2.　技法遊び：絵の具を使った課題①
　（吹き流し，糸引き絵，デカルコマニー，ドリッピング）
3.　技法遊び：絵の具を使った課題②
　（ステンシル，指絵，はじき絵，紙染め）
4.　技法遊び：絵の具を使った課題③
　（ウォッシング乾燥，スタンピング）
5.　技法遊び：絵の具を使った課題④
　（ウォッシング洗い流し）
6.　子どもの空間再現に関する課題
7.　技法遊び：パスを使った課題
　（スクラッチ，パスステンシル，フロッタージュ）
8.　技法遊び：折り紙を使った課題①（折り紙を折って）
9.　技法遊び：折り紙を使った課題②（ちぎり絵）
10.　技法遊び：はさみを使った課題（折り紙を切って）
11.　技法遊び：その他の課題（塗り絵・トレーシング）
12.　技法遊び：廃材を利用した課題①
13.　技法遊び：廃材を利用した課題②
14.　技法遊び：粘土を使った課題
15.　指導案の作成について

定期試験
16. 定期試験，課題提出
試験のフィードバックの方法
課題の制作中にアドバイスを行う。必要な場合には助言を記して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『幼稚園教育要領解説』『小学校指導要領解説（図画工作編）』スケッチブックと画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

造形ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	83450	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	片山　裕之					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校における造形内容を中心に造形教育の意義、内容について自ら体験することにより理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	造形教育に関する知識,関心を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	造形指導上に必要な技術を身につけることができる。	知識・技能
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	作品　　70点 ①水彩画　②紙工作　③版画　④スケッチブック	1／2
2	授業態度・　３０点	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

７年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこなう様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、様々な造形指導にあたる。様々な表現活動（造形）、鑑賞活動を通して、観察力、鑑賞力、描写力、表現力を育てるとともに美的感性を養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 造形教育の意義
2 絵画制作Ⅰ（バチック、デカルコマニ，流し絵）
3 絵画制作Ⅱ（吹き絵､フロタージュ、指絵）
4 絵画制作Ⅲ（コラージュ、色流し、にじみ絵）、作品鑑賞・講評
5 牛乳パックで作れる生き物①（廃材利用・発想、制作）
6 牛乳パックで作れる生き物②（廃材利用・制作、鑑賞・講評）
7　版で表す①　（紙版画　・発想―画面構成―）
8 版で表す②（紙版画・制作）
9 版で表す③（紙版画・制作、鑑賞・講評）
10 大型カルタ作り・カルタ取り大会
11 どんぐり笛､落ち葉のアルバム（自然物を使って制作、鑑賞・講評）
12 おロパクパクの動物①（紙工作・発想、―画面構成・立体構成―）
13 おロパクパクの動物②（紙工作・制作）
14 おロパクパクの動物③（紙工作・制作）
15 おロパクパクの動物④（紙工作・鑑賞、講評）

定期試験
作品提出
試験のフィードバックの方法
作品はその都度提出後評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技、演習をともなう科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備学習の内容は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
各課題の作品提出によって、総合的に評価する。また、授業態度も評価の対象とする。

家庭［a］				単位数	2単位
授業コード	83600	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西　弘子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

家庭科は，家庭生活を主な学習対象としている。特に，小学校で学ぶ家庭科の内容が，その後の家庭生活の基礎になっている。そのことをしっかり踏まえて，家庭生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科を身に付けるとともに，小学校家庭科の主要内容である衣・食・住に関する基礎的・基本的な内容と知識・技能について学修する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家庭科の衣・食・住に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	「家庭」の実践的・体験的な活動を通して，どの題材を用いて，どのように授業を行いたいかを考えながら受講し，前期の家庭科指導法に活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	新しい教材開発を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験・・・・・・・・・・・・・・・・６０％	1／2
2	作品(基礎縫い・小物・エコバッグ等)・・・３０％	1／2／3
3	課題レポート・・・・・・・・・・・・・・・１０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で家庭科を指導した経験を活かし，指導過程で創意工夫して効果があった三つ折り用のさしや，工作用紙を用いて製作した住居模型を使って目に見えない空気や風の流れの実験，商品学で学んだ試薬を用いての発色剤検出やビタミンＣ検出実験等，大学で学んだことや実務経験で開発したこと等を授業に活用している。それらを学生に伝授することで，簡単に早く美しくできる方法や，理論に基づいた検証，安心・安全な食品選び等小学校の指導や実生活で役立つ実践力の構築を促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１ 新学習指導要領の趣旨：家庭科のねらい及び方向性について
２ Ａ 家族・家庭生活：生活の見直しと生活時間の記入・工夫
３ Ｂ 衣食住の生活：子供の学びを深めるＩＣＴの活用(コンピューター活用)
４ Ｂ 衣食住の生活：はじめてみようソーイング／基礎縫い
５ Ｂ 衣食住の生活：フェルトを使っての小物の製作(手縫い)
６ Ｂ 衣食住の生活：住居模型作り
７ Ｂ 衣食住の生活：Ｃ 消費生活・環境：住居模型で通風・換気実験
８ Ｂ 衣食住の生活・快適に過ごす着方と手入れ 洗濯表示
９ Ｂ 衣食住の生活：卵と人参の実験・実習
10 Ｂ 衣食住の生活：ﾊﾞﾗﾝｽのよい食事／朝食の献立を考える
11 Ｂ 衣食住の生活：朝食作り(ご飯とみそ汁ともう一品)
12 Ｂ 衣食住の生活・Ｃ 消費生活・環境 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
13 〃 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
14 〃 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
15 〃 ：エコバック等(ミシン縫い)
16 定期試験／レポート

※ 教材研究を通しての実践化と生活改善に役立つ作品を製作することによって，家庭科 の基礎・基本が身に付く。

定期試験
定期試験と「家庭」の内容に関するレポート
試験のフィードバックの方法
解答を提示して説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義予定表に，毎回の授業で学習する主な内容と該当する教科書のページを記載している。授業前に，予習として講義内容に該当する教科書の所を一読し，授業後に，復習として講義内容の確認を兼ねて，該当する小学校と中学校の教科書を再度見ておく。そうすることが，教員採用試験の勉強に繋がる。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『小学校学習指導要領解説　家庭編』，文部科学省，東洋館出版社 『わたしたちの家庭科』，著作者代表　内野　紀子他，開隆堂
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ ・『初等家庭科の研究』　大竹美登利・倉持清美　萌文書林 ・『平成29年改訂　小学校教育課程実践講座』　岡　陽子・鈴木明子　ぎょうせい
オフィスアワー
基礎縫いやフェルトを用いての小物作り，ミシンを使ってのエコバッグ作り等の製作や，製図を書いて製作した住居模型を使っての通風・換気実験，日本の伝統食であるご飯とみそ汁の調理実習等については，授業中随時受け付ける。
連絡先
tr-4@ndsu-e.ed.jp
留意事項

家庭［b］				単位数	2単位
授業コード	83602	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西　弘子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

家庭科は，家庭生活を主な学習対象としている。特に，小学校で学ぶ家庭科の内容が，その後の家庭生活の基礎になっている。そのことをしっかり踏まえて，家庭生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科を身に付けるとともに，小学校家庭科の主要内容である衣・食・住に関する基礎的・基本的な内容と知識・技能について学修する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家庭科の衣・食・住に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	「家庭」の実践的・体験的な活動を通して，どの題材を用いて，どのように授業を行いたいかを考えながら受講し，前期の家庭科指導法に活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	新しい教材開発を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験・・・・・・・・・・・・・・・・６０％	1／2
2	作品(基礎縫い・小物・エコバッグ等)・・・３０％	1／2／3
3	課題レポート・・・・・・・・・・・・・・・１０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で家庭科を指導した経験を活かし，指導過程で創意工夫して効果があった三つ折り用のさしや，工作用紙を用いて製作した住居模型を使って目に見えない空気や風の流れの実験，商品学で学んだ試薬を用いての発色剤検出やビタミンＣ検出実験等，大学で学んだことや実務経験で開発したこと等を授業に活用している。それらを学生に伝授することで，簡単に早く美しくできる方法や，理論に基づいた検証，安心・安全な食品選び等小学校の指導や実生活で役立つ実践力の構築を促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１ 新学習指導要領の趣旨：家庭科のねらい及び方向性について
２ Ａ 家族・家庭生活：生活の見直しと生活時間の記入・工夫
３ Ｂ 衣食住の生活：子供の学びを深めるＩＣＴの活用(コンピューター活用)
４ Ｂ 衣食住の生活：はじめてみようソーイング／基礎縫い
５ Ｂ 衣食住の生活：フェルトを使っての小物の製作(手縫い)
６ Ｂ 衣食住の生活：住居模型作り
７ Ｂ 衣食住の生活：Ｃ 消費生活・環境：住居模型で通風・換気実験
８ Ｂ 衣食住の生活・快適に過ごす着方と手入れ 洗濯表示
９ Ｂ 衣食住の生活：卵と人参の実験・実習
10 Ｂ 衣食住の生活：ﾊﾞﾗﾝｽのよい食事／朝食の献立を考える
11 Ｂ 衣食住の生活：朝食作り(ご飯とみそ汁ともう一品)
12 Ｂ 衣食住の生活・Ｃ 消費生活・環境 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
13 〃 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
14 〃 ：エコバッグ等(ミシン縫い)
15 〃 ：エコバック等(ミシン縫い)
16 定期試験／レポート

※ 教材研究を通しての実践化と生活改善に役立つ作品を製作することによって，家庭科 の基礎・基本が身に付く。

定期試験
定期試験と「家庭」の内容に関するレポート
試験のフィードバックの方法
解答を提示して説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義予定表に，毎回の授業で学習する主な内容と該当する教科書のページを記載している。授業前に，予習として講義内容に該当する教科書の所を一読し，授業後に，復習として講義内容の確認を兼ねて，該当する小学校と中学校の教科書を再度見ておく。そうすることが，教員採用試験の勉強に繋がる。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『小学校学習指導要領解説　家庭編』，文部科学省，東洋館出版社 『わたしたちの家庭科』，著作者代表　内野　紀子他，開隆堂
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ ・『初等家庭科の研究』　大竹美登利・倉持清美　萌文書林 ・『平成29年改訂　小学校教育課程実践講座』　岡　陽子・鈴木明子　ぎょうせい
オフィスアワー
基礎縫いやフェルトを用いての小物作り，ミシンを使ってのエコバッグ作り等の製作や，製図を書いて製作した住居模型を使っての通風・換気実験，日本の伝統食であるご飯とみそ汁の調理実習等については，授業中随時受け付ける。
連絡先
tr-4@ndsu-e.ed.jp
留意事項

体育				単位数	2単位
授業コード	83670	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	安江　美保				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　小学校期の子どもたちは，仲間との運動遊びの中で，豊かな感性や創造性,，社会性等をさらに身に付け成長する。一生の中で多様な動きを獲得しやすい時期にある子どもたちに，適切な運動の経験を通して，運動好きな子どもに育つことができるよう，指導者になる立場から，小学校体育科の目標や内容の概要を捉えるとともに，子どもと運動との関係を大切にした授業づくりや指導についての考えを深める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼児期の運動遊びから小学校低学年の運動遊びへの接続のポイントと，小学校体育科の目標及び，各発達段階における目標と学習内容の概要について理解し，説明することができる。	知識・技能／主体性
2	○小学生の発達段階に応じた授業の大まかな流れを捉え，作成した指導案をポイントに沿って話し合ったり，検討したり，修正したりすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	○授業を通して「運動好きな子どもを育てる体育科の授業づくりについて」の考えを深め、それをレポートにまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○毎回の授業後に提出する「授業を振り返って学んだこと」　70%	1／2
2	○最終レポート　30%	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

○安江美保

　小学校教諭として教育現場に勤めていた際に，体育科の実践研究に専門的に取り組んできたため，その実務経験を元に，子どもと運動との関係の捉え方，運動遊びの内容，運動遊びの展開のさせ方などを本授業に活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１.体育科の目標と指導内容及び内容構成の考え方（体育科が求める資質・能力）
２.第1学年・第2学年の目標と内容（指導要領の検討と低学年の発達段階の特徴）
３.第3学年・第4学年の目標と内容（指導要領の検討と中学年の発達段階の特徴）
４.第5学年・第6学年の目標と内容（指導要領の検討と高学年の発達段階の特徴）
５.習得・活用・探求の考えに基づいた学習過程の考え方，指導案の書き方①
６.体育学習における評価の考え方と指導案の書き方②（学習指導と評価の一体化）
７.体つくりの運動系「多様な運動をつくる運動遊び」「多様な動きをつくる運動」の進め方について
８.表現運動・中学年「リズムダンス」の学習の進め方について
９.表現運動・中学年「表現」の学習の進め方について
10 .陸上運動系「走・跳の運動遊び」「走り高跳び」の学習の進め方について
11 .器械運動系「マット遊び」「マット運動」の学習の進め方について
12 .器械運動系「跳び箱遊び」「跳び箱運動」の学習の進め方について
13.ボール運動系「ボール運び鬼」「セストボール」の学習の進め方について
14.作成した指導案の検討と修正
15.「運動好きな子どもを育てる体育科の授業づくりについて」まとめ

定期試験

〇最終レポートを，授業の中での指示により提出する。

試験のフィードバックの方法

〇レポート全ての評価が終わった段階で，manabaを通じて評価の高かったレポートの内容に触れながら，全体的な総評を伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　第1回～第7回の授業では，幼児期の運動遊びからの接続や，小学校体育科の目標と学習内容等の理論的な内容について学び，第8回～13回の授業では，体つくり運動系，表現運動系，陸上運動系，器械運動系，ボール運動系領域の学習の流れや指導のポイントについて実技を交えて学んでいく。理論的な内容と実技を交えた実践的な内容とを関連させながら，自分の中でより確かな学びとしていくために，講義で使った資料や授業の必携書「小学校体育科学習指導要領」をもとに，授業の予習に10分以上，復習に20分以上行うことを求める。復習には，毎回の授業後に提出する「授業を振り返って学んだこと」を含む。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
〇「小学校学習指導要領解説・体育編」平成29年3月告示 ， ISBN： 9784491034676 ， 文部科学省，東洋館出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈必携書〉
〇小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）　文部科学省

〈参考書〉
〇子どもの未来を創造する体育「主体的・対話的で深い学び」，2018年，鈴木直樹　他，創文企画
〇小学校体育はじめの一歩　～主体的・対話的で深い学びを考える～，2019年，白旗和也　他，光文書院
〇「保育と幼児期の運動あそび」，2018年，岩崎洋子，萌文書林

オフィスアワー

〇オフィスアワーは，火曜日の2限，木曜日の2限。

連絡先

my31704612@post.ndsu.ac.jp

留意事項

〇第7回～第13回は，実技を交えた授業を行う。
〇実技を伴う授業では，運動着，体育館シューズを必ず着用して行うとともに，「小学校学習指導要領解説・体育編」（平成29年3月告示），筆記用具を持参すること。

小学校英語				単位数	2単位
授業コード	83680	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	福原　史子、Jason Williams				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な理論と英語運用力の両面について、講義やディスカッション、練習や実際の授業場面を意識した活動等を通して実践的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	小学校外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	小・中学校の接続を踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的知識を理解し、記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	定期試験（40%）	2
2	授業及びグループ活動への参加度（30%）	1／2
3	小レポート（30%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者１：福原は、公立小学校及びアメリカのMontessori Schoolでの勤務経験を活かし、小学校の発達段階や興味・関心に応じた外国語の指導について具体例を示しながら伝えることにより、学生に実際の授業場面と理論とを結びつけながら理解を促す。
担当者２：Williams has experience as an English teacher at an elementary school in Japan. Serves as an advisor for an immersion English program at an elementary school in Japan. Will use this experience to inform students of the realities of teaching a foreign language to young learners, specifically problems that they may encounter and solutions to them.

日本語以外の言語による授業	英語（Williams）

授業予定一覧

授業は担当者2名によるティーム・ティーチングで実施する
1　今なぜ小学校で英語を学ぶのか、小学校外国語活動・外国語科を担当するために必要なこと　（担当／福原）
2　児童期の第二言語の学びの特徴、クラスルーム・イングリッシュ（1）ほめる・励ます（担当／福原・Williams）
3　英語の音声と基本的な表現、クラスルーム・イングリッシュ（2）授業を始める・終える（担当／福原・Williams）
4　英語の文字と文構造、クラスルーム・イングリッシュ（3）活動を促す（担当／福原・Williams）
5　歌・チャンツの活用、発音・スピーキングトレーニング（1）母音（担当／福原・Williams）
6　絵本の活用（1）児童向けの絵本の紹介、発音・スピーキングトレーニング（2）子音（担当／福原・Williams）
7　絵本の活用（2）読み聞かせ練習（グループによる活動）（担当／福原）
8　絵本の活用（3）グループ発表　（担当／福原）
9　異文化理解のために（1）児童にとっての異文化理解とは（担当／福原）
10　異文化理解のために（2）ICTを活用した異文化理解（担当／福原）
11　指導者としてのリスニング能力向上と「聞くこと」の指導（担当／福原・Williams）
12　指導者としてのスピーキング能力向上と「話すこと【やり取り・発表】」の指導（担当／福原・Williams）
13　指導者としてのリーディング能力向上と「読むこと」の指導（担当／福原・Williams）
14　指導者としてのライティング能力向上と「書くこと」の指導（担当／福原・Williams）
15　外国語活動・外国語科・中学校外国語科への接続と連携（担当／福原）

定期試験

16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio（またはGoogle Classroom)に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）毎回の授業で、内容や英語表現に関する資料を配付するとともに、参考文献や参考URLを紹介するので、該当部分を熟読し、要点と疑問点をまとめておくこと（1時間）。
（復習）小学校で外国語を指導することを意識して、毎日短時間でも（15分）英語にふれる時間を確保し、声に出して練習すること。

必携書（教科書販売）

『小学校学習指導要領解説　外国語・外国語活動編』, 2018年, ISBN 978-4-304-05168-5, 文部科学省, 開隆堂
『New Horizon Elementary English Course 5』, 2020年, ISBN 978-4-487-10585-4, 東京書籍
『New Horizon Elementary English Course 6』, 2020年, ISBN 978-4-487-10587-8, 東京書籍
『New Horizon Elementary English Course Picture Dictionary』, 2020年, ISBN 978-4-487-10586-1, 東京書籍

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
外国語活動・外国語研修ガイドブック（平成29年　文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

＜参考書等＞
『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』, 酒井英樹編著, 三省堂

オフィスアワー

オフィスアワー　福原：月曜日４限　水曜日３限　ジュリーホール4階4-13J
Williams：月曜日 3限　ノートルダムホール東棟 264ND
質問は随時電子メールで受け付ける

連絡先

福原　fumikofk@m.ndsu.ac.jp
Williams　williams@m.ndsu.ac.jp

留意事項

2020年度より小学校で全面実施となった３・４年生での外国語活動及び５・６年生での外国語科の指導力を身に付けるために、今ある英語運用力を精一杯使った主体的な取り組みを求める。

教職基礎論				単位数	2単位
授業コード	83690	科目ナンバリング	330B1-1000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教職員としての必要な資質や遵守すべき服務，職務の内容，仕事の手順等，日々の教育実践に必要な基本的な事項について，そのねらいを理解する。観察実習や模擬授業体験等を通して、自らの適性を判断すると共に、教職に対する意欲と自覚を高める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・教職の意義、教職の役割、教員の役割、資質能力、職務内容等について身に付けることができる。	思考・判断・表現力
2	・教職の実務について観察体験することで、教職を志す意欲を高めることができる。	主体性
3	・自らの適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することができる。	知識・技能
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・授業中の活動の様子（ディスカッションの取組み方・発表の仕方・意欲等）　30点	1／2／3
2	・課　題　30点	1／3
3	・（授業後）小レポート，最終レポート　40点	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立幼稚園、あるいは公立小学校の教員として勤務した経験をもとに、学校園の教育目標、教育課程、研修、評価等のテーマについて、実践に即して取り上げる。学生は、テーマに沿って問題解決する中で、その意義や役割等について学校園の実態に沿った理解を深めて、実践的な指導力を高めることができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　期待される教師像（公教育の目的、教員の存在意義）　（担当：三宅）
2．　学校（園）の教育目標と教育課程（小学校学習指導要領、幼稚園教育要領の概略）　（担当：赤木、三宅）
3．　勤務と服務（教職の職業的特徴とやりがい）　（担当：三宅）
4．　人権に配慮した指導の進め方（教育観の変遷と教員の役割）　（担当：三宅）
5．　校務分掌，職員会議（チーム学校運営への対応①）　（担当：赤木）
6．　研修のあり方①（教員研修の意義と制度上の位置付け）　（担当：赤木）
7．　人間関係づくり（附属学校園での子どもとの関わり体験から）　（担当：赤木）
8．　学級事務（模擬実践と効果的な運用）　（担当：赤木）
9．　指導計画（保育計画）の立て方（模擬実践）　（担当：赤木、三宅）
10.　附属小学校での観察実習（朝の会から授業参観、小学校教育の特徴について）　（担当：赤木）
11.　附属幼稚園での観察実習（自由保育から集団保育、幼稚園教育の特徴について）　（担当：三宅）
12.　教員の職務内容と服務上・身分上の義務（法律と観察したことをつないで）　（担当：三宅）
13.　評価のあり方（指導と評価の一体化）　（担当：赤木）
14.　内外専門家等との連携・分担した学校運営（チーム学校運営への対応②）　（担当：赤木）
15.　研修のあり方②（学び続ける教師であるために、年代別の目指す教師像について）　（担当：赤木、三宅）
16.　まとめ

定期試験
定期試験は実施しないtが、毎回小レポート課題を提示する。最後にレポート課題を提出する。
試験のフィードバックの方法
「16. まとめ」の中で、これまでの学習内容を振り返る。 そのうえで、最終レポート作成に必要な内容について説明を加える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回授業の終わりに小レポートの課題を提示する。レジュメやレポートに書いたことをもとにして、毎回の内容をきちんとまとめておくこと。（所要時間３０～４０分程度と想定） 途中の数回のレポート課題や最終レポート試験では、毎回の内容を蓄積したうえでの自分の考えを表現することになる。授業内容を整理して、自分なりの分析を加えていってほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月告示）文部科学省 （希望のコースにかかわらず、両方購入すること）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 　授業の中で紹介し、必要に応じて配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー　　授業の中で伝える
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）　　k.miyake@post.ndsu.ac.jp　（三宅）
留意事項
・先輩教師の授業や学級づくりを追体験することを通して，授業観や学級づくりについての考えを高めること。 ・学んだことをきちんと整理して体得するように努め，教育実習校での実践活動に活かせるようにすること。

教育思想史				単位数	2単位
授業コード	83750	科目ナンバリング	330B1-4000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	尾上　雅信				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　教育の思想と学校の歴史を扱う。おもに初等教育（現在の小学校段階の教育）を中心にして、「教える」ということについての思想（史）的な展開、広くは「教授」から「学習指導・学習支援」へと展開する過程を、具体的な思想家・実践家の理論や実践の解説を通して概観すること、さらに「教える」ための専門的な場としての「学校」の誕生、その時、何が期待されたのか、そしてそれは制度としてどのように発展してきたのか、その歴史を概観すること、これら二つのテーマを中心に、授業を行なう。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学校を中心とする教育の歴史、それを支えてきた教育思想の展開について学び、学校教育史と教育思想に関する基礎的な知識を身に付ける。	知識・技能
2	「教育」の広い概念の中でも特に「教える」という行為に着目し、それについての思索や工夫の歴史、そのための専門の場としての「学校」の登場と変遷について学び、学校のもつ意味について考える。	思考・判断・表現力
3	教育思想の歴史を学ぶことを通して、教員をめざす者、広く教育に関わりたい者にふさわしい教育及び学校教育の基本的概念をもち、今後の学びや実践に生かすことができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中に課す小レポート（30%）	1／2／3
2	期末試験（70%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第１回：オリエンテーション ― 授業の目的、概要、計画、方法などの説明
第２回：教育とは何か：語義や語源、意義と定義をめぐって
第３回：コメニウスの教育思想：「教える」ことの思索と工夫
第４回：ルソーの教育思想：その１：「子どもの発見」について
第５回：ルソーの教育思想：その２：「教授」から「学び」の支援へ
第６回：ペスタロッチの思想と実践：ルソーからの継承：開発主義の教育思想
第７回：ヘルバルトの教育思想：「教える」ことの科学・体系化
第８回：デューイの思想と実践：問題解決学習、現代学習指導法の根本として
第９回：教育と社会：私的な子育てから公的な営みへ：
第10回：「学校」の誕生：古代ローマ時代を事例に：学校の存在理由を考える
第11回：学校制度の成立過程：その１：ヨーロッパの下構型の歴史
第12回：学校制度の成立過程：その２：日本の寺子屋・藩校などから
第13回：義務教育の思想と制度：その１：現代の理念と仕組み
第14回：義務教育の思想と制度：その２：思想の起源、制度の発展
第15回：現代学校教育の諸問題：現状と改革の動向

定期試験
16週目に筆記試験を行なう。内容は、授業で取り上げた教育思想家の思想内容に関する基礎的・基本的な事柄が中心となる。
試験のフィードバックの方法
16週目の試験終了後、その場で試験の解説を行なう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）事前に配布するプリントをよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと（約20分）。 （復習）授業プリントの空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ 参考書等は、適宜授業中に紹介する。
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付けるとともに、随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
onoue@okayama-u.ac.jp
留意事項
教育、学校教育に関心をもつ方、広く教職をめざす方を対象とした内容となります。みなさんの積極的な参加を期待しております。

教育・学校心理学				単位数	2単位
授業コード	83840	科目ナンバリング	330B1-2340-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育心理学は、教育の場において生じている事態を心理学的な観点から理解し、教育実践に生かしていく学問である。本授業では、教育心理学の領域で明らかとなっている知見を踏まえつつ、教師として、子どもの学習・発達をいかに援助しうるのかといった点について具体的な実践例を示していくとともに、今日的な課題について、教育者としていかに取り組んでいくかといった点について、考える材料を提示する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教育心理学に関する基礎的な理解を通じて、教育者としての子どもとのかかわりについて、各自の考察を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート（40%）	1
2	最終レポート課題(60%)	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教育現場における指導・助言を行う実務経験（岡山県専門家チーム等）を通して、現在の学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：学ぶことの意味を問う：幼児の学びと児童の学び
第２回：発達と育ちの意味を問う：乳幼児期から青年期にわたる身体・運動・心理的発達と一人の人格としての育ち
第３回：認知発達と学習理論
第４回：教室場面での動機づけ

第５回：学習を支えるメタ認知
第６回：子どもの主体的な学習を支える様々な学習スタイルと新しい学習評価（ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価・ルーブリック評価）
第７回：学習を支える記憶のメカニズム
第８回：学習に遅れのある子ども・発達障害のある子どもの理解
第９回：学習に遅れのある子ども・発達障害のある子どもへの支援
第10回：子どもの主体的な学習を支えるユニバーサルデザイン
第11回：素朴概念と科学の学び
第12回：言葉を育む教育
第13回：社会化と道徳性の発達
第14回：自己の形成と職業選択
第15回：授業分析を通したわかりやすい授業づくりの実際とこれからの教育のあり方：目標と評価の再考

定期試験
最終レポート課題
試験のフィードバックの方法
15 週目の授業で試験の解説を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業の理解を支える深めるために，推薦図書一覧を，授業初回時に配布する。授業前までに，授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい（毎回1時間）。 （復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げること。また，第１回～5回，第６回～10回において各1回，授業に関連するテーマを各自で焦点化し，主体的に考察を深め，レポートとしてまとめる（各レポート5時間）。レポート作成には，関連領域の図書の精読が必須である（1冊につき5時間）。余裕をもって臨んでほしい。
必携書（教科書販売）
新・教職課程演習　教育心理学，2021，協同出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 窓ぎわのトットちゃん　（黒柳徹子著、講談社） ＜参考書等＞ ワーキングメモリと特別な支援　（湯澤美紀他編著、北大路書房） ワーキングメモリと英語入門　（湯澤美紀他編著、北大路書房）
オフィスアワー
オフィスアワー　水曜日　3時限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

発達心理学Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	83850	科目ナンバリング	330B1-1234-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

人間の健やかな成長・発達を生命の誕生から老年期にいたるまでの長いスパンで紐解いていく。子の育ち、また、親の育ちを冒頭で述べ、親子の絆の在り方について考えた後、幼少期の人の成長を言語・社会性・自己意識・遊びの観点から考察する。その後、成長に伴う発達課題を概観していきながら、人がより良く生きるための成長の姿を考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれからの育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実際的な学びができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート（40%）	1
2	最終レポート課題(60%)	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム等）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：人の育ちについて考える
第２回：生命の誕生
第３回：赤ちゃんから見た世界
第４回：親としての育ち
第５回：コミュニケーションと人間関係の発達
第６回：言語と遊びの発達
第７回：自己の発見
第８回：仲間の中での育ち
第９回：発達と教育
第10回：思春期を生きる
第11回：職業選択
第12回：関わりの中で成熟する
第13回：中年期のアイデンティティ
第14回：ライフストーリー（人生の振り返り）
第15回：人の個性をどのように理解し、そして、ともに手と手をとりあうか

定期試験
最終レポート課題
試験のフィードバックの方法
15 週目の授業で試験の解説を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業の理解を支える深めるために，推薦図書一覧を，授業初回時に配布する。授業前までに，授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい（毎回1時間）。 （復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げること。また，第１回～5回，第６回～10回において各1回，授業に関連するテーマを各自で焦点化し，主体的に考察を深め，レポートとしてまとめる（各レポート5時間）。レポート作成には，関連領域の図書の精読が必須である（1冊につき5時間）。余裕をもって臨んでほしい。
必携書（教科書販売）
わらべうたと心理学の出会い,2021,987-4-7608-3907,湯澤美紀,金子書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 教師教育講座　第3巻　子どもの発達と教育（湯澤正通編著、協同出版） 問いからはじめる発達心理学-生涯にわたる育ちの科学　（坂上裕子他編著、有斐閣） やさしく学ぶ発達心理学-出会いと別れの心理学　（浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）
オフィスアワー
オフィスアワー：湯澤　水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
１．課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

発達心理学ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	83900	科目ナンバリング	330B1-1234-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。生涯発達の観点から、発達プロセスの概要を学ぶとともに、個人差の実在について理解する。また、子ども理解を深めるために、感情・身体・認知・社会性の観点から、多面的に発達をとらえる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子ども理解を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育者・教師としての力量形成を行う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート（40%）	1
2	最終レポート課題(60%)	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム等）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：乳児期～老年期（発達の土台としての乳幼児期）
第２回：脳の発達（発達的変化）
第３回：愛着理論
第４回：乳児の驚くべき能力
第５回：ことばの発達Ⅰ（母語の習得のプロセス）
第６回：ことばの発達Ⅱ（母語の習得を支えるわらべうた）
第７回：ことばの発達Ⅲ（協同するからだとことば）
第８回：幼児期の心の成長Ⅰ（自分を通して世界をつかむ）
第９回：幼児期の心の成長Ⅱ（感情のコントロール）
第10回：幼児期の心の成長Ⅲ（自己回復力と自己成長力）
第11回：遊びⅠ（子どもは小さな科学者）
第12回：遊びⅡ（森の幼稚園で何が育つか？）
第13回：遊びⅢ（保育の質と子どもの発達）
第14回：子ども一人ひとりの個性としての発達障碍の理解
第15回：保護者理解と支援

定期試験

最終レポート課題

試験のフィードバックの方法

最終授業時に試験レポートの総評を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）授業の理解を支える深めるために，推薦図書一覧を，授業初回時に配布する。授業前までに，授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい(各回１時間）。
（復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げること。また，第１回～5回，第６回～10回において各1回，授業に関連するテーマを各自で焦点化し，主体的に考察を深め，レポートとしてまとめる(各レポート５時間）。レポート作成には，関連領域の図書の精読が必須である。余裕をもって臨んでほしい。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
子どもも大人も絵本で育つ 2019，4760149325，湯澤美紀，柏書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
やさしく学ぶ発達心理学−出会いと別れの心理学（浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　３時限

連絡先

yuzawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

青少年問題				単位数	2単位
授業コード	83950	科目ナンバリング	330B1-1234-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西　隆太朗				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　この授業では、これからの世界を創っていく新しい世代の人達のことを扱います。教育学・保育学・臨床心理学など、幅広い観点から、人間の成長について理解を深め、とくに新しい世代とかかわる教育者・保育者のあり方を学びます。新しい世代のことを考える上では、その出発点である保育の世界も取り上げます。タイトルには「問題」とありますが、「問題だ！」という悪い意味ではなく、「青少年をテーマにしている」という意味だと思ってください。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	青少年に関する基本的な文献を読み解く力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	青少年について自分自身の理解を深め、考察をレポート・コメントにまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	各回のコメント　50%	1／2
2	期末レポート　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、子ども・若者についての実際的理解を深めます。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第１回：「青少年問題」- 新しい世代と出会うこと
第２回：ライフサイクル － 人生の時季
第３回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(1)-人間の発達を捉える視点
第４回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(2)-子ども達とかかわる経験から
第５回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(3)-青少年とカウンセリング
第６回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(4)-自立とアイデンティティ
第７回：不登校 -「内閉」の意味
第８回：報道に見る青少年
第９回：いじめと差別の問題
第10回：幼児、児童及び生徒の学習の過程(1)-学びとコミュニティ
第11回：幼児、児童及び生徒の学習の過程(2)-学びの意味とアイデンティティ
第12回：教師のかかわりと省察の過程
第13回：かかわりの事例を読み解く
第14回：人間学的保育学・教育学からみる人間の成長
第15回：人間の成長を研究するために

定期試験
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
レポート提出後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。　期末レポートでは青少年に関する文献を読んだ上で考察を行うので、そのための準備学習なり各自の省察を随時進めてください（人によりますが、各回平均で30分程度を目安とします）。
必携書（教科書販売）
西隆太朗『相互性の心理臨床 入門』創元社, 2023年（ISBN：978-4-422-11791-1） （すでに購入済みの方は、それをご使用ください）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 　渡部真『ユースカルチャーの現在』、津守眞『子どもの世界をどうみるか』、山中康裕『少年期の心』、レイヴ＆ウェンガー『状況に埋め込まれた学習』をはじめ、青少年を理解するための教育学・保育学・臨床心理学の基礎的文献を授業中に紹介し、ともに読み解いていきます。
オフィスアワー
オフィスアワー　金曜日2時限
連絡先
nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

学校経営論				単位数	2単位
授業コード	84000	科目ナンバリング	330B1-3400-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	オムニバス／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から課題を見つけて探求していく中で、理解を深める。また、学校と地域との連携や協働、学校の危機管理と学校安全について、具体的な取り組み事例を踏まえて理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○学校経営の基礎的な知識を身に付けて、それに関連する課題についてディスカッション等を通して考えることができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	○学校と地域との連携の大切さについて理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	○学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	・授業中の活動の様子（取組み方・意欲等）	30点	1
2	・グループ発表	30点	1／2／3
3	・（授業後）小レポート・最終レポート	40点	2／3
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学生は、学校園の諸課題について現実に沿った問題解決を目指して、発表や話し合い等の活動に活かしていく。その時、公立学校園の園長、あるいは教員として勤務した経験をもとに、学校園の経営、危機管理等の諸問題について、実践に即した具体的な提言やアドバイスをする。また、校園種に応じた教育観を考えるための情報を提供する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．学校（小学校・幼稚園）教育の目的と目標（望ましい学校経営の姿）（担当：三宅）
2．学校（園）経営とは（教育活動の年間の流れとＰＤＣＡを含んだ学校評価）
（担当：赤木）
3．学校経営の仕組みと効果的な方法（教職員の協働）（担当：赤木）
4．学校外の関係者・関係機関との連携・協働のあり方（担当：三宅）
5．教育行政、財政の制度（公教育の目的実現に向けた姿）（担当：三宅）
6．開かれた学校づくりのあり方（地域共同学校の取り組みの成果と課題）
（担当：三宅）
7．学校園における危機管理①（事件、事故、災害の実情から対応策を検討する）
（担当：三宅）
8．学校園における危機管理②（具体的な取り組みから分かる安全管理と安全教育）
（担当：赤木）
9．グループ発表Ⅰ（子どもの安全・安心を大切にした学校経営の諸課題について）
（担当：赤木、三宅）
10. 学校（園）における子どもの人権Ⅰ「一人一人を大切にする」とは
（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）（担当：赤木）
11. 学校（園）における子どもの人権Ⅱ「子どもが身に付けるべき人権感覚」
（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）（担当：赤木）
12. グループ発表Ⅱ（一人一人の人権を意識した学校経営の諸課題について）
（担当：赤木、三宅）
13. 特別支援教育の現状と取組（特別支援教育の視点を活かした学校経営）
（担当：赤木）
14. 学校経営プランの作成と課題の把握（担当：赤木、三宅）
15. グループ発表Ⅲ（学校経営の成果と今後に向けた課題）（担当：赤木、三宅）
16. まとめ

定期試験
最終レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
「16. まとめ」の回にこれまでの学習内容を振り返り、最終レポートに含めるべき内容について説明を加える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）我が国の教育制度は、日本国憲法から文部科学省令にいたるまでの階層的な法令体系のなかで維持されています。学校教育に関する基本的な法令については、自主的に把握した上で出席しましょう。 （復習）毎回の授業内容を整理するとともに、学校現場へ主体的に出向き、観察や実践を通して学びを確かなものにしてください。そのことが、最終課題（レポート）にもつながります。（所要時間３０分程度を想定）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 幼稚園教育要領（平成２９年３月告示）、文部科学省 小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）、文部科学省 ＜参考書等＞ 必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　　授業の中で伝える
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）　　k.miyake@post.ndsu.ac.jp　（三宅）
留意事項
・幼稚園・小学校の校種の異なる教育について幅広く学習し、様々な教育課題に対する関心を高めること。 ・両コース合同で実施する授業と幼小コース別に実施する授業があるので、注意すること。

教育法規				単位数	2単位
授業コード	84050	科目ナンバリング	330B1-3400-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	岡村　富広				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

我が国の教育行政、学校教育、学校運営、教職員の在り方等が教育法規を根拠として成り立っていることを体系的に学び、教育に関する法規の重要性を理解する。また、今日的な教育上の諸問題について判断し対処していくためのリーガルマインドを養う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	我が国の教育の根拠となっている法規について、基礎的知識を身に付け、教育の社会的、制度的仕組みを理解することができる。	知識・技能
2	教育に関する法的思考の重要性を理解し，教育の在り方について、法規を通して体系的に理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	現実の教育上の諸課題について、教育法規的な観点からも考察し、判断できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業や課題(基礎問題）への取り組み度‥‥60%	1／2／3
2	筆記試験‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥40%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立小学校や日本人学校、県市教育委員会の職員および管理職としての経験を踏まえ、教育法規と学校教育との関係、あるいは学校での法令遵守の重要性などについて、具体例をあげて説明し、学生の理解を深める。また、学校が抱える実際的な課題や問題をどのように捉え、解決するかをともに考察する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.オリエンテーション
　-受講上の注意　教育法規を学ぶための基礎知識-
2.日本国憲法における教育条項
3.教育基本法Ⅰ-教育の理念及び目的・目標-
4.教育基本法Ⅱ-教育及び教育行政-
5.学校のしくみⅠ-学校の設置-
6.学校のしくみⅡ-学校の管理運営-
7.教職員Ⅰ-身分及び服務-
8.教職員Ⅱ-分限と懲戒-
9.教職員Ⅲ-教職員の研修-
10.教育課程Ⅰ-教育課程の編成-
11.教育課程Ⅱ-教科書及び学校教育と著作権-
12.児童・生徒Ⅰ-就学及び指導要録-
13.児童・生徒Ⅱ-生徒指導と懲戒-
14.学校保健・学校安全
15.試験説明、その他＜3/30変更＞

定期試験
15週目に定期考査を行います。
試験のフィードバックの方法
定期試験の次週(16週目)に模範解答を説明します。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
初めは「教育法規は難しく、馴染みがない」と思われるでしょう。しかし、学習を進めていくことにより、将来、皆さんが学校現場で担う教育活動の全てが、様々な法規（法律や規則）で細かく規定され運用されていることが理解できるでしょう。また、「いじめ」や「児童虐待」などの深刻な問題も、法律に関する知識なしには解決の道筋を見出すことはできません。 授業前半で,「教育小六法」を用い、法規の概要や重要な条文を学習します。その際、条文に関連する学校現場の状況を資料等を使い説明し、理解を深めます。後半では、学校現場における今日的な課題を取り上げ、グループワークでの気づきと講師の経験を絡めながら、課題に対する理解とともに実践での対応力を身につけることを目指した授業を行います。 毎回のレポートの作成を重視し、一人ひとりの学びと気づきを講師が評価します。さらに、２回目以降、小テストを行い、前回扱った条文の理解度を確かめます。 「教育小六法」は、教育法規のあらましや判例、関連する通知などが記載されています。いつも手元におき、慣れ親しむことから始めましょう。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 教育小六法　2023年版　学陽書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
使用しません。
オフィスアワー
質問等はメールで受け付けます。
連絡先
s5118@m.ndsu.ac.jp
留意事項
定期試験では「教育小六法」の持込みを許可します。

家庭教育				単位数	2単位
授業コード	84100	科目ナンバリング	330B1-4000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	福原　史子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　自立への教育・心の教育を踏まえ、少子化、核家族化、情報化等の時代に応じた家庭教育の在り方や親子間のコミュニケーションについて考える。さらに、家庭と保育所・幼稚園・認定こども園・小中学校、地域の役割や連携について理解し，岡山県内の最新の実践活動例から具体的な取り組みを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・現代社会における家庭教育に関する問題意識をもち、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	・家族のニーズに応じた多様な支援活動についての理解し、説明することができる。	知識・技能
3	・子どもを愛することと甘やかすことの違いを知り，愛が伝わるコミュニケーションを学び、よい人間関係の構築に活かすことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート試験　40%	1／2／3
2	授業への取り組み度　30%	1／2／3
3	小レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者は小学校教諭として学級担任をした経験から、学校・家庭・地域の連携の在り方と課題について多角的に取り上げ、その背景にある家庭の教育力低下とコミュニケーションの問題点を、学生が明確化し解決への道筋を思索することを促す。その上で、心理カウンセラーとして親子間のコミュニケーションの問題に長年取り組んできた特別講義講師により、具体的な事例と実践を基に学生のコミュニケーションスキル向上を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　家庭の意義と本質
2　子どもの自立と家庭・学校・地域の役割
3　保育所・幼稚園・小中学校の現状と家庭の責任
4　子どもの成長と伝統行事
5　基本的生活習慣の育成としつけ
6　子どもの食生活と食育
7　男女共同参画社会と共働き時代の家庭教育
8　仕事と家庭-ワークライフバランスを考える-
9　情報化社会と家庭教育
10　日本と世界の家庭教育
11　次世代育成推進事業
12　家庭と福祉・教育活動との連携
13　親子間のコミュニケーション１-聞くこと-（特別講義講師）
14　親子間のコミュニケーション２-伝えること-（特別講義講師）
15　子どもを取り巻く環境と今後の家庭教育（まとめ）

定期試験
定期試験は実施しない
試験のフィードバックの方法
最終授業時にレポートを提出する。内容は，現代の家庭教育をめぐる課題とその考察についてである。レポートは，コメントを付けて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回次時の資料とワークシートを配付するので、資料を熟読しテーマについて自分なりの考えをワークシートに記入し、授業に臨むことを求める（1時間）。 授業では、討論や討議、質疑応答、意見交換などを通してそれぞれのテーマを深めていく。 （復習）授業後は、授業の振り返りをし、それぞれのテーマに関する内容をまとめておくこと（45分）。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 自作資料を配布 ＜参考書・参考資料等＞ 『親育ち応援学習プログラム』，岡山県地域家庭教育推進協議会・岡山県教育委員会
オフィスアワー
オフィスアワー：月曜日５時限　水曜日３時限 質問は随時電子メールで受け付ける。
連絡先
fumikofk@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業では、教育（保育）者として、社会人として、次代の親として等、様々な角度から家庭教育を考える。

特別支援教育基礎論				単位数	2単位
授業コード	84110	科目ナンバリング	330A1-1000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	青山　新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の有する困難性、障害特性やその対応について、及び特別支援の視点を取り入れた保育、教育の現状や基礎的事項からインクルーシブ教育システムの今後について解説する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して、それらを自分のことばで表現できる。	知識・技能／主体性
2	主たる障害の特性を理解し、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。	知識・技能／主体性
3	特別支援の視点を取り入れた保育・教育の基礎的事項を自分のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート（期間中に作成及び講義後の振り返り）５０％	1／2／3
2	学期末試験　　５０％	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教員時代に経験した実践及び、現在指導・助言の立場でかかわっている幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校における具体的なエピソードや最新の知見を講義中に積極的に紹介し、特別支援教育について具体的なイメージを伴って学習を進められるように展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：　「障害」とは何か：「障害」の捉え方と多様な実態の子ども
第２回：特別支援教育とは何か：特別支援教育コーディネーターを軸とする支援体制の構築
第３回：特別な支援を必要とする子どもとは（１）自閉症スペクトラムのある子どもと教育
第４回：特別な支援を必要とする子どもとは（２）ＬＤ，ＡＤＨＤのある子どもと教育
第５回：特別な支援を必要とする子どもとは（３）言語障害、場面緘黙のある子どもと教育
第６回：特別な支援を必要とする子どもとは（４）知的障害のある子どもと教育
第７回：特別な支援を必要とする子どもとは（５）視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育
第８回：特別な支援を必要とする子どもとは（６）病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育
第９回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（１）幼稚園等における取組
第10回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（２）小学校における取組
第11回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（３）中学校、高等学校等における取組
第12回：合理的配慮の提供：当事者のお話から学ぶ
第13回：キャリア教育と特別支援教育：関係機関との連携による将来につなげるための指導の実際
第14回：特別支援教育における家族との協働：保護者のお話から学ぶ
第15回：インクルーシブ教育システムと共生社会の構築：特別支援教育の今後 とICT活用

定期試験
第16回目に定期試験を実施する。
試験のフィードバックの方法
必要に応じて、試験のポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で情報を提供する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の講義で、その日の講義内容に関連した参考文献や参考ＵＲＬを紹介する。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報や、更に発展的な内容についても適宜発信する。これらを参考にしながら、講義内容への関心を高め、理解や思索を進められるよう、講義外での学習に取り組んで欲しい。その学習に費やす時間としては概ね30分～60分を想定している。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『特別支援教育』ミネルヴァ書房，廣瀬由美子・石塚謙二，ミネルヴァ書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 『インクルーシブ教育ってどんな教育？』青山新吾他編著　学事出版 『特別支援教育すきまスキル　小学校下学年編』青山新吾・堀裕嗣編著　明治図書
オフィスアワー
講義中に指示する。電子メール等による質問、相談は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育課程論				単位数	2単位
授業コード	84160	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	後藤　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「教育課程」の意義を理解し、その根拠となる法令や学習指導要領について基礎的知識を習得すると共に、教育課程編成の制度やプロセスについて理解する。また、教育課程に沿った個々の教育活動について今日的課題に気付くと共に、ディスカッションを通してカリキュラム・マネジメントについて深く考え、よりよいカリキュラムを作成することの重要性を理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教育課程の意義、学習指導要領の内容等を理解し、説明することができる。	知識・技能
2	教育課程編成に必要な事項を整理しながら、教育のあり方やカリキュラムマネージメント等について考えたことをレポートやプレゼンなどで表現することができる。	思考・判断・表現力
3	グループ・デイスカッションする中で、学んだ事を基に教育課程についての理解や考えを深め、よりよい教育課程を創り上げるための自分の考えを積極的に出し合うことができる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・レポート	３０％	1／2
2	・演習・発表態度	３０％	2／3
3	・定期テスト	４０％	1／2
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教諭・教頭・校長として勤務の経験から、教育課程編成、実施、運営上の配慮事項等について、現場での具体例を示しながら講義をし、演習をさせていくことで、学生により実践的な理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画

第１回：教育課程とは、授業の目的と内容、授業の進め方・受け方、評価の仕方
第２回：教育課程の意義と教育課程に関する法令
第３回：教育課程の編成の原則
第４回：教育課程の役割（特色のある教育活動の展開）
第５回：教育課程の役割（育成を目指す資質・能力）
第６回：教育課程の役割（カリキュラム・マネジメントの充実）

第７回：教育課程の編成（学校教育目標・指導計画等）

第８回：教育目標の編成（教科横断的な視点）

第９回：教育課程の編成（学校段階等間の接続）

第10回：教育課程の実施と学習評価の充実

第11回：教育課程の実施と授業改善
第12回：教育課程の実施①（今日的課題について）
第13回：教育課程の実施②（今日的課題について）
第14回：学校運営上の留意事項（家庭や地域社会との連携）
第15回：学習指導要領等の改訂の経過と教育課程の意義についてのまとめ

定期試験
１６週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を示す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回manaba folioで指示する講義のテーマについて深まった自分の考えや次回の講義内容につながる経験等についてレポートにまとめ、必ず提出を行うこと。（約４０分）講義の時に、レポート内容について紹介をするので、参考にしながらレポート内容の質を高め、自身の教育観を深めていくこと。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編　文部科学省
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示）　文部科学省 ＜参考書等＞ 授業中に、プリント、資料を配付する。
オフィスアワー
質問はメールで受け付ける。
連絡先
m.goto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・学校教育の基幹である「教育課程」を学ぶ授業である。学習指導要領（文部科学省）の文章を読み解くことができるように努力すること。 ・グループ演習では、ディスカッションを通して主体的・対話的で深い学びを自ら実感できるよう、積極的に取組むこと。 ・児童理解が深まるので、学校支援ボランティア等に積極的に参加して、多様な現場体験の機会をもつよう心がけること。

特別活動の指導法					単位数	2単位
授業コード	84200	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	後藤　緑					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

学習指導要領に示された特別活動の目標や内容について理解し、「自己実現」につながる資質・能力を育むための特別活動の充実を図ることを中心に指導者としての必要な知識や指導方法について学ぶ。本講座では講義及びグループ・ディスカッション・模擬授業などを通して、教育現場に立つ指導者としての実践的指導力を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された特別活動の目標・内容について理解し、学校教育における特別活動の意義について説明することができる。	知識・技能
2	・特別活動の特質や指導原理を理解した集団形成への効果的な指導の在り方や教育課題を踏まえた学級経営等について考えたことをレポートや指導案などに表現したり模擬授業を行ったりすることができる。	思考・判断・表現力
3	・グループ・デイスカッションや模擬授業を行ったりする中で、特別活動で育むことが求められている「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」等についての自分の考えを積極的に出したり、よりよい模擬授業にするために工夫をしたりすることができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・レポート・指導等等　　３０％	1／2
2	・演習・ 模擬授業　　３０％	2／3
3	・定期試験　　４０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教諭・教頭・校長として勤務の経験から、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」について現場での具体例を示しながら講義をし、演習をさせていくことで、特別活動の充実を図ることの重要性を理解させるとともに実践的指導力を育成する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．特別活動の意義 子どもの生活・発達上の課題と学校教育における特別活動の意義
２．特別活動の目標と特質 学習指導要領における歴史的変遷、集団活動の意義
３．特別活動全体指導計画 特色ある学校教育の創造～教科･領域との関連や家庭･地域社会との連携の意義
４．学級活動と学級経営 学級活動と学級集団づくりについて
５．学級活動目標と内容　学級活動(1)(2)(3)の特質及び指導過程
６．学級活動①話合い活動の指導 授業の実際ＶＴＲ視聴、計画委員会について
７．学級活動②話合い活動の指導　話合い活動を充実させるための工夫
８．学習指導計画　学習指導案の作成の仕方、評価と指導の一体化について
９．模擬授業実践① 学級活動(1)「話合い活動」～合意形成に向けて～
10．模擬授業実践② 学級活動(2)(3)適応指導 ～意思決定に向けて～
11．演習 人間関係づくり　構成的エンカウンターの授業
12．児童会活動の指導 特質と内容　事例に学ぶ　自治の意味と教師の役割について
13．クラブ活動の指導 特質と内容　指導における留意点
14．学校行事の意義　特質と内容　学校行事に主体的に取り組ませるための工夫
15．特別活動の指導法まとめ　講座テーマに立ち返り学校教育における特別活動の意義について学びを交流する

定期試験
筆記試験(16週目)
試験のフィードバックの方法
筆記試験終了後に解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指示する講義のテーマについて深まった自分の考え等についてレポートにまとめ、必ず提出を行うこと。また、模擬授業を行うための指導案や資料作成を計画的に行うこと。（約５０分） 講義での内容や参考資料を読み解きながら、各自で特別活動についての理解を深めていくこと。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ・みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動　小学校編，文部科学省国立教育政策研究所，文溪堂 ・小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年)，文部科学省
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ ・小学校学習指導要領(平成29年)，文部科学省 ・必要に応じて授業で紹介する
オフィスアワー
・質問は授業後に受け付ける
連絡先
m.goto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・これまでの学校生活を振り返り、人間関係形成における教師の役割について考えておくこと。 ・大学や地域社会での様々な行事に積極的に参加し、児童を社会参画へとつなぐ教師の役割について考えておくこと。 ・模擬授業を行うための準備をすること通して特別活動の重要性を理解するとともに、自己実現を図るということについて考え続けること。

教育課程の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	84260	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三宅　一恵、伊藤　美保子、西山　節子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

幼児教育の基本を踏まえ、目的・目標に向かってどのような筋道をたどって教育・保育を進めていくかを学び、教育課程等の編成の基本原理を理解する。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭におきながら、幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性についての学びを深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼児教育における望ましい教育課程等の編成の在り方や内容について理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	・教育課程等と指導計画の関係や内容について理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・課題テスト	30点	1／2／3
2	・学期末テスト	50点	1／2／3
3	・受講態度	20点	1／2／3
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤は保育園、三宅・西山は幼稚園に勤務し、実際に各園の子どもの実態に応じた教育課程・指導計画等を作成した経験から、望ましい教育課程や指導計画等の在り方や内容、またその関係性について、学生の理解を深めるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：乳幼児期の特性と保育・教育課程の果たす役割（改訂の変遷と改訂内容）
（担当：伊藤、三宅、西山）
第２回：幼稚園教育の基本（教育課程の機能）（担当：西山）
第３回：幼稚園教育の目標（法規との関連）（担当：西山）
第４回：教育課程の意義と特徴（担当：西山）
第５回：保育課程の意義と特徴（担当：伊藤）
第６回：幼保連携型認定こども園の意義と特徴（担当：三宅）
第７回：教育課程編成の方法（担当：西山）
第８回：幼稚園における指導計画の意義と役割（担当：西山）
第９回：保育園における指導計画の意義と役割（担当：伊藤）
第10回：長期の指導計画と短期の指導計画の関連（担当：三宅）
第11回：指導計画の実際（担当：伊藤）
第12回：指導計画作成上の留意点（担当：伊藤）
第13回：カリキュラム・マネジメントの意義（担当：三宅）
第14回：カリキュラム評価の基礎（担当：三宅）
第15回：反省・評価と指導計画・教育課程の改善（担当：三宅）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験実施後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説書』等の該当箇所をよく読んでおくこと。また、毎回の授業で、その日の内容に関して資料を配布する。授業後に自主学修を行い、理解を深めるよう努力してほしい（約１時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』（令和3年3月），文部科学省，チャイルド社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月），内閣府・文部科学省・厚生労働省，フレーベル館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携＞ 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月），文部科学省，フレーベル館 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） 『保育所保育指針解説』（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） ＜参考書等＞ 随時資料を配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー それぞれの担当教員が授業中に指示をする
連絡先
k.miyake@m.ndsu.ac.jp（三宅） mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp（伊藤） s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp（西山）
留意事項
幼稚園教育について理解を深めるとともに、保育園、こども園についても理解を深める。

国語科指導法					単位数	2単位
授業コード	84300	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	赤木　雅宣					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校国語科の目標・指導内容を理解するとともに，指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について指導案の作成や模擬授業実践を通して、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。	知識・技能
2	・国語科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。	思考・判断・表現力
3	・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案に記すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業での意欲・態度（活動の様子）　20点	2／3
2	・課　題　20点	2／3
3	・授業ノート作成　20点	1／2
4	・（授業後）小レポート，最終レポート　40点	2
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立小学校の教員として授業実践してきた経験を活かして、自らが学生を子ども役にした模擬授業を展開して、教材研究を授業づくりに繋ぐ。児童の実態に即した学習活動の展開等を観点として、具体的な問題提起をする。学生は、よりよい授業づくりについて考えをもち、指導案作成や模擬授業実践に活かしていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　国語科の目標と指導内容（学習指導要領が求める資質・能力）
2　Ａ領域「話すこと・聞くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
3　Ａ領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり①（子どもの音声言語の発達段階とその指導）
4　Ａ領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
5　Ｂ領域「書くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
6　Ｂ領域「書くこと」の授業づくり①（表現過程の理解と指導方法の検討）
7　Ｂ領域「書くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
8　Ｃ領域「読むこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
9　Ｃ領域「読むこと」の授業づくり①（読みの学習指導理論の理解と指導方法の検討）
10 Ｃ領域「読むこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
11 言語事項の授業づくり①（書写を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）
12 言語事項の授業づくり②（新出漢字を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）
13 ３領域１事項の授業づくりのまとめ（指導上の留意点の検討と評価のあり方について）
14 情報機器を活用した授業づくりの実際（デジタル教科書･デジタル黒板等、ICTの活用）
15 発問・板書などの指導技術とノート指導のあり方
16 まとめ

定期試験

レポート、指導案等を作成して提出する。
毎回の学びをノートにまとめておく。（提出を求める。所要時間３０～４０分程度を想定）
最終レポート

試験のフィードバックの方法

「⑯まとめ」の中で、それぞれが作成したポートフォリオをもとに、ポイントを振り返る。
そのうえで、最終レポート作成に必要な内容について伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・「国語Ⅰ」の授業で扱った内容について、実際に授業として構想していく方策を学ぶ。「国語Ⅰ」のレジュメ、ノートなどを整理して見直し、復習して臨むこと。
・授業ノートを作成し、毎回の内容をまとめていくことになる。授業中に配布した資料やメモしておいたことを次回までにまとめておく。ノートはポートフォリオの役割をもち、評価の対象にもなる。
・学習指導案を作成することが複数回ある。それをもとにして模擬授業を実践する機会もある。そのために作成した案や資料も授業ノートに貼付してまとめ、成果と課題を含めた整理を重ねていくこと。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
○小学校国語教科書「2年下」「4年下」「6年」光村図書版
○教科書指定：文部科学省『小学校学習指導要領解説』国語編（平成２９年告示）
○「基本を大切にした国語科授業づくり」2018年　ISBN978-4-86429-996-1　大学教育出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
○「小学校学習指導要領」（平成２９年３月告示　文部科学省）

オフィスアワー

オフィスアワー　授業中に指示する

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）

留意事項

・教育実習等に活かすことができるように，意欲をもって取り組むこと。
・学習指導案を作成することが複数回ある。よりよい案になるように粘り強く取り組むこと。
・模擬授業の形態をとることがあるので，授業者として，あるいは，子ども役として，積極的に参加すること。

社会科指導法				単位数	2単位
授業コード	84350	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校社会科の目標・指導内容を理解するとともに、指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について学習指導案の作成や模擬授業実践を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された社会科の目標や内容について説明することができる。	知識・技能
2	・社会科の学習内容とその背景となる学習理論について理解を深め，授業づくりに活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	・具体的な場面を想定した学習指導案を作成し，模擬授業を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業後のレポート　３０％	1／2／3
2	学習指導案の作成及び模擬授業　４０％	1／2／3
3	定期試験　３０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立の小学校教諭，教頭として２８年間の現場経験をもち，その間，岡山市の小学校社会科の授業研究に深く携わってきた。この経験を活かし，社会科の授業づくりに必要な学習指導要領の理解を促すとともに，教材研究の方法や子どもの意識のとらえ方，具体的な指導法等についての助言を行う。更に，学習指導案作成や模擬授業を実施することで，実践的な授業力を育成する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会科の目標と指導内容（学習指導要領が求める資質・能力）
2　第３学年の単元構成とその展開　①学区探検の仕方（指導要領の検討・見学の指導）
3　第３学年の単元構成とその展開　②見学のまとめ方（見学・調査のまとめ方とその指導）
4　第４学年の単元構成とその展開　①副読本の活用の仕方（指導要領の検討・教科書以外の教材の指導）
5　第４学年の単元構成とその展開　②学習活動の工夫（具体的活動の理解と指導方法の検討）
6　第５学年の単元構成とその展開　①資料の活用の仕方（指導要領の検討・資料検討とその指導）
7　第５学年の単元構成とその展開　②教科書の活用の仕方（教科書教材の検討とその指導）
8　第６学年の単元構成とその展開　①指導過程の工夫（指導要領の検討・問題解決型授業の意義）
9　第６学年の単元構成とその展開　②ノート指導の工夫（表現過程の理解と指導方法の検討）
10　指導細案の作成（発問・板書・ICT活用などの指導技術と指導上の留意点の検討と評価のあり方）
11　学習シートの作成（学習支援の仕方の検討と学習シートの作成）
12　模擬授業（１）第３学年（生活科からの接続を考慮した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
13　模擬授業（２）第４学年（体験的活動を重視した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
14　模擬授業（３）第５学年（資料の活用を重視した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
15　模擬授業（４）第６学年（中学校への接続を考慮した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）

定期試験
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
①小学校学習指導要領解説社会編の該当部分を読み，目標や内容の要点をまとめておくこと。教科書の該当部分を事前に読んで受講すること。（約30分） ②授業後は，講義の内容や模擬授業を振り返ったレポートを作成し提出すること。（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 文部科学省検定「小学校社会科教科書３年，４年，５年，６年」，東京書籍 文部科学省検定「教科用図書　地図」，帝国書院 文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」（平成２９年７月），日本文教出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は随時，電子メール等で受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
doi164@m.ndsu.ac.jp
留意事項

算数科指導法					単位数	2単位
授業コード	84400	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	杉能　道明					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校算数科の目標と学習内容を理解すると共に、数学と関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された算数科の目標と学習内容を知り、説明することができる。	知識・技能
2	・算数科の学習内容とその背景となる学問・数学とを関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりを実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・学習指導案の作成・模擬授業　60%	1／3
2	・レポート　20%	2
3	・授業に取り組む態度　20%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年の現場経験、小１～中３までの算数・数学の指導経験を持つ。この実務経験を活かして、算数科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：算数科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの学力の実態）
第２回：授業づくりのための教材研究（数学と関連した教材研究）
第３回：算数科における単元の目標と指導計画（授業設計の仕方）
第４回：算数科における評価　評価規準と評価基準（学習評価の考え方）
第５回：数学的活動のねらい（学習指導理論に基づく学習活動）
第６回：算数科で扱う教具の指導　用語・記号等の指導（情報通信技術及び教材の効果的な活用）
第７回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の３つの視点「主体的・対話的で深い学び」）
第８回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域　下学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第９回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域　上学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域　下学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域　上学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「測定」領域　下学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「変化と関係」領域　上学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「データの活用」　下学年・上学年（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）

定期試験
定期試験は実施しない
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
模擬授業の準備に際しては，よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い，協力して取り組むこと。 講義の内容や模擬授業を振り返り，自分の考えをまとめてＡ４・１枚程度のレポートを作成し，翌週の授業の際に提出していただきます（30分）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 〇わかる算数科指導法改訂版，赤井利行，東洋館出版社 〇小学校算数科教科書「４年上下」「５年」「６年」，啓林館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編 小学校算数科教科書「１年」「２年上下」「３年上下」，啓林館 ＜参考書等＞ 自作プリント
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日　１・２時限
連絡先
sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

理科指導法［a］					単位数	2単位
授業コード	84448	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	鳥居　恭治					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校学習指導要領解説理科編の学年別の目標や内容を理解し，各学年の指導計画や学習指導案を作成する。さらに，教材・教具の開発や製作を行い，模擬授業の実践や植物の成長の継続観察等を通して，授業づくりや指導技術の向上を目指す基盤を整えることができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容，教材研究の視点等を理解し，模擬授業を行うことを通して，指導技術の基礎・基本を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への関心・意欲・態度及び模擬授業　40%	1
2	授業後に提出する感想や小レポート・宿題　30%	1
3	定期試験　30%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で担任や理科専科（幡多小学校で2年間と岡大附属小学校で6年間）を通して理科を教えていた経験から，授業を行うまでの過程を取り上げ，学習指導案の作成を通して，学習指導要領や教科書の内容の解釈の仕方，教材研究の在り方等，授業を行う基礎を構築させる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　学習指導要領の理科の目標と内容の特徴について読み解き，学年ごとの特色について考える。
2　各学年の内容を読み解き，学年ごとの児童の発達段階を考慮した授業設計や学習指導案の書き方を考える。
3　理科の授業の参観(VTR)をして，情報通信技術や教師の支援のあり方と評価について考える。
4　第３学年の内容を読み解き，一つの単元を決め授業の展開を考え，学習指導案を考える。
5　第３学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
6　第５回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
7　第６回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
8　第４学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
9　第８回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
10　第９回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
11　第５学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
12　第11回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
13　第12回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
14　第６学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
15　第14回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点について考える。

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を公開
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・　小学校の教職に就くことを前提とした講義である。教育実習に活かすことができるよう意欲をもって取り組みましょう。 ・　模擬授業に備えて，予め決めた学年や単元の学習指導案やワークシート，板書計画，教材・教具等を作成していきます。 ・　班の中で授業を行い，反省した後，修正案を作成していきます。 ・　再度授業を行い，反省した後，最終の学習指導案を作成して，学習指導案集を完成させます。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ・小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省），東洋館出版社 ・小学校教科書　理科3年4年5年6年　文部科学省検定，東京書籍
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書・参考資料＞ ・授業に必要な資料等は，その都度配布又は紹介する。
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。
連絡先
s5113@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）を繰り返し読むこと。

理科指導法［b］					単位数	2単位
授業コード	84450	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	鳥居　恭治					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

小学校学習指導要領解説理科編の学年別の目標や内容を理解し，各学年の指導計画や学習指導案を作成する。さらに，教材・教具の開発や製作を行い，模擬授業の実践や植物の成長の継続観察等を通して，授業づくりや指導技術の向上を目指す基盤を整えることができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容，教材研究の視点等を理解し，模擬授業を行うことを通して，指導技術の基礎・基本を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への関心・意欲・態度及び模擬授業　40%	1
2	授業後に提出する感想や小レポート・宿題　30%	1
3	定期試験　30%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校で担任や理科専科（幡多小学校で2年間と岡大附属小学校で6年間）を通して理科を教えていた経験から，授業を行うまでの過程を取り上げ，学習指導案の作成を通して，学習指導要領や教科書の内容の解釈の仕方，教材研究の在り方等，授業を行う基礎を構築させる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　学習指導要領の理科の目標と内容の特徴について読み解き，学年ごとの特色について考える。
2　各学年の内容を読み解き，学年ごとの児童の発達段階を考慮した授業設計や学習指導案の書き方を考える。
3　理科の授業の参観(VTR)をして，情報通信技術や教師の支援のあり方と評価について考える。
4　第３学年の内容を読み解き，一つの単元を決め授業の展開を考え，学習指導案を考える。
5　第３学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
6　第５回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
7　第６回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
8　第４学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
9　第８回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
10　第９回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
11　第５学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
12　第11回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，各班で振り返りを行い，修正案の作成を行う。
13　第12回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点を考える。
14　第６学年の学習指導案を作成し，各班で発表するとともに教材研究を行う。
15　第14回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い，全体で振り返りを行い，指導上の留意点について考える。

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を公開
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・　小学校の教職に就くことを前提とした講義である。教育実習に活かすことができるよう意欲をもって取り組みましょう。 ・　模擬授業に備えて，予め決めた学年や単元の学習指導案やワークシート，板書計画，教材・教具等を作成していきます。 ・　班の中で授業を行い，反省した後，修正案を作成していきます。 ・　再度授業を行い，反省した後，最終の学習指導案を作成して，学習指導案集を完成させます。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ・小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省），東洋館出版社 ・小学校教科書　理科3年4年5年6年　文部科学省検定，東京書籍
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書・参考資料＞ ・授業に必要な資料等は，その都度配布又は紹介する。
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。
連絡先
s5113@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・小学校学習指導要領解説　理科編（平成２９年6月　文部科学省）を繰り返し読むこと。

生活科指導法				単位数	2単位
授業コード	84500	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉能　道明				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　小学校生活科の目標と学習内容を理解すると共に、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された生活科の目標と学習内容を知り、説明することができる。	知識・技能
2	・生活科の学習内容とその背景となる学習指導理論について知ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○学習指導案の作成・模擬授業　60%	1／3
2	○レポート　20%	2
3	○授業に取り組む態度　20%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　国立大学附属小学校、公立小学校の勤務経験と小１・小２の担任経験を持つ。この実務経験を活かし、生活科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：生活科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの発達段階）
第２回：環境マップ、人材マップ、生活科暦の作成（教科の特性に沿った教材研究）
第３回：指導計画の作成と情報通信技術及び教材の活用（授業設計の仕方、情報通信技術及び教材の効果的な活用）
第４回：児童の気付きの質を高める工夫（学習指導理論に基づく学習活動）
第５回：生活科の評価（学習評価の考え方）
第６回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の３つの視点「主体的・対話的で深い学び」）
第７回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　学校と生活（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第８回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　家庭と生活　地域と生活（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第９回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　公共物や公共施設の利用（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　季節の変化と生活（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　自然や物を使った遊び（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　動植物の飼育・栽培（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　生活や出来事の交流（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践　自分の成長（模擬授業の実施と授業改善の３つの視点での振り返り）
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）

定期試験
定期試験は実施しない
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
模擬授業の準備に際しては，よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い，協力して取り組むこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示），文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編，文部科学省 小学校生活科教科書「上」「下」東京書籍 ＜参考書等＞ 自作プリント
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日　１・２時限
連絡先
sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽科指導法				単位数	2単位
授業コード	84550	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校音楽科における目標と内容を理解するとともに、子どもの発達にふさわしい授業づくり、指導法について学ぶ。また、指導案作成や模擬授業実践を通して、具体的な音楽授業場面を想定した授業設計の方法を理解する。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	小学校音楽科の目標や内容を理解する。	知識・技能
2	子どもの発達過程を考慮した、教材の効果的な活用法と学習指導理論について理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度、発表・討論への参加（40%）	1／2／3
2	レポート（30%）	1／2／3
3	期末試験（30%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、子どもの音楽的発達の過程や連続性を考慮した授業づくりの在り方を示すとともに、具体的な授業場面を想定した活動を通して、学生の音楽実践力や指導力を高める。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画

第１回：児童期における子どもの音楽的発達と授業実践（音楽科が求める資質・能力）
第２回：就学前教育と小学校との連携、音楽の役割り（子どもの思考の実態や音楽経験の理解）
第３回：常時活動と音楽遊び（音楽科の特性に応じた教材の活用法）
第４回：学習指導要領の目標と内容（音楽科が求める資質・能力）
第５回：小学校音楽科の教育内容「歌唱」（歌唱指導の方法と教材研究）
第６回：小学校音楽科の教育内容「器楽」（主にリコーダーの指導方法と教材研究）
第７回：小学校音楽科の教育内容「音楽づくり」（音楽づくりの具体的内容と教材研究）
第８回：小学校音楽科の教育内容「鑑賞」（学校教育における鑑賞の指導方法と教材研究）
第９回：子どもと音文化（子どもの認識や思考の実態の理解）
第10回：授業の実際（情報通信技術の効果的な活用法）
第11回：指導案作成と評価（音楽科における指導案作成の方法と評価の理解）
第12回：「歌唱」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）
第13回：「器楽」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）
第14回：「音楽づくり」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）
第15回：「鑑賞」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）

定期試験
定期試験　（筆記試験を行う。小学校音楽科における指導内容や方法に関するものである。）
試験のフィードバックの方法
試験終了後に、試験内容の解説を提示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業内容の復習や模擬授業等のための時間外準備が必要である。本授業では、歌唱・器楽（リコーダー）、音楽づくり等の表現活動や、子どもの発達にふさわしい実践・授業づくりについて学ぶ。日頃から個人練習を行い、自分自身の音楽能力を高めるようにすること。 ・授業時に出された課題を完成させて、翌週の授業に臨むこと（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領解説音楽編（平成２９年７月），文部科学省 小学生の音楽１～６，教育芸術社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書等＞ ・リコーダーを各自必ず購入すること。 ・小学校学習指導要領（平成２９年３月告示　文部科学省） 詳しくは、授業中に指示する。 ＜参考書等＞ 授業中に、必要に応じてプリントを配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー 授業中に指示する
連絡先
藤掛 (a-fujikake@m.ndsu.ac.jp)
留意事項

図画工作科指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	84600	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校図画工作科の目標と指導内容を理解するとともに基盤となる指導理論について理解を深める。また、具体的な教材・教具についての実践体験を通して、学習場面の理解と自らの技術の向上に努める。様々な授業場面を想定した学習指導案を作成する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	・図画工作科の学習内容のその背景となる学習指導理論の理解と内容の実践体験 を味わうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	・授業内容を想定した授業計画をおこない、指導案を記すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・提出物としては ①水彩画　②紙工作　③版画　④スケッチブック一冊⑤学習指導案⑥小レポート 提出物　70%	1／2／3
2	授業態度・発表　　３０％	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

７年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこなう様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、図画工作指導にあたる。様々な図画工作（絵画、立体、工作、造形、鑑賞）指導を通して、観察力、描写力、鑑賞力、表現力を育てるとともに美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回：図画工作科教育の史的意義　　（図画工作科が求める資質・能力）
第2回：学習指導要領「図画工作」の第１・２・３学年の目標及び内容の理解

第3回：学習指導要領「図画工作」の第４・５・６学年の目標及び内容の理解

第4回：学習指導案の作成と模擬授業の実践方法の検討（指導上の留意点と授業設計の重要性の理解）

第5回：A表現「色をつくる（水彩画・画面構成、制作）」（教材・教具の理解と構想）
第6回：B鑑賞「色をつくる(水彩画・制作、鑑賞)」(教材・教具の理解と実践、評価)
第7回：A表現「消える絵本(紙工作・画面構成　制作)」(教材・教具の理解と構想)
第8回：B鑑賞「消える絵本(紙工作・制作、鑑賞)」(教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価　)

第9回：中学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「消える絵本」
第10回：A表現「開くと立つ家(紙工作・画面構成・制作)」(教材・教具の理解と構想)
第11回：B鑑賞「開くと立つ家(紙工作・制作・鑑賞)」(教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価)

定期試験
定期試験は実施しない
試験のフィードバックの方法
課題レポート・作品はその都度提出後に評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技、演習をともなう科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成２９年７月）　文部科学省
必携書・参考書（教科書販売以外）
小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）　文部科学省
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
各課題の作品提出によって，総合的に評価する。また，授業態度も評価の対象とする。

図画工作科指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	84610	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片山　裕之				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校図画工作科の目標と指導内容を理解するとともに基盤となる指導理論について理解を深める。また、具体的な教材・教具についての実践体験を通して、学習場面の理解と自らの技術の向上に努める。様々な授業場面を想定した学習指導案を作成する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解するすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	・図画工作科の学習内容のその背景となる学習指導理論の理解と内容の実践体験を味わうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	・授業内容を想定した授業計画をおこない、指導案を記すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・提出物としては ①水彩画　②紙工作　③版画　④スケッチブック一冊⑤学習指導案⑥小レポート 提出物　70%	1／2／3
2	授業態度・発表　３０％	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

７年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこる様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、図画工作指導にあたる。様々な図画工作（絵画、立体、工作、造形、鑑賞）の指導を通して、観察力、描写力、鑑賞力、表現力を育てるとともに、美的感性も養う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回：図画工作科教育の史的意義　（図画工作科が求める資質・能力）
第2回：学習指導要領「図画工作」の第１・２・３学年の目標及び内容の理解

第3回：学習指導要領「図画工作」の第４・５・６学年の目標及び内容の理解

第4回：学習指導案の作成と模擬授業の実践方法の検討（指導上の留意点と授業設計の重要性の理解）

第5回：A表現「色をつくる（水彩画・画面構成、制作）」（教材・教具の理解と構想）
第6回：B鑑賞「色をつくる(水彩画・制作、鑑賞)」(教材・教具の理解と実践、評価)
第7回：A表現「消える絵本(紙工作・画面構成　制作)」(教材・教具の理解と構想)
第8回：B鑑賞「消える絵本(紙工作・制作、鑑賞)」(教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価　)

第9回：中学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「消える絵本」
第10回：A表現「開くと立つ家(紙工作・画面構成・制作)」(教材・教具の理解と構想)
第11回：B鑑賞「開くと立つ家(紙工作・制作・鑑賞)」(教材・教具の理解と実践及び指　導案の作成　と評価)　第12回：高学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「開くと立つ家」

第13回：A表現「版で表す(木版画・画面構成・制作)」(教材・教具の理解と構想)
第14回：B鑑賞「版で表す(木版画・制作・鑑賞)」(教材・教具の理解と実践、評価)
第15回：情報通信技術を活用した授業づくり　（デジタル黒板の活用）
第16回：まとめ　（作品提出　総合批評会）

定期試験
定期試験は実施しない
試験のフィードバックの方法
課題レポート・作品はその都度提出後評価説明をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実技、演習をともなう科目なので、授業計画に従った制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
小学校学習指導要領　図画工作編（平成２９年７月）　文部科学省
必携書・参考書（教科書販売以外）
小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）　文部科学省
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
各課題の作品提出によって，総合的に評価する。また，授業態度も評価の対象とする。

家庭科指導法［a］					単位数	2単位
授業コード	84650	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	西　弘子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

家庭科教育の意義について理解し，実際に家庭科学習指導案を作成して模擬授業を行う。具体的には，教材観，児童観，教材の系統観，指導観等について理解し，新学習指導要領に示されている家庭科に求められる適切な題材の設定ができる力を養うこと，児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画が立てられること，評価の観点を明らかにする力を養うこと等，模擬授業を通して教師としての資質を育成する。
また，自ら立てた授業計画がより適切であったか等についても探求し，自己改善のために授業におけるＰＤＣＡを実施する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教材研究の深さが授業を成功させる要であり、児童の学習意欲とも深く関連している。家庭の授業で学んだ衣・食・住を基盤に授業構想を考え、指導案を作成して模擬授業を実施し、教師としての資質を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	ミニテスト・・・・・・・・・・・１０％	1
2	課題レポート・・・・・・・・・・１０％	1
3	模擬授業・・・・・・・・・・・60%	1
4	定期試験・・・・・・・・・・・20%	1
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

長年，小学校の教師として多くの指導案を書いて研究授業を重ねてきた経験や，家庭科部役員として，各小学校や附属小学校の家庭科研究会に携わってきた実績を踏まえ，授業を行うためには，何が必要か，どのように教材研究を行えば良いのか，板書計画や教師の発問，アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）は，どのように行えば良いのか等について，模擬授業を通して具体的に身に付けさせる。
また，模擬授業後に指導講評することで，授業についてフィードバックし，更に高次な授業へと高めていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　家庭科の歴史と新しい学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて
2　家庭科の題材指導計画／年間指導計画の工夫と学習評価
3　家庭科学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目
4　「Ａ　家族・家庭生活」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
5　「Ｂ　衣食住の生活」領域の内容と指導計画作成／ICTを活用して１食分の献立作成
6　「Ｂ　衣食住の生活」／１食分の調理実習
7　「Ｃ　消費生活・環境」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
8　「Ｃ　消費生活・環境」／洗剤の働きと食品添加物の実験
9　模擬授業実施と振り返り（１）（２）「Ａ　家族・家庭生活」５年生
10　模擬授業実施と振り返り（３）（４）「Ｂ　衣食住の生活」５年生
11　模擬授業実施と振り返り（５）（６）「Ｃ　消費生活・環境」５年生
12　模擬授業実施と振り返り（７）（８）「Ａ　家族・家庭生活」６年生
13　模擬授業実施と振り返り（９）(10)「Ｂ　衣食住の生活」６年生
14　模擬授業実施と振り返り(11)(12)「Ｃ　消費生活・環境」６年生
15　模擬授業の総括／模擬授業全体の振り返りと授業改善
16　定期試験
※　教材研究の後、作成した学習指導案でグループごとに模擬授業を行い，授業実践力を高める。

定期試験
定期試験と模擬授業についてのレポート
試験のフィードバックの方法
定期試験については解答を提示する。模擬授業のフィードバックは，全ての模擬授業についてプリントにまとめて配布し，良かった所や改善点などについて説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指導案を作成して実施する模擬授業は，事前に，グループでしっかり話し合い，板書計画や細案を作成して練習して臨むことが大切である。練習を重ねると，他のグループの模擬授業について，良い点や改善点などを見つけることができ，的確な意見を述べることができるし，自分の授業改善に活かすことができる。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領解説　家庭編，文部科学省，東洋館出版社 わたしたちの家庭科５・６　開隆堂出版株式会社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総則編』平成２９年７月　文部科学省 『初等家庭科の研究』　大竹美登利・倉持清美　萌文書林 『平成29年改訂 小学校教育課程実践講座』　岡　陽子・鈴木明子　ぎょうせい
オフィスアワー
指導案の作成と模擬授業の実践についての相談は，授業前か授業後に受け付ける。
連絡先
tr-4@ndsu-e.ed.jp
留意事項

家庭科指導法［b］					単位数	2単位
授業コード	84660	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	西　弘子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

家庭科教育の意義について理解し，実際に家庭科学習指導案を作成して模擬授業を行う。具体的には，教材観，児童観，教材の系統観，指導観等について理解し，新学習指導要領に示されている家庭科に求められる適切な題材の設定ができる力を養うこと，児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画が立てられること，評価の観点を明らかにする力を養うこと等，模擬授業を通して教師としての資質を育成する。
また，自ら立てた授業計画がより適切であったか等についても探求し，自己改善のために授業におけるＰＤＣＡを実施する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教材研究の深さが授業を成功させる要であり、児童の学習意欲とも深く関連している。家庭の授業で学んだ衣・食・住を基盤に授業構想を考え、指導案を作成して模擬授業を実施し、教師としての資質を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	ミニテスト・・・・・・・・・・・１０％	1
2	課題レポート・・・・・・・・・・１０％	1
3	模擬授業・・・・・・・・・・・60%	1
4	定期試験・・・・・・・・・・・20%	1
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

長年，小学校の教師として多くの指導案を書いて研究授業を重ねてきた経験や，家庭科部役員として，各小学校や附属小学校の家庭科研究会に携わってきた実績を踏まえ，授業を行うためには，何が必要か，どのように教材研究を行えば良いのか，板書計画や教師の発問，アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）は，どのように行えば良いのか等について，模擬授業を通して具体的に身に付けさせる。
また，模擬授業後に指導講評することで，授業についてフィードバックし，更に高次な授業へと高めていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　家庭科の歴史と新しい学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて
2　家庭科の題材指導計画／年間指導計画の工夫と学習評価
3　家庭科学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目
4　「Ａ　家族・家庭生活」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
5　「Ｂ　衣食住の生活」領域の内容と指導計画作成／ICTを活用して１食分の献立作成
6　「Ｂ　衣食住の生活」／１食分の調理実習
7　「Ｃ　消費生活・環境」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
8　「Ｃ　消費生活・環境」／洗剤の働きと食品添加物の実験
9　模擬授業実施と振り返り（１）（２）「Ａ　家族・家庭生活」５年生
10　模擬授業実施と振り返り（３）（４）「Ｂ　衣食住の生活」５年生
11　模擬授業実施と振り返り（５）（６）「Ｃ　消費生活・環境」５年生
12　模擬授業実施と振り返り（７）（８）「Ａ　家族・家庭生活」６年生
13　模擬授業実施と振り返り（９）(10)「Ｂ　衣食住の生活」６年生
14　模擬授業実施と振り返り(11)(12)「Ｃ　消費生活・環境」６年生
15　模擬授業の総括／模擬授業全体の振り返りと授業改善
16　定期試験
※　教材研究の後、作成した学習指導案でグループごとに模擬授業を行い，授業実践力を高める。

定期試験
定期試験と模擬授業についてのレポート
試験のフィードバックの方法
定期試験については解答を提示する。模擬授業のフィードバックは，全ての模擬授業についてプリントにまとめて配布し，良かった所や改善点などについて説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指導案を作成して実施する模擬授業は，事前に，グループでしっかり話し合い，板書計画や細案を作成して練習して臨むことが大切である。練習を重ねると，他のグループの模擬授業について，良い点や改善点などを見つけることができ，的確な意見を述べることができるし，自分の授業改善に活かすことができる。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領解説　家庭編，文部科学省，東洋館出版社 わたしたちの家庭科５・６　開隆堂出版株式会社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総則編』平成２９年７月　文部科学省 『初等家庭科の研究』　大竹美登利・倉持清美　萌文書林 『平成29年改訂 小学校教育課程実践講座』　岡　陽子・鈴木明子　ぎょうせい
オフィスアワー
指導案の作成と模擬授業の実践についての相談は，授業前か授業後に受け付ける。
連絡先
tr-4@ndsu-e.ed.jp
留意事項

体育科指導法					単位数	2単位
授業コード	84700	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	安江　美保					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　小学校体育科の目標と指導内容を理解するとともに，指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また，具体的な教材について指導案作成や模擬授業を通して、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。	知識・技能
2	○体育科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深め，指導案作成や模擬授業に活かすことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	○具体的な授業場面を想定した授業設計を行い，指導案を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○授業に取り組む姿勢　　30%	1／2／3
2	○毎回の授業後に提出する「授業で学んだこと」の小レポート　　40%	1／2
3	○最終レポート　　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

○安江美保

　体育科の授業研究を専門的な分野としていた小学校教諭の実務経験を元に，体育科の授業づくりにおいて，児童の発達特性を考慮した指導計画の立て方，授業の中で体育科学習ならではの配慮事項，児童とのやり取りの仕方のポイント，授業の準備・片付けを効率よく行うためのコツ，場づくりのポイントなど，学生がすぐに現場で役立つ内容を取り混ぜながら授業を進める。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１.体育科の目標と指導内容及び内容構成の考え方（体育科が求める資質・能力）
２.第1学年・第2学年の目標と内容（指導要領の検討と低学年の発達段階の特徴）
３.第3学年・第4学年の目標と内容（指導要領の検討と中学年の発達段階の特徴）
４.第5学年・第6学年の目標と内容（指導要領の検討と高学年の発達段階の特徴）
５.習得・活用・探求の考えに基づいた学習過程の考え方（理論的背景と実践との関連）
６.体育学習における評価の考え方と指導案の書き方（学習指導と評価の一体化）
７.「体つくり運動」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成）
８.「器械運動系領域」「水泳系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成，及び児童の課題解決にむけた情報通信技術及びICT等や教材の効果的な活用法）
９.「陸上運動系領域」「ボール運動系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成，及び児童の課題解決にむけた情報通信技術及びICT等や教材の効果的な活用法）
10.「表現運動系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成，及び児童の課題解決にむけた情報通信技術及びICT等や教材の効果的な活用法）
11.「保健領域」における学習過程と教材研究の方策（指導案作成及び，児童の課題解決に向けた情報通信技術及びICT等や教材の効果的な活用法）
12.模擬授業（1）「体つくり運動」（模擬授業実践と振り返り）
13.模擬授業（2）「器械運動系領域」「水泳系領域」（模擬授業実践と振り返り）
14.模擬授業（3）「陸上運動系領域」「ボール運動系領域」（模擬授業実践と振り返り）
15.模擬授業（4）「表現運動系領域」「保健領域」（模擬授業実践と振り返り）

定期試験

〇最終レポートを，授業の中での指示により提出する。

試験のフィードバックの方法

〇レポート全ての評価が終わった段階で，manabaを通じて評価の高かったレポートの内容に触れながら，全体的な総評を伝える。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　体育科の学習は，教室で行う他教科の授業のような指定席がなく，児童が学習に対する「めあて」を明確にもち，活動の仕方 を十分に理解できていないと，活動があって学びのない授業となりやすい。そのため，「小学校学習指導要領解説・体育編」に示されている目標と内容についてと，講義の中で学ぶ授業の進め方などの実践的な内容とを関連させながら，予習を10分以上，復習を20分以上行うことを求める。復習には，毎回の授業後に提出する「授業で学んだこと」を含む。

必携書（教科書販売）

〈必携書〉
〇小学校学習指導要領解説・体育編（平成29年7月），2018年，ISBN978-4-491-03467-6，文部科学省，東洋館出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈必携書〉
・小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）

〈参考書〉
・子どもの未来を創造する体育「主体的・対話的で深い学び」，2018年，鈴木直樹　他，創文企画
・小学校体育はじめの一歩　～主体的・対話的で深い学びを考える～，2019年，白旗和也　他，光文書院

オフィスアワー

〇オフィスアワーは，火曜日の2限，木曜日の2限。

連絡先

my31704612@post.ndsu.ac.jp

留意事項

〇理論的な学びと実技での実践的な学びを関連づけながら，自分の中でより確かな学びとしていくことを大切にすること。
〇実技を伴う授業では，運動着と体育館シューズを必ず着用して行うとともに，安全に運動を行うことができるよう気をつけること。
〇身体を動かすことが好きな子どもを育てるために，指導する側も身体的にアクティブで健康的な生活を送ることを心がけ，子どもと鬼ごっこを楽しめるくらいの体力を保持していくことを求める。

小学校英語科指導法				単位数	2単位
授業コード	84710	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	福原　史子、高橋　昌子				
時間割備考	9/７木　1～4限　集中講義				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校学習指導要領に基づいて、3・4年生での外国語活動及び5・6年生での外国語科の目標や内容について系統的に学ぶとともに、児童期の第二言語習得と学習指導理論を理解する。その上で、具体的な教材を用いた学習指導案作成や模擬授業実践を通して、授業実践に必要な指導力を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	外国語活動・外国語科導入の背景及び目標と内容について系統的に学ぶことを通して、児童がどのような資質・能力を身に付けることをねらった活動・教科であるのかを理解し、説明することができる。	知識・技能
2	児童期の第二言語習得の特徴と発達段階を踏まえた学習指導理論について理解し、説明することができる。	知識・技能
3	外国語活動・外国語科の実践に必要な指導技術及び授業づくりに必要な知識・技能を身につけ、模擬授業をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート試験（40%）	1／2
2	模擬授業の内容（30%）	3
3	小レポート（30%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者１（福原）は、公立小学校及びアメリカのMontessori Schoolでの勤務経験を活かし、児童の発達段階や興味・関心に応じた英語の指導について具体例を示しながら伝え、実際の授業場面を意識した実演をする。そのことにより、学生に活動の楽しさと難しさを実感させ、よりよい英語教育の在り方についての検討を促す。

担当者２（高橋）は、中・高等学校に勤務していた経験から，中等教育における諸課題を具体的に把握しており，小学校英語教育と中学校英語教育の円滑な接続という側面から実践的な指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　外国語活動・外国語科導入の背景と目標、
　　コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力（担当／福原）
2　第二言語習得理論と児童期の特徴、英語教育全体における小学校の役割（担当／高橋）
3　外国語活動・外国語科の教材と指導計画（担当／福原）
4　ティーム・ティーチングによる指導とクラスルーム・イングリッシュ（担当／高橋）
5　外国語活動または外国語科の授業参観（本学附属小学校において　担当／福原）
6　児童や学校の多様性に対応した学びの支援　（担当／福原・高橋）
7　「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」の指導と授業づくり（担当／福原）
8　「読むこと」「書くこと」の指導と授業づくり、国語教育との連携、中学校との連携（担当／高橋）
9　ICTを活用した授業づくり、プロジェクト型の授業の展開（担当／高橋）
10　外国語・外国語活動の評価（担当／福原）
11　模擬授業(1)学級担任のみによる指導（担当／福原・高橋）
12　模擬授業(2)ティーム・ティーチングによる指導（担当／福原・高橋）
13　模擬授業(3)文字言語への導入（担当／福原・高橋）
14　模擬授業(4)ICTを活用した授業・プロジェクト型の授業（担当／福原・高橋）
15　まとめ・英語教育のこれからの課題（担当／福原・高橋）

定期試験

最終授業時にレポートを提出する。内容は、小学校英語教育に関する課題とその考察についてである。

試験のフィードバックの方法

最終授業時にレポートを基にディスカッションをするとともに、それぞれの意見や疑問について担当者がコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）毎回の授業で、内容や英語表現に関する資料を配布するとともに、参考文献や参考URLを紹介するので、該当部分を熟読し、要点と疑問点をまとめておくこと（1時間）。
（復習）小学校で外国語活動を指導することを意識して、クラスルーム・イングリッシュやチャンツ、歌などは、毎日声に出して練習してほしい（1日15分）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『小学校学習指導要領解説　外国語・外国語活動編』, 2018年, 文部科学省, 開隆堂
『New Horizon Elementary English Course 5』, 2020年, 東京書籍
『New Horizon Elementary English Course 6』, 2020年, 東京書籍
『New Horizon Elementary English Course Picture Dictionary』, 2020年, 東京書籍

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『小学校学習指導要領（平成２９年３月告示　文部科学省）』

＜参考書等＞
『外国語活動・外国語研修ガイドブック（平成29年　文部科学省）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』, 酒井英樹編著, 三省堂
『小学校英語の教育法　理論と実践』, アレン玉井光江著, 大修館書店

オフィスアワー

オフィスアワー　福原：月曜日４限　水曜日３限
高橋：英語教育センター「英語学習相談室」で対応する
質問は随時電子メールで受け付ける

連絡先

福原　fumikofk@m.ndsu.ac.jp
高橋　m-takahashi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

2020年度より小学校で全面実施となった外国語活動・外国語科の指導力を身に付けるため、主体的な取り組みを求める。

道徳教育の理論と方法［a］					単位数	2単位
授業コード	84760	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	重松　恵子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や特質、指導計画等を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	道徳科の内容項目について理解し、説明することができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・毎回のレポート提出　　30%	1／2／3
2	・内容項目の発表及び模擬授業　　３０％	2／3
3	・定期試験　　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教員としての38年間の実務経験の中で、特に道徳教育及び道徳科の指導の在り方を研究し、道徳教育を大切にした指導を重ねてきた。その経験を活かし、将来、教職に就く学生に、道徳教育の実践現場での具体的な指導の在り方や心の教育の大切さを伝えるとともに、実践的な指導力を育てていきたいと考える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　道徳の本質及び道徳教育改訂の経緯と現代社会における道徳教育の課題
2　道徳教育と道徳科
3　内容項目「正直，誠実」・「個性の伸長」等（内容項目１～８）の概要及び道徳性の発達 に応じた指導の要点
4　内容項目「礼儀」・「友情，信頼」等（内容項目９～１５）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
5　内容項目「生命の尊さ」・「自然愛護」等（内容項目１６～２２）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
6　学校における道徳教育の指導計画（道徳教育全体計画　年間指導計画　学習指導案）
7　道徳科の特質及び指導の在り方
8　道徳科の学習指導案の作成（内容項目の分析　児童の実態　ねらいの明確化）
9　道徳科の学習指導案の作成（教材の分析　発問の組み立て　）
10　道徳科の学習指導案の作成（導入、展開、終末の活動の工夫）
11　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：授業の雰囲気づくり）
12　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：教材提示及び学習活動の工夫）
13　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：板書の工夫及び学習活動の工夫）
14　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：児童の反応への対応）
15　授業改善の視点及び道徳教育の評価とまとめ

定期試験
レポート「毎回の授業のまとめ」 16週目に定期試験を行う
試験のフィードバックの方法
レポートはデータで提出する。その際、指導や質問への回答等、必要があればコメントする。 試験については試験終了後に模範解答を提示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事後指導として毎回の授業内容の深い理解を図るための課題を出す。次回の授業までに課題に対するレポートを作成し、提出する。平均30分から1時間程度の学習時間が必要。また、グループで模擬授業の指導案を作成する過程では、指導案の作成、模擬授業の準備・打ち合わせ等に要する時間は授業でも設定するが、できなかった場合はグループでの課外作業となる場合がある。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学どうとく　生きる力　４，日本文教出版(令和5年度版) ISBN 978-4-536-18158-7 小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編(平成29年6月　文部科学省)，廣済堂あかつき ISBN 978-4-908255-35-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
s5115@m.ndsu.ac.jp
留意事項

道徳教育の理論と方法［b］				単位数	2単位
授業コード	84770	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	重松　恵子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や特質、指導計画等を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身に付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	道徳科の内容項目について理解し、説明することができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・毎回のレポート提出　　30%	1／2／3
2	・内容項目の発表及び模擬授業　　３０％	2／3
3	・定期試験　　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教員としての38年間の実務経験の中で、特に道徳教育及び道徳科の指導の在り方を研究し、道徳教育を大切にした指導を重ねてきた。その経験を活かし、将来、教職に就く学生に、道徳教育の実践現場での具体的な指導の在り方や心の教育の大切さを伝えるとともに、実践的な指導力を育てていきたいと考える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　道徳の本質及び道徳教育改訂の経緯と現代社会における道徳教育の課題
2　道徳教育と道徳科
3　内容項目「正直，誠実」・「個性の伸長」等（内容項目１～８）の概要及び道徳性の発達 に応じた指導の要点
4　内容項目「礼儀」・「友情，信頼」等（内容項目９～１５）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
5　内容項目「生命の尊さ」・「自然愛護」等（内容項目１６～２２）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
6　学校における道徳教育の指導計画（道徳教育全体計画　年間指導計画　学習指導案）
7　道徳科の特質及び指導の在り方
8　道徳科の学習指導案の作成（内容項目の分析　児童の実態　ねらいの明確化）
9　道徳科の学習指導案の作成（教材の分析　発問の組み立て　）
10　道徳科の学習指導案の作成（導入、展開、終末の活動の工夫）
11　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：授業の雰囲気づくり）
12　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：教材提示及び学習活動の工夫）
13　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：板書の工夫及び学習活動の工夫）
14　模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：児童の反応への対応）
15　授業改善の視点及び道徳教育の評価とまとめ

定期試験
レポート「毎回の授業のまとめ」 16週目に定期試験を行う
試験のフィードバックの方法
レポートはデータで提出する。その際、指導や質問への回答等、必要があればコメントする。 試験については試験終了後に模範解答を提示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事後指導として毎回の授業内容の深い理解を図るための課題を出す。次回の授業までに課題に対するレポートを作成し、提出する。平均30分から1時間程度の学習時間が必要。また、グループで模擬授業の指導案を作成する過程では、指導案の作成、模擬授業の準備・打ち合わせ等に要する時間は授業でも設定するが、できなかった場合はグループでの課外作業となる場合がある。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 小学どうとく　生きる力　４，日本文教出版(令和5年度版) ISBN 978-4-536-18158-7 小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編(平成29年6月　文部科学省)，廣済堂あかつき ISBN 978-4-908255-35-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける。随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
s5115@m.ndsu.ac.jp
留意事項

総合的な学習の時間の指導法				単位数	2単位
授業コード	84780	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	三浦　隆志				
時間割備考	未定				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現在の社会を眺めてみると、グローバルの進展や絶え間ないイノベーションによって社会課題の解決をめざす動きがある一方で、少子高齢化や労働力不足、貧困など解決策を見つからない社会課題が散見されます。Scoiety5.0の時代の到来が予見されるなかで、小学校から高等学校での教育の在り方も、従来の知識・技能の習得から、資質・能力の育成に大きく転換しつつあります。そこでは、自らが課題を設定し、課題解決に向けて、知識や情報を活用して、他者と協働して解決していく態度や経験が重要になります。2000年から小学校・中学校・高等学校に段階的に導入された「総合的な学習の時間」は、先が見えないこれからの社会を生き抜くために、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していく資質・能力を育成することをねらいとしています。そして新学習指導要領においても教科での学習とともに重要な役割を果たしていく学習と考えています。
そこで、本授業では、「総合的な学習な時間」の歴史とこれまでの実践を学び、学習指導要領が示す「総合的な学習な時間」の目標・ねらいや育成する資質・能力および年間指導計画や単元デザインの基本的な考え方を学習します。また、探究的・協同的な学習における思考ツール、ルーブリック、ICTの利活用などの学習方法についても知識や技能を体験的に学習します。加えて、「総合的な学習の時間」の理解を深めるために、協働的な活動を体験したり、プレゼンテーションスキルやライティングスキルの習得を目指します。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○「総合的な学習の時間」の意義と原理を捉えた上で，目標や育成する資質・能力及び内容と単元計画の基本的な考え方を説明することができる.	知識・技能／思考・判断・表現力
2	探究的・協同的な学習における学習指導や学習評価のあり方について理解し，演習等を通して技能を習得することができる.	知識・技能／思考・判断・表現力
3	○「総合的な学習の時間」について単元の単位で指導内容を構想することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	○学生同士の協同的な学習を通じて、プレゼンテーションスキルやライティングスキルを身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・授業中の態度（振り返りシートを含む）　30%	1／2／4
2	・課題レポートや演習等の発表　30%	2／3／4
3	・ミニテストや中間試験　20%	1／2
4	・期末試験　20%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校、中学校、高等学校の「総合的な学習の時間」のカリキュラムの開発や研究に取り組んできた経験から、小中高等学校での「総合的な学習の時間」の実践の様子や成果物をもとに、教師がどのように単元デザインしているかを提示する。それによって、実際に学生が「総合的な学習の時間」での探究プロセスやアウトプットの具体的なイメージを持つことができるよう支援する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．オリエンテーション（授業計画についての説明）
　「総合的な学習の時間」の理念や教育課程において果たす役割を理解する。
２．学習指導要領における「総合的な学習の時間」を理解する①

３．学習指導要領における「総合的な学習の時間」を理解する②
４．学習指導要領における「総合的な学習の時間」を理解する③
５．三国が丘小学校５年生「総合的な学習の時間」の実践を検討する①
６．三国が丘小学校５年生「総合的な学習の時間」の実践を検討する②
７．三国が丘小学校５年生「総合的な学習の時間」の実践を検討する③
８．「総合的な学習の時間」の単元をどのように開発するか①～全体設計の考え方
９．「総合的な学習の時間」の単元をどのように開発するか②～情報収集の方法
１０．「総合的な学習の時間」の単元をどのように開発するか③～分析やまとめの方法。評価方法
１１．単元デザインシートの理解（ライティングスキルを含む）
１２．「総合的な学習の時間」の単元づくり演習①～単元テーマ、探究課題の決定、具体的な内容の検討
１３．「総合的な学習の時間」の単元づくり演習②～単元計画の具体化と発表練習
１４．「総合的な学習の時間」の単元づくり演習③～単元計画のプレゼンテーションと相互評価
１５．「総合的な学習の時間」の単元づくり演習④～単元計画のプレゼンテーションと相互評価

定期試験

中間試験（ミニテスト）：学修状況を確認するために４時間目、７時間目、１０時間目の授業時間の一部でミニテストを実施する予定である。
期末試験：１６時間目にテストを実施する予定である。（新型コロナウイルス感染症の状況によってレポートに代替することもある）

試験のフィードバックの方法

期末試験の終了後に模範解答を掲示する予定である。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業では、可能な限り授業の前日までに、授業で使用するハンドアウトを配布します。授業全体の話の流れや疑問点などを確認し講義ノートにメモした上で出席してください。（４５分程度）
（復習）毎回の授業で，振り返りシートに記入して、自らの学びについて記述し，提出します。その後の復習のなかで，理解できなかった点、不明な点については，資料等を読み，学んだことを再度，講義ノートにまとめておいてください。なお，振り返りカシートは電子ファイルを用意します．提出後も、必ず保管をお願いします。最終の試験等で，振り返りの記述は重要な情報となります．（６０分程度）
この授業ではワークショップやグループワークを実施します．グループ学習の際は，お互いの連絡を取りながら課題に取り組むことになります．
また、PCを使って演習をする予定です。（１時間目にそのやり方については説明します）

必携書（教科書販売）

＜必携書＞

教科書販売（2点）
書籍名：探究する学びをデザインする! 情報活用型プロジェクト学習ガイドブック
発行年等：2020年8月6日
ISBN-10 : 4183143144
著者：稲垣忠
出版社：明治図書出版

書籍名：『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年７月）』文部科学省、東洋館出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『小学校学習指導要領（平成29年３月告示）』文部科学省、東洋館出版社
＜参考書＞
『教科と総合学習のカリキュラム設計～パフォーマンス評価どう生かすか』西岡加名恵、図書文化
『カリキュラムマネジメント入門～深い学びの授業デザイン。学びをつなぐ７つのミッション。』田村学、東洋館出版社
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年７月）』文部科学省、東山書房
『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編（平成30年７月）』文部科学省、学校図書

オフィスアワー

質問は授業終了時に教室で受け付ける。

連絡先

s5109@m.ndsu.ac.jp

留意事項

予告された小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編を事前に読んで受講してください。

教育方法論［a］				単位数	2単位
授業コード	84800	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉能　道明				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、教師として必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。学校教育における学習指導はもとより、給食指導、清掃指導、始業前・休息時・放課後の指導等の生活指導を含めた学校における教育活動全般についての教師の指導方法のあり方について、理論と実践を結び付け、具体的な実践事例をもとに検討し、教職に就く者として必要な指導技術を身に付けることができる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	・教育の目的に適した指導技術を知り、身に付けようとする。	知識・技能／主体性
3	・情報機器や教材の効果的な活用の仕方について基礎的な知識・技能を身に付ける。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・定期試験およびレポート　７０％	1／2
2	・授業中の態度　　３０％	1／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　国立大学附属小学校、県立盲学校､公立小学校の通算22年間の勤務経験を持ち、小１～中３までを担任した経験がある。この実務経験をもとに､子どもの具体的な姿を知らせ、学校現場が求める理論と実践を結び付けた実践的な指導の大切さを伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：「教育の目的」達成のための教育方法（育成すべき資質・能力，教育方法の理論と実践）
第２回：期待される教師像　教師の1日（教師に求められる資質・能力）
第３回：学級経営（学級づくり，学校と家庭の連携）
　　・学級経営の計画と内容、環境づくり
　　・学級事務、保護者との連携
第４回：児童・生徒理解（児童理解の仕方）
　　・児童理解の方法、内容、対応
　　・コンピュータを用いたデータの管理（整理と処理、個人情報の保護）
第５回：学習評価（学習評価の考え方と方法）
第６回：学習指導（１）　インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラル（情報モラル）
第７回：学習指導（２）　Word、Excel、Power　Pointを用いた表現及び技術（教材の作成・提示）
第８回：学習指導（３）　各教科（確かな学力の育成，主体的・対話的で深い学びの実現）
第９回：学習指導（４）　各教科（基礎的な指導技術と学習指導案の作成）
第10回：学習指導（５）　道徳、外国語活動、総合的な学習の時間（現代的課題としての環境・食育・国際理解等）（目標、内容、方法、計画等）
第11回：学習指導（６）　特別活動（集団づくり）
第12回：学習指導（７）　家庭学習（学習習慣の定着）、学習規律（資質・能力を育成する方法）
第13回：生活指導（１）　学校内における日常生活の指導（給食・清掃・休息等）（学校生活）
第14回：生活指導（２）　学校外における日常生活の指導（子どもの安全）
第15回：教育方法の今日的課題（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）

定期試験
レポート課題提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
自分なりの教育観をもつために，日頃から教育問題に関心をもち，本や雑誌，新聞やテレビなどのメディアから情報を得ておいてください。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 「学びを創る・学びを支える」−新しい教育の理論と方法−，広石英記，一藝社
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示） ＜参考書等＞ 自作プリント
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日　１・２時限
連絡先
sugino@post.ndsu.ac.jp
留意事項

指導法の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	84860	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	福原　史子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　これからの子どもたちに求められる資質・能力や、それらを育成するための環境を通して行われる保育の在り方について、講義やディスカッションを通して考える。また、保育現場との交流を図りながら、幼児理解の基本となる子ども観・保育観とそれに基づく指導方法の在り方を考え、子どもの遊びを中心とした指導実践力を身に付ける。さらに、家庭・地域との連携や小学校との接続について理解し、自身の情報活用能力と情報モラルを高め、生涯学び続ける保育者となる土台を築く。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、環境を通して行う保育の具体的内容や方法について理解し説明することができる。	知識・技能
2	保育現場等における実践にふれ，子どもを観る目を養い、環境構成及び子どもの主体的な活動を促す関わり方や発達に応じて支援する力を身に付ける。	思考・判断・表現力／主体性
3	情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示できるようになるとともに、保育者自身の情報モラルの向上と、子どもの情報活用能力を育成する方法を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	定期試験　40%	1／2／3
2	授業への取り組み度　30%	1／2／3
3	小レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　担当者は小学校教諭として公立小学校に勤務後、国内外の私立幼稚園で勤務した経験から、小学校への接続を意識した幼児の指導について、学生に具体例を示しながら課題の明確化と自己省察を促す。また、幼稚園教諭として30年以上の経験をもつ特別講義講師らにより、幼児を観察する視点と発達段階による指導の違いについて理論と実践を結び付けた思考を促す。さらに、小学校教員として情報教育の推進に携わっている特別講義講師により、学生の情報モラル及び情報活用能力の向上を目指す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　幼児期に求められる資質・能力とは
２　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
３　子どもを観る目を養う（1）観察から物的環境を創造する
４　子どもを観る目を養う（2）人的環境の在り方を考える

５　自発的な活動のサイクルと指導方法
６　特別な支援の必要な子どもの保育

７　安全教育

８　自己尊重感を大切にする保育とは-海外の幼児教育-
９　教育方法の変遷

10　情報通信技術を活用した保育教材の開発
11　環境を通した保育の実際　　【特別講義講師】
12　保育指導の計画と評価、PDCAサイクル

13　指導案の作成と検討

14　情報モラルの向上と情報活用能力の育成　【特別講義講師】
15　家庭・地域との連携と子育て支援、小学校への接続

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を公開する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回の授業の終わりに、次時の内容についてテキストのページ等を知らせるので、よく読んで、意見や疑問をまとめて授業に臨むこと（1時間）。授業では、学生間の意見交換や質疑応答の機会を設ける。 （復習）最初の授業の際にノートを1冊（形式自由）を準備し，授業で学んだ知識やアイデア，疑問点を毎時間整理すること（45分）。
必携書（教科書販売）
『幼稚園教育要領解説』，2018年，文部科学省，フレーベル館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『幼稚園教育要領』，平成29年3月告示，文部科学省 ＜参考書等＞ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』，平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省 『保育所保育指針』，平成29年3月告示，厚生労働省
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日５限　水曜日３限 質問は随時電子メールで受け付ける
連絡先
fumikofk@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教育（保育）実習に活かすことができるよう，意欲をもって主体的に取り組むこと。

教科指導とICT				単位数	1単位
授業コード	84880	科目ナンバリング	330B1-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三浦　隆志				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

2021年4月からGIGAスクールが始まり，小中高等学校では新学習指導要領に基づいた学習指導における情報活用能力の育成が求められている。本講座は，学校（小学校・中学校）におけるICT（情報通信技術）の活用について，その歴史的経緯，現状，今後の方向性を理解したうえで，授業における児童・生徒および教員によるICTの利活用のほか，授業の準備や学習評価に関する活用，校務における活用、さらには教育データの活用等について取り上げる。また，Society5.0の情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について，　その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置づけについて解説する。本科目では，講義および視聴覚資料による解説・事例の紹介と，学生自身が各種ICT機器，　環境を活用する演習，また，敷地内に併設される附属小学校での活用の状況を学修する機会を設ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学校現場におけるICT活用の意義や理論について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ICTを利活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につけ、表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の態度（毎回の振り返りシートを含む）（35%）	1／2／3
2	課題レポートや演習等での発表　（35%）	1／2／3
3	8回の授業が終わって実施する試験　（30%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり。

実務経験の授業への活用方法

2016年、公立高等学校で全国で初めて一人1台端末の導入を実現して以来、学校教育におけるICTの利活用について教育工学の側面から研究を進めきた。一方で、これまで経済産業省の「未来の教室」実証事業や各自治体での導入整備事業、長野県や宮崎県、堺市、岡山県の小学校、中学校、高等学校でのICT利活用や授業支援、校務支援に参画してきた。これから教師の基本的なスキルの一つとして求められている情報活用技術の内容・活用について、理論や実践方法を分かりやすく解説するとともに、教師として必要なスキルが身につけられるように支援する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：オリエンテーション　現代社会におけるICTの役割と導入
第２回：教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用
第３回：特別支援・幼児教育におけるICT活用
第４回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
第５回：児童生徒によるICT活用
第６回：児童生徒の情報活用能力の育成
第７回：附属小学校等でのICT活用
第８回：校務の情報化とデータの活用

定期試験
8時間の授業が終了して、9時間目として期末試験を行う。
試験のフィードバックの方法
期末試験は、終了後に解説を行う。 manaba folioで模範解答を掲示予定である。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習） この授業では、可能な限り授業の前日までに、ハンドアウトをPFDで配布します。また、そこで、授業で必要な準備（論文等を読むなど）を指示します。（1時間程度） 授業中は、予習を踏まえて、講義ノート等にメモを取ってください。 （復習） 毎回の授業で、振り返りシートを作成してください。電子ファイルで、manaba folioで配布します。授業内容を踏まえて、振り返りと課題をやって、期日までに提出してください。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 教科書販売（1点） 書籍名『教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』 発行年等：2022年12月29日 ISBN-10 ： 476283212X 著者：稲垣忠 出版社 ：北大路書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 稲垣忠他『ICT活用の理論と実践～DX時代の教師をめざして』(北大路書房) ライゲルース，カノップ（訳　稲垣忠他）『情報時代の学校をデザインする～学習者中心の教育に変える６つのアイデア』（北大路書房） コリンズ，ハルバーソン（訳稲垣忠他）『デジタル社会の学びのかたちVer.2～教育とテクノロジの新たな関係』（北大路書房）
オフィスアワー
質問は授業終了時に教室で受け付ける
連絡先
s5109@m
留意事項

健康の指導法［a］					単位数	2単位
授業コード	84900	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	徳光　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

幼児期は，心と体が相互に関連し合いながら急速に成長していく時期であり，環境からの影響を大きく受ける時期でもある。幼児期の心と体の健康について講義や演習を通して保育を構想する力を身に付けるとともに，保育者の役割について考える。運動遊びや伝承遊びなどの模擬保育や討議などを通して，幼児の味わう充実感や達成感などを考察し，幼児期の遊びや発達段階に応じた指導について考える。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○　幼児期の個人差が大きい心と体の育ちを教育要領に基づいて理解する。	知識・技能
2	○　運動遊びや伝承遊びなどの遊びを通して子どもが味わう楽しさを理解し，幼児期に必要な遊びについて考えるとともに発達段階に応じた指導法を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	○　子どもの健康な生活と安全管理における教師の役割を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　30点	1／2／3
2	レポート提出　70点	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

・幼児教育に従事していた経験から、保育現場での実際の幼児の姿や教師の役割について実践事例を示し、具体的に伝えることで、幼児の発達段階に応じた保育を構想することができるようにする。また、保育する楽しさや幼児とともに生活する喜びを伝えていく。
・遊びの中での一人一人の幼児の育ちや集団としての育ちを取り上げ、多角的に検証していくことで、幼児への適切な指導内容の理解と実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　子どもの心と体の健康（幼児期の発達の過程と教師の資質・能力）
2　領域「健康」のねらい及び内容（情緒の安定と教師の役割）
3　領域「健康」のねらい及び内容（身体諸機能の調和的発達）
4　領域「健康」のねらい及び内容（生活に必要な習慣や態度）
5　体を動かして遊ぶとはⅠ（乳児~３歳児の発達の特性と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
6　体を動かして遊ぶとはⅡ（４歳児の発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
7　体を動かして遊ぶとはⅢ（５歳児~就学に向けた発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
8　保育の構想Ⅰ（遊具や用具を使った遊びの模擬保育と振り返り）小学校教科等のつながりと評価
9　保育の構想Ⅱ（自然の中で体を動かして遊ぶ）
10　心身の発達に応じた伝承遊びⅠ（模擬保育から道徳性・規範意識の芽生えと協同性を考える）

11　心身の発達に応じた伝承遊びⅡ（言葉と社会性）情報機器及び教材活用法の理解
12　子どもの運動遊びを育む行事Ⅰ（保育の構想と実践・小学校教科とのつながりから保育の改善）
13　子どもの運動遊びを育む行事Ⅱ（指導法の検討・評価）
14　基本的生活習慣と生活リズム（指導案の作成と模擬保育の振り返りから改善の視点）

15　安全な生活（教育要領に基づいた安全教育と安全管理）

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
最終授業で解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業の終わりに，次回の授業内容を伝えるので，課題をもって授業に臨んでほしい。演習には，積極的に体を動かしたり発言をしたりして，学びあう姿勢をもって臨んでほしい。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示），文部科学省，フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」（平成29年3月告示），文部科学省，フレーベル館 「保育所保育指針」（平成29年3月告示），厚生労働省，フレーベル館 「保育所保育指針解説書」（平成29年3月告示），厚生労働省，フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平成29年3月告示），フレーベル館
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
第1回授業にて知らせる。
留意事項
・日常の生活の中で，子どもを取り巻く環境や社会状況，身近な乳幼児の姿に関心をもち，心身の発達について考えるよう心がける。 ・自身の遊びの経験を振り返りながら，運動遊びや伝承遊びなどを積極的に演習する。

健康の指導法［b］					単位数	2単位
授業コード	84910	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	徳光　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

幼児期は，心と体が相互に関連し合いながら急速に成長していく時期であり，環境からの影響を大きく受ける時期でもある。幼児期の心と体の健康について講義や演習を通して保育を構想する力を身に付けるとともに，保育者の役割について考える。運動遊びや伝承遊びなどの模擬保育や討議などを通して，幼児の味わう充実感や達成感などを考察し，幼児期の遊びや発達段階に応じた指導について考える。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○　幼児期の個人差が大きい心と体の育ちを教育要領に基づいて理解する。	知識・技能
2	○　運動遊びや伝承遊びなどの遊びを通して子どもが味わう楽しさを理解し，幼児期に必要な遊びについて考えるとともに発達段階に応じた指導法を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	○　子どもの健康な生活と安全管理における教師の役割を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　　30点	1／2／3
2	レポート提出　　70点	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

・幼児教育に従事していた経験から、保育現場での実際の幼児の姿や教師の役割について実践事例を示し、具体的に伝えることで、幼児の発達段階に応じた保育を構想することができるようにする。また、保育する楽しさや幼児とともに生活する喜びを伝えていく。
・遊びの中での一人一人の幼児の育ちや集団としての育ちを取り上げ、多角的に検証していくことで、幼児への適切な指導内容の理解と実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　子どもの心と体の健康（幼児期の発達の過程と教師の資質・能力）
2　領域「健康」のねらい及び内容（情緒の安定と教師の役割）
3　領域「健康」のねらい及び内容（身体諸機能の調和的発達）
4　領域「健康」のねらい及び内容（生活に必要な習慣や態度）
5　体を動かして遊ぶとはⅠ（乳児~３歳児の発達の特性と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
6　体を動かして遊ぶとはⅡ（４歳児の発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
7　体を動かして遊ぶとはⅢ（５歳児~就学に向けた発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
8　保育の構想Ⅰ（遊具や用具を使った遊びの模擬保育と振り返り）小学校教科等のつながりと評価
9　保育の構想Ⅱ（自然の中で体を動かして遊ぶ）
10　心身の発達に応じた伝承遊びⅠ（模擬保育から道徳性・規範意識の芽生えと協同性を考える）

11　心身の発達に応じた伝承遊びⅡ（言葉と社会性）情報機器及び教材活用法の理解
12　子どもの運動遊びを育む行事Ⅰ（保育の構想と実践・小学校教科とのつながりから保育の改善）
13　子どもの運動遊びを育む行事Ⅱ（指導法の検討・評価）
14　基本的生活習慣と生活リズム（指導案の作成と模擬保育の振り返りから改善の視点）

15　安全な生活（教育要領に基づいた安全教育と安全管理）

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
最終授業で解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業の終わりに，次回の授業内容を伝えるので，課題をもって授業に臨んでほしい。演習には，積極的に体を動かしたり発言をしたりして，学びあう姿勢をもって臨んでほしい。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示），文部科学省，フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」（平成29年3月告示），文部科学省，フレーベル館 「保育所保育指針」（平成29年3月告示），厚生労働省，フレーベル館 「保育所保育指針解説書」（平成29年3月告示），厚生労働省，フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平成29年3月告示），フレーベル館
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
第1回授業にて知らせる。
留意事項
・日常の生活の中で，子どもを取り巻く環境や社会状況，身近な乳幼児の姿に関心をもち，心身の発達について考えるよう心がける。 ・自身の遊びの経験を振り返りながら，運動遊びや伝承遊びなどを積極的に演習する。

人間関係の指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	84950	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育要領等に示されている領域「人間関係」におけるねらい及び内容，指導上の留意点等について理解を深める。また，具体的な事例をもとに，幼児が人と関わる中で育っていく過程を理解し，保育を構想する力を身に付けるとともに，協同的に活動する姿を目指すための指導案の作成方法を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・領域「人間関係」の目指すものを踏まえ，そのねらい及び内容等を理解する。	知識・技能
2	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち，領域「人間関係」に関係の深い項目内容について，具体的な事例をもとに考え，その重要性を理解する。	思考・判断・表現力／主体性
3	・幼児の実態から，具体的な保育の構想をもとに，指導案を作成する方法を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での意欲・態度	20点	2／3
2	課題レポート・小テスト	40点	1／2
3	定期試験	40点	1／2
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，子どもが人と関わる力を身につけていく過程を具体的に伝え，学生が領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深めるとともに，幼児の実態をふまえた指導計画の作成方法を学ぶことができるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：幼児教育の基本と人とのかかわり（現代的課題）
第２回：領域「人間関係」が育むもの　Ⅰ(ねらい及び内容)
第３回：領域「人間関係」が育むもの　Ⅱ(指導上の留意点等)
第４回：人とかかわる力の発達　Ⅰ
　　(0･1･2歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第５回：人とかかわる力の発達　Ⅱ(3歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第６回：人とかかわる力の発達　Ⅲ(4歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第７回：人とかかわる力の発達　Ⅳ(5歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第８回：保育の構想と指導案の作成
　　(ねらい、内容、環境構成、教師の援助、評価の観点及び情報機器や教材の活用)
第９回：指導の実際　Ⅰ(個を生かした集団づくり)
第10回：指導の実際　Ⅱ(遊びを深める仲間づくり)
第11回：指導の実際　Ⅲ(規範意識の芽生え)
第12回：指導の実際　Ⅳ(協同的な遊びを支えるクラスづくり)
第13回：指導案の作成　Ⅰ(模擬保育の実践)
第14回：指導案の作成　Ⅱ(模擬保育の振り返りと評価)
第15回：人間関係を育む教師の役割

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では，毎回小テストまたは小レポートを実施する。そのためにも毎回の授業を大切にするとともに授業内容を整理しておくことが望ましい。（約1時間） また，様々な保育事例を基にグループで討論する機会を多く取り入れる。したがって，日ごろから対話力を高め，仲間との学び合いによる考察・理解を深めてほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示），文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月），文部科学省，フレーベル館 『保育所保育指針』（平成29年3月告示），厚生労働省 『保育所保育指針解説』（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月），内閣府，文部科学省，厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示），内閣府・文部科学省・厚生労働省，フレーベル館 ＜参考書等＞ ・必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　木曜日２限　　金曜日２限
連絡先
k.miyake@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○積極的に人とかかわることを楽しみ，自らの人間関係力を高めること。 ○課題レポート・小テストなどの配点が多いため、特別な事情を除き、欠席をしないように気を付けること。

人間関係の指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	84960	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三宅　一恵				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育要領等に示されている領域「人間関係」におけるねらい及び内容，指導上の留意点等について理解を深める。また，具体的な事例をもとに，幼児が人と関わる中で育っていく過程を理解し，保育を構想する力を身に付けるとともに，協同的に活動する姿を目指すための指導案の作成方法を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・領域「人間関係」の目指すものを踏まえ，そのねらい及び内容等を理解する。	知識・技能
2	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち，領域「人間関係」に関係の深い項目内容について，具体的な事例をもとに考え，その重要性を理解する。	思考・判断・表現力／主体性
3	・幼児の実態から，具体的な保育の構想をもとに，指導案を作成する方法を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での意欲・態度	20点	2／3
2	課題レポート・小テスト	40点	1／2
3	定期試験	40点	1／2
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，子どもが人と関わる力を身につけていく過程を具体的に伝え，学生が領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深めるとともに，幼児の実態をふまえた指導計画の作成方法を学ぶことができるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：幼児教育の基本と人とのかかわり（現代的課題）
第２回：領域「人間関係」が育むもの　Ⅰ(ねらい及び内容)
第３回：領域「人間関係」が育むもの　Ⅱ(指導上の留意点等)
第４回：人とかかわる力の発達　Ⅰ
　　(0･1･2歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第５回：人とかかわる力の発達　Ⅱ(3歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第６回：人とかかわる力の発達　Ⅲ(4歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第７回：人とかかわる力の発達　Ⅳ(5歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解)
第８回：保育の構想と指導案の作成
　　(ねらい、内容、環境構成、教師の援助、評価の観点及び情報機器や教材の活用)
第９回：指導の実際　Ⅰ(個を生かした集団づくり)
第10回：指導の実際　Ⅱ(遊びを深める仲間づくり)
第11回：指導の実際　Ⅲ(規範意識の芽生え)
第12回：指導の実際　Ⅳ(協同的な遊びを支えるクラスづくり)
第13回：指導案の作成　Ⅰ(模擬保育の実践)
第14回：指導案の作成　Ⅱ(模擬保育の振り返りと評価)
第15回：人間関係を育む教師の役割

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

模範解答を示す

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

この授業では，毎回小テストまたは小レポートを実施する。そのためにも毎回の授業を大切にするとともに授業内容を整理しておくことが望ましい。（約1時間）
また，様々な保育事例を基にグループで討論する機会を多く取り入れる。したがって，日ごろから対話力を高め，仲間との学び合いによる考察・理解を深めてほしい。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示），文部科学省
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月），文部科学省，フレーベル館
『保育所保育指針』（平成29年3月告示），厚生労働省
『保育所保育指針解説』（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月），内閣府，文部科学省，厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示），内閣府・文部科学省・厚生労働省，フレーベル館

＜参考書等＞
・必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日２限　　金曜日２限

連絡先

k.miyake@m.ndsu.ac.jp

留意事項

〇積極的に人とかかわることを楽しみ，自らの人間関係力を高めること。
〇課題レポート・小テストなどの配点が多いため、特別な事情を除き、欠席をしないように気を付けること。

環境の指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	85000	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	西山　節子				
時間割備考	隔週				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

幼児にとって環境とは何か，　環境とのかかわりで育つものは何か，　幼児が育つために教師はどうあればよいかを，身の回りの様々な「もの・こと・人」とのかかわりを考える中で学ぶようにする。
また，具体的な指導場面を想定した指導計画や模擬保育の実践を通して，保育を構想する方法を身に付けるようにする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼稚園教育の基本は，「環境を通して行う教育」であり，　幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。	知識・技能／主体性
2	・領域の意味と考え方，幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。	知識・技能
3	・具体的な指導場面を想定して，環境構成や教師の援助を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取り組み度　　20%	1
2	・課題レポート　　30%	1／3
3	・定期試験　　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，幼児一人一人の思いや興味・関心を捉えた環境構成や教師の援助について具体例を通して伝えながら，環境が幼児の学びや育ちにいかに重要であるか，理解を深められるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　幼児期の発達の特性と幼稚園教育の基本
2．　領域「環境」のねらいと内容
3．　植物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
4．　指導の実際Ⅰ―栽培計画の作成―
5．　生き物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
6．　自然の事物・事象とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
7．　友だちや教師とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
8．　指導の実際Ⅱ―模擬保育「月見会」―
9．　模擬保育の反省・改善と幼児理解に基づく評価の実際
10.　物や遊具とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
11.　用具や材料とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
12.　数量や図形，標識や文字とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
13.　情報や出来事，行事や園外環境とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
14.　指導の実際Ⅲ―情報機器や視覚教材の活用―
15.　指導の実際Ⅳ―保育室の環境構成―
16.　定期試験とまとめ

※原則として隔週開講

定期試験

開講期中、3回課題レポートを提出する。16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

レポート提出後の授業で講評と解説をする。試験終了後に模範解答を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　毎回の授業の最後に，次回の授業内容を伝えるので，全体の流れや疑問点などを把握した上で出席してほしい。また，授業の中で，授業外で体験してほしいことや調べ学習の内容などの課題を提示し，レポートや口頭で発表したりグループで協議したりするので，毎回の授業に真剣に取り組むと共に，意欲を持って授業外学習にも取り組んでほしい。（1時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）
保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜参考書等＞
必要に応じて配付

オフィスアワー

月曜日　4限

連絡先

メールアドレス：西山 s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp

留意事項

　日頃から身近な人，もの，植物，生き物，自然の事象，社会の事象などに興味や関心をもったり，幼稚園や保育園の環境に触れるような機会をもったりするよう心がける。

環境の指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	85010	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	西山　節子				
時間割備考	隔週				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

幼児にとって環境とは何か，　環境とのかかわりで育つものは何か，　幼児が育つために教師はどうあればよいかを，身の回りの様々な「もの・こと・人」とのかかわりを考える中で学ぶようにする。
また，具体的な指導場面を想定した指導計画や模擬保育の実践を通して，保育を構想する方法を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼稚園教育の基本は，「環境を通して行う教育」であり，　幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。	知識・技能／主体性
2	・領域の意味と考え方，幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。	知識・技能
3	・具体的な指導場面を想定して，環境構成や援助を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取り組み度　　20%	1
2	・課題レポート　　30%	1／3
3	・定期試験　　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，幼児一人一人の思いや興味・関心を捉えた環境構成や教師の援助について具体例を通して伝えながら，環境が幼児の学びや育ちにいかに重要であるか，理解を深められるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　幼児期の発達の特性と幼稚園教育の基本
2．　領域「環境」のねらいと内容
3．　植物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
4．　指導の実際Ⅰ―栽培計画の作成―
5．　生き物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
6．　自然の事物・事象とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
7．　友だちや教師とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
8．　指導の実際Ⅱ―模擬保育「月見会」―
9．　模擬保育の反省・改善と幼児理解に基づく評価の実際
10.　物や遊具とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
11.　用具や材料とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
12.　数量や図形，標識や文字とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
13.　情報や出来事，行事や園外環境とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
14.　指導の実際Ⅲ―情報機器や視覚教材の活用―
15.　指導の実際Ⅳ―保育室の環境構成―
16.　定期試験とまとめ

※原則として隔週開講

定期試験

開講期中，3回課題レポートを提出する。16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

レポート提出後の授業で講評と解説をする。試験終了後に模範解答を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　毎回の授業の最後に，次回の授業内容を伝えるので，全体の流れや疑問点などを把握した上で出席してほしい。また，授業の中で，授業外で体験してほしいことや調べ学習の内容などの課題を提示し，レポートや口頭で発表したりグループで協議したりするので，毎回の授業に真剣に取り組むと共に，意欲を持って授業外学習にも取り組んでほしい。（1時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）
保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜参考書等＞
必要に応じて配付

オフィスアワー

月曜日　4限

連絡先

メールアドレス：西山 s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp

留意事項

日頃から身近な人，もの，植物，生き物，自然の事象，社会の事象などに興味や関心をもったり，幼稚園や保育園の環境に触れるような機会をもったりするよう心がける。

言葉の指導法［a］					単位数	2単位
授業コード	85050	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	片平　朋世					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

言葉の発達における集団生活の意義や望ましい環境，活動における情報機器の活用，小学校の教科とのつながり，保育者の役割等について，幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の内容に即して学習し，指導場面を想定した保育を構想することができる。また，言葉の発達に関する今日的課題についても映像資料等を活用し，具体的な事例を通して考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼稚園教育要領及び保育所保育指針等のねらいや内容，小学校の教科とのつながりを理解する。	知識・技能
2	○乳幼児の言葉の発達について理解し，集団生活の意義や保育者の役割について探究する。	思考・判断・表現力
3	○絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の意義を理解し、実践を通して指導技術を習得する。	知識・技能／主体性
4	○演習を通して自らのコミュニケーション能力を磨く。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・演習課題、小テスト、提出物　50%	1／2／3／4
2	・定期試験　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に、学生が実態に即した乳幼児の言葉の発達や保育者の役割に対する理解を深めることができるよう解説し、演習を通して指導技術も習得するよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　幼児教育の基本と領域「言葉」がめざすもの
2．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(０・１歳児)
3．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（２歳児)
4．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(３歳児)
5．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(４歳児)
6．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導・評価のあり方（就学前までの「言葉による　　伝え合いの姿」を理解し、小学校へのつながりを考える)
7.　領域「言葉」と指導の実際　(わらべうた)（特別講師)
8.　保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（乳児編)
9．　保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（幼児編)
10．　幼児教育の現代的課題と領域「言葉」（映像資料等をもとに教育のあり方を検討する)
11.　領域「言葉」と指導の実際①(絵本の読み聞かせ演習)
12.　領域「言葉」と指導の実際②(わらべうたを取り入れた模擬保育)
13.　領域「言葉」と指導の実際③(演習と模擬保育の振り返りによる指導上の留意点の検討)
14.　領域「言葉」と指導の実際④（行事や劇遊び等（活動における情報機器の活用を含む）)
15.　言葉を育てる環境と保育者の役割

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験のフィードバックはmanabaで行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・乳幼児の特性を理解し，言語環境や言語教材について、進んで研究してほしい。 紹介した参考図書に目を通したり、授業内で紹介したわらべうたを、ボランティア等で実践するなど、自分のものにする努力をしてほしい。 ・１年時に配布した推薦絵本リストを参考に、大学図書館等で実際に絵本を手に取り、子どもに読む前に、じっくり読んでおいてほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『子どもの育ちを支える絵本』，脇明子編著，岩波書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示、文部科学省） ・保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・『メディアにむしばまれる子どもたち』田澤雄作著、教文館 〈参考書等〉 ・『本・子ども・絵本』中川李枝子著，大和書房 その他は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、月曜日2限、3限
連絡先
katahira@m.ndsu.ac.jp
留意事項

言葉の指導法［b］					単位数	2単位
授業コード	85060	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	片平　朋世					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

言葉の発達における集団生活の意義や望ましい環境，活動における情報機器の活用，小学校の教科とのつながり，保育者の役割等について，幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の内容に即して学習し，指導場面を想定した保育を構想することができる。また，言葉の発達に関する今日的課題についても映像資料等を活用し，具体的な事例を通して考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼稚園教育要領及び保育所保育指針等のねらいや内容，小学校の教科とのつながりを理解する。	知識・技能
2	○乳幼児の言葉の発達について理解し，集団生活の意義や保育者の役割について探究する。	思考・判断・表現力
3	○絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の意義を理解し、実践を通して指導技術を習得する。	知識・技能／主体性
4	○演習を通して自らのコミュニケーション能力を磨く。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・演習課題、小テスト、提出物　50%	1／2／3／4
2	・定期試験　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に、学生が実態に即した乳幼児の言葉の発達や保育者の役割に対する理解を深めることができるよう解説し、演習を通して指導技術も習得するよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．　幼児教育の基本と領域「言葉」がめざすもの
2．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(０・１歳児)
3．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（２歳児)
4．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(３歳児)
5．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方(４歳児)
6．　子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導・評価のあり方（就学前までの「言葉による　　伝え合いの姿」を理解し、小学校へのつながりを考える)
7.　領域「言葉」と指導の実際　(わらべうた)（特別講師)
8.　保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（乳児編)
9．　保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（幼児編)
10．　幼児教育の現代的課題と領域「言葉」（映像資料等をもとに教育のあり方を検討する)
11.　領域「言葉」と指導の実際①(絵本の読み聞かせ演習)
12.　領域「言葉」と指導の実際②(わらべうたを取り入れた模擬保育)
13.　領域「言葉」と指導の実際③(演習と模擬保育の振り返りによる指導上の留意点の検討)
14.　領域「言葉」と指導の実際④（行事や劇遊び等（活動における情報機器の活用を含む）)
15.　言葉を育てる環境と保育者の役割

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験のフィードバックはmanabaで行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・乳幼児の特性を理解し，言語環境や言語教材について、進んで研究してほしい。 紹介した参考図書に目を通したり、授業内で紹介したわらべうたを、ボランティア等で実践するなど、自分のものにする努力をしてほしい。 ・１年時に配布した推薦絵本リストを参考に、大学図書館等で実際に絵本を手に取り、子どもに読む前に、じっくり読んでおいてほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『子どもの育ちを支える絵本』，脇明子編著，岩波書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示、文部科学省） ・保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・『メディアにむしばまれる子どもたち』田澤雄作著、教文館 〈参考書等〉 ・『本・子ども・絵本』中川李枝子著，大和書房 その他は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、月曜日2限、3限
連絡先
katahira@m.ndsu.ac.jp
留意事項

音楽表現の指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	85100	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児期の音楽的成長と発達についての知見をふまえたうえで、幼稚園・保育所・認定こども園におけるさまざまな音楽教材や教育方法、および実践事例などと対応させながら、乳幼児期の音楽表現とその援助や環境構成について考える。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもの音楽的成長と発達について理解する。	知識・技能
2	子どもの感性を育むための音楽の役割について探求する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	生活や遊び場面における、子どもの音楽的表現や育ちをみとり、理解する力を身につける。	思考・判断・表現力／主体性
4	幼稚園・保育所・認定こども園において、音楽実践を構想する力を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	模擬保育案の作成と発表（50%）	1／2／3／4
2	小レポート（10%）	1／3／4
3	レポート（40%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、映像教材等を用いて実際の保育場面を想定した具体的な音楽実践の内容や方法を示す。さらに、表現領域における音楽実践づくりの活動を行う過程で、子どもたちの姿や保育者の援助について考えることを通して、学生の保育実践力を育む。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画

第１回：　保育と音楽：幼稚園教育要領・保育所保育指針等から学ぶ（要領や指針の理解）
第２回：　子どもの音楽的発達と表現（内容と指導上の留意点の理解）
第３回：　わらべうたや遊び歌（幼児の認識等を視野に入れた保育の構想）
第４回：　音楽教育メソッド（教材の活用法の理解）
第５回：　小学校との連携における音楽の役割（小学校音楽科とのつながり）
第６回：　楽器と奏法①：園で行われている楽器遊び（教材の活用法の理解）
第７回：　楽器と奏法②：豊かな音楽表現を育むさまざまな奏法（教材の活用法の理解）
第８回：　幼稚園や保育所等での音楽表現①：事例の検討と分析（保育実践の動向の理解）
第９回：　幼稚園や保育所等での音楽表現②：ねらい（指導案の作成）
第10回：　幼稚園や保育所等での音楽表現③：教材研究　（情報通信技術の活用法の理解）
第11回：　子どもと音のかかわり①：子どもを取りまく音・音環境（保育実践の動向の理解）
第12回：　子どもと音のかかわり②：音楽遊びの援助と環境構成
第13回：　音楽表現実践のデザイン①：模擬保育の構想　（評価の考え方の理解）
第14回：　音楽表現実践のデザイン②：模擬保育の共有
第15回：　音楽表現実践のデザイン③：模擬保育のふり返り

定期試験
定期試験は実施しない。レポートを提出する。乳幼児期の子どもの音楽的な育ちや保育・教育実践に関わる内容である。
試験のフィードバックの方法
レポート内容についての解説を示し、フィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・小人数でのグループ活動を行うので、授業外で計画・練習して授業に臨むことが必要である。 ・レポート課題や実技等では、授業で学習した内容を、文献研究、実習やボランティアでの子どもたちとの実践的なかかわりと関連させて理解し、自分の意見を持つことを求める。そのため、日ごろから、授業の内容を整理して理解するとともに、現場での体験と結びつけながら考えを深めるようにすること。 ・次週に予定されているテーマに関して、資料を活用して調べたり、自分の意見をまとめたりしておくこと。また、授業時に出された課題を完成させて翌週の授業に臨むこと。（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」-音遊びから音楽表現へ』 教育情報出版、ISBN-13: 978-4909378163　　2020年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ ・幼稚園教育要領　（平成29年3月告示　文部科学省） ・保育所保育指針　（平成29年3月告示　厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 授業中に適宜資料を配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー　授業中に指示する。
連絡先
藤掛 (a-fujikake@m.ndsu.ac.jp)
留意事項
保育全体から子どもの音楽表現とその援助の方法を捉え、実習やボランティアでの体験と結びつけながら理解するように努めること。

音楽表現の指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	85110	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児期の音楽的成長と発達についての知見をふまえたうえで、幼稚園・保育所・認定こども園におけるさまざまな音楽教材や教育方法、および実践事例などと対応させながら、乳幼児期の音楽表現とその援助や環境構成について考える。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもの音楽的成長と発達について理解する。	知識・技能
2	子どもの感性を育むための音楽の役割について探求する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	生活や遊び場面における、子どもの音楽的表現や育ちをみとり、理解する力を身につける。	思考・判断・表現力／主体性
4	幼稚園・保育所・認定こども園において、音楽実践を構想する力を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	模擬保育案の作成と発表（50%）	1／2／3／4
2	小レポート（10%）	1／3／4
3	レポート（40%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、映像教材等を用いて実際の保育場面を想定した具体的な音楽実践の内容や方法を示す。さらに、表現領域における音楽実践づくりの活動を行う過程で、子どもたちの姿や保育者の援助について考えることを通して、学生の保育実践力を育む。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画

第１回：　保育と音楽：幼稚園教育要領・保育所保育指針等から学ぶ（要領や指針の理解）
第２回：　子どもの音楽的発達と表現（内容と指導上の留意点の理解）
第３回：　わらべうたや遊び歌（幼児の認識等を視野に入れた保育の構想）
第４回：　音楽教育メソッド（教材の活用法の理解）
第５回：　小学校との連携における音楽の役割（小学校音楽科とのつながり）
第６回：　楽器と奏法①：園で行われている楽器遊び（教材の活用法の理解）
第７回：　楽器と奏法②：豊かな音楽表現を育むさまざまな奏法（教材の活用法の理解）
第８回：　幼稚園や保育所等での音楽表現①：事例の検討と分析（保育実践の動向の理解）
第９回：　幼稚園や保育所等での音楽表現②：ねらい（指導案の作成）
第10回：　幼稚園や保育所等での音楽表現③：教材研究　（情報通信技術の活用法の理解）
第11回：　子どもと音のかかわり①：子どもを取りまく音・音環境（保育実践の動向の理解）
第12回：　子どもと音のかかわり②：音楽遊びの援助と環境構成
第13回：　音楽表現実践のデザイン①：模擬保育の構想　（評価の考え方の理解）
第14回：　音楽表現実践のデザイン②：模擬保育の共有
第15回：　音楽表現実践のデザイン③：模擬保育のふり返り

定期試験
定期試験は実施しない。レポートを提出する。乳幼児期の子どもの音楽的な育ちや保育・教育実践に関わる内容である。
試験のフィードバックの方法
レポート内容についての解説を示し、フィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・小人数でのグループ活動を行うので、授業外で計画・練習して授業に臨むことが必要である。 ・レポート課題や実技等では、授業で学習した内容を、文献研究、実習やボランティアでの子どもたちとの実践的なかかわりと関連させて理解し、自分の意見を持つことを求める。そのため、日ごろから、授業の内容を整理して理解するとともに、現場での体験と結びつけながら考えを深めるようにすること。 ・次週に予定されているテーマに関して、資料を活用して調べたり、自分の意見をまとめたりしておくこと。また、授業時に出された課題を完成させて翌週の授業に臨むこと。（約30分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」-音遊びから音楽表現へ』 教育情報出版、ISBN-13: 978-4909378163　　2020年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ ・幼稚園教育要領　（平成29年3月告示　文部科学省） ・保育所保育指針　（平成29年3月告示　厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 授業中に適宜資料を配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー　授業中に指示する。
連絡先
藤掛 (a-fujikake@m.ndsu.ac.jp)
留意事項
保育全体から子どもの音楽表現とその援助の方法を捉え、実習やボランティアでの体験と結びつけながら理解するように努めること。

造形表現の指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	85150	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

子どもの造形における発達段階を理解しながら、実技を通して表現のあり方を体得し、幼児の創造性を養う幅広い活動の展開について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	幼稚園教育要領・表現の目標と内容について理解する。制作では、適切な素材・使用方法を用いながら現場で役立つ作品を作ること。題材や素材の知識領域を広め、造形能力を高めること。	知識・技能／主体性
2	また、適切な造形環境を設定する視点を考察し様々な場面での配慮を想定することで、保育実践力を身につけること。	思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢、作品評価、定期試験による総合評定とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第１回：　授業の進め方と評価について（目標と指導内容：保育者に求められる資質と能力）
第２回：　壁画構成①（テーマ：発達段階の想定と指導上の留意点）
第３回：　壁画構成②（デザイン：幼児の認知と動線の想定）
第４回：　壁画構成③（素材textureの工夫：教材研究）
第５回：　廃材を用いた制作①（指導案作成：具体的な指導場面を想定した指導案の作成）
第６回：　廃材を用いた制作②（指導案作成：楽器の作成と保育の構想）
第７回：　ペープサート制作（教材研究と模擬保育の検討）
第８回：　理論（世界における幼児の描画研究，描画発達理論解説，幼稚園教育要領・保育所保育指針「表現」造形領域でのねらい・内容・留意点：視聴覚機材を用いた教材研究）
第９回：　絵本制作①（ストーリー創作：指導要領の検討と教材研究）
第10回：　絵本制作②（構図・素材の工夫：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第11回：　絵本制作③（下絵、習作の制作：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第12回：　絵本制作④（習作の検討、制作にむけての準備：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第13回：　絵本制作⑤（制作、完成）
第14回：　発表①（模擬保育の実践と評価に関する検討）
第15回：　発表②（模擬保育の実践と適切な支援についての検討）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
作品制作中にアドバイスを行うだけでなく、必要な場合は提出課題等に助言を記して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『幼稚園教育要領』（平成29年３月告示，文部科学省） 『幼稚園教育要領解説』（平成30年３月，文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年３月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省） そのほか必要に応じて講義時に紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
開講回数の３分の２以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

造形表現の指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	85160	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

子どもの造形における発達段階を理解しながら、実技を通して表現のあり方を体得し、幼児の創造性を養う幅広い活動の展開について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	幼稚園教育要領・表現の目標と内容について理解する。制作では、適切な素材・使用方法を用いながら現場で役立つ作品を作ること。題材や素材の知識領域を広め、造形能力を高めること。	知識・技能／主体性
2	また、適切な造形環境を設定する視点を考察し様々な場面での配慮を想定することで、保育実践力を身につけること。	思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題に取り組む姿勢、作品評価、定期試験による総合評定とする。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術獲得の方策を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第１回：　授業の進め方と評価について（目標と指導内容：保育者に求められる資質と能力）
第２回：　壁画構成①（テーマ：発達段階の想定と指導上の留意点）
第３回：　壁画構成②（デザイン：幼児の認知と動線の想定）
第４回：　壁画構成③（素材textureの工夫：教材研究）
第５回：　廃材を用いた制作①（指導案作成：具体的な指導場面を想定した指導案の作成）
第６回：　廃材を用いた制作②（指導案作成：楽器の作成と保育の構想）
第７回：　ペープサート制作（教材研究と模擬保育の検討）
第８回：　理論（世界における幼児の描画研究，描画発達理論解説，幼稚園教育要領・保育所保育指針「表現」造形領域でのねらい・内容・留意点：視聴覚機材を用いた教材研究）
第９回：　絵本制作①（ストーリー創作：指導要領の検討と教材研究）
第10回：　絵本制作②（構図・素材の工夫：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第11回：　絵本制作③（下絵、習作の制作：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第12回：　絵本制作④（習作の検討、制作にむけての準備：造形能力の獲得と模擬保育の想定）
第13回：　絵本制作⑤（制作、完成）
第14回：　発表①（模擬保育の実践と評価に関する検討）
第15回：　発表②（模擬保育の実践と適切な支援についての検討）

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
作品制作中にアドバイスを行うだけでなく、必要な場合は提出課題等に助言を記して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
『幼稚園教育要領』（平成29年３月告示，文部科学省） 『幼稚園教育要領解説』（平成30年３月，文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年３月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省） そのほか必要に応じて講義時に紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
開講回数の３分の２以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

身体表現の指導法［b］				単位数	2単位
授業コード	85200	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	安江　美保				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

表現領域のねらい及び内容を理解するとともに，身体表現の教育的意義や特性（面白さや魅力）について理解を深める。また，具体的な表現教材について，実技を交えて指導のポイントを捉えるとともに，指導案作成や模擬保育を通して，保育場面を想定した保育設計を行うことができる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼稚園教育要領に示された「表現領域」のねらい及び内容を理解することができる。	知識・技能
2	○幼児の身体表現の内容とその背景となる理論について理解を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	○幼児の発達段階に応じた多様な表現教材を取り上げ，それぞれの特色ある表現の指導方法を、実技を通して習得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	○授業での意欲・態度	20%	2／3
2	○毎時間の授業記録	40%	1／2／3
3	○身体表現の技能（即興表現・作品創作）	40%	3
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

○安江美保
小学校教諭として教育現場に勤めていた際に，体育科の表現運動領域の実践研究に専門的に取組んできた実務経験を元に，本授業において，幼児と身体表現の関係の捉え方，多様なテーマによる内容の取り上げ方，身体表現の指導の展開の仕方などに活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．表現領域のねらいと内容，及び身体表現の教育的意義や特性について
２．幼児の発達に応じた身体表現の保育の流れと指導案の書き方
３．リズム遊び「リズムに乗って踊ろう」　いろいろな音楽のリズムに乗って踊ろう
４．多様な表現教材(1)「だるまさんが転んだ」「ポーズ遊び」遊びから表現への発展
５．多様な表現教材(2)「ミラー遊び」相手に対応した動きの探求と模擬保育
６．多様な表現教材(3)「わたしは新聞紙」多様な質感の動きの探求と模擬保育
７．多様な表現教材(4)「からだで粘土」見たこともないユニークな形の探求と模擬保育
８．多様な表現教材(5)「からだで絵日記」日常生活の動きを誇張した動きの探求と模擬保育
９．多様な表現教材(6)「忍者でござる」相手と対立・対応した動きの探求と模擬保育
10．多様な表現教材(7)「ジャングル探検」多様な場面をつないだ動きの探求と模擬保育
11．模擬保育の成果と課題　オリジナルダンスを創ろう①
12．身体表現における評価の考え方　オリジナルダンスを創ろう②
13．身体表現における情報通信技術及びICT等の活用の仕方　オリジナルダンスを創ろう③
14．小学校体育科へのつながり　オリジナルダンスを創ろう④
15．発表会
16．ビデオによる鑑賞会、まとめ

定期試験
定期試験は実施しない。
試験のフィードバックの方法
○評価が全て終わった段階で，manabaを通じて評価の高かった学生の実技や授業記録の内容に触れながら，全体的な総評を伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
○授業は基本的に2～4人組でリーダーを交代しながら進められる。リーダーとなって行う時には，指導者として模擬保育を行っている状況を想定し，豊かに動きを発信していけるように，毎時間の講義や実技の復習に力を入れていく。そのために，授業の復習として，毎時間授業の中で配布する授業記録用紙に，授業の流れや指導のポイント，学んだこと等を，20分以上を目安に記録する。予習としては，1回に10分以上を目標に，ストレッチなどを継続し，多様な動きに対応できる体づくりを心がけることを求める。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 ○「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月），文部科学省 ○「保育所保育指針解説」（平成30年3月），厚生労働省 ○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月），内閣府・文部科学省・厚生労働省 ○「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示），文部科学省 〈参考書〉 ○西洋子，本山益子・著「子どもと身体表現」（市村出版） ○池田裕恵，猪崎弥生・編著「保育内容『表現』-からだで感じる・表す・伝える-（杏林書院）
オフィスアワー
○オフィスアワーは，火曜日の2限，木曜日の3限。
連絡先
my31704612@post.ndsu.ac.jp
留意事項
○第1回，第16回は指定された教室で行う。 ○第2回～第15回の実技では，必ず運動着・体育館シューズを着用して行うこと。 ○授業後，決められた期日を守って授業記録を提出すること。

身体表現の指導法［a］				単位数	2単位
授業コード	85210	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	安江　美保				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

表現領域のねらい及び内容を理解するとともに，身体表現の教育的意義や特性（面白さや魅力）について理解を深める。また，具体的な表現教材について，実技を交えて指導のポイントを捉えるとともに，指導案作成や模擬保育を通して，保育場面を想定した保育設計を行うことができる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	○幼稚園教育要領に示された「表現領域」のねらい及び内容を理解することができる。	知識・技能
2	○幼児の身体表現の内容とその背景となる理論について理解を深めることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	○幼児の発達段階に応じた多様な表現教材を取り上げ，それぞれの特色ある表現の指導方法を、実技を通して習得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	○授業での意欲・態度…20%	2／3
2	○毎時間の授業記録…40%	1／2／3
3	○身体表現の技能（即興表現・作品創作）…40%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

○安江美保

小学校教諭として教育現場に勤めていた際に，体育科の表現運動領域の実践研究に専門的に取組んできた実務経験を元に，本授業において，幼児と身体表現の関係の捉え方，多様なテーマによる内容の取り上げ方，身体表現の指導の展開の仕方などに活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．表現領域のねらいと内容，及び身体表現の教育的意義や特性について
２．幼児の発達に応じた身体表現の保育の流れと指導案の書き方
３．リズム遊び「リズムに乗って踊ろう」　いろいろな音楽のリズムに乗って踊ろう
４．多様な表現教材(1)「だるまさんが転んだ」「ポーズ遊び」遊びから表現への発展
５．多様な表現教材(2)「ミラー遊び」相手に対応した動きの探求と模擬保育
６．多様な表現教材(3)「わたしは新聞紙」多様な質感の動きの探求と模擬保育
７．多様な表現教材(4)「からだで粘土」見たこともないユニークな形の探求と模擬保育
８．多様な表現教材(5)「からだで絵日記」日常生活の動きを誇張した動きの探求と模擬保育
９．多様な表現教材(6)「忍者でござる」相手と対立・対応した動きの探求と模擬保育
10．多様な表現教材(7)「ジャングル探検」多様な場面をつないだ動きの探求と模擬保育
11．模擬保育の成果と課題　オリジナルダンスを創ろう①
12．身体表現における評価の考え方　オリジナルダンスを創ろう②
13．身体表現における情報通信技術及びICT等の活用の仕方　オリジナルダンスを創ろう③
14．小学校体育科へのつながり　オリジナルダンスを創ろう④
15．発表会
16．ビデオによる鑑賞会、まとめ

定期試験
定期試験は実施しない。
試験のフィードバックの方法
○評価が全て終わった段階で，manabaを通じて評価の高かった学生の実技や授業記録の内容に触れながら，全体的な総評を伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業は基本的に2～4人組でリーダーを交代しながら進められる。リーダーとなって行う時には，指導者として模擬保育を行っている状況を想定し，豊かに動きを発信していけるように，毎時間の講義や実技の復習に力を入れていく。そのために，授業の復習として，毎時間授業の中で配布する授業記録用紙に，授業の流れや指導のポイント，学んだこと等を，20分以上を目安に記録する。予習としては，1回に10分以上を目標に，ストレッチなどを継続し，多様な動きに対応できる体づくりを心がけることを求める。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 ○「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月）　，文部科学省 ○「保育所保育指針解説」（平成30年3月），厚生労働省 ○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月），内閣府・文部科学省・厚生労働省 ○「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示），文部科学省 〈参考書〉 ○西洋子，本山益子・著「子どもと身体表現」（市村出版） ○池田裕恵，猪崎弥生・編著「保育内容『表現』−からだで感じる・表す・伝える−」（杏林書院）
オフィスアワー
○オフィスアワーは，火曜日の2限，木曜日の2限。
連絡先
my31704612@post.ndsu.ac.jp
留意事項
○第1回と第16回は指定された教室で行う。 ○第2回～第15回の実技では，運動着・体育館シューズを必ず着用して行うこと。 ○授業後，決められた期日までに授業記録を書いて提出する。

生徒指導の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	85250	科目ナンバリング	330B1-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

小学校における生徒指導の意義と課題を学び、中学校への関連性を視野に入れ、具体的な事例を交えながら、現代小学校教育における生徒指導のあり方を考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生徒指導の教育的意義を積極的な面からとらえ、一人一人の子どもにとって学校生活を有意義かつ充実したものとするための生徒指導のあり方を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	校内の組織を活用し、また関係機関との連携を密にして、総合的な生徒指導を推進していくための素養を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業後の課題（レポート）30%	1／2
2	授業での態度20%	1／2
3	定期試験50%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者自身が小学校教員として実践してきた生徒指導の経験を随時活用する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　生徒指導の意義と原理
2　教育課程と生徒指導、保健室（養護教諭等）との連携
3　児童生徒の心理と児童生徒理解
4　発達課題と不適応行動
5　学校における生徒指導体制
6　教育相談１：教育相談の意義と進め方
7　教育相談２：表現療法的技法の意味
8　生徒指導の進め方１：児童生徒全体への指導
9　生徒指導の進め方２：問題行動とは何か
10　生徒指導の進め方３：反社会的行動
11　生徒指導の進め方４：非社会的行動
12　生徒指導の進め方５：不登校
13　生徒指導の進め方６：いじめ
14　生徒指導の進め方７：発達障害
15　生徒指導に関する法制度等、関係機関との連携

定期試験

16　定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaに模範解答を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

次週に予定されている学習内容に関して、テキストの該当部分を熟読し、要点をまとめておくこと（約３０分）。
生徒指導を全人格教育としてとらえ、受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な授業参加を望む。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
・「生徒指導提要」（令和4年12月）, ISBN：9784491051758, 文部科学省, 東洋館出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）

オフィスアワー

質問は，随時電子メール等で受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。

連絡先

doi164@m.ndsu.ac.jp

留意事項

教育相談及び進路指導・キャリア教育の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	85310	科目ナンバリング	330B1-4000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	日下　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

問題行動・逸脱行動、あるいは大きな悩みや苦痛を抱えた児童生徒を前にしたとき、教師は、彼らがどのような気持ちを抱きながら困っているのかという心理的メカニズムを理解することが重要である。またそのようなときには保護者も困難感を抱えており、こうした保護者の心理的理解も同時に必要である。

学校現場にて教育相談を進める際には、子どもの個々の心理的特質や教育課題を適切に捉え、カウンセリングマインドによって受容・傾聴、共感的理解等の姿勢と技法が必要になる。それは、進路指導・キャリア教育の視点に立ったガイダンスやカウンセリングの充実にも必要な素養であり、それに基づいた指導の考え方と在り方を理解する。さらには、教育相談及び、進路指導・キャリア教育における組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、スクールカウンセラーを有効に活用しながら、教師が児童生徒と保護者の支援を行っていく道筋を具体例を通しながら学んでいく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教育相談ならびに進路指導・キャリア教育の意義と課題を理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、説明しできる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の方法と、その際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度・リアクションシート　30%	1／2／3／4
2	小テスト　10%	1／2／4
3	期末課題レポート　60 %	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

臨床心理士・公認心理師として医療機関や民間の心理相談専門機関にて心理相談ならびに教育相談、心理療法、心理アセスメントに携わっている経験から、学校現場に生じる問題について臨床的に取り上げ、多角的、多面的に理解していく。さらに家庭、地域、専門機関との連携についても、事例を通して具体的・実践的に理解し、自ら考え、実行できるような基盤を構築するよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　教育相談の意義と課題
2.　進路指導・キャリア教育の意義と原理
3.　子どもたち（幼児・児童・思春期・青年期）の発達課題と心の問題
4.　校内ニーズの把握（子ども・保護者・教師）-心の問題と進路指導・キャリア教育の視点
5.　心の問題とそのシグナルに気づき、発達課題、関係性を理解する
6.　職業に関する体験活動を核としたキャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの意義
7.　学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性
8.　受容・傾聴・共感的理解
9.　不登校現象の今日的意味と個々の発達課題の理解-教育相談の目標
10.　保護者とともに子どもとの関係性を理解する-教育相談の進め方
11.　問題行動（不登校、いじめ、虐待、非行等）に向き合う-教育相談の計画と進め方
12.　問題行動の心理と意義の理解 - 教育相談の展開
13.　キャリアカウンセリングとポートフォリオの活用-カウンセリングとしての指導
14.　学校内外の組織的指導体制と取り組み
15 .　家庭や地域、専門機関との連携

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

レポート全ての評価が終わった段階で，manabaを通じて全体的な総評を伝える。.

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）授業では、リアクションペーパーに疑問点、感想を記載して提出するため、授業で取り上げるテーマについて各自のこれまでの実習や現場での体験に基づいた疑問や考えをできるだけ明らかにするように努めること。（各1時間）
（復習）毎回の授業で参考図書、参考URLを紹介する。それらを参考にして、授業内容を定着させるよう各自主体的に理解を深めていくこと。（各1時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書・参考資料等＞
小学校学習指導要領（平成29年告示）、文部科学省
原田眞理編著（2020）改訂第2版　教育相談の理論と方法　玉川大学出版部
森田健宏・吉田佐治子（2018）教育相談　よくわかる教職エクササイズ　ミネルヴァ書房
平井正三・上田順一編（2016）　学校臨床に役立つ精神分析　誠信書房
Iｻﾞﾙﾂﾊﾞｰｶﾞｰ・ウィッテンバーグ他著　平井正三他監訳（2008）学校現場に生かす精神分析-学ぶことと教えることの情緒的体験　岩崎学術出版社
ビディ・ヨ-エル著　平井正三監訳・鈴木誠訳〈2009）学校現場に生かす精神分析【実践編】　岩崎学術出版社

＊その他の参考文献・資料などは必要に応じて紹介する

オフィスアワー

オフィスアワー　金曜4限目

連絡先

noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp

留意事項

この科目は教職課程の必修科目であるが、最終学年の最終学期に配置されている。間もなく教育現場に出ていく履修者にとっては、きわめて切実な問題に触れ、考える授業ともいえる。積極的に学び取ろうという意欲を持って、多面的多角的に考える視野を身に付けるよう授業に臨んでください。

幼児理解及び教育相談の理論と方法					単位数	2単位
授業コード	85356	科目ナンバリング	330B1-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	三宅　一恵					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

幼児理解は，幼稚園・保育園等の教育，保育のあらゆる営みの基本となるものであることを踏まえ，幼児理解に対する知識を身に付けるとともに，幼稚園・保育所等での様々な事例を参考にしながら，具体的な幼児理解の方法について理解を深める。また，教育相談の重要性について学び，親や子どもの育ちを支える保育者の専門性を磨く。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・幼児理解の知識と，幼児理解を深めるための基礎的な態度を身に付ける。	知識・技能
2	・幼児を理解するための具体的な方法について知る。	思考・判断・表現力／主体性
3	・教育相談の意義と理論を学び，保育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業での意欲・態度	20点	1／2／3
2	・レポート・小テスト	30点	2
3	・定期試験	50点	1／2
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園勤務の経験から，幼児理解が保育の基本であることを具体例を通して伝えながら，学生が幼児理解を行うための，基礎的な態度や方法を学ぶことができるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：幼児理解の意義と原理
第２回：乳児期の成長の特性と発達課題
第３回：幼児期前半の成長の特性と発達課題
第４回：幼児期後半の成長の特性と発達課題
第５回：保育者の自己理解（子ども観・保育観）と他者理解
第６回：幼児の主体的な生活を基盤とする保育
第７回：保育記録から見る幼児理解
第８回：個と集団の関係から見る幼児理解
第９回：幼児理解と評価
第10回：幼児理解を深めるための保育者の基礎的態度
第11回：受け入れがたい幼児の行動理解とその援助
第12回：教育相談の意義と課題
第13回：カウンセリングマインドを生かした幼児理解・保護者理解
第14回：教育相談の実際に学ぶ幼児理解・保護者理解
第15回：集団教育と家庭教育の連携−保護者や各専門機関との連携−

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に必携書や参考資料の課題を示し，授業内容を含めた小テスト，小レポートを実施するため，予習に力を入れることが望ましい。　（約1時間） 積極的に保育現場にでかけ，保育観察・保育参加などの実体験を通して，幼児への理解を深めてほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 〇『幼児理解に基づいた評価』，文部科学省，チャイルド本社 〇『メディアにむしばまれる子どもたち−小児科医からのメッセージ−』，田澤雄作，教文館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ・『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示），文部科学省 ・『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月），文部科学省，フレーベル館 ・『保育所保育指針』（平成29年3月告示），厚生労働省 ・『保育所保育指針解説書』（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示），内閣府・文部科学省・厚生労働省 必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　月曜日４限、木曜日４限
連絡先
k.miyake@m.ndsu.ac.jp
留意事項

初等教育実習事前事後指導［a］				単位数	1単位
授業コード	85400	科目ナンバリング	330B1-3000-x1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	三宅　一恵、湯澤　美紀、池田　尚子、西山　節子、近藤　百合恵				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育実習の目的や内容を明らかにし，実践に必要な心構え，教材研究，指導計画案作成，学級経営，指導技術等について，具体例を通して学ぶ。
教育実習後に，自分の実習の成果と課題を明らかにし，今後の学びについて計画をもつ。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・教育実習の意義を理解し，幼稚園実習に積極的に向き合うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	・教育実習生として園の教育活動に参画する意識をもつことができる。	知識・技能／主体性
3	・指導計画作成の意義について理解を深め，保育を構想することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	・教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し，教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の活動の様子	30%	1／2／3／4
2	感想・反省・討論の内容	30%	1／3／4
3	体験活動の課題レポート	40%	1／2
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

三宅・西山・近藤は，幼稚園園長や担任として，実習生を担当した経験をもとに，教育実習生としてあるべき姿勢を学生に伝える。また，幼稚園生活の流れや幼児の実態など，具体的な事例を紹介しながら，指導計画案の作成や模擬保育を行い，学生自身が保育を構想することができるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

[事前指導]
Ⅰオリエンテーション
1～2 教育実習の概要と準備について
3　教育者の目指すべき姿
4～5 教育実習の心構えと教師の服務
Ⅱ教育実習の実務練習
6～8 実習記録の書き方Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
9～10 観察実習、遊び実習ほか
11～12 参加実習、模擬保育ほか
Ⅲ教育実習の直前準備
13～14 教育実習体験談（4年生から）・直前打合せ
15　　実習園オリエンテーション

[事後指導]
Ⅳ教育実習の反省と課題
16～17 教育実習の振り返り（個人と各園別）
18 教育実習報告会
19～20 教育実習のまとめ（実習記録等の整理とレポート作成）
Ⅴ教育現場との連携
21～22 人権問題（人権意識を育てる教育活動の理論と実践）
23　教員採用試験合格体験談（現役合格者から）
24～ ボランティア・インターンシップによる現場体験

定期試験
課題レポートを提出すること。
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）　授業初回時に配布する『教育実習の手引き　2023』を熟読し，授業テーマに応じて，関連する箇所の予習を欠かさず行うこと。また，「指導案」作成に向けた教材研究は，各自目的をもって取り組むこと。 （復習）　授業の内容を踏まえ，「観察記録」「指導の記録」「指導案作成」の課題に取り組むこと。また，特別講義に際しては，特に，心に残った点について「感想文」としてまとめる。各課題の提出日については，授業内で指示する。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ・『教育実習の手引き　2023』　・『教育実習日誌』 （本授業オリエンテーションにて配付する） ・『子どもも大人も絵本で育つ』湯澤美紀著，柏書房 ＜参考書等＞ ・必要に応じて資料を配付する
オフィスアワー
・各担当教員のオフィスアワーは，授業初回時に指示する。
連絡先
三宅　k.miyake@m.ndsu.ac.jp 湯澤　yuzawa@m.ndsu.ac.jp 池田　hisako.i@m.ndsu.ac.jp 西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・提出物は期限を厳守する。 ・実習参加の準備として，毎回の出席が必要である。 ・積極的に情熱をもって取り組む。

初等教育実習事前事後指導［b］				単位数	1単位
授業コード	85410	科目ナンバリング	330B1-3000-x1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	杉能　道明、安江　美保、福原　史子、赤木　雅宣、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育実習の目的や内容を明らかにし，実践に必要な心構え，教材研究，指導計画案作成，学級経営，指導技術等について，具体例を通して学ぶ。
教育実習後に，自分の実習の成果と課題を明らかにし，今後の学びについて計画をもつ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・事前指導では，教育実習生として学校の教育活動に参画する意識をもつことができる。	主体性
2	・事後指導では，教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し説明することができるとともに，教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について知ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・事前・事後指導を通して，教育実習の意義を理解し，学校現場の指導に対して感謝の気持ちをもちそれを表現することができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の活動の様子	30%	1
2	課題・レポート	40%	1／2
3	指導案・実習日誌	30%	2／3
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員は全員小学校に勤務した経験を持つ。この実務経験をもとに、教育実習を受け入れる学校の視点・先輩教師としての視点から、学生に細やかな指導助言を行う。教育実習の意義やねらいを伝え、実習に向けての心構え、実習中の勤務の仕方、観察・参加の仕方、態度・身なり等について、教育実習生としてどうあるべきかを自覚できるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

[事前指導]
〇教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに，その責任を自覚した上で，意欲的に実習に参加できるようにする。
Ⅰ　オリエンテーション
１～２ 教育実習の概要と準備について
３ 教育者の目指すべき姿
４～５ 教育実習の心構えと教師の服務
Ⅱ　教育実習の実務練習
６～８ 実習記録・日誌の書き方Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
９ 観察実習，当番活動の構想と記録
10～11　参加実習，当番活動の実践
12 模擬授業とその振り返り
Ⅲ　教育実習の直前準備
13～14 教育実習体験談（4年生から）・直前打合せ
15 実習校オリエンテーション

[事後指導]
〇教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り，教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能，心構え等について整理する。
Ⅳ　教育実習の反省と課題
16～17 教育実習の振り返り（個人と各校別）
18 教育実習報告会（各校別）
19～20 教育実習のまとめ（実習記録等の整理とレポート作成）
Ⅴ　教育現場との連携
21　若手教員（本学OG教員）との意見交換
22　教員採用試験合格体験談（現役合格者から）
23～ インターンシップによる現場体験とその振り返り（合同カンファレンス）

定期試験

次の課題の提出を求める。
〇「教育実習の成果と課題」のレポート
〇教育実習中に書いた指導案（２種類）
〇「実習日誌」

試験のフィードバックの方法

「実習日誌」についてはコメントを入れ，返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（事前指導）
・教育実習に向けての具体的な準備が進んでいく。毎回の内容をきちんと復習し、手引きや日誌も参考にしてまとめていくこと。
・指導法の授業で学ぶ指導案の書き方や模擬授業の実践、インターンシップでの体験等と連携させ、教育実習に臨む自分の姿をしっかりイメージして取り組むこと。
（事後指導）
・教育実習で学んだことを想起し、成果と課題を明らかにする中で、新たな課題を見出す。そのために、教師になった自分を想定して、授業力向上のための方策、よりよい学級経営のための方策などを考え、話し合っていく。その後、自分のことばで表現し、まとめていく。このことが、最終レポートにつながっていく。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・教育実習の手引き　2023　　・教育実習日誌
＜参考書等＞
・学習指導案例集　2023

オフィスアワー

・オフィスアワーについては，授業中に指示する。

連絡先

杉能：sugino@post.ndsu.ac.jp

留意事項

・提出物は期限を守る。
・実習参加の準備として，毎回の出席が必要である。
・積極的に情熱をもって取り組む。

初等教育実習［a］				単位数	4単位
授業コード	85450	科目ナンバリング	330B1-3000-x4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	三宅　一恵、湯澤　美紀、池田　尚子、西山　節子、石田　和子				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

大学での理論を幼稚園教育現場で実証・研究するとともに，自らの子ども観，発達観，教育観をより確かなものにする。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.実習日誌の記述を通して，日々の保育を適切に振り返ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.幼稚園現場の組織や運営の在り方，幼児理解や人間関係づくり，学級経営や環境整備，教材研究の在り方などを学び，保育を構想し実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3.教師としての豊かな資質と力量を身につけ，積極的に子どもと関わることができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	教育実習記録　　20%	1／2
2	教育実習の評価 60%	1／2／3
3	教育実習の様子(態度・技能等) 20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

三宅・西山・石田は，幼稚園園長・担任としての勤務経験から，現場の教師が幼児に関わる姿や声掛けの具体、また、指導計画案の作成にあたり、活動内容およびねらいや内容、環境構成や指導上の留意点などの実践場面を想定した指導が可能となる。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

［第１週　…　観察と部分参加］
・園長講話と担任との懇談
・保育活動・１日の流れ観察と参加実習・当番活動
・保育・授業の自主立案と実践Ⅰ
［第２週　…　幼児・児童理解と保育・授業立案］
・幼児・児童理解と保育・当番活動
・保育・授業の指導計画案作成と実践Ⅱ
・振り返りと今後の課題（中間まとめ）
［第３週　…　保育・授業の実践と当番活動］
・保育・授業の指導計画案作成と実践Ⅲ
・保育環境の整備・構成
・当番活動案の作成と実践
［第４週　…　全日保育・半日経営とまとめ］
・半日保育・全日保育・半日経営
・幼児・児童理解の深化とまとめ（成果と課題）
・教育実習の反省と評価

定期試験
実習日誌を仕上げ、提出すること
試験のフィードバックの方法
実習日誌返却時に伝える
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
『教育実習日誌』を活用し，日々の実習の予習（保育計画）・復習（振り返り）を行う。各実習園のオリエンテーション時に配布された資料を精読し，実習に臨む。実習時に行う指導に関しては「部分指導案」「半日指導案」「全日指導案」に，指導の計画を記入する。また，実習で学んだことを「観察記録」「指導の記録」にまとめるとともに，日々の振り返りを「考察」に記入する。また，実習全体の振り返りとして，「教育実習の感想・反省」に実習を総括し，心に残った出来事等の思いを書く。実習の体験を自覚化するうえで，実習そのものはもちろんのこと，実習の事前・事後の予習・復習にも力をいれてほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『教育実習の手引き　2023』　・『教育実習日誌』 「教育実習事前事後指導ａ」の授業にて配付する。
オフィスアワー
○各担当教員のオフィスアワーは，「初等教育実習事前事後指導ａ」の授業初回時に，指示する。
連絡先
三宅　k.miyake@m.ndsu.ac.jp 湯澤　yuzawa@m.ndsu.ac.jp 池田　hisako.i@m.ndsu.ac.jp 西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○日ごろより生活リズムを整え，健康維持に努め，自己の体調管理を十分行い実習に臨むこと。 ○教育実習生であるという立場を意識して，教職員，幼児に接すること。 ○教育実習生であっても，教師の服務を厳正に守ること。

初等教育実習［b］				単位数	4単位
授業コード	85460	科目ナンバリング	330B1-3000-x4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	杉能　道明、安江　美保、福原　史子、赤木　雅宣、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

大学で学んだ教科・領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を，学習指導や学級経営の場面で実践するための基礎を修得する。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに，学校現場での実務に対する補助的な役割を担う。	思考・判断・表現力／主体性
2	・教育実習校の児童の実態を踏まえた学習指導，学級経営等を理解し実践する。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	○教育実習の評価（実習校からの評価を吟味したもの）	60%	1／2
2	○教育実習中の教育活動の様子（実習校からの情報，実習中指導をもとに）	10%	1
3	○教育実習の記録（実習中の様子，成果，担当教員とのやりとり等）	20%	1／2
4	○教育実習後レポート（今後の目標設定等を中心に）	10%	2
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員は全員小学校に勤務した経験を持つ。この実務経験をもとに、教育実習を受け入れる学校の視点・先輩教師としての視点から、学生に細やかな指導助言を行う。教育実習中の授業づくりに向けての学習指導案作成の相談に乗ったり、教育実習中の学生の様子を観察し必要に応じて指導助言を行ったり、教育実習校からの報告・連絡・相談に対応し必要に応じて学生に連絡したりする。これらの関わりを通して、教職の魅力と実習校や実習担当の先生方への感謝の気持ちを持つべきことを伝えたい。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

［第１週　…　観察と部分参加］
○学習指導要領及び児童の実態を踏まえた適切な指導案を作成し，授業を実践する。
・校長講話と担任との懇談
・授業実践①（自主立案授業）
・１日の流れ観察と当番活動①
［第２週　…　児童理解と授業立案］
○学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに，適切な場面で情報機器を活用する体験をする。
・児童理解と当番活動②
・授業の指導計画案作成と授業実践②（共同立案授業）
・振り返りと今後の課題（中間まとめ）
［第３週　…　授業の実践と当番活動］
○学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。
・授業の指導計画案作成と授業実践③（選択教科等の授業）
・教育環境の整備と構成
・当番活動案の作成と実践③
［第４週　…　半日経営とまとめ］
○様々な場面を想定して，適切に児童と関わることができる。
・授業の指導計画作成と授業実践④（半日経営授業）
・半日経営の実施
・児童理解の深化とまとめ（成果と課題）
・教育実習の反省と評価

定期試験

次の課題の提出を求める。
〇「教育実習の成果と課題」のレポート
〇教育実習中に書いた指導案（２種類）
〇「実習日誌」

試験のフィードバックの方法

「実習日誌」についてはコメントを入れ，返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・学習指導案，当番活動の記録でプランを立て（Ｐ），実際にやってみて（Ｄ），振り返り（Ｃ），次の実践をよりよくする（Ａ）というＰＤＣＡのサイクルをきちんと通って，意図的な実践を積み重ねること。
・「今，自分ができることは何か」を考え，実行に移すこと。その時「報告・連絡・相談（ホウレンソウ）」を大切にし，学校（教師集団）の一員であることを常に意識して行動したい。
・毎日の日誌は、実習の成果と課題を明らかにしていくうえで大切な蓄積になる。自らの取り組み、児童とのかかわりなどを想起して、一定の時間で書き切ること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・教育実習の手引き　2023　　・教育実習日誌
＜参考書等＞
・学習指導案例集　2023

オフィスアワー

〇オフィスアワーについては，授業中に指示する。

連絡先

杉能：sugino@post.ndsu.ac.jp

留意事項

〇あくまで教育実習生であるという立場を十分に意識して，教職員・児童に接すること。
〇教育実習生であっても，教師としての服務を厳正に守ること。

教職実践演習（幼・小）［a］				単位数	2単位
授業コード	85470	科目ナンバリング	330B1-4000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	三宅　一恵、湯澤　美紀、池田　尚子、西山　節子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

・学校園の現場で即役立つことを中核に、実践力を高めることを目的とする。
・それぞれの内容項目について、グループで実際にロールプレイすることなどの取り組みを中心とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・大学４年間で学んだ学習知と教育実習、基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知とを総合して考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的な指導力をもった教員としての自覚をもつことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・演習での発表　　50%程度	1／2
2	・レポート　　50%程度　　を基準に総合的に評価する。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

三宅・西山は，幼稚園園長や担任として，園経営・学級経営を行なった経験をもとに，学生が4月からそれぞれの保育現場で保育者としての役割を果たすことができるように，実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　場面に応じた話し方Ⅰ（園内外の研修）
2　学級担任としての役割Ⅰ（学級懇談会）
3　学級経営における教師の対応Ⅰ（登園・降園指導）
4　学級担任としての役割Ⅱ（危機管理・地震訓練）
5　学級担任としての役割Ⅲ（担任としての一日）
6　学級経営における教師の対応Ⅱ（組活動）
7　授業者としての研鑽Ⅰ（カンファレンスの重要性）
8　学級担任としての役割Ⅳ（園外保育の理論）
9　学級担任としての役割Ⅴ（園外保育の実践）
10　学校園の一員としての役割（職員連携）
11　授業者としての研鑽Ⅱ（個別支援）
12　学級経営における教師の対応Ⅲ（生活指導）
13　場面に応じた話し方Ⅱ（子どもと心を通わせる関わり）
14　場面に応じた話し方Ⅲ（環境を通した指導）
15　学級経営における教師の対応Ⅳ（保護者に対する連携・支援）

定期試験
レポート作成
試験のフィードバックの方法
「教職連絡会」等で、レポートの内容についてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業は，毎回テーマを決めて，教育現場での実践力を高めていくことを目的にしている。ノートやファイルを作成して，レジュメや資料，ロールプレイ等の反省などをもとにして，毎回の内容をきちんとまとめていくことを求める。このまとめが，学校現場に出たときの「実践マニュアル集」になる。最終レポートでは，毎回の蓄積を総動員して，自分なりの実践プランを考えることになる。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業の中で紹介する。
オフィスアワー
授業の中で指示する。
連絡先
三宅　k.miyake@m.ndsu.ac.jp 湯澤　yuzawa@m.ndsu.ac.jp 池田　hisako.i@m.ndsu.ac.jp 西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教職を目指すうえでの最終段階の授業である。４月から学校園の現場に就くことを前提に，具体的な実践力を高めていくので，積極的に取り組むこと。

教職実践演習（幼・小）［b］				単位数	2単位
授業コード	85480	科目ナンバリング	330B1-4000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤木　雅宣、杉能　道明、福原　史子、安江　美保、青山　新吾、土居　裕士、後藤　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

・学校現場で即役立つことを中核に、実践的指導力を高めることを目的とする。
・それぞれの内容項目について、グループで実際にロールプレイをすることなどの取り組みを中心とする。
・課題についてロールプレイ等を通して解決していく中で、それぞれの内容項目の理論と実践を身に付ける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・大学４年間で学んだ学習知と教育実習。基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知との統合を図る。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力身に付けて、４月からの学校現場での勤務に備える。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・演習での発表　50%程度	1／2
2	・レポート　50%程度　を基準に総合的に評価する。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

全ての担当者が、公立小学校の教員として勤務した経験をもつ。これをもとに、これから学校現場で担任として勤務する際の課題を実践に即して取り上げ、解説を加える。学生は、テーマに沿って問題解決する中で、実践の理論や方法を再確認し、実践的な指導力を高めることができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　評価に関する基本的な構え
2　学級担任としての役割Ⅰ（学級懇談会）
3　学級経営における教師の対応Ⅰ（朝の会、朝のあいさつ）
4　学級担任としての役割Ⅱ（危機管理・地震訓練）
5　学級担任としての役割Ⅲ（担任としての一日）
6　学級経営における教師の対応Ⅱ（係活動）
7　授業者としての研鑽Ⅰ（課題解決型の授業をつくる）
8　学級担任としての役割Ⅳ（校外学習の引率）
9　学校園の一員としての役割（職員会議）
10　授業者としての研鑽Ⅱ（安全な水泳指導）
11　授業者としての研鑽Ⅲ（ICTを活用した授業づくり）
12　場面に応じた話し方Ⅱ（子どもへの話し方①トラブルを起こした子どもへ）
13　場面に応じた話し方Ⅲ（子どもへの話し方②心に残る話・話し方）
14　学級経営における教師の対応Ⅳ（給食指導・清掃指導）
15　学級担任としての役割Ⅴ（保護者への連絡）
16　まとめ（教職連絡会）

定期試験

16　最終レポート作成（担任としての私・子どもとの出会いをつくる）

試験のフィードバックの方法

「教職連絡会」等で、レポートの内容についてコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

この授業は、毎回テーマを決めて、教育現場での実践力を高めていくことを目的にしている。ノートやファイルを作成して、レジュメや資料、ロールプレイ等の反省などをもとにして、毎回の内容をきちんとまとめていくことを求める。
（所要時間３０～４０分程度を想定）
このまとめが、学校現場へ出たときの「実践マニュアル集」になる。
最終レポートでは、毎回の蓄積を総動員して、自分なりの実践プランを考えることになる。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
「小学校学習指導要領」（平成２９年３月告示）

オフィスアワー

オフィスアワー　　授業の中で伝える。

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）

saotama@post.ndsu.ac.jp　（青山）

sugino@post.ndsu.ac.jp　（杉能）

留意事項

教職を目指すうえでの最終段階の授業である。４月から学校園の現場に就くことを前提に、具体的な実践力を高めていくので、積極的に取り組むこと。

特別支援教育総論				単位数	2単位
授業コード	85905	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

特別支援教育の理念を押さえた上で、特別支援学校における教育のこれ基本的な考え方基本的な考え方とその実際を,学習指導要領の目標及び内容に即して説明する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	特別支援教育の理念と特別支援学校の制度との関係を理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	障害のある幼児、児童、生徒への教育に関する歴史と特別支援学校の変遷を理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	特別支援学校の教育の実際について理解し、自分のことばでその意味について表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	特別支援学校の教育制度を支える関連法規及び学習指導要領との関連を理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	インクルーシブ教育と特別支援学校の教育の関連について理解し,自分のことばでその意味について表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取組度（毎回の振り返りの記述）３０％	1／2／3／4／5
2	レポート（期間中に提出）　２０％	1／2／3／4／5
3	学期末試験　５０％	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別支援学校への研究協力、指導助言を行う中で得られた最新の知見や具体的なエピソードを紹介することで、現場の実態に応じたリアルな状況を伝えると共に、理論と具体的な実践をつなぎ合わせた授業を展開する。また、研究協力等でコラボレーションしている方や障害のある当事者、保護者等を実際に招き、対話型講義を実施して、特別支援の視点を取り入れた保育・教育やインクルーシブな保育・教育の実際について学びを深められるような授業を展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　特別支援教育とは（青山）
2　インクルーシブ教育システムと特別支援教育（青山）
3　特別支援学校の歴史と今（青山）
4　特別支援教育の15年 国の流れ（青山）
5　特別支援学校の教育　その現状と課題（青山）
6　地域と特別支援学校　交流および共同学習（土居）
7　地域と特別支援学校　センター的機能（土居）
8　特別支援教育の視点を取り入れる教育（土居）
9　特別支援学校の教育(1) 当事者の実態、声から始まる（青山）
10 特別支援学校の教育(2) 教育課程の特色（青山）
11 特別支援学校の教育(3) 自立活動（青山）
12 特別支援学校の教育(4) 地域協働学校の取組とキャリア発達（青山）
13 家族の声から学ぶ（青山）
14 インクルーシブ教育と特別支援学校（青山）
15 まとめ　エピソードで語る特別支援教育（青山）

定期試験
16回目に定期試験を実施する。
試験のフィードバックの方法
必要に応じて，試験のポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で情報を提供する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の講義で、その日の内容に関連した参考文献、参考URLを紹介する。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報を適宜提供したり、講義内容について更に発展的な内容や事前の学習についてコメントを発信したりする。これらを参考にしながら、講義内容への関心を高め、理解や思索を進められるよう、講義外での学習に取り組んで欲しい。その学習に費やす時間としては概ね30～60分を想定している。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』文部科学省 ， 海文堂出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 『地域共生社会の実現とインクルーシブ教育システムの構築』落合俊郎・川合紀宗，あいり出版 『特別支援教育』石塚謙二・廣瀬由美子他,ミネルヴァ書房
オフィスアワー
オフィスアワーは講義中に指示する。電子メール等による質問、相談等は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
この講義は、教職必修の「特別支援教育基礎論」の学びを踏まえて、特別支援教育について更に深めていくことをねらいとした講義である。特に、特別支援学校の教育についての基本をゆっくりと解説しながら一緒に読み解いていくものである。特別支援学校教諭1種免許状の取得の有無にかかわらず、多くの人の受講を期待する。

知的障害児の心理・生理・病理				単位数	2単位
授業コード	85950	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	東　俊一、大野　繁				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

知的障害とは、ことば、認知、記憶、判断などの知的機能の発達に遅れがみられ、社会生活への適応が難しい状態をいう。本授業では、知的障害児の心理・生理・病理について学び、その行動特徴とそれらに応じた支援のあり方について述べる。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	知的障害の状態像を理解し説明することができる。	知識・技能／主体性
2	知的障害児を取り巻く環境について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	一人ひとりの特性と生活環境との相互作用について理解し、その影響について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	個々の特徴に応じた支援に関する概要・方法を理解し、計画できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末テスト（100/100）	1／2／3／4
2	なお、本授業は担当教員が２名いるため、各々がテストを実施し、その点数をもとに評価する。評価割合は、前半１０コマ分に2/3, 後半５コマ分に1/3を充てる。	
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別支援教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーションおよび脳の解剖と機能（担当：東　大野）
2　脳の解剖（担当：大野）
3　脳の機能の概論（担当：大野）
4　皮質の機能分布（担当：大野）
5　脳の発生（担当：大野）
6　知能について（担当：大野）
7　遺伝・染色体・胎生期異常（担当：大野）
8　知的障害の病理（担当：大野）
9　知的障害の併存症（担当：大野）
10　知的障害の病理のまとめ（担当：大野）
11　知的障害とは（担当：東）
12　知的障害児のことばと運動機能の特徴（担当：東）
13　知的障害児の認知の特徴（担当：東）
14　知的障害児の記憶の特徴（担当：東）
15　問題行動と行動問題（担当：東）

定期試験
期末テスト
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に応じる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、各担当の授業1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
知的障害児の教育-ゆたかな発達支援をめざして-　大学教育出版 各担当の第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　1期：金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

肢体不自由児の心理・生理・病理				単位数	2単位
授業コード	86000	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	大野　繁				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　脳と神経系の基本的な理解を通して、発達していく過程である小児の全体像をみつつ、小児の定型発達の理解、肢体不自由児，知的障害児，病弱児の心理・生理・病理を現代という時代の育ちの環境の問題点も視野に入れ講義を進めていく。家庭環境や地域の育ちの環境においてこどもが育っていくという視点の大事さにも言及していきたい。さらに小児神経学としての障害というもののとらえ方について言及していきたい。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	脳の解剖、局在機能、感覚器官、運動器官の基本的な働き方関連性を知る。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	脳の発生、脳の分化、成り立ちについて学ぶ。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	染色体異常、遺伝子異常、発生過程の異常、外因による障害、と病理について学ぶ。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	肢体不自由児成り立ちについて学ぶ。肢体不自由児にまつわる、生育的な課題、環境の課題などについて理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	障害児の心理・生理及び病理を理解し，教育・療育・地域の支援についての仕方の基本を知る。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	出席することによる評価	1／2／3／4／5
2	レポートによる評価	1／2／3／4／5
3	授業中の様子、質問に対する受け答えの内容など	1／2／3／4／5
4	筆記テストによる評価	
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　序論
2.　脳の構造
3.　脳の機能
4.　脳の発生
5.　染色体異常、遺伝関連性疾患
6.　胎生期異常
7.　新生児期、周生期異常
8.　後天性に発症する脳の病気・感染症，代謝疾患，変性疾患
9.　脳性小児麻痺
10. 肢体不自由と合併する神経疾患　（１）-てんかん
11. 肢体不自由と合併する神経疾患　（２）-知的能力症、自閉スペクトラム症
12. 筋ジストロフィー
13. 知能検査・心理検査
14. 肢体不自由児の理解と社会との関わり合いと支援（１）-当事者と家族
15. 肢体不自由児の理解と社会との関わり合いと支援（２）-学校環境の支援

定期試験
16. 定期テスト
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、授業1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
質問等は授業の前後で随時受け付ける。
連絡先
sigma0001@icloud.com
留意事項

病弱児の心理・生理・病理					単位数	2単位
授業コード	86050	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中内　みさ					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

病弱(虚弱を含む)とは、内部障害、健康障害ともいい、疾患（disease）により継続的に医療や生活規制を必要とする状態をいう。本講義では、病気と共に生きる子どもたちを支援できるように、主な基礎疾患の生理や病理、日常生活上の留意点などを学ぶ。そして、それらを基に、①病気と共に生きる子どもの心理や社会性の発達、認知特性などについて、②家庭や教育・医療・福祉などの関連諸機関との連携について、③情報やアセスメントなどによって子どもの現状や課題を把握することの重要性について、理解を深める。それにより、多角的な視点で子どもを見る態度および、彼らのlife(生命、生活、人生)を、学校や保育現場など日常生活の中で支援する方法を習得することを目指す。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．主な基礎疾患の原因や症状、日常生活上の留意点を説明することができる。	知識・技能
2	２．病気と共に生きる子どもたちの心理や社会性・認知などの特性を、発達的・心理社会的観点に立って説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	３．病気と共に生きる子どもたちの支援のために、家庭や学校・病院など関係諸機関との連携の重要性を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	４．情報や検査、観察などから、子どもの現状や課題を把握することの重要性を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	５．病気と共に生きる子どもの生活や人生を支援する方法を提案できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　　20% ・書き方等は最初の授業で説明する。	1／2／3／4
2	レポート（2回）　　30%	1／2／3／4／5
3	定期試験　　50%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

病弱養護学校（現・特別支援学校）の中学部・高等部の教員として、またカウンセラーとしての体験から、病気と共に生きるとはどういうことか–症状や生活の様子だけでなく、子どもたちや家族の気持ちや悩みなどをも伝えていきたいと考える。学生には、疾患のみに注目するのではなく、発達段階や家庭環境、生活体験などを絡めて一人一人の子どもの全体像を見ることができる多角的な視点をもってほしい。また、病気と共に生きる子どもたちへの支援は、決して病院や学校だけにとどまらない。「保育士として」「教員として」だけでなく、社会を生きる一員として、彼らにどのような支援ができるかを考えてほしい。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回　１　健康とは何か
　　２病弱（身体虚弱を含む）の生理と病理
第２回　　２−１　心臓疾患
第３回　　２−２　腎臓疾患
第４回　　２−３　糖尿病、膠原病
第５回　　２−４　精神・神経系疾患、心身症など
第６回　　２−５　悪性新生物、筋ジストロフィー
第７回　　２−６　その他の疾患（アレルギー、血液疾患など）
　　３　病弱児の心理
第８回　　３−１　病気になる／であるということ
第９回　　３−２　病弱児の心理１（学校、日常生活を中心に）
第10回　　３−３　病弱児の心理２（入院、ターミナル期を中心に）
　　４　病弱児の発達と発達的観点から見た課題への支援
第11回　　４−１　社会性の発達と課題
第12回　　４−２　認知の特性と課題
第13回　　４−３　家庭、諸機関との連携
第14回　　４−４　アセスメントと支援
第15回　定期試験
第16回　試験解説、まとめ

定期試験
15週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法
16週目に試験解説を行う。ただし、試験欠席者に追試を行う場合は、公平を期すために原則として試験解説は行わない。その場合は、後日、研究室の前に模範解答を掲示するなどの対応をする（時期等はmanabaで告知する）。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業の前半は生理・病理分野を概説する。身体の仕組みに関する知識があると理解しやすい（高校で生物や保健を学んだものは教科書・参考書）。 ・授業前にmanabaで〈予習課題〉を出す（資料紹介を含む）。授業が理解しやすくなるので必ず予習しておく（約40分）。 ・授業後は、必ず復習すること。医学関連の本や学会・病院のホームページ（随時授業で紹介する）などの引用文献は紹介するので、自分でまとめておく（約60分）。 ・毎回の授業で、参考図書を紹介する。その図書は病弱児や特別支援教育関連にとどまらず、子どもと関わる、あるいは子どもの問題を考える上で参考になる本も含むので、ぜひ読んでほしい（随時）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ プリントを配布する。 ＜参考書等＞ 中内みさ（2014）『病弱児の心理的支援に関する研究−病気の受容の観点から−』現代図書 その他、授業中に随時、紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは月曜日の2時限および水曜日の3時限です。 授業内容に関する質問はリアクションペーパーに書いてください。次の授業の冒頭で解説します。 その他の質問等はメールでも受け付けます。
連絡先
中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・積極的で誠意ある受講態度を望みます。課題意識をもって授業に臨んでください。 ・意見や質問などは積極的にリアクションペーパーに書いてください。質問には次の授業で答え、自分で調べることができる資料等があれば紹介します。関連の文献、資料、ホームページにも言及しますので、もっと詳しく知りたい方は、ぜひ積極的に調べてみましょう。 ・諸連絡およびレポートはmanabaを利用します。

知的障害児教育				単位数	2単位
授業コード	86100	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

知的障害のある子どもの捉え方について考察すると同時に、具体的な子どもの様子を記述する練習を行う。また、知的障害特別支援学校や特別支援学級の授業プランを構想したり、教材づくりを行ったりしながら、模擬授業を実施する。加えて、知的障害特別支援学校での授業参観とその振り返りも行う。これらの総合的な学習により、知的障害のある子どもはもちろんのこと、特別な支援を必要としている子ども全体に対する授業の目標、内容、構成、支援等について実践的、理論的に理解、省察を進める講義である。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・障害のある子どものつまづきを捉え、その背景要因を検討した上で記述できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	・保育、学校現場における子ども達の生活文脈の中で、多面的な視点から子ども達を捉え、それを具体的なエピソードとして語ったり記述したりできる。	思考・判断・表現力／主体性
3	・知的障害のある子どもの様子を想像しながら、そのつまづきに対する教材の工夫や支援の手立てを検討し、模擬授業、模擬保育案を作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	・作成した指導案、保育案を元に模擬授業、模擬保育を行い，その振り返りによる学びや課題の内容をレポートに記述できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	・これらの学びの内容を総合的に理解し、多面的な視点から知的障害のある子どもの保育・教育についてレポートを作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	エピソード記述レポート　１０％	1／2
2	模擬保育案または模擬授業案の作成　２０％	1／3
3	模擬保育または模擬授業の振り返りレポート　３０％	4
4	総合レポート　４０％	5
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学校現場における勤務経験を活かして、指導案の作成や模擬授業についての目標設定や指導技術等の具体的な指導を行う。また、現在、指導・助言でかかわっている特別支援学校や特別支援学級での最新の知見や具体的なエピソードを紹介することで、できるだけ現場の実態に応じたリアルな状況を伝えると共に、理論と具体的な実践をつなぎ合わせた授業を展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　特別支援の視点を取り入れた保育・教育（１）基本的な考え方
２　特別支援の視点を取り入れた保育・教育（２）指導の実際
３　子どもをとらえる（１）子どものつまずきと背景要因の分析
４　子どもをとらえる（２）エピソードの記述と分析その１
５　子どもをとらえる（３）エピソード記述と分析その２
６　知的障害のある子どもへの指導の実際（１）授業の基本、指導案作成の基本
７　知的障害のある子どもへの指導の実際（２）指導案の修正
８　知的障害のある子どもへの教科等の指導（１）模擬授業とグループ検討
９　知的障害のある子どもへの教科等の指導（２）模擬授業の修正
１０　知的障害のある子どもへの教科等の指導（３）全体模擬授業
１１　知的障害のある子どもへの教科等の指導（4）全体模擬授業の振り返りと検討
１２　特別講義「保護者の視点から見た子ども達の将来に向けた取組」
１３　各教科等を合わせた指導（１）特別支援学校における授業の実際
１４　各教科等を合わせた指導（２）特別支援学校における授業の検討
１５　まとめ～知的障害のある子どもへの教育とは～

定期試験

１６　総合レポート

試験のフィードバックの方法

必要に応じて，まとめのレポート内容について、そのポイント等をmanabaで提供する。また、個人的な質問等にはメール等で対応する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

指導案の作成、模擬授業の準備及び修正を授業外の課題とする。それらは、受講者各自によってなされるとともに、次のステップとして、グループによって練り上げる活動も課す。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報を適宜発信するので、それらを参考に、講義内容への理解や思索を深めて欲しい。なお、それらの学習に費やす時間としては、模擬授業等の準備や課題の遂行時には60～90分、平常の講義においては30分程度を想定している。

必携書（教科書販売）

使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
資料は必要に応じて講義内で配布する。
＜参考書等＞
特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）
特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
『自閉症の子どもへのコミュニケーション指導』青山新吾著、明治図書
『個別の指導における子どもとの関係づくり』青山新吾著，明治図書
その他参考になるものを授業中に紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワーは講義中に指示する。電子メールによる質問、相談は適宜受け付ける。

連絡先

saoyama@m.ndsu.ac.jp

留意事項

この講義では、支援を要する幼児、児童への保育や教育全般に共通する内容を取り扱っていくので、免許取得の有無にかかわらず、特別支援について実践的に学びたい人の受講を歓迎する。

肢体不自由児教育					単位数	2単位
授業コード	86150	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	篠田　千枝					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、肢体不自由児教育についての歴史や教育的意義、多様な教育課程の意義や編成、方法、実態に即した指導内容や指導支援の工夫等の知識、技能を学ぶことで、肢体不自由教育の基礎的知識を理解し、指導支援の方法を修得することを目的とする。授業では、疑似体験や演習など体験的な機会やグループワークによる協議を通して生活や学習上の実態や課題分析をしたり課題解決の方法を考察したりする機会を持つ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１　肢体不自由児教育の歴史や教育的意義、特徴等について述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	２　肢体不自由児教育の多様な教育課程について、教育課程の編成や方法等、特徴について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	３　肢体不自由の基礎的疾患や心理、生理等の障害特性や生活上、学習上の課題について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	４　授業づくりにおいて、児童生徒の実態や課題に応じた指導支援（教材や環境、姿勢、ICTの活用等）の工夫を提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	５　肢体不自由児教育の教育制度や医療、福祉等との連携の在り方などの現状を踏まえ、肢体不自由教育における今後の課題について自分の意見を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	小テスト　　30%	1／2／3
2	ワークシート　20%	1／2／3／4
3	レポート　　50%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別支援学校の教諭、管理職として指導・学校経営に携わったり、研修機関の指導者として研修指導や相談業務に携わったりしていた経験から肢体不自由教育に関する歴史や教育体制、今日的課題、適切な指導支援の実際など多角的に取り上げ、教育的ニーズに応じた指導支援の必要性や方法を演習やグループワークなどを通して体験的に学び実践への活用を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　肢体不自由児者を理解するにあたって　オリエンテーション
2　肢体不自由児教育の歴史と教育的意義
3　肢体不自由児の理解　①児童生徒の実態（病理、心理、生理等）
4　肢体不自由児の理解　②児童生徒の実態（感覚、運動機能等）と配慮事項（介助による摂食体験）
5　肢体不自由児の理解　④児童生徒の実態（移動、運動機能等）と配慮事項（車椅子による移動体験）

6　指導支援を進めるにあたって　①子どもを取り巻く生活環境と社会資源
7　指導支援を進めるにあたって　②保護者理解と関係機関との連携
8　教育課程　①編成の基準と学習指導要領のポイント
9　教育課程　②準ずる教育（各教科の指導）の教育課程と指導内容、指導支援の工夫
10　教育課程　③知的障害者である生徒に対する教育（各教科等合わせた指導）の教育課程と指導内容、指導支援の工夫
11　教育課程　④自立活動を主とした教育の教育課程と指導内容、指導支援の工夫
12　授業づくりのポイント　実態に応じた姿勢づくり、学習環境、教材教具等の工夫
13　個別の指導計画と個別の教育支援計画（学びの継続と自分らしく豊かな生活の実現に向けて）

14　キャリア教育の実際
15　肢体不自由特別支援学校における傾向と課題　重度・重複障害児の増加と医療的ケア

定期試験

最終授業時にレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

小テストやワークシート等については、授業内で解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業でその日や次回の内容に関する参考図書や資料を紹介する。それらを熟読し、関連する話題を肢体不自由児者に関する放送の視聴、特別支援学校のHPの閲覧、書籍、論文、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説等を活用してまとめておくこと（約１時間）。
授業に際し、講義内容を元にワークシートなどの作業課題に取り組む。授業後それを持ち帰り、紹介した資料も参考にしながら完成度の高いものに仕上げ、次回の授業開始時に提出すること（約1時間）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
資料は必要に応じて配布する。
＜参考書等＞
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編「幼稚部・小学部・中学部」　文部科学省
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部），文部科学省，海文堂出版株式会社
「よくわかる肢体不自由教育」　安藤隆男・藤田継道　編著　ミネルヴァ書房

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、リアクションペーパー等から得られた質問には次回の講義で取り上げる。

連絡先

s5102@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義の中での説明等に質問がある場合は遠慮なく途中でも尋ねること。

病弱児教育				単位数	2単位
授業コード	86200	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	中内　みさ				
時間割備考	9/5　1～4限　集中講義				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

疾患とともに生きる（live　with　disease）子どもたちに教育は何ができるか。本講義では、病弱教育の意義や役割、根拠法令等を明らかにした上で、病弱特別支援学校の教育課程を概説し、病弱教育の展望と課題を検討する。さらに、各教科等や自立活動における疾患や特性、学習空白などを考慮した指導上の工夫、個別の教育支援計画の立て方などに関して理解を深める。

また、薬害エイズ事件など病気は常に社会の問題とつながっている（たとえば、病弱特別支援学校に在籍する子どもの疾患種は年代によって変化している）。病弱教育に携わる者として教育だけでなく、医療や福祉制度など社会に関心をもって授業に臨んでほしい。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもの疾患や学習空白などに応じた内容や授業時数を踏まえた教育課程の編成に関して理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	個別の教育支援計画を基に、それぞれの目標を設定して各教科等や自立活動の個別の指導計画を立てることの重要性を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	病弱特別支援学校における各教科の指導計画の作成と内容の取扱いに関して、留意点を具体的に説明し、病状や学習空白など子どもたちの実態に応じて、情報機器の利用など授業の工夫を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自立活動における目標と内容に関して理解し、疾患や病状など子どもたちの実態に応じた内容の工夫を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	カリキュラム・マネジメントの観点から、個別の指導計画実施状況の評価と改善について述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	積極的な授業参加態度（リアクションペーパー）　20% ・質疑や意見など、書き方は最初の授業で説明する。	1／2／3／4／5
2	レポート　　30% ・計2回。	1／2／3／4／5
3	定期試験　　50%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

病弱養護学校（現・特別支援学校）の中学部・高等部の教員として勤務し、県の就学指導委員・心身障害教育相談員などを務めた経験から、指導の工夫や自立活動の実際などの実践例を提示することで（個人を特定する事例は出さない）、現場をイメージしやすいようにしたい。また、小児医療から成人医療への移行の問題やターミナル期の子どもへの対応など、病弱教育は単に学校教育の範疇にとどまらない面がある。現場の悩みや社会問題への関心の必要性なども併せて伝えていきたい。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回　　１　オリエンテーション　　根拠法令、病弱児教育における就学基準、制度など
第2回　　２　病弱児教育の特徴　　教育の場、ターミナル期の教育など

３　教育課程の編成
第3回　　３－１　病弱児教育における教育課程
第4回　　３－２　内容の取扱いと授業時数の取扱いなど
第5回　　３－３　教育課程の実施と評価・改善、カリキュラム・マネジメント
４ 各教科等における教育課程の編成と実際
第6回　　4-１　病弱特別支援学校における個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成
第7回　　4一２　病弱特別支援学校における各教科の指導計画の作成と内容の取扱い１（内容の精選、教材・教具の工夫など）

第8回　　4-３　病弱特別支援学校における各教科の指導計画の作成と内容の取扱い２（健康状態への配慮など）
第9回　　4-４　事例
第10回　　4-５　総合的な学習の時間、特別活動など
５　自立活動の指導の個別指導計画と実際
第11回　　5-１　自立活動の目標と内容

第12回　　５-2　個別の指導計画の作成と活動内容の実際
第13回　　５－３　事例
第14回　６ 病弱児教育における生徒指導、キャリア教育、教育相談
第15回　定期試験
第16回　試験解説、まとめ

定期試験
15週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
16週目の授業で、試験解説を行う。 ただし、試験欠席者に追試験を行う場合は、公平を期すために、原則、試験解説は行わない。その場合は、研究室の前に模範解答を掲示する等の対応をする（時期等に関してはmanabaで告知する）。また、manaba等で質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・事前にmanabaで授業で学ぶ課題を提示するので、課題について自分で調べたり、学習指導要領を呼んだりして、授業の流れをつかんでおくこと。（約30分）。 ・授業後は、事前に作成したまとめに加筆してまとめ直しておくとよい（約30分）。 ・子どもや医療、福祉などに関するニュースにも日ごろから関心をもって目を通しておくと、病弱教育の現状等が理解しやすくなります（随時）。
必携書（教科書販売）
『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』　文部科学省　（ISBN978-4-303-12424-3）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 適時、レジュメを配布する。 ＜参考書等＞ 随時、紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは月曜日の2時限および水曜日の3時限である。 授業内容に関する質問はリアクションペーパーに書くと、次の時間の冒頭で解説する。 その他の質問はメールでも受け付ける。
連絡先
中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者は「病弱児の心理・生理・病理」を受講しておくことが望ましい。受講していない者は「病弱児の心理・生理・病理」で配布したレジュメを渡すので、申し出てください（随時、質問も受け付けます）。 ・積極的で誠意ある態度を望む。普段から新聞や本をよく読み、また発達心理学や教育学など、あるいは実習などを通して学んだことに関して自分の意見をしっかりもって受講してください。何よりも子どもの人権を守るために学ぶという姿勢を持ってほしいと思います。

知的障害児教育総論				単位数	2単位
授業コード	86250	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	青山　新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

知的障害のある児童・生徒の心理・生理・病理の特性やその暮らしの実態、教育課程および指導法を中心に概説する。あわせて、具体的な実践例を参考にしたレポートの作成とグループ内での発表を行い、学校現場における指導の実際が具体的にイメージできるよう講義を展開する。また、進路指導や家族の思いにも触れ、一人一人の児童・生徒とその家族の生活までを包括した教育の在り方について、共に考えていく講義である。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・知的障害のある児童・生徒の暮らしや教育に関心を持ち、その教育の基礎的事項について理解して小レポートにまとめた上でそれを発表できる。基礎的事項の中心は ・教育課程編成の考え方 ・教科と領域を合わせた指導の意味とその代表的な実践例 ・知的障害の各教科の目標及び内容や全体の構造 ・自立活動の指導における考え方	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	理解した基礎的事項を関連づけながら、知的障害のある児童生徒を育てるための教育のポイントを総合的に考え、自分自身のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	小レポート（期間中に数回提出）　　３０％	1
2	毎回の授業における振り返り　２０％	1／2
3	総合レポート　５０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学校現場での勤務経験や、現在、指導・助言でかかわっている特別支援学校や特別支援学級での具体的なエピソードや最新の知見を講義内で積極的に取り扱う。これにより、理解が難解な知的障害のある児童生徒への教育課程や自立活動の指導を、具体的な状況と重ねながら理解できるようにする。また、交流及び共同学習やキャリア教育についても、単に知識としての理解に終わらぬよう、具体的な実践と往還しながら授業を展開していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　知的障害のある子どもの暮らし
2　知的障害のある子どもへの教育ーその現状ー
3　知的障害の特性
4　知的障害のある子どもへの学校教育
5　教育課程と指導形態
6　各教科等を合わせた指導（１）基本的な考え方
7　各教科等を合わせた指導（２）生活単元学習等
8　各教科等を合わせた指導（３）作業学習
9　自立活動の指導（１）基本的な考え方
10　自立活動の指導（２）指導の実際
11　各教科別の指導
12　特別支援学級における教育（１）教育課程と指導形態
13　特別支援学級における教育（２）交流及び共同学習
14　知的障害のある子どもへのICT活用
15　特別支援教育とキャリア教育

定期試験
16　総合レポートの作成
試験のフィードバックの方法
必要に応じて、レポートのポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の講義で、その日の内容に関連した参考文献や、参考URLを紹介する。またmanabaを活用して講義に関連する情報を適宜発信する。これらを活用して、講義の内容について理解や思索を深めて欲しい。また、期間中に数本の小レポートを課すが、これらは、講義内で他の受講生の作成したレポートと交流することによって、新たな気付きや学びを促す意図を持っている。各自、丁寧な事前学習によるレポート作成を行った上で講義に臨んで欲しい。また、ボランティア等の障害児者に直接出会う機会を作っていくことも大切である。なお、これらの学習に費やす時間としては、平常の授業に対しては30分程度、レポート作成や体験学習等では60～90分を想定している。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編』文部科学省，文部科学省，海文堂出版 『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』，文部科学省，開隆堂 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編（幼稚部・小学部・中学部），文部科学省，開隆堂
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 　資料は必要に応じて講義内で配布する。 ＜参考書等＞ 『特別支援学級の異学年・小集団指導のポイント』青山新吾編著，学事出版 『気になる子のためのキャリア発達支援』菊地一文，学事出版
オフィスアワー
オフィスアワーは講義中に指示する。電子メール等での質問、相談は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

肢体不自由児教育総論					単位数	2単位
授業コード	86300	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	佐藤　暁					
時間割備考	9/4月,6水,8金（１～5時限）					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもを対象とした、教育支援の理論と実践について講義をする。講義の前半では、標準的な運動発達の道筋を詳細に解説する。それを踏まえ、後半の講義では、脳性まひ児を中心にした動作不自由の特徴と特有の運動発達について詳しく説明するとともに、具体的な教育支援の手だてと教育課程について論ずる。あわせて、肢体不自由に重複する障害（知的障害・ＬＤ等）と、それに対応する教育支援についても触れたい。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもの理解に基づきつつ、教育支援及び教育課程に関する知識を得て、説明できるようにする。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	小レポート５０％	1
2	試験５０％	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．イントロダクション・授業計画の提示
2．運動発達の道筋①　総論
3．運動発達の道筋②　腹臥位の発達
4．運動発達の道筋③　背臥位の発達
5．運動発達の道筋④　坐位の発達
6．運動発達の道筋⑤　立位・歩行の発達
7．動作不自由と動作発達①　脳性まひの類型
8．動作不自由と動作発達②　臥位における不自由と発達
9．動作不自由と動作発達③　坐位における不自由と発達
10. 動作不自由と動作発達④ 床上運動における不自由と発達
11. 肢体不自由児の教育支援①　教育支援の実際
12. 肢体不自由児の教育支援②　教育課程（総論）
13. 肢体不自由児の教育支援③ 教育課程（自立活動）
14. 肢体不自由児の教育支援④　重複障害（知的障害・ＬＤ等）への対応
15. 肢体不自由児の生活支援

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
すぐれた答案、オリジナリティのある答案を紹介する。答案に質問があった場合、回答する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で、その回の内容に関して参考図書等を紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 障がいのある子の保育・教育のための実践障がい学，ミネルヴァ書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に紹介する
オフィスアワー
受講の条件はとくにありません。 なお，担当者が非常勤のため，オフィスアワーを設けることができませんが，可能な限り，授業の前後に時間をとりたいと思います。
連絡先
sato2ru@okayama-u.ac.jp
留意事項

重複障害児教育総論				単位数	1単位
授業コード	86350	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾、篠田　千枝				
時間割備考	後日掲示				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　重複障害児の障害の状態や特性、実態に即した教育課程の編成の在り方（特例の必要性）や方法と指導内容、個別の指導計画、実態に即した授業実践における指導支援の工夫等の知識、技能を学ぶことで、重複障害児教育の基礎的知識を理解することを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．重複障害の状態や特性、実態把握の方法などについて述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	２．重複障害の状態に即した教育課程について、その意義や編成について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	３．授業づくりにおいて、児童生徒の実態や課題に応じた指導支援の工夫（姿勢づくり、学習環境、効果的教材、学習支援教材等）を示すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	４．　重複障害児の学校教育における今日的課題について、教育制度や医療・福祉との連携を踏まえて自分の意見を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・提出課題　（ワークシート）　５０％	1／2／3
2	・レポート　５０％	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

病弱や肢体不自由部門が設置された特別支援学校での教員、管理職として勤務した経験や研修機関の指導者として多くの学校の実践や相談業務に携わった経験から、重複障害児の実態把握や指導支援の実際、医療・福祉との連携による教育の推進の重要性などについて具体的に提示することで、どのような教育が展開されているのかをイメージできるようにする。（篠田）

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　重複障害児を理解するにあたって　　重複障害児とは　　（1~7回　担当：篠田）
2　重複障害児の実態把握とアセスメント　障害特性（情動、認知、運動、コミュニケーション等）
3　重複障害児の実態把握とアセスメント　生活全体の把握（保護者、医療、福祉との連携）
4　重複障害児の教育課程の編成（特例の必要性や編成の方法）および指導内容、配慮事項
5　重複障害児の指導の実際　授業づくりのポイント―実態に即した教材教具の工夫―
　・知的障害者の教育課程による教育の指導内容と指導支援の方法
6　重度・重複障害児の指導の実際　授業づくりのポイント―実態に即した教材教具の工夫―
　・自立活動を中心とした教育課程による教育の指導内容と指導支援の方法
7　重度・重複障害児と学校教育の課題（安心・安全な学習環境、学びの継続、自分らしさの育成等）
8　まとめ　　（担当：青山）

定期試験
最終授業までにレポートの提出
試験のフィードバックの方法
ワークシートについては授業内で解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・毎回の授業で当日や次回の内容に関する参考図書や資料、関連するURLについて紹介する。 （予習）次回講義に関連する資料やURLを提示するので、提示された内容を授業開始までに熟読し、授業のキーワードに関係する内容を整理しておくこと（1時間） （復習）課題シート（ワークシート）は講義中のグループワークや講義及び資料（各種特別支援学校の現状や課題等）を参考にし、ブラッシュアップして課題を進めること（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜資料を配布する 〈参考書〉 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編「幼稚部小学部・・中学部」　文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）　文部科学省、海文堂出版株式会社
オフィスアワー
〇授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、リアクションペーパー等から得られた質問は次回の講義で取り上げる。記載のメールアドレスへの質問送付も受け付ける。（篠田）
連絡先
〇篠田：s5102@m.ndsu.ac.jp 〇青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項

視覚障害児教育総論				単位数	1単位
授業コード	86390	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	竹村　英一				
時間割備考	11/1,8,15,22,29,　12/6,13,20				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は、視覚障害児教育の具体的な内容・方法について学ぶことで、視覚に障害があると生活や学習において多くの困難が生ずるが、触覚や聴覚等、視覚以外の感覚の活用や教材教具や指導方法・指導内容の工夫により困難さの軽減が可能であることを理解し、視覚障害児教育についての理解を深めるとともに、特別支援教育全般についての関心を高めることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1 視覚障害児の定義、視覚機能(眼球)について理解し、説明ができる。	知識・技能／主体性
2	2 視覚障害児教育の歴史について知り、現在の就学制度や教育課程について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3 全盲児、弱視児、重複障害児、それぞれの実態に応じた教材教具の活用や配慮事項について説明ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	4 視覚障害児の生活上や学習上の合理的配慮について説明できる。	知識・技能／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　10%	1／2／3／4
2	点字の翻訳　10%	2／3
3	定期試験 80%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

盲学校の教諭として8年、校長として4年の勤務経験があることから、全盲児の指導については点字印刷物等、具体的な教材を活用し、視覚障害者への系統的な指導、個の実態に即した指導の有効性を実感させ、このことは視覚障害児教育のみならず、全ての教育の原点であることを気付かせる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　視覚障害児の生理・病理
2　視覚障害児教育の歴史及び教育課程
3　盲児への指導内容と支援
4　弱視児への指導内容と支援
5　視覚障害児の自立活動
6　自立活動の実際と留意事項
7　重複障害児教育
8　　視覚障害児教育の成果と今後の課題

定期試験
最終授業日の後半に筆記試験を行う。内容は全盲児、弱視児等、実態に応じた視覚障害児の指導方法についてである。
試験のフィードバックの方法
試験終了後にmanaba folio で解説を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
(予習)この授業では、担当者の自作資料と文科省の特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編を使用する。該当部分に眼を通し、授業ごとの大まかなイメージをもって臨むこと。(20分程度) (復習)授業では盲学校の授業風景や具体的な教材等をとりあげるので、授業前のイメージと比較し、視覚障害児教育についての理解・認識を深める。(20分程度)
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
特別支援学校教育要領・学習指導要領自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)平成30年3月 文部科学省 授業時に、適宜資料を配布する。
オフィスアワー
質問はメール、リアクションペーパー等で受け付ける。
連絡先
bb74489@yahoo.co.jp
留意事項
本授業は授業実践の具体についてはDVDを活用するので、視聴しやすい座席に着くこと。

聴覚障害児教育総論				単位数	1単位
授業コード	86450	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	國末　和也				
時間割備考	9/29,　11/10,17,24,　12/1,8,15,22				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

聴覚障害のある幼児児童生徒の聴覚器官の病理面、心理及び生理面の特徴、幼児児童生徒一人一人の聞こえや言語発達の状態、家庭や関係機関との連携について学ぶ。
特別支援学校（聴覚障害）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。
聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等や自立活動の指導における配慮事項について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	聴覚障害のある幼児児童生徒の聴覚器官の病理面、心理及び生理面の特徴について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	幼児児童生徒一人一人の聞こえや言語発達の状態等による学習上の困難さや教育的支援、家庭や関係機関との連携について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	特別支援学校（聴覚障害）において編成される教育課程の意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントの考え方を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等や自立活動の指導における配慮事項について説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
5	課題に関連したスモールグループディスカッションを積極的に実行できる。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	試験（90%）	1／2／3／4
2	授業の振り返り（質問等ミニッツ・ペーパーを含む）（10%）	5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校や特別支援学校（聴覚障害）に勤務した経験から、聴覚障害のある子どもの実情や教育について、より具体的に話題提供を行う。
学生自身の聴覚障害児・教育への理解・関心の高まりを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　聴覚障害児教育とは
2　聴覚障害の病理・心理・生理
3　教育課程の編成
4　言語習得と多様なコミュニケーション方法
5　教科指導、個別の指導計画
6　自立活動、個別の指導計画
7　授業設計、学習指導案
8　家庭や関係機関との連携

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験回収後、解答を示す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
【事前学習】配布プリント、参考書籍、文献及び新聞、放送（DVDの視聴を含む）等により関連する学習事項をノートにまとめる。（90分） 【事後学習】授業を振り返り内容を理解する。学習ノートを再整理する。（90分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 「文部科学省「聴覚障害教育の手引　言語に関する指導の充実を目指して」、https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_tokubetu02-100002897_003.pdf（最終閲覧日：2023年1月18日） 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）」、文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）」、文部科学省 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」、文部科学省
オフィスアワー
質問は授業終了後またはミニッツ・ペーパー、メールで受け付ける。
連絡先
k-kuni@hirokoku-u.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、時間厳守のうえ不要な私語を慎み、スマートフォン等の使用を控えること。 授業中での説明等に質問がある場合には、遠慮せず尋ねること。 ミニッツ・ペーパーに授業の感想、質問等を記入し提出すること。

LD児等教育総論				単位数	2単位
授業コード	86500	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	東　俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等、発達障害の特徴について理解したうえで、それらの障害を持つ子どもへの特別支援、教育的配慮の理論と実践について述べる。また、「指導法の検討」ではmanabaにおいて次回授業で検討する事例について事前に提示し学生が考察する機会を設定した上で、授業では事例についてアセスメントや支援方法についてディスカッション・ディベートを行う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害の状態像について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	彼らの生活環境とその影響について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	一人一人の特性と環境との相互作用から生じる問題について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	個々の特徴に応じた支援計画を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末テスト（40/100）	1／2／3／4
2	レポート（60/100）	3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験、及び岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、特別な支援を要する児童の教育現場における困難内容と支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　発達障害とは
2　限局性学習障害とは−生理･病理的背景と心理的特徴
3　注意欠陥多動性障害とは−生理･病理的背景と心理的特徴
4　自閉症スペクトラム障害とは−生理・病理的背景
5　自閉症スペクトラム障害とは−心理的特徴
6　個別教育支援計画の方法−目標設定
7　個別教育支援計画の方法−学習環境の理解
8　個別教育支援計画の方法−学習環境の整備
9　指導法の検討−”読み書き”に関する学習指導
10　指導法の検討−”計算・推論”に関する学習指導
11　指導法の検討−集団活動参加への支援
12　指導法の検討−行動問題への支援
13　指導法の検討−コミュニケーションへの支援
14　指導法の検討−二次障害の予防と支援
15　支援体制・連携のありかた

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
授業内でレポートについてコメントする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。また、「指導法の検討」ではmanabaにおいて次回授業で検討する事例について提示します。必ず、授業開始までに事例について考察した上で受講すること（1時間）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。また、「指導法の検討」では、授業内容をもとに具体的な目標設定や指導計画を作成してレポートを提出してもらいます。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　2期:月曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

特別支援教育実習事前事後指導				単位数	1単位
授業コード	86640	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾、日下　紀子、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

特別支援学校での実習の理解に努め、その準備を行う。また実習後、体験の報告・反省を行い、実習で得たものを確かな実りあるものにするとともに、自分の新たな課題を探る。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・実習に臨む基礎的知識を修得して、それを自分のことばで表現できる。	知識・技能
2	・特別支援学校での教育実習での自分自身の学びについて、テーマを１つ設定する。そのテーマについて、具体的なエピソードを取り上げながら、視覚的なプレゼンテーションの工夫を行って表現することができる。また、その学びの内容について、自分自身のことばで考察を行うことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	・他の実習生の発表と自分の教育実習での学びを重ね合わせて考察し、その気付き等をレポートにまとめることができる。	思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・実習の反省と体験の発表　50%	2／3
2	・レポート提出　「特別支援教育実習での私の学び」50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別支援学校に指導・助言としてかかわっている立場から得られた最新の知見を活用し、教育実習の事前指導において指導案の作成や具体的な児童生徒の実態把握、指導法の実践的な指導を行う。教育実習後の事後指導においては、受講生の具体的な体験を意味づけ、実践と理論を往還させながら､実習での学びを省察し､特別支援教育に携わる教員としての基礎的な力をつけられるように指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　オリエンテーション
2.　特別支援教育実習の計画と心得
3．教職の服務
4.　実習前指導　特別支援学校の教育
5.　実習前指導　知的障害のある児童生徒の教育課程
6.　実習前指導　学習指導案作成
7．実習前指導　教材・教具の作成、活用
8.　実習前指導　自閉症スペクトラムの児童生徒の理解
教　育　実　習
9.　実習の報告・反省　（東備支援）
10. 実習の報告・反省　（倉敷支援）
11. 実習の報告・反省　（岡山西支援）
12.　実習の報告・反省　（岡山南支援）
13.　実習の報告・反省　（倉敷まきび支援・岡山東支援）
14.　実習の報告・反省　（倉敷支援、岡山瀬戸高等支援）
15.　特別支援教育実習のまとめ

定期試験
16　まとめのレポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じて、そのポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教育実習前は、各自の実習校や配当クラスの実態に合わせて、授業構想や教材等について検討しながら、講義を受講して準備を行って欲しい。実習後は、それぞれの学びの省察を行って各自の報告・反省プレゼンテーションの準備をした上で講義に臨むこととする。また、なされた報告・反省についてはmanabaを活用して担当教員のコメントを発信するので、それを参考に再度の振り返りを期待している。なお、それらの学習に費やす時間としては30～60分程度を想定している。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編』文部科学省 , 海文堂出版 『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』 , 文部科学省 , 開隆堂 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編（幼稚部・小学部・中学部） , 文部科学省 , 開隆堂
オフィスアワー
・オフィスアワーは、授業中に指示する。電子メール等での質問、相談は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・実習参加の準備や振り返りとして、毎回の出席が必要である。

特別支援教育実習				単位数	2単位
授業コード	86690	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾、日下　紀子、土居　裕士				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

大学において学んだ特別支援教育の理論に基づいて特別支援学校において教育実習を行い、対象児の理解とそれに伴う指導・支援のあり方を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	障害のある児童・生徒に対する特別支援学校における教育のあり方を理解し、基本的技能を習得する。	知識・技能／主体性
2	・教育実習での日々の実践を積み重ねて、そこで得た学び、気付き、課題等を実習担当教員に話したり、実習日誌に記述したりすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	・各教科もしくは各教科と領域を合わせた指導の学習指導案を作成し、授業を実施することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・実習校における評価　　90%	1／2／3
2	・実習日誌の作成・提出状況　等　　10%	2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学校教育現場での実務経験を生かして、教育実習中の助言等を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

各実習校で、実習の内容や方法は若干異なるが、２週間の主な実習内容は次の通りである。

開始式
校長講話
講義　（学習計画、学部方針、指導案の作成の仕方　等）
学校行事への参加
授業参観
児童生徒への指導・支援
研究授業・教室運営
学級・学年反省会
お別れ会
終了式

定期試験
実習のまとめを記述した教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
必要に応じて，manabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で情報を提供する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各実習校の担当教員の指導、指示を受けながら、丁寧な準備と振り返りによって、積極的に実習に臨むことを期待している。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編』文部科学省，海文堂出版 『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』，文部科学省，開隆堂 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編（幼稚部・小学部・中学部），文部科学省，開隆堂
オフィスアワー
・オフィスアワーは、授業中に指示する。電子メール等での質問,相談は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・理由が不明確な欠席と提出物の遅れは、基本的には認められない。

社会福祉学					単位数	2単位
授業コード	86740	科目ナンバリング	330B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。特に、社会福祉と、児童福祉・児童の人権・家庭支援との関連性について把握する。また、社会福祉の制度や実施体制、財政等について考えていく。さらに、制度を活用した相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉が今後発展していくうえでの課題を検討する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	少子高齢化をはじめとした社会福祉の課題について理解し、解決策を提案することができる。	知識・技能／主体性
2	生活を支えている福祉制度やサービスの仕組みを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	社会福祉全体のなかでの児童福祉の位置づけを把握し、児童をめぐる諸課題に対して、福祉の立場から援助していくことができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	専門職のあり方や、社会保障制度など関連領域について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート　20%	1／2／3
2	授業中の課題への取り組み　20%	3／4
3	定期試験 60%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、社会福祉の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に問題を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　社会福祉の理念と概念
2　社会福祉の歴史的変遷
3　社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
4　児童の人権擁護と社会福祉
5　家庭支援と社会福祉
6　社会福祉の制度と法体系
7　社会福祉行財政と実施機関
8　社会福祉施設などの福祉サービス
9　社会福祉の専門職
10　社会保障及び関連制度
11　社会福祉における相談援助
12　社会福祉の利用者保護
13　少子高齢化社会への対応と諸外国の動向
14　在宅福祉・地域福祉の推進
15　関連領域との連携・ネットワーク

定期試験
16週目に定期試験（筆記試験）を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後も随時、質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教科書の各章の末尾に掲載されている参考文献を閲覧すること。教科書の各章における課題を列挙して、法律や制度を確認すること。これら事前・事後の学習を各1時間程度行うこと。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『九訂　保育士をめざす人の社会福祉』,2021年,978-4-86015-539-7 ,相澤譲治・杉山博昭編,みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業時に随時紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜日　2限 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
社会福祉のサービスや制度改正について、新しい情報を把握すること。 少子高齢化での諸問題について、主体的に考える姿勢をもって受講すること。

児童福祉学				単位数	2単位
授業コード	86900	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小川　知晶				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独／複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

高齢化、少子化が進行する中、これからの子ども家庭福祉は子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子育ち・子育て支援の展開が求められている。
本講義では、子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズ、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、そして子ども家庭福祉の動向と展望など子ども家庭福祉の基本的な知識について理解することを目的とする。講義前・講義後は必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	知識・技能／主体性
2	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できる。	知識・技能／主体性
3	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。	知識・技能／主体性
4	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる.。	思考・判断・表現力／主体性
5	子ども家庭福祉の課題と、今後の展望について自分の意見をまとめ、レポートに記述または発表することができる。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー：20%	1／2／3／4／5
2	定期試験：80%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　現代社会と子ども家庭福祉
2　子ども家庭福祉の理念と概念
3　子ども家庭福祉の歴史的変遷
4　子どもの権利保障
5　子ども家庭福祉の制度と法体系
6　子ども家庭福祉の実施機関(児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室)
7　子ども家庭福祉の専門職
8　子ども家庭福祉にかかわる施設の種類と類型
9　子ども家庭福祉の現状と課題①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
10　子ども家庭福祉の現状と課題②児童自立支援施設・自立援助ホーム
11　子ども家庭福祉の現状と課題③保育所・こども園
12　子ども家庭福祉の現状と課題④里親・養子縁組
13　子ども家庭福祉の現状と課題⑤子ども家庭福祉実施機関の職員
14　子ども家庭福祉の現状と課題⑥児童家庭支援センター・保健所・要保護児童対策地域協議会
15　子ども家庭福祉の動向と展望

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
最終講義で全体に対するフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜予習＞必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行い授業に臨むこと。（所要時間1～2時間） ＜復習＞講義で配布するリアクションペーパーに授業で学んだことを振り返り、気づいたこと等などを記入し提出する。（所要時間1～2時間） 日ごろから、子どもや子育て家庭にかかわる問題（子どもの貧困、児童虐待、障害児、子育て不安など）について掲載されている新聞記事や本を積極的に読んでください。
必携書（教科書販売）
子ども家庭福祉論, 2020年発行, ISBN 978-4-86015-476-9, 千葉茂明編, みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 毎回、レジュメとリアクションペーパーを配布する。 必要に応じて資料プリントを配布する。 参考書は適宜紹介する。
オフィスアワー
講義終了後、教室で質問等を受け付けます。 また、メールでも質問を受け付けます。
連絡先
s4036@m.ndsu.ac.jp
留意事項

保育原理				単位数	2単位
授業コード	86950	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育とは何か、どのような保育者を目指すのかを常に根幹に置き、乳幼児期の子どもの遊びや発達の道すじと保育の内容を年齢別、領域別等の側面から捉え、総合的に発達していく子どもの様相を学ぶ。
さらに、乳幼児の自ら育とうとする力や、保育者のあり方、援助の仕方等を探る。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 乳幼児の発達や遊びについて総合的に捉える視点について、その基礎を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2. 保育士の専門性とその重要性を理解し、その基礎を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　20%	1／2
2	課題提出　30%	1／2
3	筆記試験　50%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての経験を踏まえて、保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 保育とは何か（授業の進め方）
2. 保育の制度と現状
3. 保育の基盤としての保育観
4. 保育の歴史と思想
5. 子ども理解から出発する保育
6. 子どもが育つ環境の理解
7. 保育の内容と方法（領域の考え方）
8. 保育の内容と方法（環境および保育形態）
9. 保育の計画と実践の原理
10. 保育における健康・安全の原理
11. 多様な子どもと共に育つ保育
12. 保育者の任務と専門性
13. 現代の子育てと子育て支援
14. 保育の現状と課題
15. まとめ

定期試験
筆記試験
試験のフィードバックの方法
試験実施後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で配布する資料に目を通し、事後学修を深めること。毎回の授業で紹介する参考図書から、次回までに指定された箇所を読むなどして、保育への関心を広げていってほしい（約１時間程度）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 保育所保育指針解説（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 幼稚園教育要領解説（平成30年3月），文部科学省，フレーベル館 保育所保育指針＜平成29年告示＞，厚生労働省，フレーベル館
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 授業中に販売する。 伊藤美保子ほか『保育の中の子ども達』大学教育出版 ＜参考書等＞ 授業中に紹介する。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領，内閣府・文部科学省・厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
オフィスアワー 火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項

子ども家庭支援論					単位数	2単位
授業コード	87026	科目ナンバリング	330B1-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小川　知晶					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

児童家庭福祉や保育の最新動向を知り、実際の支援的言動について考え、主体的に行動できる力を培う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明することができる。	知識・技能／主体性
2	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明することができる。	知識・技能／主体性
3	育て家庭に対する支援の体制について説明することができる。	知識・技能
4	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	子育て支援の場で、実際の支援を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	小テスト　　30%	1
2	期末テスト　70%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．子どもや子育て家庭にかかわる諸問題を子どもの権利
２．子ども家庭支援の意義と必要性
３．保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
４．専門職(保育士等)に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
５．家庭の状況に応じた支援
６．地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
７．子育て家庭に対する支援の体制
８．子育て家庭の福祉を図るための社会資源
９．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
１０．多様な支援の展開と関係機関との連携
１１．子ども家庭支援の内容と対象
１２．児童福祉施設(保育所も含む)を利用する子どもの家庭への支援
１３．地域の子育て家庭への支援
１４．要保護児童等及びその家庭に対する支援
１５．子どもの貧困に対する支援

定期試験
期末試験
試験のフィードバックの方法
授業時とmanabaで解説
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
復習：振り返り課題への解答（30分~1時間程度）
必携書（教科書販売）
ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データーブック2023, 2022, 978-4805887929, 全国保育士養成協議会, 中央法規出版 子ども家庭支援論-子どもを中心とした家庭支援-, 2022, 978-4-909378-36-1, 七木田敦・上村眞生・岡花祈一郎編, 教育情報出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付けます。また、メールでも質問を受け付けます。
連絡先
s4036@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会的養護Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	87032	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	村田　恵子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における社会的養護の意義、それを支える理念や歴史、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の領域とその概要等、社会的養護を支える制度的枠組みについて学習する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会的養護の歴史的変遷と現代社会における意義について理解する。	
2	子どもの権利と、子どもの権利擁護をふまえた社会的養護の基本（基本理念・原理）について理解する。	
3	日本における社会的養護の対象・形態・専門職等について理解する。	
4	日本における社会的養護の制度的枠組みを理解する。	
5	社会的養護の現状と課題について理解する。	

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業終了後に実施する確認テストもしくはレポートによる評価とする（10点×10回）。	1／2／3／4／5
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション／現代における社会的養護の意義
2. 社会的養護の歴史的変遷①
   日本における社会的養護の歩み-第二次世界大戦前まで
3. 社会的養護の歴史②
   第二次世界大戦以後の児童養護論の展開
4. 子どもの人権擁護と社会的養護
   社会的養護と子どもの権利保障
5. 社会的養護の体系と実践
   社会的養護の制度と法体系／社会的養護の仕組みと実施体系
6. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職・専門職等）①
   社会的養護の対象／家庭養護と施設養護／
7. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職等）②
   家庭養護（里親・ファミリーホーム）
8. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職等）④③
   施設養護：乳児院、母子生活支援施設
9. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職等）④④
   施設養護：児童養護施設・地域小規模児童養護施設、児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）
10. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職等）⑤
   施設養護：児童自立支援施設、児童心理治療施設
11. 社会的養護の領域と概要（対象・形態・専門職等）⑥
   施設養護：障害児入所施設、児童発達支援センター
12. 社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理
13. 社会的養護とソーシャルワーク①
   社会的養護におけるソーシャルワークの必要性／ソーシャルワークの枠組み
14. 社会的養護とソーシャルワーク②
   ケースワークとグループワーク
15. 施設の運営管理
   施設等の運営管理・施設における権利擁護と職員の課題

定期試験
授業終了後に実施する確認テストもしくはレポート等の課題による評価とする（10点×10回）。
試験のフィードバックの方法
授業時にコメントしてフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習として、テキストに記載されているキーワードの下調べ等を課題として提示する。また、事後には確認テストを実施するので、毎回少なくとも1時間程度の予習・復習時間を確保してほしい。
必携書（教科書販売）
喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス　　社会的養護Ⅰ』株式会社みらい,ISBN：978-4-86015-498-1
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜資料を配布する
オフィスアワー
連絡先
m-keiko@shujitsu.ac.jp
留意事項
保育士資格取得に関わる科目であることから、原則全回出席とする。出欠に関わるルールについては、授業時に説明・指示する。

社会的養護II［a］					単位数	1単位
授業コード	87034	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	東　俊一					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

養護という概念を理解したうえで、「社会的養護」のあり方と実際について考察する。さらに、児童福祉施設を利用する児童の生活全般やそこでの課題について、個別的問題、社会的問題、権利擁護の問題など、様々な側面から総合的に考察する。
なお、小グループによるディスカッションや発表などの演習をとりいれて行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会的養護の理念と体系について説明できる。	知識・技能／主体性
2	支援計画を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	家庭養護のあり方について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	養護を要する児童・心理治療を必要とする児童と施設養護について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	非行行為のある児童・障害のある児童と施設養護について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート（80/100）	1／2／3／4／5
2	発表（20/100）	2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者は岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・児童福祉現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた。また、長年にわたり、障害児の療育実線など、児童の権利擁護に携わっている。それらの経験から、特別な支援を要する児童や擁護問題を抱える児童に対する支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、社会的養護システムとして福祉現場・行政・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会的養護の理念と体系
2　支援計画の作成
3　社会的養護を必要とする児童と家庭養護
4　養護を要する児童と施設養護
5　心理治療を必要とする児童と施設養護
6　非行行為のある児童と施設養護
7　障害のある児童の理解と支援
8　自立支援と施設・専門機関の支援ネットワーク

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料および教科書を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
社会的養護の理念と実践 第2版, 2017　ISBN978-4-86015-409-7　　中野菜穂子　東俊一　大迫秀樹　編, (株)みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　1期：金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会的養護II［b］					単位数	1単位
授業コード	87036	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	東　俊一					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

養護という概念を理解したうえで、「社会的養護」のあり方と実際について考察する。さらに、児童福祉施設を利用する児童の生活全般やそこでの課題について、個別的問題、社会的問題、権利擁護の問題など、様々な側面から総合的に考察する。
なお、小グループによるディスカッションや発表などの演習をとりいれて行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会的養護の理念と体系について説明できる。	知識・技能／主体性
2	支援計画を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	家庭養護のあり方について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	養護を要する児童・心理治療を必要とする児童と施設養護について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	非行行為のある児童・障害のある児童と施設養護について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート（80/100）	1／2／3／4／5
2	発表（20/100）	2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者は岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・児童福祉現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた。また、長年にわたり、障害児の療育実線など、児童の権利擁護に携わっている。それらの経験から、特別な支援を要する児童や擁護問題を抱える児童に対する支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、社会的養護システムとして福祉現場・行政・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会的養護の理念と体系
2　支援計画の作成
3　社会的養護を必要とする児童と家庭養護
4　養護を要する児童と施設養護
5　心理治療を必要とする児童と施設養護
6　非行行為のある児童と施設養護
7　障害のある児童の理解と支援
8　自立支援と施設・専門機関の支援ネットワーク

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料および教科書を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
社会的養護の理念と実践 第2版, 2017　ISBN978-4-86015-409-7　　中野菜穂子　東俊一　大迫秀樹　編, (株)みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　1期：金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

保育者論				単位数	2単位
授業コード	87040	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西　隆太朗				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育者は、子どもたちと人間として出会い、ともに成長していく存在です。
そう考えると子どもと出会う人は、経験や資格があってもなくても、誰もが一人の保育者となりえます。
それは楽しい世界であると同時に、人間一人ひとりの成長の過程にかかわる、尊く厳粛な世界です。
こうした人間の営みを、専門性と責任をもって担うのが保育士です。

この授業は保育士課程科目として、専門性をもった保育者のあり方を考えていきます。
同時にその根底にある、子どもとかかわる私たち自身のあり方について、資格を超えて広く考えていきます。
各授業回のテーマについては、その人間的な意味を中心に、実際の保育事例を映像やエピソードで挙げながら、概説します。
そのことが、資格や専門性への理解をも、本質において深めることになるでしょう。

1. 保育者の役割と倫理について理解する
2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。
3. 保育士の専門性について考察し、理解する。
4. 保育者の協働について理解する。
5. 保育者の専門職的成長について理解する。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育者の専門性、保育士の制度的な位置づけなど、授業で学んだ内容を理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育者論の理解を踏まえて、保育者のあり方について自らの考えを言語化し、レポートにまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	各回のコメント　50%	1／2
2	期末レポート　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 保育者の役割
2. 保育者の倫理
3. 保育士の資格・要件
4. 保育士の責務
5. 保育士の専門性(1) 養護と教育
6. 保育士の専門性(2) 保育士の資質・能力
7. 保育士の専門性(3) 知識・技術及び判断
8. 保育士の専門性(4) 保育の省察
9. 保育士の専門性(5) 保育課程による保育の展開と自己評価
10. 保育者の協働(1) 保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働(2) 専門職間及び専門機関との連携
12. 保育者の協働(3) 保護者及び地域社会との連携
13. 保育者の協働(4) 家庭的保育者等との連携
14. 保育者の専門職的成長(1) 専門性の発達
15. 保育者の専門職的成長(2) 生涯発達とキャリア形成

定期試験
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
レポート提出後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。期末レポートでは保育に関する文献を読んだ上で考察を行うので、そのための準備学習なり各自の省察を随時進めてください（人によりますが、各回平均で30分程度を目安とします）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 西 隆太朗（2020）『子どもと出会う保育学―思想と実践の融合をめざして』ミネルヴァ書房 ISBN:9784623083527
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ・『保育所保育指針』厚生労働省 ・『幼稚園教育要領』文部科学省 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 児童学科で「保育原理」を受講した学生はすでに持っているものを使用してください。 他学科の学生は、ネットで参照してください。
オフィスアワー
オフィスアワー　金曜日2限
連絡先
西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

児童臨床心理学（心理学的支援法）				単位数	2単位
授業コード	87055	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	東　俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

近年、児童は変化し続ける社会環境の中でそれらの影響を受けながら生活している。本授業では、それらの児童に対する臨床心理学のあり方と、児童理解・援助の概要について述べる。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	児童の臨床・発達的危機について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	児童に現れる社会生活上の困難について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	児童の心理・行動アセスメント方法を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	ストレスや怒りの生産的な活用方法について理解、実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート（100/100）	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やそのアセスメントのあり方、それに対する予防と早期発見・支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　臨床心理学とは
2　児童の臨床・発達的危機
3　児童の臨床心理学
4　児童に現れる社会生活上の困難
5　心理・行動アセスメント−目的
6　心理・行動アセスメント−機能分析
7　心理・行動アセスメント−課題分析
8　面接・観察・質問紙法
9　心理検査法
10　ストレスとは
11　児童がさらされるストレス
12　児童のためのストレスマネージメント
13　児童のためのアンガーマネージメント
14　児童の社会的スキル
15　児童のための社会的スキル訓練

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　2期：月曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

小児医学				単位数	2単位
授業コード	87150	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山下　美保				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は、小児の発育・発達，栄養，主要な病気，事故，社会制度などについて学ぶことで、小児の健やかな成育のための知識や具体的な対応方法を修得することを目的とする。授業回ごとに、小児医学・小児保健についての講義内容に基づいた復習テストを課す。復習テストはmanaba folioを用いて提出すること。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	母子保健，小児の発育・発達，栄養，主要な病気，安全教育などについて，基本的な知識を身につけ必要に応じて実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	小児の特徴を理解して説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	小児の健康を積極的に増進し，障害を理解し，病気や事故を予防することに取り組んでいく。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	復習テスト　（毎回manaba folioにて提出。各6点×全15回=80点）：80%（100点満点の評価における80点分）	1／2／3
2	記述課題（manaba folioにて提出。各10点×全２回＝20点）：20 %（100点満点の評価における20点分）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

本授業の主担当（山下）は小児科専門医・指導医として現在も小児科診療を行っている。専門は小児内分泌学で、子どもの成長に深く関連した分野である。また、特別講義をご担当される重安良恵先生は、小児心身医学会認定医・指導医，子どもの心専門医として岡山大学病院の小児心身医療科で診療されており、専門診療に即した講義を行っていただく。同じく特別講義をご担当の林原 愛先生は、保育士として岡山大学病院付属の病児保育ルームにご勤務されており、病児保育の1日の様子や保育における注意点の実際についてご講義いただく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　母子保健
2.　発育・発達Ⅰ(身体発育)
3.　発育・発達Ⅱ（精神運動発達）
4.　栄養Ⅰ(乳児期)
5.　～神経発達症児への支援～（特別講義：重安）
6.　栄養Ⅱ(幼児期・学童期・思春期)
7.　子どもによくみられる症状とその対応
8.　事故と安全教育
9.　感染症Ⅰ
10.　感染症Ⅱ
11.　アレルギー疾患
12.　血液疾患
13.　先天性疾患
14.　～病児保育ルームからの現場の声～（特別講義：林原）
15.　予防接種

定期試験

各回の復習テスト、記述課題で評価するため、定期試験は行いません（詳細については、「成績評価の基準」を参照）。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（復習）授業毎にその日の内容について復習し，復習テストで正答を目指すこと（資料等閲覧可。必要時間30-60分/回ていど）。記述課題は主に特別講義について学んだ内容と、それを今後どのように活かしていきたいかについて自由記述を行うこと（必要時間60-90分/回ていど）。

必携書（教科書販売）

特になし

必携書・参考書（教科書販売以外）

※必携書は特にないが、参考書の購入を希望する学生には、以下の二冊を推薦する。
<参考書>
子どもの保健　第7版　追補　巷野 悟郎（著，編集） 出版社：診断と治療社　ISBN：9784787823533
ナースとコメディカルのための小児医学　改訂第6版　白木和夫　高田　哲（編集）出版社：へるす出版　ISBN：9784867190333

＜授業資料＞
授業開始時に資料を配付する。

オフィスアワー

オフィスアワー　金曜日3時限
メールによる質問は随時受け付け

連絡先

yamashita@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義中は私語を謹むこと。
講義中はスマートフォンは使用しないこと。

子どもの理解と援助［a］				単位数	1単位
授業コード	87200	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西山　節子				
時間割備考	教育実習終了後、8回連続で開講。開始日については、manabaで連絡する。				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実践において，実態に応じて子ども一人ひとりの心身の発達や子どもの遊びを通した学びの姿を理解する。また，実際のエピソードを読み解きながら，子どもを理解するための多面的な視点を得るとともに，エピソードの記述の方法を学ぶ。そして，子どもの理解を踏まえたうえで，個への関わりと援助のあり方を考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	授業で紹介した保育事例にもとづきながら、子どもを多面的に理解し、そこでの解釈を他者に伝えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解し、応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題（70%）	1／2／3
2	レポート（30%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立幼稚園教諭ならびに行政経験を生かし，保育をめぐる今日的課題と解決の方法を提示する。また，保育実践で培った子ども理解の視点をエピソードをもとに提示する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回：保育における子どもの理解の意義
第2回：子どもの理解に基づく保育の一体的展開
第3回：子ども理解の視点ー保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
第4回：子ども理解の視点ー集団における経験と育ち
第5回：子どもを理解する方法ー観察・記録・省察・実践
第6回：子どもを理解する方法ーカンファレンスを通した職員間の対話
第7回：子どもの理解に基づく発達援助ー特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第8回：子どもの理解に基づく発達援助ー発達の連続性と就学への支援

定期試験
最終授業前にレポートを提示する。テーマは，授業中に指示する。
試験のフィードバックの方法
最終授業時にレポートの総評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回の授業の最後に、次回の内容に関連する参考図書を紹介する。講読を通して，次回までに関連領域の理解を深めておいてほしい（各回１時間）。 （復習）授業中にワークシートや課題を配布する。次回の授業の際に提出するように。また，補足的な課題については，manabaを通して指示を出す（各回１時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営　教える保育からともに学ぶ保育へ，2018，松井剛太（著）,中央法規出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞子どもも大人も絵本で育つ，2019,湯澤美紀，柏書房
オフィスアワー
月曜日　4限
連絡先
メールアドレス：西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1. コロナ感染症拡大にともない対面授業が不可能となった場合は，Zoomを用いた遠隔リアルタイム授業に変更する。 2. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

子どもの理解と援助［b］				単位数	1単位
授業コード	87210	科目ナンバリング	330B1-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西山　節子				
時間割備考	教育実習終了後、8回連続で開講。開始日については、manabaで連絡する。				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実践において，実態に応じて子ども一人ひとりの心身の発達や子どもの遊びを通した学びの姿を理解する。また，実際のエピソードを読み解きながら，子どもを理解するための多面的な視点を得るとともに，エピソードの記述の方法を学ぶ。そして，子どもの理解を踏まえたうえで，個への関わりと援助のあり方を考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	授業で紹介した保育事例にもとづきながら、子どもを多面的に理解し、そこでの解釈を他者に伝えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解し、応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題（70%）	1／2／3
2	レポート（30%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公立幼稚園教諭ならびに行政経験を生かし，保育をめぐる今日的課題と解決の方法を提示する。また，保育実践で培った子ども理解の視点をエピソードをもとに提示する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回：保育における子どもの理解の意義
第2回：子どもの理解に基づく保育の一体的展開
第3回：子ども理解の視点ー保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
第4回：子ども理解の視点ー集団における経験と育ち
第5回：子どもを理解する方法ー観察・記録・省察・実践
第6回：子どもを理解する方法ーカンファレンスを通した職員間の対話
第7回：子どもの理解に基づく発達援助ー特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第8回：子どもの理解に基づく発達援助ー発達の連続性と就学への支援

定期試験
最終授業前にレポートを提示する。テーマは，授業中に指示する。
試験のフィードバックの方法
最終授業時にレポートの総評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回の授業の最後に、次回の内容に関連する参考図書を紹介する。講読を通して，次回までに関連領域の理解を深めておいてほしい（各回１時間）。 （復習）授業中にワークシートや課題を配布する。次回の授業の際に提出するように。また，補足的な課題については，manabaを通して指示を出す（各回１時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営　教える保育からともに学ぶ保育へ，2018，松井剛太（著）,中央法規出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞子どもも大人も絵本で育つ，2019,湯澤美紀，柏書房
オフィスアワー
月曜日　4限
連絡先
メールアドレス：西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1. コロナ感染症拡大にともない対面授業が不可能となった場合は，Zoomを用いた遠隔リアルタイム授業に変更する。 2. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。

子どもの保健演習［a］				単位数	1単位
授業コード	87300	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	野々上　敬子				
時間割備考	前半aクラス				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

子どもの健康を守り、健全な発育、発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。
各回の授業テーマについての知識をどのように実践していくか、自分自身や仲間と考える課題や事例を通じて実践力を身につける。
授業予定に示したテーマについて、テキストに補足して視聴覚機器を活用し授業を進める。
健康教育を実施する体験学習、グループワーク等を取り入れる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識を習得し、子どもや保護者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．注意子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識の習得にとどまらず、保育者として子どもの健康状態を見極める観点について理解する。	知識・技能／主体性
3	３．生活場面において、子どもの健康に留意した保育環境について評価できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表資料と発表内容　60%	1／2
2	小レポート　　40%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校・中学校・高等学校の養護教諭、保健主事、応急手当指導員、応急手当普及員としての経験を生かし、健康教育・救急処置・心肺蘇生法等の理論と実践について授業を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法
２．心身の健康に関する保健活動や環境

３．子どもの生活習慣と心身の健康　生活習慣の基本となる生活リズム
４．子どもの養護　　口腔内の衛生・食育について
５．救命処置について
６．心肺蘇生法　心肺蘇生法の技能を習得
７．健康教育の発表　作成した資料を使っての発表
８．全体総括　授業のまとめ

定期試験
授業の終わりに小レポートを提出する。 健康教育の発表を評価する。
試験のフィードバックの方法
授業中に配布する小レポートに理解できなかったことや質問等を記入し、次回の授業で解説をする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと 　　新聞の保健情報をよく読んでおくこと（1時間）。 （復習）授業後は、復習しておくこと（1時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名　子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」 発行年　2019年 ISBN　978-4-902636-49-9 著者　八木利津子他 出版社　青鞜社
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業終了後
連絡先
nonoue_keiko@sguc.ac.jp
留意事項

子どもの保健演習［b］				単位数	1単位
授業コード	87305	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	野々上　敬子				
時間割備考	後半ｂクラス				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

子どもの健康を守り、健全な発育、発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。
各回の授業テーマについての知識をどのように実践していくか、自分自身や仲間と考える課題や事例を通じて実践力を身につける。
授業予定に示したテーマについて、テキストに補足して視聴覚機器を活用し授業を進める。
健康教育を実施する体験学習、グループワーク等を取り入れる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識を習得し、子どもや保護者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．注意子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識の習得にとどまらず、保育者として子どもの健康状態を見極める観点について理解する。	知識・技能／主体性
3	３．生活場面において、子どもの健康に留意した保育環境について評価できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表資料と発表内容　60%	1／2
2	小レポート　　40%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校・中学校・高等学校の養護教諭、保健主事、応急手当指導員、応急手当普及員としての経験を生かし、健康教育・救急処置・心肺蘇生法等の理論と実践について授業を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法
２．心身の健康に関する保健活動や環境

３．子どもの生活習慣と心身の健康　生活習慣の基本となる生活リズム
４．子どもの養護　　口腔内の衛生・食育について
５．救命処置について
６．心肺蘇生法　心肺蘇生法の技能を習得
７．健康教育の発表　作成した資料を使っての発表
８．全体総括　授業のまとめ

定期試験
授業の終わりに小レポートを提出する。 健康教育の発表を評価する。
試験のフィードバックの方法
授業中に配布する小レポートに理解できなかったことや質問等を記入し、次回の授業で解説をする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと 　　新聞の保健情報をよく読んでおくこと（1時間）。 （復習）授業後は、復習しておくこと（1時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名　子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」 発行年　2019年 ISBN　978-4-902636-49-9 著者　八木利津子他 出版社　青鞜社
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業終了後
連絡先
nonoue_keiko@sguc.ac.jp
留意事項

子どもの食と栄養［a］				単位数	2単位
授業コード	87310	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	逸見　眞理子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，食生活の乱れ，肥満，やせ，アレルギーなど，子どもの食に関する現状と課題，子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養，健康支援としての「食育」の必要性を学ぶことで，子どもや保護者に接する保育士に期待される役割を理解することを目的とする。
演習を通して、子どもの食と栄養について保育者としてどのように対応するのかをより具体的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1　子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養について説明することができる。	知識・技能／主体性
2	2　演習を通して，調乳・簡単な離乳食を調理することができる。	知識・技能／主体性
3	3　保育者として，食育を通して子ども・保護者へ正しい食生活の実践を助言できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4　自分の食生活についても見直し，健康的な食生活を実践できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（演習）：50%	1／2／3／4
2	試験　：50%	1／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県庁及び保健所において管理栄養士として，公衆栄養業務・食育活動・保育所給食指導業務等に携わっていた経験を活かし，子どもの食と栄養問題の構造を多角的に取り上げ，学生に実践的な子どもの食と栄養問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　子どもの心身の健康と食生活
2　子どもの食生活をめぐる現状
3　栄養に関する基礎知識（１）～栄養素の種類と機能～
4　栄養に関する基礎知識（２）～消化と吸収～
5　日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
6　妊娠・授乳期の食生活（調乳）
7　乳児期の食生活（離乳食調理）
8　幼児期の食生活
9　児童福祉施設における食生活と栄養
10　食育の基本と内容
11　食育のための環境・連携
12　学童期・思春期の食生活
13　特別な配慮を要する子どもの食と栄養（１）嘔吐・下痢への対応、食中毒予防
14　特別な配慮を要する子どもの食と栄養（２）食物アレルギーへの対応
15　食育の実践・まとめ

定期試験

16　学期末試験（筆記試験）

試験のフィードバックの方法

正答率の低かった問題について、mansba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　予習・復習の時間は毎回それぞれ20～30分程度が必要である。初回に日程表を配布するので，授業の前日までに教科書のその日の講義予定項目は一通り目を通しておくこと(予習)。授業では，　講述した内容を基に演習を行う。演習シート（演習のまとめ等）は，授業中に紹介した資料などを参考にしてより完成度の高いものに仕上げ，翌週の授業の前に提出する(復習)。
　食育の実践では，個人で食育指導案・シナリオ・食育媒体案等を作成する。これには，上記以外にも1～3時間程度の予習が必要となる。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
よくわかる！保育士エクササイズ③　「子どもの食と栄養　演習ブック第2版」，ISBN978-4-623-09065-5，松本峰雄監修，ミネルヴァ書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
必要に応じて適宜参考資料を配付または紹介する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。電子メールでは質問時間を設定して質問を受け付ける（質問時間及びメールアドレスは初回授業時に提示）。

連絡先

逸見：m_henmi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

日頃から各自の健康・栄養管理を行うとともに，乳幼児の成長に伴う心身の変化，食生活に関心を持つこと。

子どもの食と栄養［b］				単位数	2単位
授業コード	87315	科目ナンバリング	330B1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	逸見　眞理子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，食生活の乱れ，肥満，やせ，アレルギーなど，子どもの食に関する現状と課題，子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養，健康支援としての「食育」の必要性を学ぶことで，子どもや保護者に接する保育士に期待される役割を理解することを目的とする。
演習を通して、子どもの食と栄養について保育者としてどのように対応するのかをより具体的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1　子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養について説明することができる。	知識・技能／主体性
2	2　演習を通して，調乳・簡単な離乳食を調理することができる。	知識・技能／主体性
3	3　保育者として，食育を通して子ども・保護者へ正しい食生活の実践を助言できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4　自分の食生活についても見直し，健康的な食生活を実践できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（演習）：50%	1／2／3／4
2	試験　：50%	1／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県庁及び保健所において管理栄養士として，公衆栄養業務・食育活動・保育所給食指導業務等に携わっていた経験を活かし，子どもの食と栄養問題の構造を多角的に取り上げ，学生に実践的な子どもの食と栄養問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　子どもの心身の健康と食生活
2　子どもの食生活をめぐる現状
3　栄養に関する基礎知識（１）～栄養素の種類と機能～
4　栄養に関する基礎知識（２）～消化と吸収～
5　日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
6　妊娠・授乳期の食生活（調乳）
7　乳児期の食生活（離乳食調理）
8　幼児期の食生活
9　児童福祉施設における食生活と栄養
10　食育の基本と内容
11　食育のための環境・連携
12　学童期・思春期の食生活
13　特別な配慮を要する子どもの食と栄養（１）嘔吐・下痢への対応、食中毒予防
14　特別な配慮を要する子どもの食と栄養（２）食物アレルギーへの対応
15　食育の実践・まとめ

定期試験

16　学期末試験（筆記試験）

試験のフィードバックの方法

正答率の低かった問題について、mansba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　予習・復習の時間は毎回それぞれ30分以上が必要である。初回に日程表を配布するので，授業の前日までに教科書のその日の講義予定項目は一通り目を通しておくこと(予習)。授業では，　講述した内容を基に演習を行う。演習シート（演習のまとめ等）は，授業中に紹介した資料などを参考にしてより完成度の高いものに仕上げ，翌週の授業の前に提出する(復習)。
　食育の実践では，個人で食育指導案・シナリオ・食育媒体案等を作成する。これには、上記以外にも1～3時間程度の予習が必要となる。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
よくわかる！保育士エクササイズ③　「子どもの食と栄養　演習ブック第2版」，ISBN978-4-623-09065-5，松本峰雄監修，ミネルヴァ書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
必要に応じて適宜参考資料を配付または紹介する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。電子メールで質問時間を設定して質問を受け付ける（質問時間及びメールアドレスは初回授業時に提示）。

連絡先

逸見：m_henmi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

日頃から各自の健康・栄養管理を行うとともに，乳幼児の成長に伴う心身の変化，食生活に関心を持つこと。

保育内容総論［a］				単位数	1単位
授業コード	87340	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片平　朋世				
時間割備考	隔週				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児の生活や遊びの様々な面から「保育内容」の実際を捉えていく目を養う。
「保育内容」とは何かという問いを意識しつつ「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などに対する理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①乳幼児の生活や遊びが養護と教育の一体性により展開されていくことを説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	②５領域が関連しあって総合的に展開されていくことを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	③演習を通し，子どもにとって「遊びとは何か」ということを，説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（演習課題シートの記述・感想等）　50%	1／2／3
2	筆記試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に、園生活の中の様々な場面から「保育内容」がどのように展開されていくか解説し、演習を通して「遊びから学ぶこと」「5領域が関連し合うこと」等を理解できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 保育内容と子ども理解
4. 教育課程・保育課程と指導計画
5. 保育内容の展開（養護と教育の一体性）
6. 保育内容の展開（環境と遊びの関連性）
7. 保育内容の総合性（５領域の関連）

定期試験

筆記試験

試験のフィードバックの方法

試験のフィードバックは、manabaで行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業で課題を提示するので、次回の授業開始時に提出すること（１～２時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
・保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他随時、授業中に紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー　月曜日2限、3限

連絡先

katahira@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・保育について、幅広い視野から、学習を進める意識を持って参加すること。
・授業は隔週行う予定である。

保育内容総論［b］				単位数	1単位
授業コード	87345	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	片平　朋世				
時間割備考	隔週				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児の生活や遊びの様々な面から「保育内容」の実際を捉えていく目を養う。
「保育内容」とは何かという問いを意識しつつ「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などに対する理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①乳幼児の生活や遊びが養護と教育の一体性により展開されていくことを説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	②５領域が関連しあって総合的に展開されていくことを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	③演習を通し，子どもにとって「遊びとは何か」ということを，説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（演習課題シートの記述・感想等）　50%	1／2／3
2	筆記試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に、園生活の中の様々な場面から「保育内容」がどのように展開されていくか解説し、演習を通して「遊びから学ぶこと」「5領域が関連し合うこと」等を理解できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 保育内容と子ども理解
4. 教育課程・保育課程と指導計画
5. 保育内容の展開（養護と教育の一体性）
6. 保育内容の展開（環境と遊びの関連性）
7. 保育内容の総合性（５領域の関連）

定期試験

筆記試験

試験のフィードバックの方法

試験のフィードバックは、manabaで行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業で課題を提示するので、次回の授業開始時に提出すること（１～２時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
・保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他随時、授業中に紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー　月曜日2限、3限

連絡先

katahira@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・保育について、幅広い視野から、学習を進める意識を持って参加すること。
・授業は隔週行う予定である。

乳児保育Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	87348	科目ナンバリング	330B1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

乳幼児（0・1・2歳児）を対象とした保育の理論と実践を学ぶ。
また，保育所保育を中心とする乳児保育の内容について学習し，0・1・2歳児の生活や遊びの実際と，保育者の具体的な関わり方や援助の方法について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.　0・1・2歳児の保育について、保育所保育指針を踏まえて理解し、その基本を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.　0・1・2歳児の保育において、保育者に必要とされる専門性や資質について、保育所保育指針を踏まえた自分自身の考えを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講に取り組む態度　20%	1／2
2	レポート・課題　30%	1／2
3	筆記試験　50%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての経験を踏まえて、乳児保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．乳児保育の意義と基本
2．3歳未満児の発達の特徴と援助の基本
3．3歳未満児の保育における内容と方法（保育園の一日）
4．保育所以外の施設・家庭的保育等における乳児保育
5．3歳未満児と家庭を取り巻く環境・子育て支援
6．3歳未満児の生活と環境
7．3歳未満児の遊びと環境（0歳児）
8．3歳未満児の遊びと環境（1歳児）
9．3歳未満児の遊びと環境（2歳児）
10. 3歳以上児への移行期の保育
11. 発達や遊びに応じた保育者の配慮・関わり方
12. 乳児保育の記録と計画・指導計画作成の視点
13. 乳児保育担当者の実際と職務内容・連携のあり方
14. 乳児保育における養護と教育（健康管理と安全を踏まえて）
15. 家庭・地域との連携と今後の課題

定期試験
筆記試験
試験のフィードバックの方法
試験実施後に、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
0・1・2歳児の成長発達や保育者のあり方、乳児期の発達に即した遊び等について、授業中に指示するテキスト該当箇所や文献等を参照するなどして、日頃から関心を持って学習してもらいたい。（約１時間）。
必携書（教科書販売）
伊藤美保子・西 隆太朗『写真で描く乳児保育の実践―子どもの世界を見つめて』（ミネルヴァ書房, 2020） ISBN:9784623089963
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』, 厚生労働省, フレーベル館 『保育所保育指針解説（平成30年度版）』, 厚生労働省, フレーベル館
オフィスアワー
オフィスアワー 火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項
日頃から0・1・2歳児に触れる機会を持ち, 実態把握に努めるように心がける。 ボランティア等で自主的に保育に参加し, 子ども理解や保育士の職務内容に関心を持つようにする。

乳児保育II［a］				単位数	1単位
授業コード	87360	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

３歳未満児の発育・発達を踏まえて、それに応じた援助やかかわり・保育方法を理解する。
基本的生活面においては、離乳食、排泄（おむつ交換）、沐浴などの援助実践について、体験的な理解を深める。
３歳未満児の遊びと保育者の援助・配慮について学び、指導案など乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	３歳未満児の発達と保育者の援助の実際について理解し、その基本を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	３歳未満児の保育における援助を具体的にイメージし、計画（指導案）例を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート　70%	1／2
2	課題（指導案例）　10%	1／2
3	授業への参加態度　20%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての経験を踏まえて、保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．乳児保育の意義と基本
２．乳児期の生活と保育者の援助⑴（排泄）
３．乳児期の生活と保育者の援助⑵（沐浴）
４．乳児期の生活と保育者の援助⑶（食事）
５．乳児期の遊びの実際と保育者の援助
６．乳児期の保育における指導案作成の視点
７．乳児期の発達と環境
８．まとめ

定期試験
レポートによる
試験のフィードバックの方法
試験実施後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で配布する資料に目を通し、事後学修を深めること。授業で紹介する参考図書から、保育への関心を広げていってほしい（約１時間）。
必携書（教科書販売）
西隆太朗・伊藤美保子『動画で学ぶ乳児保育：0・1・2歳児保育の遊びと援助』ひとなる書房、2023年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針解説（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針＜平成29年告示＞，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項

乳児保育II［b］				単位数	1単位
授業コード	87365	科目ナンバリング	330B1-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

３歳未満児の発育・発達を踏まえて、それに応じた援助やかかわり・保育方法を理解する。
基本的生活面においては、離乳食、排泄（おむつ交換）、沐浴などの援助実践について、体験的な理解を深める。
３歳未満児の遊びと保育者の援助・配慮について学び、指導案など乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	３歳未満児の発達と保育者の援助の実際について理解し、その基本を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	３歳未満児の保育における援助を具体的にイメージし、計画（指導案）例を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート　70%	1／2
2	課題（指導案例）　10%	1／2
3	授業への参加態度　20%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての経験を踏まえて、保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．乳児保育の意義と基本
２．乳児期の生活と保育者の援助⑴（排泄）
３．乳児期の生活と保育者の援助⑵（沐浴）
４．乳児期の生活と保育者の援助⑶（食事）
５．乳児期の遊びの実際と保育者の援助
６．乳児期の保育における指導案作成の視点
７．乳児期の発達と環境
８．まとめ

定期試験
レポートによる
試験のフィードバックの方法
試験実施後、manaba folioを通して連絡する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で配布する資料に目を通し、事後学修を深めること。授業で紹介する参考図書から、保育への関心を広げていってほしい（約１時間）。
必携書（教科書販売）
西隆太朗・伊藤美保子『動画で学ぶ乳児保育：0・1・2歳児保育の遊びと援助』ひとなる書房、2023年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針解説（平成30年3月），厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針＜平成29年告示＞，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項

障害児保育［a］				単位数	2単位
授業コード	87380	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	東　俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現在の障害児を取り巻く状況や障害児保育の理念を理解し、子どもの成長・発達を保障、発展させていく上で必要な保育方法、知識や技術、問題の把握および個別の支援計画の作成を目的とする。また、保護者との連携の重要性などについても総合的に学習する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	障害の概念と障害児を「保育する」ことについて説明できる。	知識・技能／主体性
2	肢体不自由、視覚・聴覚障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	知的障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	発達障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	個別支援計画を作成し、保護者・現場・地域資源の活用による連携について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末テスト（100/100点）	1／2／3／4／5
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別な支援を要する子どものいる保育・教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、保育園や幼稚園などの保育現場・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　障害の概念と障害児保育
２　障害児を「保育する」こと
３　肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と援助
４　知的障害児の理解と援助
５　発達障害児の理解と援助−限局性学習障害・注意欠陥多動性障害
６　発達障害児の理解と援助−自閉症スペクトラム障害
７　個別支援計画の理解と作成
８　子どもの成長・発達を促進する環境設定
９　子ども同士の相互作用の促進と保育者の対応
10　子どものコミュニケーション能力の成長へのアプローチ
11　子どもの成長を促す職員の連携
12　保護者・家族理解と支援
13　地域資源の活用と連携
14　保幼小連携と移行支援
15　障害児保育における保健・医療・福祉・教育の現状と課題

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
コンパクト版　保育者養成シリーズ　新版　障害児保育，2018　ISBN978-4-86359-136-3　青木豊・藤田久美編，一藝社
必携書・参考書（教科書販売以外）
つながる・つなげる障害児保育　保育出版社 第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　1期：金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

障害児保育［b］				単位数	2単位
授業コード	87385	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	東　俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現在の障害児を取り巻く状況や障害児保育の理念を理解し、子どもの成長・発達を保障、発展させていく上で必要な保育方法、知識や技術、問題の把握および個別の支援計画の作成を目的とする。また、保護者との連携の重要性などについても総合的に学習する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	障害の概念と障害児を「保育する」ことについて説明できる。	知識・技能／主体性
2	肢体不自由、視覚・聴覚障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	知的障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	発達障害児の特性と援助方法について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	個別支援計画を作成し、保護者・現場・地域資源の活用による連携について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末テスト（100/100点）	1／2／3／4／5
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別な支援を要する子どものいる保育・教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、保育園や幼稚園などの保育現場・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　障害の概念と障害児保育
２　障害児を「保育する」こと
３　肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と援助
４　知的障害児の理解と援助
５　発達障害児の理解と援助−限局性学習障害・注意欠陥多動性障害
６　発達障害児の理解と援助−自閉症スペクトラム障害
７　個別支援計画の理解と作成
８　子どもの成長・発達を促進する環境設定
９　子ども同士の相互作用の促進と保育者の対応
10　子どものコミュニケーション能力の成長へのアプローチ
11　子どもの成長を促す職員の連携
12　保護者・家族理解と支援
13　地域資源の活用と連携
14　保幼小連携と移行支援
15　障害児保育における保健・医療・福祉・教育の現状と課題

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
コンパクト版　保育者養成シリーズ　新版　障害児保育, 2018　ISBN978-4-86359-136-3　青木豊・藤田久美編, 一藝社
必携書・参考書（教科書販売以外）
つながる・つなげる障害児保育　保育出版社 第1回目に資料配布を行う。 適宜、文献紹介を行う。
オフィスアワー
オフィスアワー　1期：金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

子育て支援［a］				単位数	1単位
授業コード	87400	科目ナンバリング	330B1-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　都市化、核家族化、近隣とのつながりの希薄化など、現代の家庭が置かれた状況に即した子育て支援が求められている。このような状況の中で、保育士は園の子ども・家庭だけでなく、地域の子ども・家庭への子育て支援の役割を担っている。
　この授業では、保護者に対する保育相談支援の意義、特性、その具体的な実践について理解する。また実際的な支援の内容、方法、技術について、事例等を通して具体的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育相談支援の特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	子育て支援の内容・方法・技術について具体的に理解し、考察することができる、	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート　70%	1／2
2	授業時の積極的な参加と発言　　30%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての実務経験を活かして、子育て支援の実際や実践者としてのあり方について具体的に教授する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１）保育士の行う子育て支援の特性（保護者との相互理解と信頼関係の形成）
２）保護者や家族の抱える支援ニーズの理解
３）保育士の行う子育て支援の展開
４）支援の実際と職員間等の連携・協働
５）保育士の行う子育て支援の実際（内容・方法・技術）
６）特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
７）多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
８）まとめ

定期試験
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
manaba folioを通してフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で指示するテキストの該当部分や配布資料に目を通し、事後学修を深めること。授業で紹介する参考図書から、保育への関心を広げていってほしい（約１時間）。
必携書（教科書販売）
小橋明子（監修）（2020）子育て支援. 中山書店. ISBN 978-4-521-74832-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項

子育て支援［b］				単位数	1単位
授業コード	87405	科目ナンバリング	330B1-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　美保子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　都市化、核家族化、近隣とのつながりの希薄化など、現代の家庭が置かれた状況に即した子育て支援が求められている。このような状況の中で、保育士は園の子ども・家庭だけでなく、地域の子ども・家庭への子育て支援の役割を担っている。
　この授業では、保護者に対する保育相談支援の意義、特性、その具体的な実践について理解する。また実際的な支援の内容、方法、技術について、事例等を通して具体的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育相談支援の特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	子育て支援の内容・方法・技術について具体的に理解し、考察することができる、	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート　70%	1／2
2	授業時の積極的な参加と発言　　30%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育士としての実務経験を活かして、子育て支援の実際や実践者としてのあり方について具体的に教授する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１）保育士の行う子育て支援の特性（保護者との相互理解と信頼関係の形成）
２）保護者や家族の抱える支援ニーズの理解
３）保育士の行う子育て支援の展開
４）支援の実際と職員間等の連携・協働
５）保育士の行う子育て支援の実際（内容・方法・技術）
６）特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
７）多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
８）まとめ

定期試験
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
manaba folioを通してフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で指示するテキストの該当部分や配布資料に目を通し、事後学修を深めること。授業で紹介する参考図書から、保育への関心を広げていってほしい（約１時間）。
必携書（教科書販売）
小橋明子（監修）（2020）子育て支援. 中山書店. ISBN 978-4-521-74832-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
火曜日4時限　金曜日4時限
連絡先
mihoko.ito@post.ndsu.ac.jp
留意事項

保育実習指導Ⅰ［22a］				単位数	2単位
授業コード	87460	科目ナンバリング	330B1-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子				
時間割備考	2022年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。また、実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
2年生では、実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。3年生では、実習先施設・利用児者に関して、調べてワークシートあるいはレポートにまとめる事前学習を通して理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所実習：実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。 施設実習：実習先施設種の概要、法的根拠、環境などに関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	施設実習：実習先施設種の利用児者の特性に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	施設実習：実習先施設種の現状に基づいて、施設の課題を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	実習を行うにあたっての自分の実習課題あるいは目標を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	保育所実習：演習時の取り組み　　20%	1／4／5
2	保育所実習：課題　40% 施設実習：　課題　50%	1／2／3／4／5
3	保育所実習：レポート　40% 施設実習　：レポート　50%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者9名中2名が保育士として、1名が幼稚園教諭としての実務経験をもっている。その経験を活かし、乳幼児期の子どもたちへのかかわりや、保育・施設現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

【保育実習における事前事後指導】2年生2期
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（意義と目的）
3. 実習段階の理解
4. 事前訪問について
5. 実習日誌の記入と課題作成
6. 指導計画の理解
7. 指導案の作成と教材研究
8. 実習中の留意事項
9. 実習反省（実習のまとめと感想）
10. 報告会

【施設実習における事前事後指導】3年生1期
１．オリエンテーション１　　事前の課題レポートに関して
２．オリエンテーション２　　事前指導の内容、実習先施設に提出する書類作成など
３．事前訪問について、実習巡回担当教員との打ち合わせおよび指導など
４．施設見学　　児童養護施設
５．施設見学　　障害者支援施設
６．実習開始に向けて１　　実習の意義・目標と内容など
７．実習開始に向けて２　　守秘義務と個人情報、施設実習にあたっての諸注意など
８．実習日誌について１　　実習日誌の書き方など
９．実習日誌について２　　記録の取り方、巡回担当教員による個人指導など
10. 報告会

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題で行う。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、担当教員が個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・保育実習Ｉは、保育所、施設それぞれ10日間という短い期間で行われる。 ・保育所実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・利用児・者理解を進める（2時間）。施設実習の場合は、実習先の施設種や利用児者に関する調べ学習とレポート作成を行い、自分の実習課題を明確化する（10時間）。 ・実習を実りあるものとするために、実習前に保育所および施設の見学を行う。 ・守秘義務と個人情報の管理や実習日誌の書き方などを学び、実習への意欲や意識を高める（２時間）。 ・実習後の報告・個人指導を通して、実習内容を省察し、今後の自分の課題を探る(2時間)。実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 ＜参考書等＞ 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
・保育所実習についての連絡は西まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp ・施設実習についての連絡先は東まで。 東　俊一 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
2年生第２期から保育所実習を開始する学生が履修する科目です。 第２期に、必ず「保育実習I」とともに履修登録してください。 責任をもって実習に臨み、積極的・意欲的な姿勢で取り組むこと。

保育実習指導Ⅰ［22b］				単位数	2単位
授業コード	87465	科目ナンバリング	330B1-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子				
時間割備考	2022年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。また、実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
2年生では、実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。3年生では、実習先施設・利用児者に関して、調べてワークシートあるいはレポートにまとめる事前学習を通して理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所実習：実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。 施設実習：実習先施設種の概要、法的根拠、環境などに関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	施設実習：実習先施設種の利用児者の特性に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	施設実習：実習先施設種の現状に基づいて、施設の課題を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	実習を行うにあたっての自分の実習課題あるいは目標を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	保育所実習：演習時の取り組み　　20%	1／4／5
2	保育所実習：課題　40% 施設実習　：課題　50%	1／2／3／4／5
3	保育所実習：レポート　40% 施設実習　：レポート　50%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者9名中2名が保育士として、1名が幼稚園教諭としての実務経験をもっている。その経験を活かし、乳幼児期の子どもたちへのかかわりや、保育・施設現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

【保育実習における事前事後指導】2年生2期
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（意義と目的）
3. 実習段階の理解
4. 事前訪問について
5. 実習日誌の記入と課題作成
6. 指導計画の理解
7. 指導案の作成と教材研究
8. 実習中の留意事項
9. 実習反省（実習のまとめと感想）
10. 報告会

【施設実習における事前事後指導】3年生1期
１．オリエンテーション１　　事前の課題レポートに関して
２．オリエンテーション２　　事前指導の内容、実習先施設に提出する書類作成など
３．事前訪問について、実習巡回担当教員との打ち合わせおよび指導など
４．施設見学１　　児童養護施設
５．施設見学　　障害者支援施設
６．実習開始に向けて１　　実習の意義・目標と内容など
７．実習開始に向けて２　　守秘義務と個人情報、施設実習にあたっての諸注意など
８．実習日誌について１　　実習日誌の書き方など
９．実習日誌について２　　記録の取り方、巡回担当教員による個人指導など
10. 報告会

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題で行う。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、担当教員が個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・保育実習Ｉは、保育所、施設それぞれ10日間という短い期間で行われる。 ・保育所実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・利用児・者理解を進める（2時間）。施設実習の場合は、実習先の施設種や利用児者に関する調べ学習とレポート作成を行い、自分の実習課題を明確化する（10時間）。 ・実習を実りあるものとするために、実習前に保育所および施設の見学を行う。 ・守秘義務と個人情報の管理や実習日誌の書き方などを学び、実習への意欲や意識を高める（２時間）。 ・実習後の報告・個人指導を通して、実習内容を省察し、今後の自分の課題を探る(2時間)。実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 ＜参考書等＞ 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
・保育所実習についての連絡は西まで。 西　隆太朗　　nishi@post.ndsu.ac.jp ・施設実習についての連絡先は東まで。 東　　俊一　　s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・2年生第２期から保育所実習を開始する学生が履修する科目です。 第２期に、必ず「保育実習I」とともに履修登録してください。 責任をもって実習に臨み、積極的・意欲的な姿勢で取り組むこと。

保育実習指導Ⅰ［21a］				単位数	2単位
授業コード	87470	科目ナンバリング	330B1-2300-o2	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、本保　恭子、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子、篠田　千枝				
時間割備考	2021年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・施設：実習実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。 施設実習：実習先施設種の概要、法的根拠、環境、現状に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	施設実習：実習先施設種の利用児者の特性に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	施設実習：実習先施設種の概要や現状、利用児者の特性に基づいて、施設の課題を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	保育所実習：演習時の取り組み　　20%	1／2／3
2	保育所実習：課題　40% 施設実習：　課題　50%	1／2／3
3	レポート　保育所実習：　40% 施設実習：　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、西山・藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

・保育実習における事前事後指導
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（意義と目的）
3. 実習段階の理解
4. 事前訪問について
5. 実習日誌の記入と課題作成
6. 指導計画の理解
7. 指導案の作成と教材研究
8. 実習中の留意事項
9. 実習反省（実習のまとめと感想）
10. 報告会

・施設実習における事前事後指導
１．オリエンテーション１　　事前の課題レポートに関して
２．オリエンテーション２　　事前指導の内容、実習先施設に提出する書類作成など
３．事前訪問について、実習巡回担当教員との打ち合わせおよび指導など
４．施設見学１　　児童養護施設
５．施設見学　　障害者支援施設
６．実習開始に向けて１　　実習の意義・目標と内容など
７．実習開始に向けて２　　守秘義務と個人情報、施設実習にあたっての諸注意など
８．実習日誌について１　　実習日誌の書き方など
９．実習日誌について２　　記録の取り方、巡回担当教員による個人指導など
10. 報告会１　　乳児院、児童養護施設など
11. 報告会２　　障害児入所施設、児童発達支援センター
12. 報告会３　　障害者入所施設

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題による。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、担当教員が個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
保育実習Ｉは、保育所、施設それぞれ10日間という短い期間で行われる。 実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・利用児・者理解を進める（2時間）。 実習を実りあるものとするために、実習前に保育所および施設の見学や、施設実習の場合、実習先の施設種や利用児者に関する調べ学習とレポート作成を行い、自分の実習課題を明確化する（10時間）。 また、守秘義務と個人情報の管理や実習日誌の書き方などを学び、実習への意欲や意識を高める（２時間）。 実習後の報告・個人指導を通して、実習内容を省察し、今後の自分の課題を探る(2時間)。 実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし
必携書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 ＜参考書等＞ 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
・保育所実習についての連絡は西まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp ・施設実習についての連絡先は東まで。 東　俊一 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
第２期から保育所実習を開始する学生が履修する科目です。 第２期に、必ず「保育実習I」とともに履修登録してください。 責任をもって実習に臨み、積極的・意欲的な姿勢で取り組むこと。

保育実習指導Ⅰ［21b］				単位数	2単位
授業コード	87475	科目ナンバリング	330B1-2300-o2	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、本保　恭子、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子、篠田　千枝				
時間割備考	2021年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所・施設：実習実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。 施設実習：実習先施設種の概要、法的根拠、環境、現状に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	施設実習：実習先施設種の利用児者の特性に関して自分で調べて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	施設実習：実習先施設種の概要や現状、利用児者の特性に基づいて、施設の課題を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	保育所実習：演習時の取り組み　　20%	1／2／3
2	保育所実習：課題　40% 施設実習：　課題　50%	1／2／3
3	レポート　保育所実習：　40% 施設実習：　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、西山・藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

・保育実習における事前事後指導
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（意義と目的）
3. 実習段階の理解
4. 事前訪問について
5. 実習日誌の記入と課題作成
6. 指導計画の理解
7. 指導案の作成と教材研究
8. 実習中の留意事項
9. 実習反省（実習のまとめと感想）
10. 報告会

・施設実習における事前事後指導
１．オリエンテーション１　　事前の課題レポートに関して
２．オリエンテーション２　　事前指導の内容、実習先施設に提出する書類作成など
３．事前訪問について、実習巡回担当教員との打ち合わせおよび指導など
４．施設見学１　　児童養護施設
５．施設見学　　障害者支援施設
６．実習開始に向けて１　　実習の意義・目標と内容など
７．実習開始に向けて２　　守秘義務と個人情報、施設実習にあたっての諸注意など
８．実習日誌について１　　実習日誌の書き方など
９．実習日誌について２　　記録の取り方、巡回担当教員による個人指導など
10. 報告会１　　乳児院、児童養護施設など
11. 報告会２　　障害児入所施設、児童発達支援センター
12. 報告会３　　障害者入所施設

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題による。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、担当教員が個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
保育実習Ｉは、保育所、施設それぞれ10日間という短い期間で行われる。 実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・利用児・者理解を進める（2時間）。 実習を実りあるものとするために、実習前に保育所および施設の見学や、施設実習の場合、実習先の施設種や利用児者に関する調べ学習とレポート作成を行い、自分の実習課題を明確化する（10時間）。 また、守秘義務と個人情報の管理や実習日誌の書き方などを学び、実習への意欲や意識を高める（2時間）。 実習後の報告・個人指導を通して、実習内容を省察し、今後の自分の課題を探る（2時間）。 実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし
必携書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会（講義中に配布） 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 ＜参考書等＞ 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
・保育所実習についての連絡は西まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp ・施設実習の連絡先は東まで。 東　俊一 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
第２期から保育所実習を開始する学生が履修する科目です。 第２期に、必ず「保育実習I」とともに履修登録してください。 責任をもって実習に臨み、積極的・意欲的な姿勢で取り組むこと。

保育実習指導ＩＩ［a］				単位数	1単位
授業コード	87480	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西　隆太朗、中内　みさ、伊藤　美保子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていくための知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察によって保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート・課題　50%	1／2
2	授業への取り組み　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定一覧　・保育実習における事前事後指導
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（2年次の保育所実習を振り返って）
3. 事前訪問について
4. 実習日誌の記入と課題作成
5. 指導計画の理解
6. 指導案の作成と教材研究
7. 実習の振り返り
8. まとめ

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題による。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、実習園のグループごとにフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習（1時間程度）：実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・子ども理解を進める。 事後学習（1時間程度）：実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館 ＜必携書（講義中に配布）＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
保育所実習についての連絡は下記まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必ず「保育実習II」とともに履修すること。 本授業は、保育所実習選択者のためのものである。施設実習選択者は「保育実習指導III」を履修すること。

保育実習指導ＩＩ［b］				単位数	1単位
授業コード	87485	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西　隆太朗、中内　みさ、伊藤　美保子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

実習を円滑に進めていくための知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察によって保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート・課題　50%	1／2
2	授業への取り組み　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定一覧　・保育実習における事前事後指導
1. 保育所実習オリエンテーション
2. 保育実習に向けて（2年次の保育所実習を振り返って）
3. 事前訪問について
4. 実習日誌の記入と課題作成
5. 指導計画の理解
6. 指導案の作成と教材研究
7. 実習の振り返り
8. まとめ

定期試験
レポートおよび実習の振り返りに関する課題による。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、実習園のグループごとにフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習（1時間程度）：実習に必要な準備を滞りなく行うとともに、実習園での保育理解・子ども理解を進める。 事後学習（1時間程度）：実習の省察を言語化し、次の保育に生かすよう努める。
必携書（教科書販売）
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館 ＜必携書（講義中に配布）＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
保育所実習についての連絡は下記まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必ず「保育実習II」とともに履修すること。 本授業は、保育所実習選択者のためのものである。施設実習選択者は「保育実習指導III」を履修すること。

保育実習指導ＩＩＩ				単位数	1単位
授業コード	87490	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	東　俊一、中内　みさ、小田　久美子、篠田　千枝、西山　節子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実習Ｉでの学びを基盤として実習を円滑に進めていくためのより専門的な知識や技能を習得するため、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。 また、実習後の報告・反省会を通して、実習内容を省察し今後の課題を探る。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	実習Ｉの学びを基盤として、自分の実習課題を明確に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	実習課題を達成するために、福祉現場や利用児に関する必要な知識を自ら調べ、実践に応用するべくまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	福祉現場で実習した後、実習で獲得した学びを省察し、自分の今後の課題を明確に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習課題レポート　　50%	1／2
2	実習後の課題レポート　　50%	1／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. オリエンテーション（東・小田・篠田・西山・中内）
2. 必要書類準備（東・小田・篠田・西山・中内）
3. 実習での学びを深めるために（１）　保育実習Ｉを振り返る　（篠田・中内）
4. 実習での学びを深めるために（２）　実習先施設の理解（中内）
5. 実習での学びを深めるために（３）　施設における保育士の役割理解（西山）
6. 実習での学びを深めるために（４）　実習日誌の記入（東）
7. 実習での学びを深めるために（５）　実習課題の設定（小田）
8. 実習に向けて　　保育士課程における施設実習の意義（中内）
9. 実習反省（実習のまとめと感想）（東・小田・篠田・西山・中内）
10. 実習報告会（東・小田・篠田・西山・中内）
11. フィードバック（東・小田・篠田・西山・中内）

定期試験

実習課題レポートの提出。
なお、書き方・内容等に関しては、最初の授業（オリエンテーション）で説明する。

試験のフィードバックの方法

巡回担当教員が個別に指導する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業前には『施設実習の手引』に目を通しておく（約15分）。
授業後は、新しい知見や考えたことをまとめ、自分の学びを確かなものとしておく（約20分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

【必携書】
『施設実習の手引』および『施設実習日誌』，岡山県保育士養成協議会

オフィスアワー

最初の授業で各担当者のオフィスアワーを示す。

連絡先

東　s-higashi@post.ndsu.ac.jp
小田　oda9@post.ndsu.ac.jp
篠田　s5102@m.ndsu.ac.jp
西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp
中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp

留意事項

2020年度入学生対象。
実習に向けて良識的な生活態度で体調を管理すること。また、課題に対しては積極的・意欲的な態度で取り組んでほしい。

保育実習Ⅰ［21］					単位数	4単位
授業コード	87500	科目ナンバリング	330B1-2300-o4	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期	
担当者氏名	中内　みさ、本保　恭子、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子、篠田　千枝					
時間割備考	2021年度入学生対象					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）						

本授業の概要

保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習から構成されている。
2年次2期では保育所において、3年次１期では、児童養護施設や障害児入所施設などの施設において、10日間通所あるいは宿泊での実習を行う。
実習を通して乳幼児・児童、障害児・者の特性やニーズを理解した保育、保育所・施設の役割と機能、保育士の職務と役割、職業倫理などについて体験的に学ぶ（アクティブ・ラーニング）。

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所と福祉施設の生活に参与し、乳幼児・児童、障害児・者の特性や保育・支援ニーズなどを理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	日々の保育所と福祉施設の生活、乳幼児・児童・障害児・者の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	それぞれの保育・施設現場の機能と保育士の職務、役割、連携、職業倫理について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	乳幼児・児童・障害児・者の保育・支援について特性や支援ニーズの理解に基づいて、状況に合わせ工夫した保育・支援を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	新たな実習課題を見つけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	保育所実習：現場実習の評価　20% 施設実習：現場実習の評価　60%	1／2／3
2	保育所実習：実習日誌　60% 施設実習：実習日誌　20%	1／2／3
3	保育所、施設実習ともに：課題・レポート　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育・施設現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

【保育所における実習】　2期・11月に実施（10日間）
1）実習施設について理解する
2）保育の一日の流れを理解し、保育に参加する
3）観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
4）保育計画・指導計画を理解する
5）生活や遊びなど保育の一部を担当し、保育技術を習得する
6）職員間の役割分担と連携について理解する
7）家庭・地域社会と保育所のかかわりについて理解する
8）子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ
9）保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
10）安全および疾病予防への配慮について理解する

【福祉施設における実習】　1期・5月～6月に実施（10日間）
1)養護全般に参加し、施設の生活の実際を学ぶ
2)利用児者一人一人の生活と特性について学ぶ
3)利用児者一人一人の生活課題や支援ニーズについて学ぶ
4)施設の役割と機能を学ぶ
5)施設保育士の職務、役割と職業倫理を学ぶ
6)職員と利用児者との関わり合いを観察して、養護技術を習得する
7)利用児者とのかかわりを通して、自分の福祉観や人生観を再構築する
8)実習内容と学びを記録した実習日誌から、自分の新しい課題を見出す

定期試験
実習報告会で一人ひとり報告を行い、実習日誌と課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
保育実習指導授業終了後、担当教員がフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・「保育実習の手引きおよび施設実習の手引」を熟読して実習に臨むこと（30分） ・実習に必要な事前準備（1時間～2時間）と振り返りを重ね、責任をもって実習にあたること。 ・1日の振り返りを丁寧に日誌に記述する（1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館 ＜必携書（講義中に配布）＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会 施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
授業時に必要に応じて知らせる。
留意事項
・2年生第2期に履修を開始する。必ず「保育実習指導I」とともに履修すること。 ・実習施設に対する敬意と謙虚さをもって実習に臨むこと。また、居住型福祉施設での宿泊を伴うため、共同生活におけるマナーに留意する。 ・健康管理に留意し，充実した実習を行うために準備や課題を持って取り組んでほしい。 ・実習に関する緊急連絡はmanabaで行うので、manabaを必ず確認すること。何かあったときは報告・連絡・相談を忘れないでほしい。

保育実習Ⅰ［22］				単位数	4単位
授業コード	87510	科目ナンバリング	330B1-2300-o4	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期
担当者氏名	中内　みさ、西　隆太朗、伊藤　美保子、東　俊一、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、西山　節子				
時間割備考	2022年度入学生対象				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習から構成されている。2年次2期は保育所において、3年次1期では児童養護施設や障害児入所施設などにおいて、10日間、通所あるいは宿泊での実習を行う。
実習を通して、乳幼児・児童、障害児・者の特性やニーズを理解した保育・養護、保育所・施設の役割と機能、保育士の職務と役割、職業倫理などについて体験的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保育所と福祉施設の生活に参与し、乳幼児・児童、障害児・者の特性や保育・養護・支援ニーズなどを理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	保育所と福祉施設の日々の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・養護・支援について省察し、日誌に記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	それぞれの保育・施設現場の機能と保育士の職務、役割、連携、職業倫理について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	乳幼児・児童、障害児・者の保育・養護・支援について、特性や支援ニーズの理解に基づいて、状況に合わせ工夫した保育・支援を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	新たな実習課題を見つけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	保育所実習：現場実習の評価　20% 施設実習　：現場実習の評価　60%	1／2／3／4
2	保育所実習：実習日誌　60% 施設実習　：実習日誌　20%	1／2／3／4
3	保育所実習、施設実習ともに：課題・レポート　20%	1／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当者9名中2名が保育士として、1名が幼稚園教諭としての実務経験をもっている。その経験を活かし、乳幼児期の子どもたちへのかかわりや、保育・施設現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

【保育所における実習】　2年次2期　11月に実施（10日間）
１）実習施設について理解する。
２）保育の一日の流れを理解し、保育に参加する
３）観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
４）保育計画・指導計画を理解する
５）生活や遊びなど保育の一部を担当し、保育技術を習得する
６）職員間の役割分担と連携について理解する
７）家庭・地域社会と保育所のかかわりについて理解する
８）子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ
９）保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
10）安全および疾病予防への配慮について理解する

【福祉施設における実習】　3年次1期　6月に実施（10日間）
１）養護全般に参加し、施設の生活の実際を学ぶ
２）利用児者一人一人の生活と特性について学ぶ
３）利用児者一人一人の生活課題や支援ニーズについて学ぶ
４）施設の役割と機能を学ぶ
５）施設保育士の職務、役割と職業倫理を学ぶ
６）職員と利用児者との関わり合いを観察して、養護技術を習得する
７）利用児者とのかかわりを通して、自分の福祉観や人生観を再構築する
８）実習内容と学びを記録した実習日誌から、自分の新しい課題を見出す

定期試験
実習報告会で一人一人報告を行い、実習日誌と課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
保育実習指導授業終了後、担当教員がフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・「保育実習の手引」および「施設実習の手引」を熟読して実習に臨むこと（30分）。 ・実習に必要な事前準備（1～2時間）と振り返りを重ね、責任をもって実習に当たること。 ・1日の振り返りを丁寧に日誌に記述すること（1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
【必携書】 ・保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 ・保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館 （講義中に配布） ・保育所実習の手引，岡山県保育士養成協議会 ・施設実習の手引，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
（保育所実習） 西　　nishi@post.ndsu.ac.jp （施設実習） 東　　s-higashi@post.ndsu.ac.jp （代表） 中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 各担当者の連絡先は、授業時に必要に応じて知らせる。
留意事項
・2年生2期に履修を開始する。必ず「保育実習指導Ⅰ」と共に履修すること。 ・実習施設に対する敬意と謙虚さをもって実習に臨むこと。また、施設実習では、居住型福祉施設での宿泊を伴うため、共同生活におけるマナーに注意しましょう。 ・健康管理に留意し、充実した実習を行うために準備や課題をもって取り組んでください。 ・実習に関する緊急連絡はmanabaで行うので、manabaを必ず確認すること。何かあったときは報告・連絡・相談を忘れないでください。

保育実習ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	87550	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西　隆太朗、中内　みさ、伊藤　美保子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

既習した知識・技術や保育実習Ｉで習得したことを基に,保育所実習を行い,乳幼児の保育について実習を通してより深く学ぶ（アクティブ・ラーニング）。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．日々の保育所の生活、乳幼児の保育･支援について省察し、日誌に記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．それぞれの保育現場の現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら保育にあたることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	現場実習の評価　20%	1／2／3
2	実習ノート　　60%	1／2／3
3	課題･レポート 20%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

保育所における実習
2019年6月～7月の10日間
1) 保育全般に参加し，保育技術を習得する
2) 子どもの個人差の理解とその対応について学習する
3) 指導計画の立案，実践を理解する
4) 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する
5) 地域社会への理解，連携の方法について具体的に学習する
6) 子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ。
7) 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
8) 保育所・保育士に求められる資質，能力，技術に照らして，自己の課題を知る

定期試験
実習報告会で一人ひとり報告を行い、実習日誌を提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後、実習園のグループごとにフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実習に必要な事前準備と振り返りを重ね、責任をもって実習にあたること。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館 保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館 ＜必携書（講義中に配布）＞ 保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
授業全般についての連絡は下記まで。 西　隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必ず「保育実習指導II」とともに履修すること。 本実習は、保育所実習選択者のためのものである。施設実習選択者は「保育実習III」を履修すること。

保育実習ＩＩＩ				単位数	2単位
授業コード	87600	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	東　俊一、中内　みさ、小田　久美子、篠田　千枝、西山　節子				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育実習Ｉにおける経験やそこで見出した自分の課題、保育に関するこれまでの授業で得た知識や技能を応用して、施設養護に携わる保育士として保育所以外の児童福祉施設で実習を行い、養護のあり方についてより専門的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	職業倫理に基づいた施設養護の在り方に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	乳幼児･児童、障害児･者の特性や課題に対する支援計画を理解し、それらを基にして個別的な支援を計画し実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	各施設の利用児・者のニーズに対するサービスやサポートシステムを理解し、連携・協働しながら実習生として支援にあたることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	施設養護に共通する支援の原則と課題を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	実習を通して、保育士としての自分の課題を明確にし説明できる。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	現場実習の評価　60%	1／2／3／4／5
2	実習日誌　　40%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

福祉施設（保育所以外）における実習
　2023年6月～7月の10日間
1）養護全般に参加し，施設養護の在り方について考え養護技術を習得する
2）利用児・者の個人差への理解とその対応について学ぶ（特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズの理解と対応について）
3）異なるニーズに対応したサービスやサポートシステムについて具体的にその連携や協働を学ぶ
4）支援計画を立案し、実践する
5）利用児・者の権利擁護に関して学ぶ
6）家族や地域社会との連携・協働の方法について具体的に学ぶ
7）保育士としての職業倫理を具体的に理解する
8）保育士に求められる資質，能力，技術に照らして、自己の課題を明確化する

定期試験
実習後、実習日誌を速やかに提出すること
試験のフィードバックの方法
巡回担当教員が個別に指導する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
『施設実習の手引』を熟読して実習に臨むこと（約40分）。 実習後は、実習施設の概要、実習で得た自分の学びと見出した課題などをまとめておくこと（約60分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
【必携書】 『施設実習の手引き』および『施設実習日誌』，岡山県保育士養成協議会
オフィスアワー
実習前に各担当者のオフィスアワーを示す。
連絡先
巡回指導を担当する教員の連絡先を記す。 東　　s-higashi@post.ndsu.ac.jp 小田　　oda9@post.ndsu.ac.jp 篠田　s5102@m.ndsu.ac.jp 西山　s.nishiyama@m.ndsu.ac.jp 中内　mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
2020年度入学生対象。 健康管理に留意し，充実した実習を行うために準備や課題を持って取り組んでほしい。また、実習に関する緊急連絡はmanabaで行うので、manabaを必ず確認すること。何かあったときは報告・連絡・相談を忘れないでほしい。

モンテッソーリ教育理論				単位数	2単位
授業コード	87650	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	福原　史子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は、モンテッソーリ教具やその底を流れる教育的意味を理解し、今日の幼児教育・学校教育・特別支援教育への適用と家庭での実践的な環境構成について検討することを目的とする。附属幼稚園の見学や先輩による体験談、教材制作を通して、実態と実践上の課題を把握する機会をもつ。その上で、モンテッソーリ教育の現代的意義と課題についてディスカッションをする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「一人でできるよう手伝う」支援について説明することができる。	知識・技能
2	子どもの思いや考えに焦点を当てて観察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	モンテッソーリ教具に触れることにより、環境構成の要点をまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	子どもの発達段階を想定し、教材を制作することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	モンテッソーリ教育実践上の意義と課題を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　30%	1／3／5
2	見学レポート・ブックレポート　20%	1／2／3
3	教材制作・発表　20%	4
4	期末レポート　30%	1／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

小学校教諭として公立小学校に勤務後、アメリカのMontessori School及び日本のモンテッソーリ教育実践園での勤務経験を活かし、学生にモンテッソーリ教育の国際性と現代性について具体例をもとに理解し、実践上の課題について議論するよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　子どもが「一人でできるように手伝う」モンテッソーリ教育とは
2　マリア・モンテッソーリの生涯とその影響
3　環境を通しての教育-子どもの「敏感期」をキャッチする-
4　五感の洗練と知的発達の素地づくりー「吸収する心」のすばらしさー
5　モンテッソーリ教具の紹介(1)日常生活の練習
6　モンテッソーリ教具の紹介(2)感覚
7　自発的な活動と集中現象
8　附属幼稚園「モンテッソーリ子どもの部屋」見学
9　モンテッソーリ教具の紹介(3)数
10　モンテッソーリ教具の紹介(4)言語
11　モンテッソーリ教具の紹介(5)文化
12　初等教育理論・方法の変遷とモンテッソーリ教育
13　平和と教育・コスミック教育
14　子どもの可能性を伸ばすために・モンテッソーリ教育の新しい展開
15　教材制作発表

定期試験
最終授業時に「モンテッソーリ教育の理念に基づく教材制作」に関するレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
レポート及び自作教材にコメントを付けて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回の授業の終わりに次時の資料を配付する。資料をよく読み、自らの意見や疑問点などを整理して授業に臨んでほしい（1時間）。授業では、討論や意見交換の機会を設け、それらの活動を通してモンテッソーリ教育への理解を促していく。 （復習）自身の疑問について振り返りをするとともに、さらに深く学びたい人のために参考文献や参考URLを紹介するので、自主的な学びへとつなげてほしい（1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 授業中に自作資料を配布する。 ＜参考書等＞ 授業中に参考文献一覧を配布する。
オフィスアワー
オフィスアワー：月曜日４時限　水曜日３時限 質問は随時、電子メールで受け付ける
連絡先
fumikofk@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本科目はモンテッソーリ教育の入門編であり、児童学科の3年生以上であれば誰でも受講が可能である。モンテッソーリ教育コースを履修するかどうかについては、本科目の受講後（1期の終わり）に決めることになる。本学が50年以上にわたって大切にしてきた教育理念について深く学んでほしい。

モンテッソーリ教育実習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	87700	科目ナンバリング	330B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	福原　史子、岡本　純子				
時間割備考	３～５時限まで				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業のねらいは、モンテッソーリ教育について「日常生活の練習」及び「感覚」の各領域別に、それぞれの教具の特徴と幼児への提示方法を習得することである。幼児の発達段階や興味に合わせて適切に提供できるように練習するとともに、学んだことを活かして現場での実習を行う。一人一人を大切にする人格教育の実践をモンテッソーリの教育環境を通して体験し、子どもの示す集中力や達成感を認め、子どもと共に成長できる喜びを経験してほしい。manaba folioにアップロードされる資料を活用し、積極的に自主練習に努めてほしい。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「日常生活の練習」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	「感覚」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	自ら創意工夫し、環境を整えることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	実習・実習記録　40%	1／2／3／4
2	実技試験　30%	1／2／4
3	アルバム制作　30%	1／2／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

主担当者はアメリカのMontessori Schoolにおいて教師を務めた経験から、モンテッソーリ教育の国際性と幼児の実態に合わせた教具提示の必要性とを伝えることで、学生にモンテッソーリ教育の深い理解を促す。副担当者は附属幼稚園のモンテッソーリ子どもの部屋で17年以上モンテッソーリ教育に携わってきた。この経験を活かし、学生が理論と実践上の課題とを結び付け、実践的指導力を身に付けることができるよう支援する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション／日常生活（1-1）基本の運動：米・豆・ビーズ等を使って（担当/福原）
2　日常生活（1-2）基本の運動1：身近な物や水を使って（担当/福原）
3　日常生活（1-3）基本の運動2：毛糸を使って／自己への配慮（担当/岡本）
4　日常生活（1-4）環境への配慮／運動の調整（担当/岡本・福原）
5　日常生活（1-5）基本の運動3：水を使った実験／社交的ふるまい（担当/福原）
6　感覚（1-1）感覚教育とは／視覚教具1：大きさ・色（担当/福原）
7　感覚（1-2）視覚教具2：形／触覚教具（担当/福原）
8　感覚（1-3）聴覚・嗅覚・立体感覚教具（担当/福原）
9　日常生活（1-6）0から3歳児のモンテッソーリ教育（担当/福原・特別講義講師/倉田）
10　文化（1-1）地理（担当/岡本・福原）
11　言語（1-1）言語教育とは／話し言葉について（担当/福原）
12　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：観察及び日常生活練習を中心に
13　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：感覚教具を中心に
14　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：日常生活練習及び感覚教具を総合的に
15　教具練習／アルバム作成

定期試験

16週目に実技試験を行う。内容は，日常生活の練習領域及び感覚領域の教具の提示方法である。

試験のフィードバックの方法

実技試験の後に個別に助言するとともに，各々のポイントを整理し全体で共有する時間をもつ。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業で学んだ教具についての資料を、manaba folio を利用して添付ファイルで送信する。それをもとに自分なりに加筆・修正するとともに、図を加えてA4クリアファイルに綴じていくことを求める（3時間）。本授業では、「日常生活の練習」と「感覚教具」の二種類のアルバムを仕上げることになる。

必携書（教科書販売）

使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業中に適宜資料を配付する。

＜参考資料等＞
授業中に参考文献一覧を配付する。

オフィスアワー

オフィスアワー（福原）：月曜日４時限　水曜日３時限
質問は随時電子メールで受け付ける

連絡先

福原　fumikofk@m.ndsu.ac.jp
附属幼稚園　086-253-4780

留意事項

モンテッソーリ教育コース履修生に限定された授業である。本コースの履修については，3年次Ⅰ期の「モンテッソーリ教育理論」受講後に決定することとなる。モンテッソーリ教具とその提示方法について活動を通して学びながら、本学附属幼稚園における教育実習を通して実践力を身に付けていく。附属幼稚園での実習時間については、個別に相談して決定する。

モンテッソーリ教育実習ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	87750	科目ナンバリング	330B1-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	福原　史子、蜂谷　里香				
時間割備考	３～５時限まで				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業のねらいは、モンテッソーリ教育について、「言語・文化」及び「数」の各領域別に、それぞれの教具の特徴と幼児への提示方法を習得することである。幼児の発達段階や興味に合わせて適切に提供できるように練習し、学んだことを活かして現場での実習を行う。一人一人を大切にする人格教育の実践をモンテッソーリの教育環境を通して体験し、子どもの示す集中力や達成感を認め、子どもと共に成長できる喜びを経験してほしい。manaba folioにアップロードされる資料を活用し、積極的に自主練習に努めてほしい。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「言語・文化」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	「数」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	自ら創意工夫し、環境を整えることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	個と集団のバランスを取りながら指導しようとする。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	実習・実習記録　30%	1／2／3／4／5
2	教具制作　10%	1／2／3
3	実技試験　30%	1／2／4
4	アルバム制作　30%	1／2／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

主担当者はアメリカのMontessori Schoolにおいて教師を務めた経験から、モンテッソーリ教育の国際性と幼児の実態に合わせた教具提示の必要性とを伝えることで、学生にモンテッソーリ教育の深い理解を促す。副担当者は幼稚園での30年以上の教諭経験から、教育現場における幼児の見方を示し、学生がモンテッソーリ理論と実践上の課題とを結び付けるよう支援する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　感覚（2-1）視覚教具：発展１（担当/福原）
2　感覚（2-2）視覚教具：発展２/言語（2-1）書くための準備（担当/福原）
3　言語（2-2）書き方の実際・特別な書き方と読み方１（担当/蜂谷）
4　言語（2-3）特別な書き方と読み方２・読む１（担当/福原）
5　文化（2-１）生物／コスミック教育（担当/蜂谷・福原）
6　言語（2-4）文法（担当/福原）
7　モンテッソーリの教育の理論と実践（担当/福原・特別講義講師/高月）
8　数（1）数教育について／数量概念の基本練習（担当/福原・蜂谷）
9　数（2）十進法：金ビーズ（担当/福原）
10　数（3）十進法：スタンプゲーム（担当/福原）
11　数（4）連続数（担当/福原）
12　数（5）教具制作発表／四則の計算へ（担当/福原）
13　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：言語・文化教具を中心に
14　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：数教具を中心に
15　附属幼稚園でのモンテッソーリ教育実習：個と集団のバランスを取りながら総合的に

定期試験

16週目に実技試験を行う。実技試験の内容は，言語・文化領域の教具と数領域の教具の提示方法である。

試験のフィードバックの方法

実技試験後に個別に助言するとともに，各々のポイントを整理し全体で共有する時間をもつ。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業で学んだ教具についての資料を、manaba folio を利用して添付ファイルで送信する。それをもとに自分なりに加筆・修正するとともに、図を加えてA4クリアファイルに綴じていくよう求める（3時間）。本授業では、「言語・文化」と「数」の二種類のアルバムを仕上げることになる。

必携書（教科書販売）

使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業中に適宜資料を配付する。

＜参考書等＞
授業中に参考文献一覧を配付する。

オフィスアワー

オフィスアワー（福原）：月曜日４時限　水曜日３時限

質問は随時電子メールで受け付ける

連絡先

福原　fumikofk@m.ndsu.ac.jp
附属幼稚園　086-253-4780

留意事項

モンテッソーリ教育コース履修生に限定された授業である。モンテッソーリ教具とその提示方法について活動を通して学びながら、本学附属幼稚園における教育実習を通して実践力を身に付けていく。附属幼稚園での実習時間については、個別に相談して決定する。

保育・教育基礎実習				単位数	1単位
授業コード	87815	科目ナンバリング	330B1-1200-o1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵、杉能　道明、福原　史子、青山　新吾、日下　紀子、安江　美保、湯澤　美紀、池田　尚子、伊藤　美保子、西　隆太朗、西山　節子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、土居　裕士				
時間割備考	2021年度以降入学生対象　重ねて履修可				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、実践的指導力（就業力）を高めていくことを目的とする。原則として、教育実習前の段階での学校園現場でのボランティア実習を中心とする。
自分で計画立案して、本学附属学校園や岡山・倉敷市内の学校園等に出向いて実体験（ボランティア実習）を行い、その成果を大学に戻ってまとめる中で、自分自身の成果と課題をあきらかにしていく。実践的指導力（就業力）に直結したコミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、マネージメント力（ＣＣＰＭ力）を培うことを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・自分で計画立案して、学校園の現場でボランティア実習の実践をすることができる。	主体性
2	学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・学校園現場で働く保育士・教師の指導の様子を観察し、実践的な指導観をもつことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにし、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を明らかにすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	・参加の様子と参加記録の集積（ポートフォリェフォリオ）	60%程度	1／2
2	・カンファレンス、事前事後指導に参加とそこでの様子	20%程度	3／4
3	・レポート	20%程度	3／4
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園、保育所、小学校、支援学校等で実務経験をもつ者が担当している。合同カンファレンスでは、それぞれの学校園種に応じた指導のあり方を具体的にアドバイスする。また、ポートフォリオやレポートへの対応では、現場での実践に即した指導観を伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　事前指導①（大学・オリエンテーション）
2　事前指導②（連携学校園）
3　合同カンファレンス（意義ある学びにするために、ポートフォリオの作成）
4　～　15
　〇連携学校園でのボランティア実習
　〇ポートフォリオの作成
　〇カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）
16　事後指導（ポートフォリオの振り返り、「成果と課題」を含む事後報告の作成）

※１期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

定期試験
事後指導（ポートフォリオの振り返り、最終報告の作成）
試験のフィードバックの方法
「記録」「ポートフォリオ」「レポート等」は返却する。成果と課題を確認しながら最終報告を作成した後、教職履修カルテに綴じ込む。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
実際にボランティア実習の実践が出来た際には、その成果と課題についてポートフォリオノートに記述することが望ましい。（20～30分程度） その蓄積をもとにして、カンファレンス等の場で振り返りをすることになる。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
授業（事前指導等）の中で知らせる。
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木） kyosc@post.ndsu.ac.jp （教職課程センター）
留意事項
・学校園での実践的な体験が主となる授業なので、保育職・教職に就こうとする意欲のある人が履修すること。 ・事前事後指導、合同カンファレンスなどにきちんと参加し、それぞれの学校園での保育・教育の様子をよく理解すること。 ・学校園の保育・教育の役に立つように、周りの状況をよく見て考え、積極的に体験すること。 ※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、教職課程センターが応じてくれる。

保育・教育インターンシップ				単位数	1単位
授業コード	87850	科目ナンバリング	330B1-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵、杉能　道明、福原　史子、青山　新吾、日下　紀子、土居　裕士、安江　美保、湯澤　美紀、池田　尚子、伊藤　美保子、西　隆太朗、西山　節子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子				
時間割備考	2021年度以降入学生対象　重ねて履修可				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めていくことを目的とする。教育実習を補充し発展させる実習である。
本学附属学校園及び岡山・倉敷市内の学校園に出向いて実体験（インターンシップ）を行うことが主となる。自ら立案計画してインターンシップを実践し、その成果を大学に戻ってまとめたり、カンファレンスを通して指導観を高めたり、同じ志をもつ仲間と情報を共有したりすることで、コミュニケーション力、コーディネイト力、プレゼンテーション力、マネージメント力（ＣＣＰＭ力）を育成する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学校園現場の多様な指導を体験することで、それぞれの場に合った指導のあり方を考察することができる。	主体性
2	・学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・カンファレンスを通して体験を自己評価したり、体験を通して得た実践的な情報を仲間と共有したりすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにして、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	・実体験（インターンシップ）への参加の様子	40%程度	1
2	・参加記録の集積（ポートフォーリオ）	20%程度	2
3	・カンファレンスへの参加やそこでの様子	20%程度	3
4	・レポート	20%程度	4
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園、小学校、保育所、支援学校等で実務経験をもつ者が担当している。合同カンファレンスでは、それぞれの学校園種に応じた指導のあり方を具体的にアドバイスする。また、ポートフォリオやレポートへの対応では、現場の実践に即した指導観を伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定一覧
1 事前指導①（大学・オリエンテーション）
2 事前指導②（連携学校園）
3 事前指導③（ポートフォリオの作成の方策）
4 ～　15
　〇連携学校園でのインターンシップ
　〇実体験の振り返りとポートフォーリオ作成（大学・自宅）
　〇カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）
16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※１期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

定期試験

事後指導（ポートフォリオの振り返り、最終レポート作成）

試験のフィードバックの方法

「記録」「ポートフォリオ」「レポート」等は返却して、成果と課題を明らかにした後、教職履修カルテに綴じ込む。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した実践力の自己診断を行う。
・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに自身の成長と課題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナバフォリオの利用も可）
・中間のカンファレンスで､自己の目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課題を見出す。
・事後指導で､一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達成できていないこと」を明らかにして、次年度に向けての目標を設定する。
※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り返って、次につながる課題を設定していくことを求める。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
使用しない

オフィスアワー

オフィスアワー　　授業の中で知らせる

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）
kyosc@post.ndsu.ac.jp　（教職課程センター）

留意事項

留意事項
・「保育・教育基礎実習」や「保育・教育インターンシップⅠ」を履修し単位修得してからの履修が望ましい。
・保育職・教職に就こうとする意欲がある人が履修すること。
・発展実習の性格をもつので、週１回程度以上の継続的な実体験（インターンシップ）にすることが望ましい。
・カンファレンスの機会を積極的に活用し、自らの保育観・教育観を高めることに活用すること。
※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、教職課程センターが応じてくれる。

保育・教育インターンシップII				単位数	1単位
授業コード	87870	科目ナンバリング	330B1-4000-o1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	赤木　雅宣、三宅　一恵、杉能　道明、福原　史子、青山　新吾、日下　紀子、安江　美保、湯澤　美紀、池田　尚子、伊藤　美保子、西　隆太朗、西山　節子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、土居　裕士				
時間割備考	2020年度以前入学生対象				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めていくことを目的とする。教育実習を補充し発展させる実習である。
本学附属学校園及び岡山・倉敷市内の学校園に出向いて実体験（インターンシップ）を行うことが主となる。自ら立案計画してインターンシップを実践し、その成果を大学に戻ってまとめたり、カンファレンスを通して指導観を高めたり、同じ志をもつ仲間と情報を共有したりすることで、コミュニケーション力、コーディネイト力、プレゼンテーション力、マネージメント力（ＣＣＰＭ力）を育成する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学校園現場の多様な指導を体験することで、それぞれの場に合った指導のあり方を考察することができる。	主体性
2	・学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	・カンファレンスを通して体験を自己評価したり、体験を通して得た実践的な情報を仲間と共有したりすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにして、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	・実体験（インターンシップ）への参加の様子	40%程度	1
2	・参加記録の集積（ポートフォーリオ）	20%程度	2
3	・カンファレンスへの参加やそこでの様子	20%程度	3
4	・レポート	20%程度	4
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

幼稚園、小学校、保育所、支援学校等で実務経験をもつ者が担当している。合同カンファレンスでは、それぞれの学校園種に応じた指導のあり方を具体的にアドバイスする。また、ポートフォリオやレポートへの対応では、現場の実践に即した指導観を伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定一覧
1 事前指導①（大学・オリエンテーション）
2 事前指導②（連携学校園）
3 事前指導③（ポートフォリオの作成の方策）
4 ～　15
　〇連携学校園でのインターンシップ
　〇実体験の振り返りとポートフォーリオ作成（大学・自宅）
　〇カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）
16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※１期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

定期試験

事後指導（ポートフォリオの振り返り、最終レポート作成）

試験のフィードバックの方法

「記録」「ポートフォリオ」「レポート」等は返却して、成果と課題を明らかにした後、教職履修カルテに綴じ込む。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した実践力の自己診断を行う。
・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに自身の成長と課題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナバフォリオの利用も可）
・中間のカンファレンスで､自己の目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課題を見出す。
・事後指導で､一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達成できていないこと」を明らかにして、次年度に向けての目標を設定する。
※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り返って、次につながる課題を設定していくことを求める。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
使用しない

オフィスアワー

オフィスアワー　　授業の中で知らせる

連絡先

yukkuri@post.ndsu.ac.jp　（赤木）
kyosc@post.ndsu.ac.jp　（教職課程センター）

留意事項

留意事項
・「保育・教育基礎実習」や「保育・教育インターンシップⅠ」を履修し単位修得してからの履修が望ましい。
・保育職・教職に就こうとする意欲がある人が履修すること。
・発展実習の性格をもつので、週１回程度以上の継続的な実体験（インターンシップ）にすることが望ましい。
・カンファレンスの機会を積極的に活用し、自らの保育観・教育観を高めることに活用すること。
※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、教職課程センターが応じてくれる。

インクルーシブインターンシップ				単位数	1単位
授業コード	87880	科目ナンバリング	330B1-1234-o1	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	青山　新吾、赤木　雅宣、三宅　一恵、杉能　道明、福原　史子、日下　紀子、安江　美保、湯澤　美紀、池田　尚子、伊藤　美保子、西　隆太朗、西山　節子、小田　久美子、片平　朋世、藤掛　絢子、土居　裕士				
時間割備考	2021年度以降入学生対象　重ねて履修可				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

児童学を学ぶ学生の資質向上を図り、共生社会の形成に寄与できる感覚と実践力の向上、幅広い人間観の醸成を目的とする。
多様な実態の幼児・児童・生徒・成人の方々との交流や関連するセミナー、イベント等への参加を通して、多様な実態の子どもや大人への理解を深め、地域社会で共に暮らしていくイメージをつかめる様に取り組んでいくものである。
保育職、教職に関しては、本学附属小園や岡山市内の幼稚園・認定こども園・保育園、岡山県内の特別支援学校、小学校,中学校（特別支援学級や通常の学級で支援を要する児童を中心に）等でインターンシップを行う。また、福祉領域や社会教育領域においては地域の発達支援事業所、学童保育、民間の社会教育活動等でインターンシップを行う。また、学内のインクルーシブ教育研究センターが実施する幼稚園等サポートプロジェクトや小学校サポートプロジェクト及び定例のケースカンファレンスに参加することで、自らの取組を振り返って言語化したり、助言を受けたりすることができる。それらによって、自らの思考や取組を言語化したり、共に取り組む仲間とコミュニケートしたりする力を育成する。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	・学校園や福祉関連事業所等で多様な実態の幼児・児童・生徒等と出会いつきあいを重ねながら、その言動の背景を押さえて実態を把握したり、内面を推察して思いを感じ取ったりして、それらをエピソードとして自分のことばで表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	多様な幼児・児童・生徒の実態と学校園や福祉関連事業所等で指導・支援・交流を体験し、そのポイントを理解して自分のことばで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	カンファレンスで自身の体験を言語化し、助言を受けて意味づけることで、自分自身を振り返って新たな知識を得たり、人間観、保育観、教育観、支援観についての考えを深めたりする。それらを自分のことばで表現することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	インターンシップへの参加の様子	1／2
2	自身の体験をエピソードとして記述し蓄積する。	1
3	定例のケースカンファレンスへの参加とそこでの学びの様子	1／2／3
4	インターンシップ体験と学びの幅 例えば、現場でのインターンシップ体験にカンファレンスの参加、関連セミナーでの学びを組み合わせる	1／2／3
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育所、幼稚園、小学校や心理相談した烏,病院等で実務経験を持つ者が担当している。特別支援教育や心理学に関連する知見に加え、幼児教育や集団づくり、教科指導や生徒指導など、複数の視点から多様な実態の幼児・児童・生徒への個別の指導・支援や集団へのアプローチ両面に対しての省察とアドバイスを行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定
1　事前指導①（全体オリエンテーション）
2　事前指導②（校種別カンファレンス）
3～14
　・各種現場におけるインターンシップ
　・エピソードの記述（大学・自宅）
　・定例カンファレンスの参加（学期に1、２回程度）
15　事後指導（全体カンファレンスにおける成果発表と課題の把握）
　※定例カンファレンスへの積極的な参加を意識して欲しい

定期試験

蓄積したエピソードの記述を元に最終レポート作成

試験のフィードバックの方法

最終レポート及び事後指導、定例カンファレンスにおいて、インターンシップの成果と課題を明確にする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・事前オリエンテーションで、各自のインターンシップの目的を明確化すると共に、学び方についての見通しを持つ。
・毎回の自身の体験をエピソードの記述として言語化する。
・学内のインクルーシブ教育研究センターが実施する定例カンファレンスにおいて、自身のエピソードの発表や仲間同士のディスカッション、教員からのアドバイスにより、自身の保育や教育についての考え方や子どもの捉え方、支援の在り方等を内省し、それを自身のことばで言語化する。
・上記のサイクルを反復し、表現力、コミュニケーション力、実践力の向上を図る。

必携書（教科書販売）

使用しない

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『気になる子の視点から保育を見直す』久保山茂樹　学事出版
『特別支援教育すきまスキル』青山新吾・堀裕嗣　明治図書

オフィスアワー

授業の中で知らせる。Eメール等での質問、相談は随時受け付ける。

連絡先

saoyama@m.ndsu.ac.jp　（青山）
k.miyake@post.ndsu.ac.jp（三宅）
doi164@m.ndsu.ac.jp　　（土居）
ndierc@post.ndsu.ac.jp　（インクルーシブ教育研究センター）

留意事項

・このインターンシップは「保育・教育基礎実習」や「保育・教育インターンシップ」と同時に履修することが可能である。
・インターンシップの目的に応じて、上記の授業で体験したインターンシップのうち該当する体験をインクルーシブインターンシップでの体験とすることが可能である。
・学内のインクルーシブ教育研究センターが実施する「幼稚園等サポートプロジェクト」に参加する人はこの授業を履修すること。
・定例のカンファレンスに積極的に参加し、自らの体験を振り返る機会を重ね、その言語化や体験の意味付けを行うことで学びを深めて欲しい。
※この授業に関する相談等は、インクルーシブ教育研究センター（青山、三宅、土居）が応じる。

卒業論文［20］				単位数	6単位
授業コード	88000	科目ナンバリング	330B1-3400-o6	開講年度学期	2022年度第１期、2022年度第２期、2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	福原　史子、湯澤　美紀、青山　新吾、赤木　雅宣、池田　尚子、伊藤　美保子、小田　久美子、片平　朋世、片山　裕之、日下　紀子、杉能　道明、椙原　彰子、土居　裕士、中内　みさ、西　隆太朗、西山　節子、東　俊一、藤掛　絢子、三宅　一恵、村中　李衣、安江　美保				
時間割備考	2020年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				

本授業の概要

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、美術、音楽の諸研究領域のなかから研究主題を見出し、研究し、論文（作品、演奏）にまとめる。また、これを発表会において発表する。

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	文献活用、現場での実践、作品の鑑賞など様々な方法で研究領域にアプローチして、研究したいことを見出す。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	研究の仕方を体得する。ディスカッションしながら、よりよい研究になるように試行錯誤を重ねる。自分で研究を進めていく。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	研究の成果をまとめ. る。成果を卒論発表会で発表する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	研究主題を見出すことが出来る。	1／2
2	研究の進め方を体得することが出来る。	1
3	試行錯誤しながら、研究を進めることが出来る。	1／2／3
4	研究の成果をまとめ上げ、論文、作品、演奏などにして発表する。	2／3
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

専門分野を生かし、論文指導、作品指導、演奏指導にあたる。卒論指導を通して、それぞれの学問分野の向こう側なある豊かな感性、知性、知識、技能などを育てる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

2年次
12月　卒業論文オリエンテーション
　2月　卒業論文発表会（3領域以上）参加
　　「児童学演習」（研究領域）希望届提出（合研）
3年次
　4月　所属する演習（研究領域）決定（学科掲示板）
　　卒業論文　履修登録
　7月　卒業論文研究主題案への提出（各演習内で指示）
　　所属ゼミ（指導教員）決定（学科掲示板）
４年次
　5月　卒業論文題目届提出（合研）
　1月　卒業論文提出（教務係）
　　副本・抄録集原稿提出（合研）
　2月　卒業論文発表会（演奏会，制作展）で発表

定期試験
卒業論文発表会（演奏会、制作展）での発表をこれに当てる。
試験のフィードバックの方法
卒業論文発表会，演奏会，制作展にて，ゼミ担当者が講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業計画に従った円滑な学びを可能にするために，十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は，授業中に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外）
〈参考書等〉 児童学科「卒業論文抄録集」 児童学科「アカデミック・ラーニング」
オフィスアワー
各ゼミ担当者が授業中に指示する。
連絡先
各ゼミ担当者が授業中に伝える。
留意事項
研究領域によってそれぞれ，卒業論文の履修以前に履修しておくことが望ましい授業科目があるので，各学年の年度初めのオリエンテーション，履修指導等に留意すること。 毎年2月中旬には卒業論文抄録集がまとめられるので，履修以前の学年においてもこれを購入し，関心のある研究領域，あるいは関連領域の発表会に参加するなどして，準備をしておくことが望ましい。

卒業論文［21］				単位数	6単位
授業コード	89000	科目ナンバリング	330B1-3400-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期、2024年度第１期、2024年度第２期
担当者氏名	福原　史子、湯澤　美紀、青山　新吾、赤木　雅宣、池田　尚子、伊藤　美保子、小田　久美子、片平　朋世、片山　裕之、日下　紀子、杉能　道明、椙原　彰子、土居　裕士、中内　みさ、西　隆太朗、西山　節子、東　俊一、藤掛　絢子、三宅　一恵、村中　李衣、安江　美保				
時間割備考	202１年度入学生対象				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独／複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、心理学、特別支援教育・児童福祉学、教育学、文化学、美術、音楽の諸研究領域のなかから研究主題を見出し、研究し、論文（作品、演奏）にまとめる。また、これを発表会において発表する。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	文献活用、現場での実践、作品の鑑賞など様々な方法で研究領域にアプローチして、研究したいことを見出す。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	研究の仕方を体得する。ディスカッションしながら、よりよい研究になるように試行錯誤を重ねる。自分で研究を進めていく。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	研究の成果をまとめ. る。成果を卒論発表会で発表する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	研究の進め方を体得することが出来る。	1／2
2	研究の進め方を体得することが出来る。	2
3	試行錯誤しながら、研究を進めることが出来る。	1／2／3
4	研究の成果をまとめ上げ、論文、作品、演奏などにして発表する。	2／3
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

専門分野を生かし、論文指導、作品指導、演奏指導にあたる。卒論指導を通して、それぞれの学問分野の向こう側なある豊かな感性、知性、知識、技能などを育てる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

2年次
12月　卒業論文オリエンテーション
　2月　卒業論文発表会（3領域以上）参加
　　「児童学演習」（研究領域）希望届提出（合研）
3年次
　4月　所属する演習（研究領域）決定（学科掲示板）
　　卒業論文　履修登録
　7月　卒業論文研究主題案への提出（各演習内で指示）
　　所属ゼミ（指導教員）決定（学科掲示板）
４年次
　5月　卒業論文題目届提出（合研）
　1月　卒業論文提出（教務係）
　　副本・抄録集原稿提出（合研）
　2月　卒業論文発表会（演奏会，制作展）で発表

定期試験
各ゼミでの卒業論文発表会（演奏会、制作展）での発表をこれに当てる。
試験のフィードバックの方法
卒業論文発表会，演奏会，制作展にて，ゼミ担当者が講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業計画に従った円滑な学びを可能にするために，十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は，授業中に通知する。準備学習は授業時間の約３倍程度の時間が目安となる。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書等〉 児童学科「卒業論文抄録集」 児童学科「アカデミック・ラーニング」
オフィスアワー
各ゼミ担当者が授業中に指示する。
連絡先
各ゼミ担当者が授業中に伝える。
留意事項
研究領域によってそれぞれ，卒業論文の履修以前に履修しておくことが望ましい授業科目があるので，各学年の年度初めのオリエンテーション，履修指導等に留意すること。 毎年2月中旬には卒業論文抄録集がまとめられるので，履修以前の学年においてもこれを購入し，関心のある研究領域，あるいは関連領域の発表会に参加するなどして，準備をしておくことが望ましい。